千葉県文化財センター調査報告第512集

千原台ニュータウンXIII

― 市原市草刈遺跡（西部地区旧石器時代） ―

平成17年 3 月

独立行政法人　都市再生機構

財団法人　千葉県文化財センター

千原台ニュータウン XIII

― 市原市草刈(くさかり)遺跡（西部地区旧石器時代） ―

序　文

財団法人千葉県文化財センターは，埋蔵文化財の調査研究，文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され，以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび，千葉県文化財センター調査報告第512集として，独立行政法人都市再生機構千葉地域支社の千原台地区区画整理事業に伴って実施した市原市草刈遺跡（西部地区旧石器時代）の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では，旧石器時代各時期の石器集中地点が29か所検出され，この地域における旧石器時代の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり，この報告書が学術資料として，また地域の歴史解明の資料として広く活用されることを願っております。

終わりに，調査に際し御指導，御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関，また，発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成17年３月25日

財団法人千葉県文化財センター
理事長　　清水新次

凡　例

1　本書は，独立行政法人都市再生機構千葉地域支社による千原台地区におけるニュータウン建設計画に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2　本書に収録したのは，千葉県市原市草刈字大宮台1140（現ちはら台西１丁目２番）ほかに所在する草刈遺跡のうち，西部地区の旧石器時代資料である。西部地区の範囲には以下の調査区が含まれる。

遺跡名	遺跡コード	遺跡名	遺跡コード
草刈遺跡Ｆ区	219-028	草刈遺跡Ｋ区	219-062
草刈遺跡Ｈ区	219-039	草刈遺跡Ｌ区	219-068
草刈遺跡Ｉ区	219-047	草刈遺跡Ｍ区	219-070
草刈遺跡Ｊ区	219-058		

3　発掘調査から報告書刊行に至る業務は，独立行政法人都市再生機構千葉地域支社の委託を受け，財団法人千葉県文化財センターが実施した。

4　発掘調査及び整理作業の経緯と組織・担当者は，第１章第１節に記載した。

5　本書に記載した石器の実測の一部，石器及び石材の分類の一部を上席研究員　島立　桂が，石器の実測の一部，石器及び石材の分類の一部から原稿執筆，編集を上席研究員　田島　新が担当した。

6　発掘調査から報告書刊行に至るまで，千葉県教育庁教育振興部文化財課，独立行政法人都市再生機構千葉地域支社，市原市教育委員会の御指導，御協力を得た。

7　第１図に国土地理院発行本書1/25,000地形図「蘇我」（NI-54-19-15-2）を利用した。

8　周辺航空写真は，財団法人日本地図センターによる昭和36年11月撮影のものを使用した。

9　本書で使用した図面の方位は，すべて座標北である。座標値は，日本測地系である。

10　石材の色の記載については，小山正忠・竹原秀雄 1999『新版 標準土色帖』日本色研事業株式会社の色名を使用し，色の測定にあたっては，第一合成株式会社の土色計「SCR-1」を用いた。

11　挿図に使用した記号の用例は，次のとおりである。黒曜石及び頁岩については肉眼観察により，原産地を細分した。

石器；ナイフ形石器（KN），台形石器（TP），槍先形石器・有茎尖頭器（PO），角錐状石器（KP），掻器（ES），削器（SS），彫器（GR），錐状石器（DR），楔形石器（PQ），加工痕ある剥片（RF），使用痕ある剥片（UF），石刃（BL），打製石斧（DA），局部磨製石斧（HX），礫器（PT），敲石（HS），台石（AS），その他の石器（UK），剥片（FL），砕片（CH），石核（CO），原石（SM），削片（SP），細石刃核（MC），細石刃（MB）

石材；黒曜石Ａ（OBA：栃木県・高原山産），黒曜石Ｂ（OBB：信州・和田峠周辺産），黒曜石Ｃ（OBC：信州・霧草峠産），黒曜石Ｆ（OBF：神津島産），黒曜石Ｇ（OBG：不明），安山岩（AN），軟質の安山岩＝トロトロ石（TO），流紋岩（RH），頁岩Ａ（SHA：硬質緻密で光沢のある東北産頁岩），頁岩Ｂ（SHB：北関東産の頁岩とくに西荒川産を意識しているが，緑色のものは凝灰岩とした），頁岩Ｃ（SHC：県南嶺岡産の頁岩），頁岩Ｄ（SHD：迷化度の高い頁岩で産地不明のもの），頁岩Ｅ（SHE：上記以外の頁岩），チャート（CH），凝灰岩（TU），粘板岩（SL），砂岩（SA），ホルンフェルス（HO），蛇紋岩（SP），石英（QU），瑪瑙・玉髄（CC），珪岩（QT），不明（UK）

礫石材；安山岩（AN），流紋岩（RH），頁岩（SH），チャート（CH），凝灰岩（TU），粘板岩（SL），礫岩（CO），砂岩（SA），ホルンフェルス（HO），蛇紋岩（SP），不明（UK）

本文目次

第１章　はじめに……1
　第１節　調査の概要……1
　　1　発掘調査の経緯……2
　　2　調査の方法……2
　　3　整理の方針と報告の概要……3
　第２節　遺跡の位置と環境……3
　　1　遺跡の位置と地形……3
　　2　草刈遺跡と周辺の遺跡……3
　第３節　基本土層……8
第２章　草刈遺跡Ｆ区……10
　第１節　調査の概要……10
　第２節　第４文化層……10
　第３節　第５文化層……43
　第４節　第６文化層……49
　第５節　ブロック外出土遺物……55
第３章　草刈遺跡Ｈ区……57
　第１節　調査の概要……57
　第２節　第６文化層……57
　第３節　ブロック外出土遺物……134
第４章　草刈遺跡Ｉ区……137
　第１節　調査の概要……137
　第２節　第３文化層……137
　第３節　第４文化層……141
　第４節　ブロック外出土遺物……174
第５章　草刈遺跡Ｊ区……177
　第１節　調査の概要……177
　第２節　第４文化層……177
　第３節　第５文化層……180
　第４節　ブロック外出土遺物……182
第６章　草刈遺跡Ｋ区……185
　第１節　調査の概要……185
　第２節　第４文化層……185
　第３節　第５文化層……197
　第４節　第６文化層……199

第５節　ブロック外出土遺物 ……206
第７章　草刈遺跡Ｌ区 ……210
第１節　調査の概要 ……210
第２節　第３文化層 ……210
第３節　第４文化層 ……214
第４節　第５文化層 ……243
第５節　第６文化層 ……245
第６節　ブロック外出土遺物 ……251
第８章　草刈遺跡Ｍ区 ……255
第１節　調査の概要 ……255
第２節　第５文化層 ……255
第３節　第７文化層 ……258
第４節　ブロック外出土遺物 ……287
第９章　まとめ ……290
報告書抄録……巻末

挿図目次

第１章　調査の概要
第１図　草刈遺跡周辺の旧石器時代遺跡 ……4
第２図　草刈遺跡西部地区調査概要図 ……5
第３図　草刈遺跡西部地区基本土層図 ……9

第２章　草刈遺跡Ｆ区
第４図　草刈遺跡Ｆ区旧石器時代調査概要図 ……11
第５図　Ｆ４－Ａブロック出土遺物分布図（１）……14
第６図　Ｆ４－Ａブロック出土遺物分布図（２）……15
第７図　Ｆ４－Ａブロック出土遺物分布図（３）……16
第８図　Ｆ４－Ａブロック出土遺物分布図（４）……17
第９図　Ｆ４－Ａブロック出土遺物分布図（５）……20
第10図　Ｆ４－Ａブロック出土遺物実測図（１）……21
第11図　Ｆ４－Ａブロック出土遺物実測図（２）……22
第12図　Ｆ４－Ａブロック出土遺物実測図（３）……23
第13図　Ｆ４－Ａブロック出土遺物実測図（４）……24
第14図　Ｆ４－Ａブロック出土遺物実測図（５）……25
第15図　Ｆ４－Ａブロック出土遺物実測図（６）……26
第16図　Ｆ４－Ａブロック出土遺物実測図（７）……27
第17図　Ｆ５－Ａブロック出土遺物分布図（１）……30
第18図　Ｆ５－Ａブロック出土遺物分布図（２）……31
第19図　Ｆ５－Ａブロック出土遺物分布図（３）……32
第20図　Ｆ５－Ａブロック出土遺物実測図（１）……34
第21図　Ｆ５－Ａブロック出土遺物実測図（２）……35
第22図　Ｆ５－Ａブロック出土遺物実測図（３）……36
第23図　Ｆ５－Ａブロック出土遺物実測図（４）……37
第24図　Ｆ５－Ａブロック出土遺物実測図（５）……38
第25図　Ｆ５－Ａブロック出土遺物実測図（６）……39
第26図　Ｅ５－67グリッド検出焼土遺構 ……42
第27図　Ｅ４－Ａブロック出土遺物分布図（１）……44
第28図　Ｅ４－Ａブロック出土遺物分布図（２）……45
第29図　Ｅ４－Ａブロック出土遺物実測図（１）……47
第30図　Ｅ４－Ａブロック出土遺物実測図（２）……48
第31図　Ｅ４－Ｂブロック出土遺物分布図（１）……50
第32図　Ｅ４－Ｂブロック出土遺物分布図（２）……50
第33図　Ｅ４－Ｂブロック出土遺物実測図 ……51

第34図　Ｅ５－Ｃブロック出土遺物分布図（１）……52
第35図　Ｅ５－Ｃブロック出土遺物分布図（２）……53
第36図　Ｅ５－Ｃブロック出土遺物実測図 ……54
第37図　草刈遺跡Ｆ区ブロック外出土遺物
実測図 ……55
第38図　草刈遺跡Ｆ区ブロック外出土遺物
分布図 ……56

第３章　草刈遺跡Ｈ区
第39図　草刈遺跡Ｈ区旧石器時代調査概要図 ……58
第40図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（１）……59
第41図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（２）……60
第42図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（３）……61
第43図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（４）……62
第44図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（５）……63
第45図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（６）……64
第46図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（７）……65
第47図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（８）……66
第48図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（９）……67
第49図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（10）……68
第50図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（11）……69
第51図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（12）……70
第52図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（13）……71
第53図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（14）……72
第54図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（15）……73
第55図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（16）……74
第56図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（17）……75
第57図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（18）……76
第58図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（19）……77
第59図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（20）……78
第60図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（21）……78
第61図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（22）……79
第62図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（23）……79
第63図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（１）……88
第64図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（２）……89
第65図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（３）……90
第66図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（４）……92
第67図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（５）……93
第68図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（６）……94
第69図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（７）……95
第70図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（８）……96
第71図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（９）……97
第72図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（10）……99
第73図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（11）…100
第74図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（12）…101
第75図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（13）…102
第76図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（14）…103
第77図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（15）…104
第78図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（16）…105
第79図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（17）…106
第80図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（18）…107
第81図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（19）…109
第82図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（20）…110
第83図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（21）…111
第84図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（22）…112
第85図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（23）…113
第86図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（24）…114
第87図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（25）…115
第88図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（26）…116
第89図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（27）…117
第90図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（28）…118
第91図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（29）…119
第92図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（30）…120
第93図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（31）…121
第94図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（32）…122
第95図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（33）…123
第96図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（34）…124
第97図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（35）…125
第98図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（36）…126
第99図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（37）…127
第100図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（38）…128
第101図　草刈遺跡Ｈ区ブロック外出土遺物
分布図 ……135
第102図　草刈遺跡Ｈ区ブロック外出土遺物
実測図 …… 136

第４章　草刈遺跡Ｉ区
第103図　草刈遺跡Ｉ区旧石器時代調査概要図 ……138
第104図　Ｅ５-Ｂブロック出土遺物分布図（１）…139
第105図　Ｅ５－Ｂブロック出土遺物分布図（２）…139
第106図　Ｅ５－Ｂブロック出土遺物実測図 ……140
第107図　Ｄ６－Ａブロック出土遺物分布図（１）…142
第108図　Ｄ６－Ａブロック出土遺物分布図（２）…143
第109図　Ｄ６－Ａブロック出土遺物分布図（３）…144
第110図　Ｄ６－Ａブロック出土遺物実測図（１）…148
第111図　Ｄ６－Ａブロック出土遺物実測図（２）…149
第112図　Ｄ６－Ａブロック出土遺物実測図（３）…150
第113図　Ｄ６－Ａブロック出土遺物実測図（４）…151
第114図　Ｄ６－Ａブロック出土遺物実測図（５）…152
第115図　Ｄ６－Ａブロック出土遺物実測図（６）…153
第116図　Ｄ６－Ａブロック出土遺物実測図（７）…154
第117図　Ｄ６－Ｂブロック出土遺物分布図（１）…155
第118図　Ｄ６－Ｂブロック出土遺物分布図（２）…155
第119図　Ｄ６－Ｂブロック出土遺物実測図 ……156
第120図　Ｅ５－Ａブロック出土遺物分布図（１）…158
第121図　Ｅ５－Ａブロック出土遺物分布図（２）…158
第122図　Ｅ５－Ａブロック出土遺物実測図 ……159
第123図　Ｅ６－Ａブロック出土遺物分布図（１）…160
第124図　Ｅ６－Ａブロック出土遺物分布図（２）…161
第125図　Ｅ６－Ａブロック出土遺物実測図 ……162
第126図　Ｅ６－Ｂブロック出土遺物分布図（１）…164
第127図　Ｅ６－Ｂブロック出土遺物分布図（２）…165
第128図　Ｅ６－Ｂブロック出土遺物実測図（１）…167
第129図　Ｅ６－Ｂブロック出土遺物実測図（２）…168
第130図　Ｅ６－Ｂブロック出土遺物実測図（３）…169
第131図　Ｅ６－Ｂブロック出土遺物実測図（４）…170
第132図　Ｅ６－Ｂブロック出土遺物実測図（５）…171
第133図　Ｅ６－Ｂブロック出土遺物実測図（６）…172
第134図　草刈遺跡Ｉ区ブロック外出土遺物
実測図 ……174
第135図　草刈遺跡Ｉ区ブロック外出土遺物
分布図 ……175

第５章　草刈遺跡Ｊ区
第136図　草刈遺跡Ｊ区旧石器時代調査概要図 ……178
第137図　Ｊ６－Ａブロック出土遺物分布図（１）…179
第138図　Ｊ６－Ａブロック出土遺物分布図（２）…179
第139図　Ｋ４－Ａブロック出土遺物分布図（１）…181
第140図　Ｋ４－Ａブロック出土遺物分布図（２）…181
第141図　Ｊ６－Ａ・Ｋ４－Ａブロック，草刈遺跡
Ｊ区ブロック外出土遺物実測図 ……183
第142図　草刈遺跡Ｊ区ブロック外出土遺物
分布図（１）……184
第143図　草刈遺跡Ｊ区ブロック外出土遺物
分布図（２）……184

第６章　草刈遺跡Ｋ区
第144図　草刈遺跡Ｋ区旧石器時代調査概要図 ……186
第145図　Ｋ７－Ａブロック出土遺物分布図（１）…187
第146図　Ｋ７－Ａブロック出土遺物分布図（２）…188
第147図　Ｋ７－Ａブロック出土遺物実測図（１）…191
第148図　Ｋ７－Ａブロック出土遺物実測図（２）…192
第149図　Ｋ７－Ａブロック出土遺物実測図（３）…193
第150図　Ｌ８－Ａブロック出土遺物分布図（１）…195
第151図　Ｌ８－Ａブロック出土遺物分布図（２）…195
第152図　Ｌ８－Ａブロック出土遺物実測図 ……196
第153図　Ｎ８－Ａブロック出土遺物分布図（１）…198
第154図　Ｎ８－Ａブロック出土遺物分布図（２）…198
第155図　Ｎ８－Ａブロック出土遺物実測図 ……199
第156図　Ｌ４－Ａブロック出土遺物分布図 ……200
第157図　Ｌ６－Ａブロック出土遺物分布図（１）…201
第158図　Ｌ６－Ａブロック出土遺物分布図（２）…202
第159図　Ｌ６－Ａブロック出土遺物分布図（３）…204
第160図　Ｌ６－Ａブロック出土遺物実測図 ……205
第161図　草刈遺跡Ｋ区ブロック外出土遺物
実測図（１）……206
第162図　草刈遺跡Ｋ区ブロック外出土遺物
実測図（２）……207
第163図　草刈遺跡Ｋ区ブロック外出土遺物
分布図 ……208

第７章　草刈遺跡Ｌ区
第164図　草刈遺跡Ｌ区旧石器時代調査概要図 ……211
第165図　Ｊ８－Ｂブロック出土遺物分布図（１） …212
第166図　Ｊ８－Ｂブロック出土遺物分布図（２） …212
第167図　Ｊ８－Ｂブロック出土遺物実測図 ……214
第168図　Ｉ６－Ａブロック出土遺物分布図（１） …215
第169図　Ｉ６－Ａブロック出土遺物分布図（２） …215
第170図　Ｉ６－Ａブロック出土遺物実測図 ……216
第171図　Ｋ７－Ｂブロック出土遺物分布図（１） …217
第172図　Ｋ７－Ｂブロック出土遺物分布図（２） …218
第173図　Ｋ７－Ｂブロック出土遺物実測図（１） …220
第174図　Ｋ７－Ｂブロック出土遺物実測図（２） …221
第175図　Ｋ８－Ａブロック出土遺物分布図（１） …223
第176図　Ｋ８－Ａブロック出土遺物分布図（２） …223
第177図　Ｋ８－Ａブロック出土遺物実測図 ……224
第178図　Ｊ８－Ａブロック出土遺物分布図（１） …225
第179図　Ｊ８－Ａブロック出土遺物分布図（２） …226
第180図　Ｊ８－Ａブロック出土遺物分布図（３） …227
第181図　Ｊ８－Ａブロック出土遺物分布図（４） …228
第182図　Ｊ８－Ａブロック出土遺物実測図（１） …232
第183図　Ｊ８－Ａブロック出土遺物実測図（２） …234
第184図　Ｊ８－Ａブロック出土遺物実測図（３） …235
第185図　Ｊ８－Ａブロック出土遺物実測図（４） …236
第186図　Ｊ８－Ａブロック出土遺物実測図（５） …237
第187図　Ｊ８－Ａブロック出土遺物実測図（６） …238
第188図　Ｊ８－Ａブロック出土遺物実測図（７） …239
第189図　Ｋ10－Ａブロック出土遺物分布図（１） …241
第190図　Ｋ10－Ａブロック出土遺物分布図（２） …241
第191図　Ｋ10－Ａブロック出土遺物実測図 ……242
第192図　Ｉ９－Ａブロック出土遺物分布図（１） …244
第193図　Ｉ９－Ａブロック出土遺物分布図（２） …244
第194図　Ｉ９－Ａブロック出土遺物実測図 ……245
第195図　Ｉ６－Ｂブロック出土遺物分布図（１） …246
第196図　Ｉ６－Ｂブロック出土遺物分布図（２） …248
第197図　Ｉ６－Ｂブロック出土遺物実測図（１） …249
第198図　Ｉ６－Ｂブロック出土遺物実測図（２） …250
第199図　草刈遺跡Ｌ区ブロック外出土遺物分布図 ……252
第200図　草刈遺跡Ｌ区ブロック外出土遺物実測図 ……253
第８章　草刈遺跡Ｍ区
第201図　草刈遺跡Ｍ区旧石器時代調査概要図 ……256
第202図　Ｆ７－Ａブロック出土遺物分布図（１） …257
第203図　Ｆ７－Ａブロック出土遺物分布図（２） …257
第204図　Ｆ７－Ａブロック出土遺物実測図 ……258
第205図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物分布図（１） …260
第206図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物分布図（２） …261
第207図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物分布図（３） …262
第208図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物分布図（４） …263
第209図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物分布図（５） …264
第210図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物分布図（６） …265
第211図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物分布図（７） …266
第212図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物分布図（８） …267
第213図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物分布図（９） …267
第214図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物分布図（10） …268
第215図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物分布図（11） …268
第216図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物分布図（12） …269
第217図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物分布図（13） …269
第218図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物実測図（１） …273
第219図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物実測図（２） …275
第220図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物実測図（３） …277
第221図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物実測図（４） …278
第222図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物実測図（５） …279
第223図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物実測図（６） …280
第224図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物実測図（７） …281
第225図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物実測図（８） …282
第226図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物実測図（９） …283
第227図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物実測図（10） …284
第228図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物実測図（11） …285
第229図　草刈遺跡Ｍ区ブロック外出土遺物実測図 ……289

第 9 章　まとめ
第230図　ブロック別石器垂直分布グラフ（1）……295
第231図　ブロック別石器垂直分布グラフ（2）……296
第232図　ブロック別石器垂直分布グラフ（3）……297
第233図　ブロック別石器垂直分布グラフ（4）……298

表目次

第 2 章　草刈遺跡Ｆ区
第 1 表　Ｆ４－Ａブロック母岩別石器組成表……28
第 2 表　Ｆ４－Ａブロック石材別石器組成表……28
第 3 表　Ｆ４－Ａブロック礫組成表……29
第 4 表　Ｆ５－Ａブロック母岩別石器組成表……41
第 5 表　Ｆ５－Ａブロック石材別石器組成表……41
第 6 表　Ｆ５－Ａブロック礫組成表……41
第 7 表　Ｅ４－Ａブロック母岩別石器組成表……46
第 8 表　Ｅ４－Ａブロック石材別石器組成表……46
第 9 表　Ｅ４－Ｂブロック母岩別石器組成表……49
第 10 表　Ｅ４－Ｂブロック石材別石器組成表……49
第 11 表　Ｅ５－Ｃブロック母岩別石器組成表……52
第 12 表　Ｅ５－Ｃブロック石材別石器組成表……52

第 3 章　草刈遺跡Ｈ区
第 13 表　Ｌ９－Ａブロック母岩別石器組成表……129
第 14 表　Ｌ９－Ａブロック石材別石器組成表……130
第 15 表　Ｌ９－Ａブロック礫組成表……130

第 4 章　草刈遺跡Ｉ区
第 16 表　Ｅ５－Ｂブロック母岩別石器組成表……140
第 17 表　Ｅ５－Ｂブロック石材別石器組成表……140
第 18 表　Ｄ６－Ａブロック母岩別石器組成表……146
第 19 表　Ｄ６－Ａブロック石材別石器組成表……146
第 20 表　Ｄ６－Ｂブロック母岩別石器組成表……156
第 21 表　Ｄ６－Ｂブロック石材別石器組成表……156
第 22 表　Ｅ５－Ａブロック母岩別石器組成表……157
第 23 表　Ｅ５－Ａブロック石材別石器組成表……157
第 24 表　Ｅ６－Ａブロック母岩別石器組成表……159
第 25 表　Ｅ６－Ａブロック石材別石器組成表……160
第 26 表　Ｅ６－Ｂブロック母岩別石器組成表……173
第 27 表　Ｅ６－Ｂブロック石材別石器組成表……173
第 28 表　Ｅ６－Ｂブロック礫組成表……173

第 5 章　草刈遺跡Ｊ区
第 29 表　Ｊ６－Ａブロック母岩別石器組成表……180
第 30 表　Ｊ６－Ａブロック石材別石器組成表……180
第 31 表　Ｋ４－Ａブロック母岩別石器組成表……182
第 32 表　Ｋ４－Ａブロック石材別石器組成表……182

第 6 章　草刈遺跡Ｋ区
第 33 表　Ｋ７－Ａブロック母岩別石器組成表……190
第 34 表　Ｋ７－Ａブロック石材別石器組成表……190
第 35 表　Ｌ８－Ａブロック母岩別石器組成表……194
第 36 表　Ｌ８－Ａブロック石材別石器組成表……194
第 37 表　Ｎ８－Ａブロック母岩別石器組成表……197
第 38 表　Ｎ８－Ａブロック石材別石器組成表……197
第 39 表　Ｌ４－Ａブロック礫組成表……200
第 40 表　Ｌ６－Ａブロック母岩別石器組成表……203
第 41 表　Ｌ６－Ａブロック石材別石器組成表……203
第 42 表　Ｌ６－Ａブロック礫組成表……203

第 7 章　草刈遺跡Ｌ区
第 43 表　Ｊ８－Ｂブロック母岩別石器組成表……213
第 44 表　Ｊ８－Ｂブロック石材別石器組成表……213
第 45 表　Ｊ８－Ｂブロック礫組成表……213
第 46 表　Ｉ６－Ａブロック母岩別石器組成表……216
第 47 表　Ｉ６－Ａブロック石材別石器組成表……216
第 48 表　Ｋ７－Ｂブロック母岩別石器組成表……221
第 49 表　Ｋ７－Ｂブロック石材別石器組成表……221

第50表　Ｋ７－Ｂブロック礫組成表 ……221
第51表　Ｋ８－Ａブロック母岩別石器組成表 ……224
第52表　Ｋ８－Ａブロック石材別石器組成表 ……224
第53表　Ｊ８－Ａブロック母岩別石器組成表 ……233
第54表　Ｊ８－Ａブロック石材別石器組成表 ……233
第55表　Ｊ８－Ａブロック礫組成表 ……233
第56表　Ｋ10－Ａブロック母岩別石器組成表 ……242
第57表　Ｋ10－Ａブロック石材別石器組成表 ……242
第58表　Ｉ９－Ａブロック母岩別石器組成表 ……243
第59表　Ｉ９－Ａブロック石材別石器組成表 ……243
第60表　Ｉ６－Ｂブロック母岩別石器組成表 ……247
第61表　Ｉ６－Ｂブロック石材別石器組成表 ……247
第８章　草刈遺跡Ｍ区
第62表　Ｆ７－Ａブロック母岩別石器組成表 ……258
第63表　Ｆ７－Ａブロック石材別石器組成表 ……258
第64表　Ｆ７－Ａブロック礫組成表 ……258
第65表　Ｆ８－Ａブロック母岩別石器組成表 ……286
第66表　Ｆ８－Ａブロック石材別石器組成表 ……286
第67表　Ｆ８－Ａブロック礫組成表 ……286

図版目次

カラー図版

１．Ｆ区出土遺物１
２．Ｆ区出土遺物２
３．Ｈ区出土遺物１
４．Ｈ区出土遺物２
５．Ｈ区出土遺物３
６．Ｈ区出土遺物４，Ｉ区出土遺物１
７．Ｉ区出土遺物２
８．Ｉ区出土遺物３，Ｊ区出土遺物，Ｋ区出土遺物１
９．Ｋ区出土遺物２，Ｌ区出土遺物１
10．Ｌ区出土遺物２
11．Ｍ区出土遺物１
12．Ｍ区出土遺物２，接合資料１
13．接合資料２
14．接合資料３

図版

図版１　草刈遺跡周辺航空写真（約1:20,000　昭和36年撮影）
図版２　Ｆ区土層断面・遺物出土状況１
図版３　Ｆ区遺物出土状況２・焼土遺構，Ｈ区遺物出土状況，Ｉ区遺物出土状況
図版４　Ｋ区土層断面・遺物出土状況
図版５　Ｌ区土層断面・遺物出土状況，Ｍ区遺物出土状況

第1章　はじめに

第1節　調査の概要

1　発掘調査の経緯

市原市と千葉市にまたがる台地上に，住宅・都市整備公団（現独立行政法人都市再生機構）による千原台地区土地区画整理事業が計画された。このため，千葉県教育委員会は，事業用地内の埋蔵文化財の取扱いについて関係諸機関と協議した結果，可能な限り公園・緑地として現状保存に努める一方で，現状保存が困難な部分については，やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなり，記録保存については，財団法人千葉県文化財センターが委託を受けて発掘調査を実施することとなった。

草刈遺跡東部地区については，N区が，ちはら台公園として整備・保存されており，また，確認調査・A区・B区・東部地区縄文時代，及び東部地区旧石器時代については，すでに報告書を刊行している。

今回報告する草刈遺跡西部地区は，約30haに及ぶ遺跡の西半部に相当し，調査は昭和60年度から平成9年度まで断続的に行った。本書は草刈遺跡西部地区から出土した旧石器時代（下層調査）を対象としたもので，発掘調査の実施内容・担当者は以下のとおりである。

昭和60年度　組　織　班長　阪田正一
　　担当者　F区　橋本勝雄・榊原弘二・海老原充
　　内　容　F区　下層調査対象面積　18,500㎡
平成元年度　組　織　班長　大原正義
　　担当者　H区　関口達彦・今泉　潔・小高春雄・笹生　衛・島立　桂・福田依子・
　　高柳圭一
　　内　容　H区　下層調査対象面積　6,685㎡
平成2年度　組　織　班長　三浦和信
　　担当者　H区　島立　桂
　　I区　土屋潤一郎・島立　桂・豊田秀治・大鷹依子
　　内　容　H区　下層調査対象面積　5,900㎡
　　I区　下層調査対象面積　10,200㎡
平成3年度　組　織　班長　三浦和信
　　担当者　J区　三浦和信・白井久美子・栗田則久・島立　桂・福田明美
　　内　容　J区　下層調査対象面積　15,000㎡
平成4年度　組　織　班長　谷　旬
　　担当者　K区　花島理典・川島利道・小林信一・島立　桂・福田明美・渡辺高広・
　　糸原　清・四柳　隆
　　内　容　K区　下層調査対象面積　15,000㎡
平成5年度　組　織　所長　深澤克友
　　担当者　H区　相京邦彦

K区　土屋治雄・相京邦彦・花島理典・平松長寿・百瀬幸徳・立和名明美・城田義友

内　容　H区　下層調査対象面積　500㎡

K区　下層調査対象面積　14,250㎡

平成6年度　組　織　所長　田坂　浩

担当者　K区　倉内郁子

L区　花島理典・菅原　修・倉内郁子・山田貴久・百瀬幸徳・立和名明美・岩谷久美子

内　容　K区　下層調査対象面積　750㎡

L区　下層調査対象面積　10,735㎡

平成7年度　組　織　所長　矢戸三男

担当者　L区　花島理典・菅原　修・山田孝雄・立和名明美・岩谷久美子

M区　石塚　浩・鶴岡則幸・豊田秀治・四柳　隆・岩谷久美子

内　容　L区　下層調査対象面積　1,238㎡

M区　下層調査対象面積　9,500㎡

平成8年度　組　織　所長　藤崎芳樹

担当者　H区　玉井ゆかり・豊田秀治・四柳　隆

M区　関口達彦・栗田則久・玉井ゆかり・酒井　宏・豊田秀治・岩谷久美子

内　容　H区　下層調査対象面積　1,100㎡

M区　下層調査対象面積　9,750㎡

平成9年度　組　織　所長　藤崎芳樹

担当者　F区　土屋潤一郎

内　容　F区　下層調査対象面積　3,540㎡

2　調査の方法（第1・2・3図）

発掘区の設定は，国家座標を基準として40m×40mの大グリッドを設け，この中を4m×4mの小グリッドに分割して行った。また，下層確認調査では，小グリッドをさらに4分割して2m×2mのグリッドを設定し，調査対象面積の4％を基本として武蔵野ローム層上面まで掘り下げた。

発掘調査は，確認調査・本調査ともに調査年度・工事区を基本単位として7つの調査区（草刈遺跡F・H～M区）に分けて実施した。出土遺物は，4m×4mの小グリッドごとに1点ずつ取り上げた。

3　整理の方針と報告の概要

草刈遺跡は，調査対象面積が約30haに及び，出土した旧石器時代遺物も約15,000点と膨大なものであった。このため，報告書作成にあたっても，調査区を基本単位として作業を進めたが，隣接する調査区相互の同時代資料を併せて検討する必要が生じたことから，遺跡全体を東西の2地区にまとめて作成することとした。東部地区はC～E・G・P区，西部地区はF・H～M区が該当する。整理作業を行っていくなかで，草刈遺跡全体のグリッド等を整備し直したが，旧石器時代については，遺物とその出土位置との対応

関係に齟齬が生じないようにするため，昭和53年度に設定した調査開始時のグリッド等をそのまま使用した。なお，Ｋ区とＬ区の調査区について，上層と下層で一部に相違する箇所がある。

整理作業は昭和61年度から調査区ごとに水洗・注記作業を実施し，平成15年度以降は「西部地区旧石器時代」としての作業へ移行した。作業実施年度ならびに担当者は以下のとおりである。

平成15年度　組　織　所長　谷　旬
　　担当者　島立　桂
　　内　容　水洗・注記の一部から実測の一部まで
平成16年度　組　織　所長　谷　旬
　　担当者　田島　新
　　内　容　実測の一部から刊行まで

第２節　遺跡の位置と環境

１　遺跡の位置と地形

草刈遺跡は，ちはら台ニュータウン造成地域の西端，市原市ちはら台西１丁目２番（旧草刈字大宮台1140）ほかに所在し，現在の京成電鉄ちはら台駅を中心とする台地上に位置する。千葉市街地からは東南へ10km，下総台地南部を西に向かって流れる村田川の河口からは５kmほど上流の右岸台地上である。

草刈遺跡の南側は村田川の浸食によって急崖となっているが，北側は緩やかに「茂呂谷津」に接しており，幅150m～400m，長さ1.5kmほどの東西に長い台地上に展開する。標高は27m～40mの下総台地上位面で，東から西に向かって緩やかに下っている。

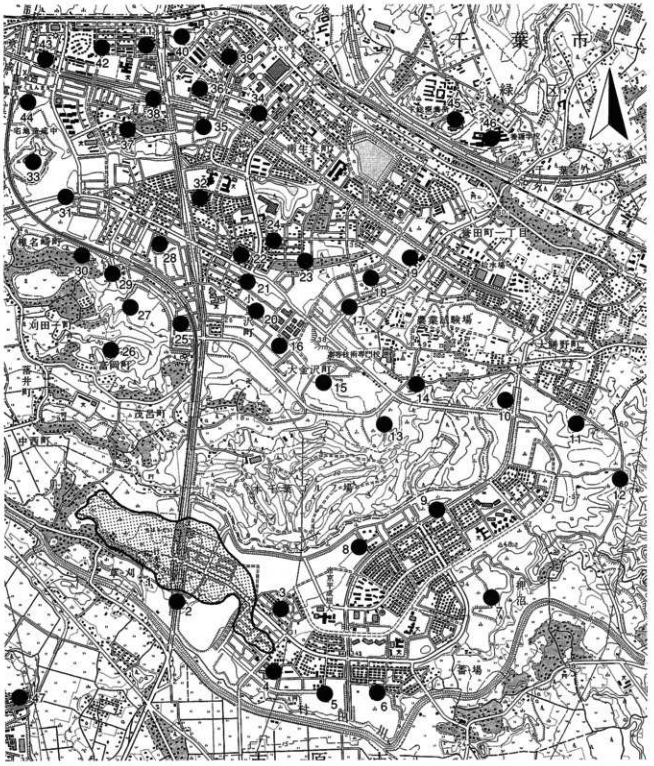
２　草刈遺跡と周辺の遺跡

草刈遺跡からは，旧石器時代から中世にかけての各種遺構が約7,000基検出された。主な遺構としては，旧石器時代各時期の石器ブロック，縄文時代中期の貝塚と竪穴住居・小竪穴を中心とする環状集落，弥生時代中期・後期の環濠集落，古墳時代全般にわたる集落と古墳群，奈良・平安時代の集落と村落内寺院と考えられる掘立柱建物群などである。

旧石器時代については，武蔵野ローム層最上部から立川ローム層の上面に至る各層から約15,000点の石器・礫が出土しており，東部地区では98か所，西部地区では29か所のブロックを確認している。なお，東部地区において単独で出土した石器の中で縄文時代草創期に帰属すると判断した槍先形尖頭器，有茎尖頭器については，『千原台ニュータウンⅧ　－市原市草刈遺跡（東部地区縄文時代）－』に掲載されている。

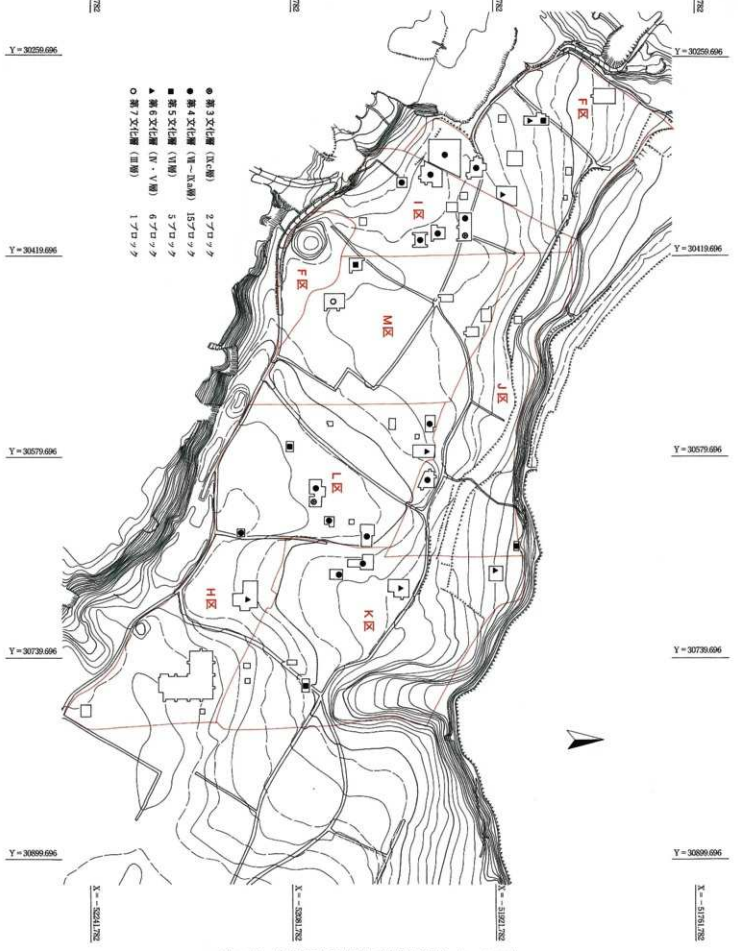
草刈遺跡は，村田川に沿って分布する旧石器時代の遺跡としては最も下流に位置する（第１図１）。ちはら台ニュータウン事業地内において旧石器時代石器群が出土した遺跡として，草刈遺跡とは浅い谷を隔てた南側に隣接して草刈六之台遺跡（２）があり，東側には中永谷遺跡（３）がある。草刈遺跡から細い尾根づたいに東南方向へ向かうと川焼台遺跡（４）があり，さらに，村田川を遡ると鶴牧遺跡（５），鶴牧古墳群（６），ナキノ台遺跡（７），ばあ山遺跡（８），野馬堀遺跡（９）が並ぶ。ちはら台地区北東部端には押沼遺跡群（10～12）がある。

草刈遺跡東部地区では，武蔵野ローム層Ⅺ層から立川ローム層Ⅲ層にかけて７枚の文化層が確認され，Ⅶ層からⅨ層上部とⅣ層下部で多くのブロックが検出されている。詳細は報告書に譲ることにして，ここ



1　草刈遺跡　2　草刈六之台遺跡　3　中永谷遺跡　4　川焼台遺跡　5　鶴牧遺跡　6　鶴牧古墳群　7　ナキノ台遺跡
8　ばあ山遺跡　9　野馬堀遺跡　10　押沼大六天遺跡　11　押沼第１遺跡　12　押沼第２遺跡　13　バクチ穴遺跡
14　大膳野南貝塚　15　太田法師遺跡　16　ムコアラク遺跡　17　六通金山遺跡　18　六通神社南遺跡　19　白鳥台遺跡
20　御塚台遺跡　21　小金沢古墳群　22　小金沢貝塚　23　六通貝塚　24　六通遺跡　25　神明社裏遺跡　26　春日作遺跡
27　椎名崎古墳群C支群　28　椎名崎古墳群B支群　29　今台遺跡　30　椎名神社遺跡　31　椎名崎遺跡　32　木戸作遺跡
33　城ノ台遺跡　34　馬ノ口遺跡　35　有吉南貝塚　36　有吉北貝塚　37　有吉城跡　38　有吉南遺跡　39　鎌取遺跡
40　鎌取場台遺跡　41　南二重堀遺跡　42　高沢遺跡　43　有吉遺跡　44　上赤塚遺跡　45　辺田山谷遺跡　46　コロニー内遺跡　47　大厩遺跡

第１図　草刈遺跡周辺の旧石器時代遺跡（1：25,000）



第2図　草刈遺跡西部地区調査概要図（1：3,000）

では簡単に概観することにする。最も古い第1文化層は，武蔵野ローム層XI層から立川ローム層X層最下部にかけて出土した石器群で，県南横岡産の珪質頁岩と推定される尖頭器と台形石器が出土している。これらの石器群は県内最古のもので，関東地方に広く展開する旧石器時代の出現を考えるうえで重要な資料である。第2文化層は，X層から出土した石器群で，横岡産珪質頁岩の台形石器や楔形石器などに石斧が伴う。後述する草刈六之台遺跡第1文化層に対応する。第3文化層は，IXc層から出土した石器群で，横岡産珪質頁岩の台形石器に石斧が伴う。草刈六之台遺跡第2文化層に対応する。第4文化層は，VII層からIX層上部にかけて出土した石器群で，最も多くのブロックが検出されている。房総半島南部産の石材による不定型な剥片石器群を主体とし，これに遠隔地石材による石刃石器群が搬入品として存在する。この文化層は出土層位の差などから2～3時期に細分される可能性が指摘されている。草刈六之台遺跡第3文化層に対応するが，当該遺跡では刃部磨製石斧を含む石器群が出土している。第5文化層は，VII層上部からVI層にかけて出土した石器群で，3種類のブロックが存在する。①東北産頁岩による石刃石器群，②東北産と推定される頁岩と信州産黒曜石による小型の石刃石器群及び不定型な剥片石器群，③房総半島南部産と推定される石材による不定型な剥片石器群である。これらは，概ね同時期に帰属するが，若干の編年的差異が想定されている。草刈六之台遺跡第4文化層及び第5文化層の一部に対応する。第6文化層はハードローム層最上部からソフトローム層下部にかけて出土した石器群で，第4文化層に次いで多くのブロックが検出されている。武蔵野台地におけるIV層下部の石器群に対応するものと考えられている。信州産黒曜石，房総半島南部産の石材，上総丘陵砂礫層の石材などによるナイフ形石器や角錐状石器などの石器類を主体とするブロックと焼け礫を主体として少量の石器をもつブロックがある。草刈六之台遺跡第6文化層に対応する。第7文化層はソフトローム層から出土した槍先形石器を指標とする石器群で，3時期の時間差が想定されている。

草刈六之台遺跡では，立川ローム層X層からIII層にかけて7枚の文化層が確認されたが，VI層以下の資料が充実している。とくにX層，IX層下部，IX層上部で確認した3枚の文化層からは，それぞれ刃部磨製石斧を含む石器群が出土している。さらにIX層下部では神津島産黒曜石による大型の台形石器，IX層上部では信州産黒曜石を主体とする石刃石器群に刃部磨製石斧とともに石斧用の砥石が伴っている。前述したように草刈遺跡でも，それぞれ対応する時期の石器群があり，両者の関係が想定される。中永谷遺跡では立川ローム層VII層とIV層下部の資料が中心である。野馬堀遺跡ではX層，IV層，III層から剥片類が，ばあ山遺跡では石刃，槍先形石器が出土している。それ以外の遺跡については，整理作業が未了のため詳細は不明であるが，押沼第1遺跡G地点では印西市木刈峠遺跡1・7・24ユニットや八千代市権現後遺跡第4文化層などに代表されるVI層石器群，押沼第2遺跡では黒曜石や珪質頁岩による野岳・休場型細石刃核を指標とする細石刃石器群が出土している。

草刈遺跡の北側では，東南部ニュータウン事業地内を中心に旧石器時代の石器群が確認されている。大規模な遺跡は少ないが，一地域全体の様子を窺うことのできる貴重な資料である。以下，出土層位ごとに概観する。

X層の資料ははっきりしないが，高沢遺跡（42）ではIX層下部からX層上部で楔形石器，刃部磨製石斧に関係すると考えられる剥片を利用した加工痕ある剥片，小型の剥片類による小規模なブロックが検出されている。石材は半数が良質の黒曜石（信州産か）で，このほか玉髄，凝灰岩，頁岩がある。IX層の資料は多くの遺跡で出土している。白鳥台遺跡（19）では安山岩製の楔形石器，剥片類に軟質砂岩による石斧

用の砥石が伴っている。城ノ台遺跡（33）でも安山岩製の楔形石器を中心とする石器群が出土している。環状ブロック群の一部かも知れない。鎌取遺跡（39）では安山岩による台形石器を主体とする石器群と頁岩製の石刃石器群がブロックを違えて出土している。小金沢貝塚（22），馬ノ口遺跡（34）でも台形石器を含む石器群がある。有吉城跡（37）では石斧が数点出土しているが，頻繁な刃部再生の後，楔形石器や石核に転用されている。六通金山遺跡（17）でも刃部磨製石斧が出土している。

Ⅶ層からⅥ層では，バクチ穴遺跡（13）で高原山産と考えられる黒曜石やメノウを中心とする切出形のナイフ形石器，角錐状石器，掻器の一群があり，類例は鎌取遺跡，小金沢古墳群（21），有吉遺跡（43）などでも出土している。小金沢古墳群，鎌取場台遺跡（40）では礫群も見られる。

Ⅲ層には複数時期の石器群があるが，有吉遺跡（第４次調査）からは，ナイフ形石器最終末期に帰属する細身の木葉形による槍先形石器のブロックがある。同時期の資料は小金沢古墳群にもあり，槍先形石器を製作したブロックとして注目される。ムコアラク遺跡（16）では，樋状剥離をもつ槍先形石器がある。

細石刃石器群の出土は乏しいが，春日作遺跡（26）からは嶽岡産珪質頁岩と信州産黒曜石による細石刃石器群がある。細石刃核は得られていない。また，椎名崎古墳群Ｂ支群（28）でも古墳の墳丘下から黒曜石による野岳・休場型細石刃核を指標とする細石刃石器群が出土している。

六通神社南遺跡（18）では土器出現期に帰属する大型の槍先形石器がまとまっており，石器石材の原産地推定分析によると奈良県二上山のサヌカイトや岐阜県の下呂石が含まれている。また，東南部ニュータウン北東に隣接する辺田山谷遺跡（45）では，富里市南大溜袋遺跡に代表される狭長な槍先形石器が散見される。

東南部ニュータウンでは，このほかにも，神明社裏遺跡（25）などで多数の旧石器時代資料が出土しているが，整理作業が未了のため詳細は不明である。

千原台ニュータウン関連文献

（財）千葉県文化財センター　1980　『千原台ニュータウン１（野馬堀遺跡・ばあ山遺跡・他）』

（財）千葉県文化財センター　1983　『千原台ニュータウンⅡ　草刈遺跡Ａ区（第１次調査）　鵜牧古墳群・人形塚』

（財）千葉県文化財センター　1986　『千原台ニュータウンⅢ　草刈遺跡（Ｂ区）』

（財）千葉県文化財センター　1991　『千原台ニュータウンⅣ　中永谷遺跡』

（財）千葉県文化財センター　1994　『千原台ニュータウンⅥ　－草刈六之台遺跡－』

（財）千葉県文化財センター　2003　『千原台ニュータウンⅧ　－市原市草刈遺跡（東部地区縄文時代）－』

（財）千葉県文化財センター　2003　『千原台ニュータウンⅨ　－市原市押沼第１・第２遺跡（上層）－』

（財）千葉県文化財センター　2004　『千原台ニュータウンⅩ　－市原市草刈遺跡（東部地区旧石器時代）－』

東南部ニュータウン関連文献

（財）千葉県文化財センター　1979　『千葉東南部ニュータウン６　－椎名崎遺跡－』

（財）千葉県文化財センター　1979　『千葉東南部ニュータウン７　－木戸作遺跡（第２次）－』

（財）千葉県文化財センター　1979　『千葉東南部ニュータウン８　－ムコアラク遺跡・小金沢古墳群－』

（財）千葉県文化財センター　1980　『千葉東南部ニュータウン９　－六通遺跡・御塚台遺跡－』

（財）千葉県文化財センター　1982　『千葉東南部ニュータウン10　－小金沢貝塚－』

（財）千葉県文化財センター　1981　『千葉東南部ニュータウン11　－六通金山遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1983　『千葉東南部ニュータウン12　－南二重堀遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1983　『千葉東南部ニュータウン14　－パクチ穴遺跡・有吉遺跡（第３次）・有吉南遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1984　『千葉東南部ニュータウン15　－馬ノ口遺跡・有吉城跡・白鳥台遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1990　『千葉東南部ニュータウン17　－高沢遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1993　『千葉東南部ニュータウン18　－鎌取遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1998　『千葉東南部ニュータウン19　－千葉市有吉北貝塚１－』
（財）千葉県文化財センター　1999　『千葉東南部ニュータウン21　－有吉遺跡（第４次）・高沢古墳群－』
（財）千葉県文化財センター　1999　『千葉東南部ニュータウン22　－鎌取場台遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　2003　『千葉東南部ニュータウン26　－千葉市椎名神社遺跡・古城小弓遺跡・六通神社南遺跡・御塚台遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　2003　『千葉東南部ニュータウン27　－千葉市春日作遺跡－』

第３節　基本土層

本遺跡における立川ローム層の堆積状況は，下総台地で広く観察される基本層序と共通する。千葉市から市原市にかけての東京湾岸地域では不明瞭なことが多い第２黒色帯下部中の間層（Ⅸｂ層）が西部地区全体に確認されており，東部地区同様，当地域の中では比較的良好な堆積状況を示している。立川ローム層の厚さは，台地平坦部の薄いところで1.5m，南側の厚いところで2.4mあり，概ね1.8mである。

Ⅲ層：黄褐色の軟質ローム で，厚さは30cm～40cmである。

Ⅳ層：赤みを帯びた黄褐色の硬質ロームである。武蔵野台地のⅣ層上部に相当する層は軟質化してⅢ層に取り込まれており，本層は武蔵野台地Ⅳ層下部に対応すると考えられる。赤色スコリアを含み，厚さは20cm～30cmである。

Ⅴ層：にぶい黄褐色の硬質ロームで，武蔵野台地における立川ローム層第１黒色帯に相当する。厚さは20cm～50cmほどである。

Ⅵ層：明黄褐色の硬質ロームで，黒色粒と火山ガラスによって構成されるＡＴ（姶良丹沢火山灰層）のブロックがまとまっている。厚さは15cm～30cmである。

Ⅶ層：黄褐色の硬質ロームで，第２黒色帯上半部に相当する。ＡＴが細かく拡散しており，あまり暗い色調ではない。厚さは15cm～30cmである。

Ⅸ層：褐色～暗褐色の硬質ロームで，第２黒色帯下半部である。調査当時は単一の土層として認識されていたり，Ⅶａ層（現在のⅦ層下部とⅨａ層），Ⅶｂ層（現在のⅨｂ層），Ⅶｃ層（現在のⅨｃ層）に区分されたりしている。整理作業の中で細分可能な場合は，以下のとおりとした。

Ⅸａ層：赤みを帯びた褐色の硬質ローム層で，第２黒色帯下半部の上層にあたる。赤色，黒色，暗緑色のスコリアを含む。厚さは20cm～30cmである。

Ⅸｂ層：赤みがかった黄褐色の硬質ローム層で，第２黒色帯下半部中の間層である。安定した土層ではないが，一部の調査区で確認できた。

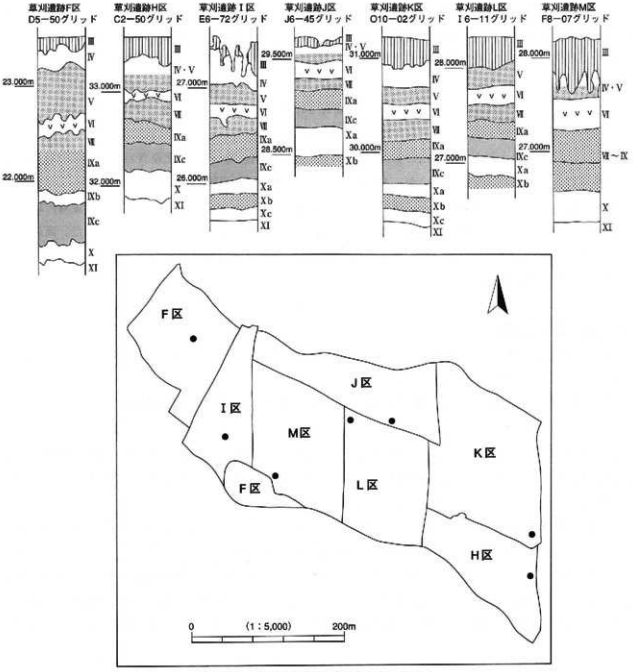
Ⅸｃ層：暗褐色の硬質ローム層で，第２黒色帯下半部の下層にあたる。立川ローム層の中では最も暗く，

薄墨を流したようにみえる。赤色，暗緑色のスコリアがⅨa層よりも多く，また，大型のものが顕著である。厚さは20cm～40cmである。

Ⅹ層：黄褐色の硬質ローム層であるが，Ⅸ層に比べて軟質になる。スコリアは激減するが，部分的に赤橙色で小型のスコリアを含む。厚さは20cm～40cmである。さらに3枚に分層される地点もある。

Ⅺ層：にぶい褐色～灰色の硬質ローム層で，Ⅹ層との境界は波状をなし，不整合になっている。スコリアはみられない。武蔵野ローム層最上部と考えられる。

草刈遺跡では隣接する各調査区及び両地区相互の同時代資料を併せて検討するため，遺跡全体を東西の2地区にまとめて作成している。そのため草刈遺跡西部地区でも，草刈遺跡東部地区の報告書の記載に倣って，第1文化層（Ⅺ層），第2文化層（Ⅹ層），第3文化層（Ⅸc層），第4文化層（Ⅸa～Ⅶ層），第5文化層（Ⅵ層），第6文化層（Ⅴ～Ⅳ層），第7文化層（Ⅲ層）を使用した。ただし，西部地区では第1・2文化層の遺物は発見されなかった。



第3図　草刈遺跡西部地区基本土層図

第２章　草刈遺跡Ｆ区（219-028）

第１節　調査の概要

草刈遺跡Ｆ区では，旧石器時代（下層）調査を昭和60年度と平成９年度に実施した。調査区の位置は，草刈遺跡の西端及び北西端にあたり，北側は，千葉市と市原市とを画する茂呂谷津に面し，南側は，村田川に面した台地の中央である。

昭和60年度は18,500㎡，平成９年度は3,540㎡を調査対象として，４％を基本に確認調査を行い，その結果に基づいて1,531㎡の本調査を行った。調査の結果，５か所のブロックと６か所の単独出土地点を検出した（第４図）。

本調査区における５か所のブロックは以下のとおり３枚の文化層に区分できる。なお，文化層の設定は，草刈遺跡全域で行っており，本調査区の石器群は，その第４・５・６文化層にあたる。

第４文化層は，立川ローム層第２黒色帯上半部（Ⅶ層～Ⅸ層上部）に包含される石器群で，石器368点，礫３点が２か所のブロック（F4-A，F5-Aブロック）から出土した。また，周辺から遺物が発見されていないが，E5-67グリッドには比較的大型の炭化材を伴った炉跡の可能性のある遺構が検出されている。

第５文化層は，立川ローム層のⅥ層を中心に包含される石器群で，石器167点が１か所のブロック（E4-Aブロック）から出土した。草刈遺跡の同時期の石器群では，石材構成が東北産頁岩や信州産黒曜石に代表されるとおり，遠隔地石材が多いが，本地区でも信州産黒曜石が卓越している。

第６文化層は，立川ローム層のハードローム層最上部（Ⅳ層）からソフトローム層下部（Ⅲ層）にかけて包含される石器群で，石器23点が２か所のブロック（E4-B，E5-Cブロック）から出土した。両者とも石核を含む小規模なブロックである。明確に時期を決定できる遺物は発見されていないが，武蔵野台地のⅣ層下部の石器群に概ね相当すると考えられる。

第２節　第４文化層

第４文化層は，立川ローム層第２黒色帯上部（Ⅶ層～Ⅸ層上部）を中心に包含されている石器群である。F4-A，F5-Aブロックの２か所が該当する。

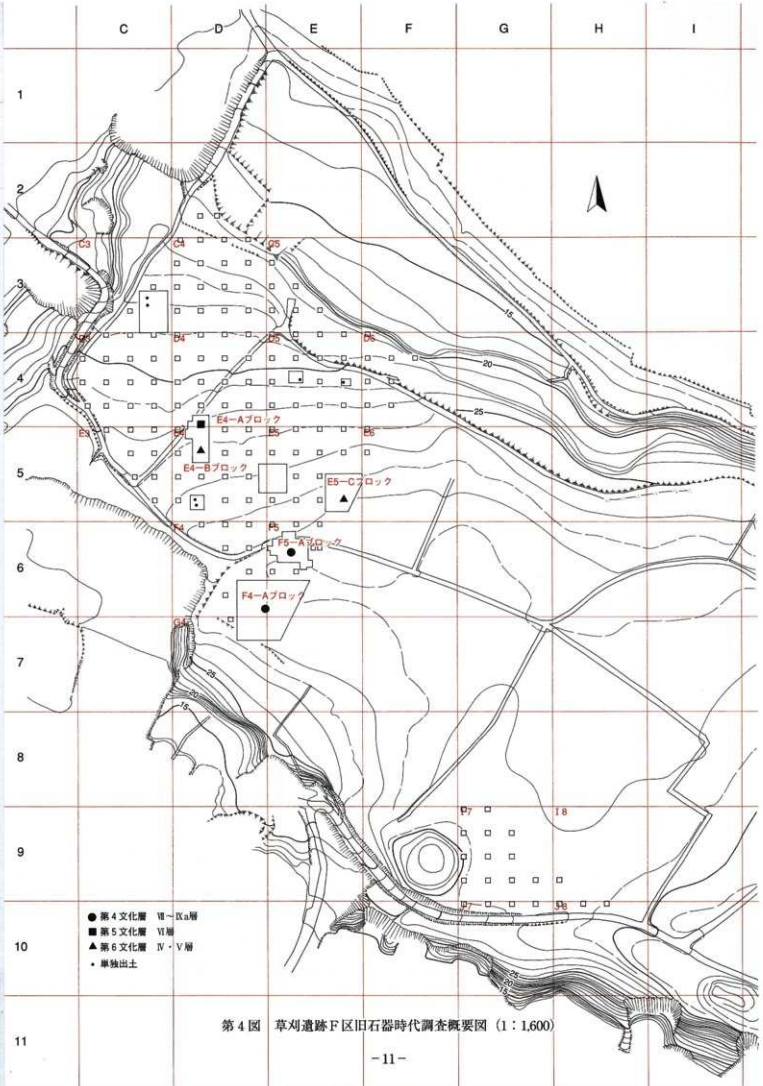
１　F4-Aブロック（第５～16・230図，第１～３表，カラー図版１・12，図版２）

１）ブロックの概要

F4-Aブロックは，調査範囲南側のF4-68・69・77～79・87～89・98・99，F5-70～73・80～82・90～92，G4-07～09・17・19・28・29，G5-00・10グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地南側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は南北それぞれ20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸30m，短軸26mの範囲に301点の石器・礫が散漫に分布する。出土層位は，Ⅸａ層からⅨｃ層にかけてで，70cmほどの高低差をもって地形に沿って包含されている（第５～９図）。

ブロックは，ナイフ形石器４点，楔形石器１点，加工痕ある剥片４点，使用痕ある剥片４点，石刃２点，剥片175点（172個体），砕片81点，石核10点（９個体），礫２点，不明18点の合計301点（297個体）で構成される。石器石材は，黒曜石Ｃ229点（226個体），流紋岩24点（23個体），頁岩Ａ１点，頁岩Ｂ３点，頁岩



第4図　草刈遺跡F区旧石器時代調査概要図（1：1,600）

C7点，頁岩D11点，頁岩E3点，チャート1点，砂岩1点，ホルンフェルス1点，珪岩2点，不明16点である。礫石材は，砂岩2点（2母岩；822.8g）で，識別率は100%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは42母岩を識別した。内訳は，黒曜石C12母岩（F4-28～39），流紋岩8母岩（F4-3・22～27，F5-22），頁岩A1母岩（F4-6），頁岩B3母岩（F4-4・7，F5-19），頁岩C4母岩（F4-1・2・5・13），頁岩D9母岩（F4-8～12・14～16・40），頁岩E2母岩（F4-19・21），チャート1母岩（F4-20），砂岩1母岩（F4-18），ホルンフェルス1母岩（F4-17）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は54%（162/299点）である。

・F4-1：内部は灰色（N4/0），節理は灰黄褐色（10YR4/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点，石核1点の合計2点（80.0g）で，すべて接合する。

・F4-2：自然面は灰褐色（5YR4/2），内部は灰色（5Y4/1）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点，石核1点の合計3点（53.8g）である。接合資料は，剥片1点，石核1点の合計2点（44.2g）である。

・F4-3：自然面及び内部は黄褐色（2.5Y5/3）で自然面に淡黄色（7.5Y8/3）の斑が入る流紋岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，剥片5点の合計6点（208.2g）である。なお，剥片1点がF5-Aブロックの石刃1点と接合している。

・F4-4：褐灰色（10YR4/1）の北関東産頁岩である。石刃素材のナイフ形石器1点（11.9g）の単独資料である。

・F4-5：褐灰色（10YR4/1）で一部に暗赤褐色（7.5R3/2）の部分が入る嶺岡産頁岩である。加工痕ある剥片1点（17.4g）の単独資料である。

・F4-6：暗赤灰色（10R4/1）で一部に暗褐色（10YR3/2）の部分が入る東北産頁岩である。剥片1点（5.4g）の単独資料である。

・F4-7：内部は褐灰色（7.5YR4/1）で節理はにぶい褐色（7.5YR5/4）の北関東産頁岩である。剥片1点（11.0g）の単独資料である。

・F4-8：黄灰色（2.5Y5/1）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（4.6g）の単独資料である。

・F4-9：暗灰色（5B3/1）で一部ににぶい黄褐色（10YR5/3）の部分が入る硬質緻密な頁岩である。石刃素材のナイフ形石器1点（4.2g）の単独資料である。

・F4-10：灰色（5Y4/1）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（3.3g）の単独資料である。

・F4-11：にぶい赤褐色（2.5YR4/4）とにぶい黄褐色（10YR5/4）が混じる硬質緻密な頁岩である。加工痕ある剥片1点（3.2g）の単独資料である。

・F4-12：内部は灰褐色（7.5YR5/2）で灰白色の斑が入り，節理は褐色（7.5YR4/3）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（6.8g）の単独資料である。

・F4-13：灰色（Y4/1）で一部に黄灰色（2.5Y4/1）の部分が入る嶺岡産頁岩である。石核1点（52.9g）の単独資料である。

・F4-14：灰オリーブ色（5Y4/2）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（0.7g）の単独資料である。

・F4-15：灰黄褐色（10YR6/2）と灰褐色（5YR6/2）が混じる硬質緻密な頁岩である。石刃1点（6.2g）の単独資料である。

・F4-16：黄灰色（2.5Y5/1）と灰黄褐色（10YR6/2）の部分がある硬質緻密な頁岩である。剥片1点（5.5g）の単独資料である。

・F4-17：灰色（5Y6/1）で灰白色の縞が入るホルンフェルスである。剥片1点（16.1g）の単独資料である。

・F4-18：灰色（N4/0）で粗粒の砂岩である。剥片1点（11.9g）の単独資料である。

・F4-19：灰色（10YR5/1）の北関東産頁岩である。剥片1点（3.0g）の単独資料である。

・F4-20：オリーブ灰色（10Y5/2）で灰白色の縞が入るチャートである。剥片1点（1.2g）の単独資料である。

・F4-21：灰色（5Y4/1）の頁岩である。剥片1点（0.5g）の単独資料である。

・F4-22：褐灰色（10YR5/1）の流紋岩である。剥片1点（0.6g）の単独資料である。

・F4-23：灰白色（10Y7/2）とにぶい黄色（2.5Y6/4）が縞状に混じる流紋岩である。剥片1点（73.7g）の単独資料である。

・F4-24：浅黄色（5Y7/3）とにぶい黄色（2.5Y6/4）の部分があり，φ5㎜～10㎜ほどの黄灰色（2.5Y4/1）の岩石を含む流紋岩である。剥片1点（65.3g）の単独資料である。

・F4-25：内部は浅黄色（2.5Y7/3），節理はにぶい赤褐色（5YR4/3）の流紋岩である。剥片1点（5.4g）の単独資料である。

・F4-26：にぶい黄橙色（10YR7/2）で一部ににぶい橙色（5YR7/3）の部分が入る流紋岩である。加工痕ある剥片1点（11.5g）の単独資料である。

・F4-27：内部は浅黄色（5Y7/4），節理はにぶい褐色（7.5YR5/4）の流紋岩である。石器群の内訳は，剥片7点，砕片3点の合計10点（21.0g）である。剥片3点（18.8g）が接合している。

・F4-28：淡黒色透明の黒曜石である。φ1㎜ほどの夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器2点，加工痕ある剥片1点，石刃1点，剥片31点（29個体），砕片1点，石核4点（3個体）の合計40点（37個体；220.0g）である。接合資料は6グループあり，Aグループは，剥片2点（1個体；20.6g），Bグループは，剥片1点，石核1点の合計2点（29.9g），C・Dグループはそれぞれが剥片2点で12.4gと4.8gである。Eグループは，剥片1点，石核2点（1個体）の合計3点（2個体；62.0g），Fグループは，剥片1点，石核1点の合計2点（35.0g）である。

・F4-29：淡黒色透明で灰色の筋が入る黒曜石である。信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，楔形石器1点，使用痕ある剥片1点，剥片16点の合計18点（61.7g）である。

・F4-30：淡黒色半透明の黒曜石である。φ1㎜ほどの白色の夾雑物が入る。信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，剥片1点，石核1点の合計2点（30.0g）である。

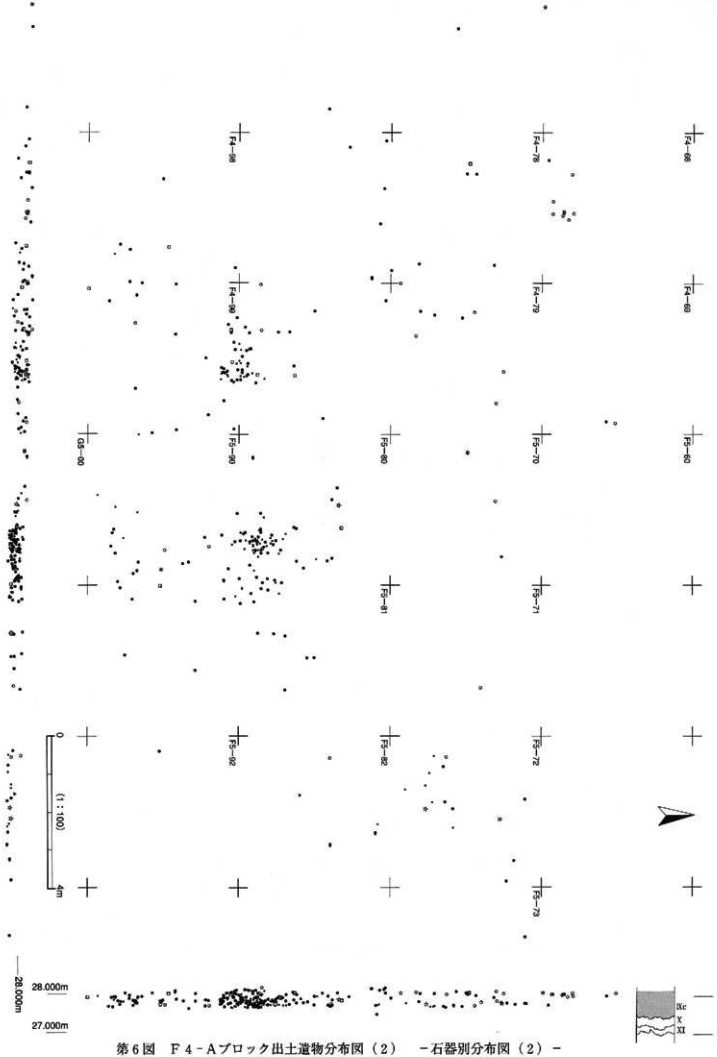
・F4-31：淡黒色半透明の黒曜石である。φ1㎜ほどの白色の夾雑物が入る。信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，剥片8点，石核1点の合計9点（37.4g）である。

・F4-32：淡黒色半透明で灰色の筋が入る黒曜石である。φ1㎜ほどの白色の夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，剥片30点の合計31点（43.5g）である。

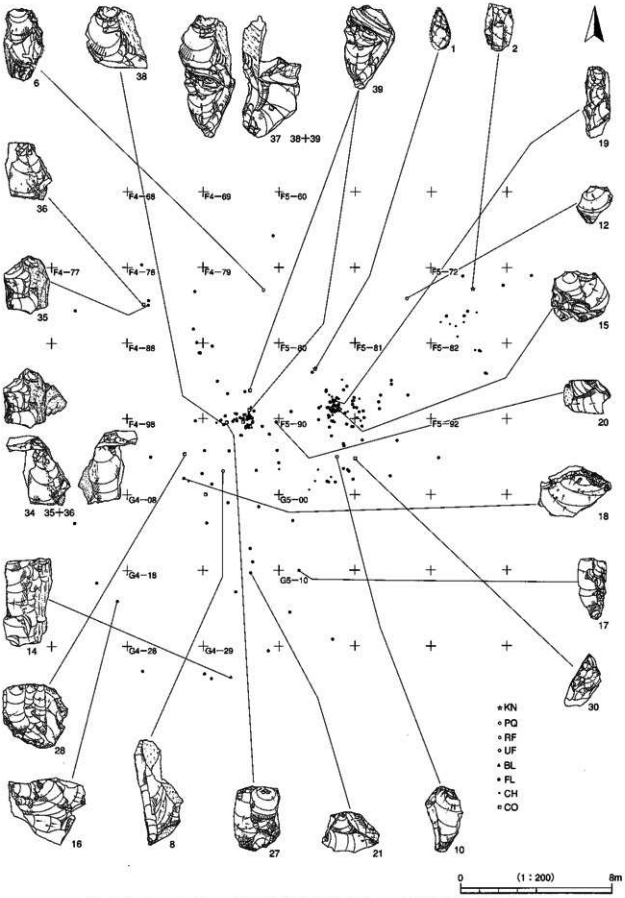
・F4-33：淡黒色半透明の黒曜石である。φ1㎜ほどの白色の夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，剥片6点（24.8g）である。

・F4-34：淡黒色半透明の黒曜石である。φ1㎜ほどの白色と黄灰色の夾雑物を含む。信州麦草峠産と考

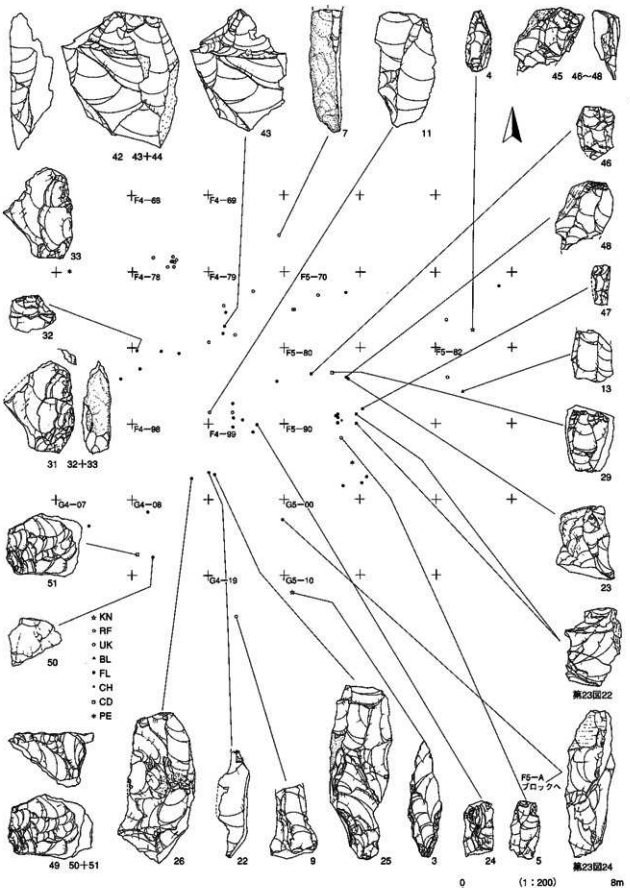
第５図　Ｆ４－Ａブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図（１）



第６図　Ｆ４－Ａブロック出土遺物分布図（２）　－石器別分布図（２）－



第７図　Ｆ４－Ａブロック出土遺物分布図（３）　－石器別分布図（３）－



第8図　F4-Aブロック出土遺物分布図（4）　－石器別分布図（4）－

えられる。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（69.3ｇ）である。

・F4-35：自然面及び内部が黒色半透明の黒曜石である。φ１㎜ほどの灰色と淡橙色の夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。剥片１点（12.7ｇ）の単独資料である。

・F4-36：淡黒色半透明で，灰色の縞が多数入る黒曜石である。φ１㎜ほどの白色の夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。剥片１点（11.2ｇ）の単独資料である。

・F4-37：自然面は荒れてザラザラしており，内部は淡黒色透明の黒曜石である。φ１㎜ほどの夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。剥片１点（3.4ｇ）の単独資料である。

・F4-38：自然面は赤灰色で荒れてザラザラしており，内部は淡黒色半透明の黒曜石である。φ１㎜ほどの夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。使用痕ある剥片１点（13.8ｇ）の単独資料である。

・F4-39：自然面及び内部が黒色半透明の黒曜石である。φ１㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。剥片１点（21.3ｇ）の単独資料である。

・F4-40：褐灰色（7.5YR4/1）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（1.2ｇ）の単独資料である。

・F5-19：内部は灰オリーブ色（7.5Y5/2），節理は褐灰色（7.5YR4/1）の北関東産頁岩である。剥片１点（33.3ｇ）の単独資料である。このほかに同一母岩が，F5-Aブロックに８点ある。

・F5-22：内部は灰色（5Y5/1）の地にφ２mm～３mmの暗緑灰色（7.5GY4/1）の鉱物が混じり，節理は暗灰黄色（2.5Y5/2）の流紋岩である。石器群の内訳は，剥片３点（２個体；33.2ｇ）である。この３点がF5-Aブロックの９点と接合する。その内の剥片１点がF5-Aブロックの剥片１点と接合して１個体となる。その他に同一母岩がF5-Aブロックに19点ある。

なお，母岩分類できなかった資料に，信州麦草峠産の黒曜石の剥片41点・砕片75点の合計116点（21.0ｇ），硬質緻密な頁岩の剥片１点・砕片１点の合計２点（0.3ｇ），頁岩の砕片１点（0.01ｇ），珪岩の器種不明２点（3.9ｇ），石材・器種不明16点（32.9ｇ）がある。

３）出土遺物（第10～12図，第13図29・30）

１は信州麦草峠産の黒曜石によるナイフ形石器である。小型の剥片を用い，素材の打面部を先端部としている。発掘時に左側縁が欠損したため形態は不明だが，二側縁加工のナイフ形石器であると考えられる。２は信州麦草峠産の黒曜石の石刃によるナイフ形石器である。上部と下部が欠損するため，形態は不明である。左側縁下部と右側縁上部に細かい調整加工が見られることから部分加工のナイフ形石器かもしれない。３は北関東産頁岩の石刃による二側縁加工のナイフ形石器である。素材の打面部を基部としている。打面の一部を残し，打瘤を除去するように入念に調整加工を行っている。４は硬質緻密な頁岩による部分加工のナイフ形石器である。石刃状の剥片を用い，素材の打面部を基部としている。左側縁下部と右側縁上部に細かい調整加工を行っている。右側面には素材の剥離方向と直交する剥離面があるが，石核整形の段階の剥離面と考えられる。５は硬質緻密な頁岩による加工痕ある剥片である。石刃状の剥片を用い，裏面右側縁上部に連続した細かい調整加工を行っている。６は信州麦草峠産の黒曜石による加工痕ある剥片である。縦長剥片を用い，右側縁に細かい調整加工を行っている。７は嶺岡産頁岩による加工痕ある剥片である。正面に自然面を残す縦長剥片を用い，裏面右側縁上部に細かい調整加工を行っている。９は流紋岩による加工痕ある剥片である。石刃状の剥片を用い，右側縁下部に細かい調整加工を行っている。底面の表面方向からの剥離痕については，90度打面を転移した際の旧作業面か両設打面の石核の旧打面の可能性が考えられるが，不明である。８・10・12は信州麦草峠産の黒曜石による使用痕ある剥片である。８・

10は縦長剥片，12は不定型な剥片を素材とし，8は右側面下部，10は正面左側面，裏面右側面・右側面下部，12は左側面下部に刃こぼれが見られる。11は流紋岩による使用痕ある剥片である。縦長剥片を素材とし，左側面下部に刃こぼれが見られる。複剥離打面で顕著な打面調整が見られる。13は硬質緻密な頁岩，14は信州麦草峠産の黒曜石による石刃である。13は上部と下部が大きく欠損するが，左側面下部に見られる素材の剥離方向と反対の剥離面から両設打面の石核から剥離されたものと考えられる。14は正面左側縁，裏面右側縁に刃こぼれが見られる。15は信州麦草峠産の黒曜石による楔形石器である。16は信州麦草峠産の黒曜石による剥片である。表面と左側面に見られる剥離面から90度の打面転移による剥離手順が想定される。18～21・30は信州麦草峠産の黒曜石による不定型な剥片である。18・20・21・30は表面を覆う剥離面の剥離方向が裏面と直交するものが多く，19は表面に見られる剥離面から石核の側面調整痕を残す剥片の可能性もあるが，これらはすべて16と同様の剥離手順により剥離されたものと考えられる。30については石核の可能性もある。17は信州麦草峠産の黒曜石による剥片であるが，いわゆる稜付き石刃と考えられる。22は東北産頁岩による石刃状の剥片である。右側縁には表面からの剥離面があり，石核の側面調整痕と考えられる。23は北関東産頁岩，24は硬質緻密な頁岩による不定型な剥片である。表面からの剥離面があり，特に24は石核の側面調整痕を残す剥片の可能性もあるが，両者とも16と同様の剥離手順により剥離されたものと考えられる。25・26は流紋岩による大型の縦長剥片である。表面からの剥離面があり，9や16と同様の剥離手順により剥離されたものの可能性もあるが，石核の側面調整痕を残す石刃状の剥片と考えられる。27・28は信州麦草峠産の黒曜石による石核である。27は剥片を素材とした両設打面の石核である。28は比較的厚い剥片を素材とし，作業面を打面とした90度の打面転移の痕跡が見られる。正面右側に素材の主要剥離面が残っている。29は嶺岡産頁岩による両設打面の石核である。

4）接合資料とその関連資料（第13～16図）

・F4-2（第13図31～33）　灰色（5Y4/1）の嶺岡産頁岩である。剥片2点，石核1点の合計3点で構成される。

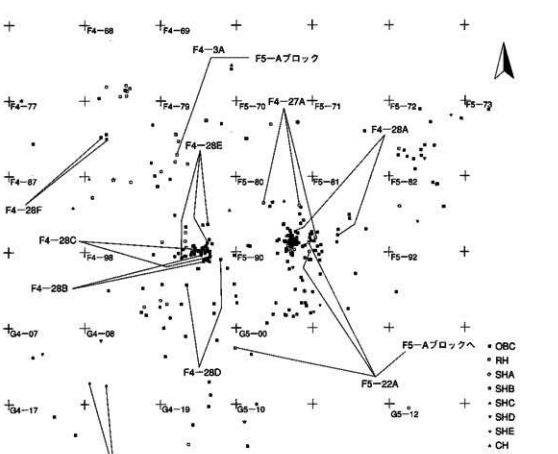
31は剥片1点（32），石核1点（33）の接合資料である。片面全面に自然面を残す不定型な剥片を素材とし，小型の不定型な剥片を剥離している。

・F4-28（第13図34～36，第14図）　淡黒色透明の黒曜石である。信州麦草峠産と考えられる。ナイフ形石器1点，加工痕ある剥片1点，石刃1点，剥片31点（29個体），砕片1点，石核4点（3個体）の合計40点（37個体）で構成される。接合資料は6グループある。

34は剥片1点（35），石核1点（36）の接合資料である。片面に自然面を残しながら，90度の打面転移を行いながら35を剥離している。その後も35を剥離した面を打面として剥離作業が続けられ，36が残る。結果的に35は打面再生の役割を果たしたことになる。この個体からは打面と作業面を入れ替えながら不定型な剥片を剥離しながら，6や14のような石刃ないしは縦長剥片を生産したと考えられる。

37は剥片1点（38），石核2点（1個体；39）の接合資料である。片面全面に節理を残す比較的大型の剥片を素材として不定型な剥片を剥離している。37のB面の右下半部に素材の主要剥離面が残っている。38は末端が樂香状であることから，37のC面下部に見られる剥離面も途中で切断しているが，同時に剥離したものかもしれない。39は40と41の2つに分割あるいは欠損している。その後も41は節理を打面として不定型な剥片を剥離している。

・F4-3（第15図42～44）　黄褐色（2.5Y5/3）の流紋岩である。使用痕ある剥片1点，剥片5点の合計6



第９図　Ｆ４－Ａブロック出土遺物分布図（５）　－石材別分布図－

点で構成される。

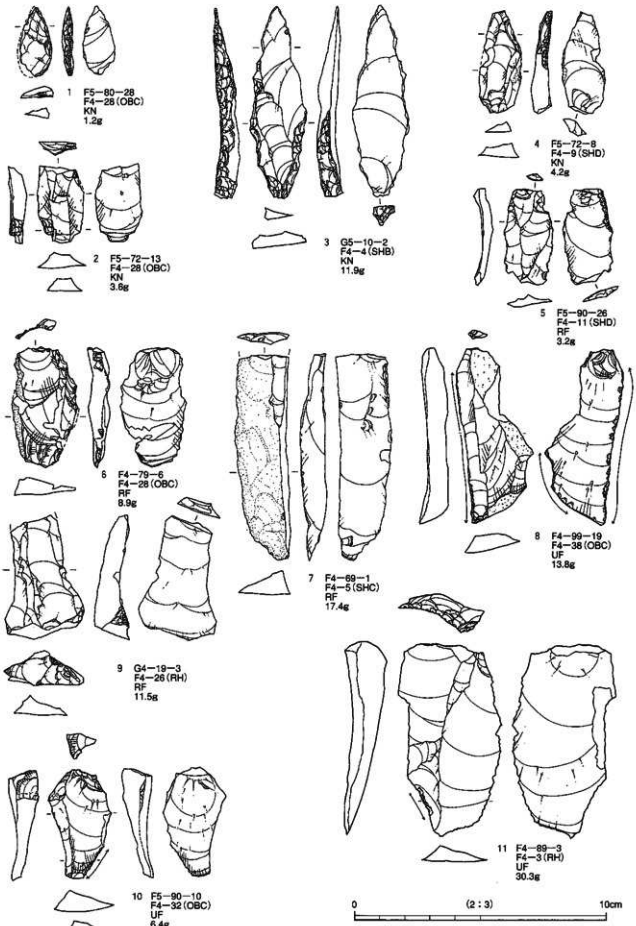
42は石刃１点（44），剥片１点（43）の接合資料である。43は90度の打面転移の痕跡が見られる不定型な剥片で，引き続き同方向から２回ほど剥離を繰り返した後に44を剥離している。上部に見られる比較的小さな剥離痕は頭部調整かもしれない。同一母岩の11と異なり，打面は平坦である。この個体からは43のような不定型な剥片も見られるが，基本的には打面と作業面を入れ替えながら11や44のような石刃状の剥片の生産を志向していたと考えられるが，詳細は不明である。なお，44はF5-Aブロックから出土している。

・**F4-27（第16図45～48）**　浅黄色（5Y7/4）の流紋岩である。剥片７点，砕片３点の合計10点で構成される。

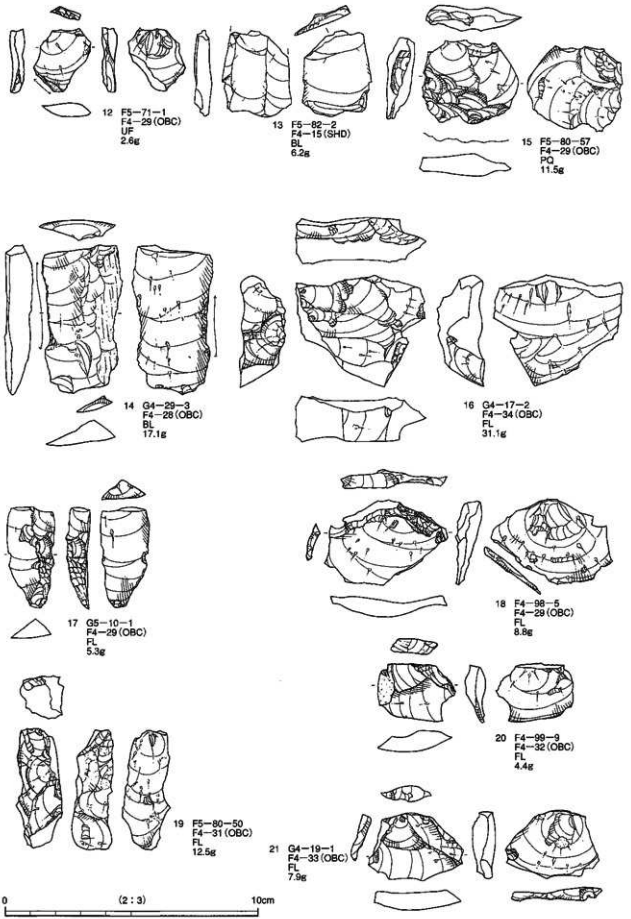
45は剥片３点（46～48）の接合資料である。両設打面の石核から46→47→48の順番で不定型な剥片を剥離している。

・**F4-1（第16図49～51）**　灰色(N4/0)の嶺岡産頁岩である。剥片１点，石核１点の合計２点で構成される。

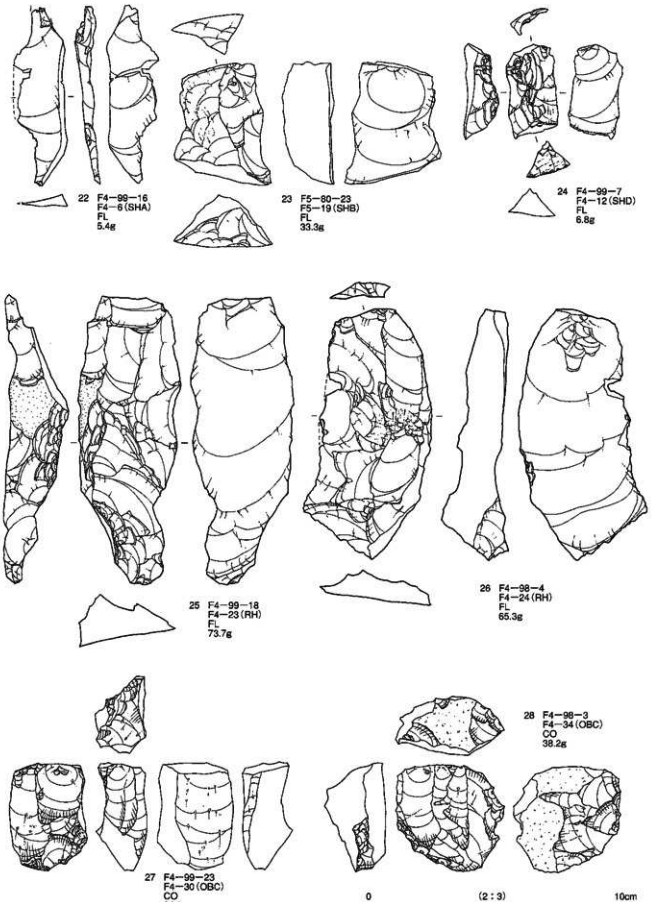
49は剥片１点（50），石核１点（51）の接合資料である。この個体からは打面と作業面を入れ替えながら不定型な剥片を生産したと考えられる。当初51のＤ面左側から節理状の剥離面を取り去り打面を形成し，



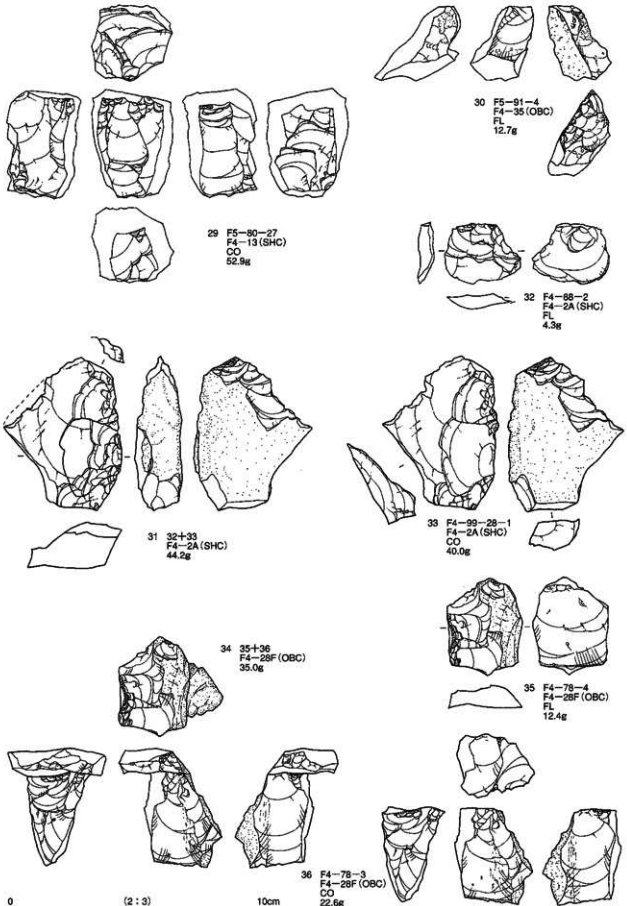
第10図　F4－Aブロック出土遺物実測図（1）



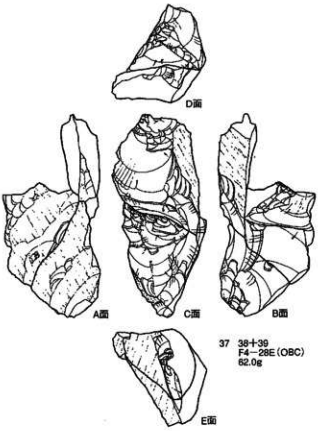
第11図　Ｆ４－Ａブロック出土遺物実測図（２）



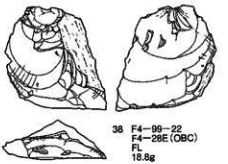
第12図　Ｆ４－Ａブロック出土遺物実測図（３）



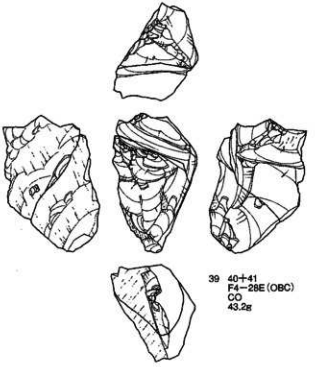
第13図　Ｆ４－Ａブロック出土遺物実測図（４）



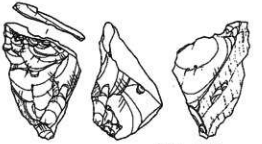
37　38+39
F4−28E(OBC)
62.0g



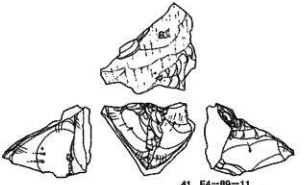
38　F4−99−22
F4−28E(OBC)
FL
18.8g



39　40+41
F4−28E(OBC)
CO
43.2g



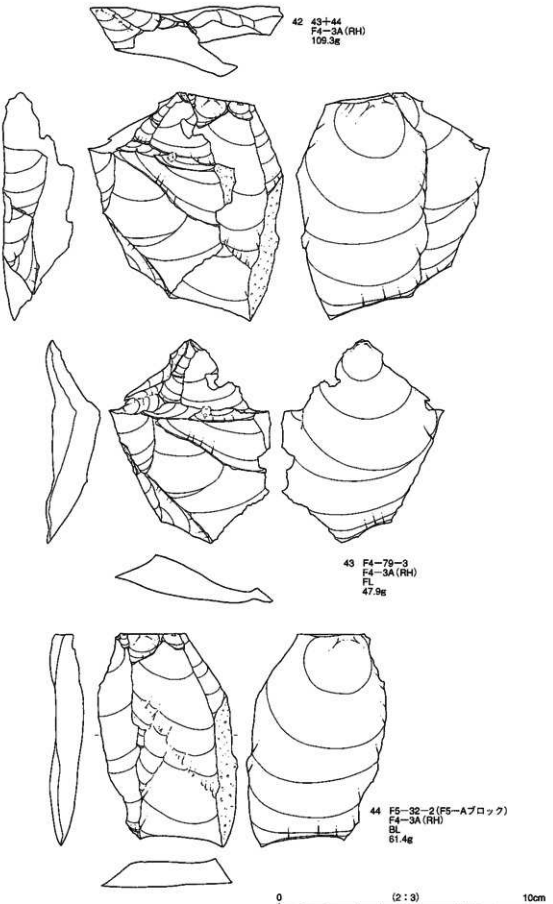
40　F4−89−20
F4−28E(OBC)
CO
22.0g



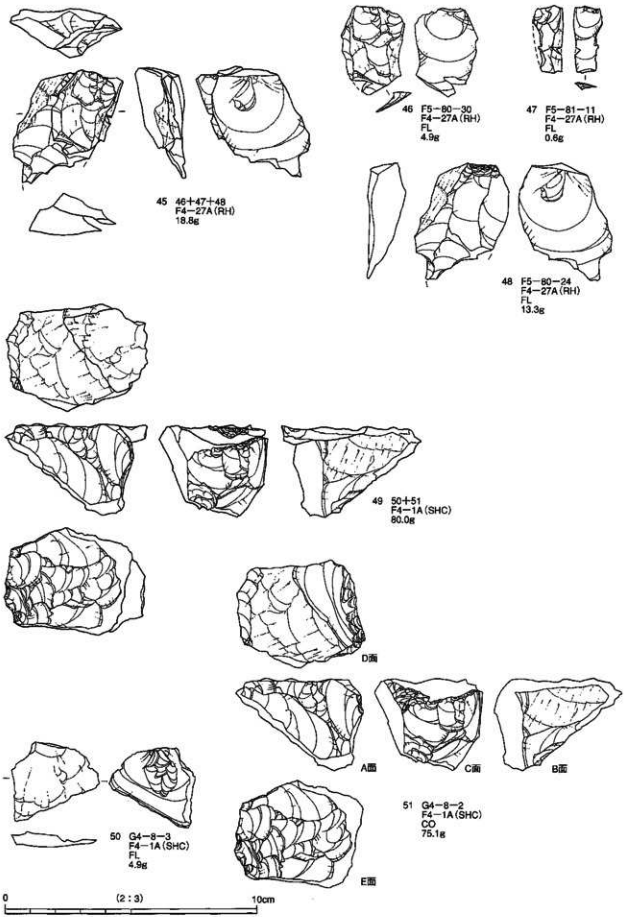
41　F4−89−11
F4−28E(OBC)
CO
21.1g

0　(2：3)　10cm

第14図　F4－Aブロック出土遺物実測図（5）



第15図　Ｆ４－Ａブロック出土遺物実測図（６）



第16図　F4-Aブロック出土遺物実測図（7）

第１表　Ｆ４－Ａブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CD	SM	SP	MB	MC	TOTAL
Ｆ４－１(SHC)																			1		1					2
Ｆ４－２(SHC)																			2		1					3
Ｆ４－３(RH)											1								5							6
Ｆ４－４(SHB)	1																									1
Ｆ４－５(SHC)										1																1
Ｆ４－６(SHA)																			1							1
Ｆ４－７(SHB)																			1							1
Ｆ４－８(SHB)																			1							1
Ｆ４－９(SHB)	1																									1
Ｆ４－10(SHD)																			1							1
Ｆ４－11(SHD)										1																1
Ｆ４－12(SHD)																			1							1
Ｆ４－13(SHC)																					1					1
Ｆ４－14(SHD)																			1							1
Ｆ４－15(SHD)												1														1
Ｆ４－16(SHD)																			1							1
Ｆ４－17(RH)																			1							1
Ｆ４－18(SA)																			1							1
Ｆ４－19(SHE)																			1							1
Ｆ４－20(CH)																			1							1
Ｆ４－21(SHE)																			1							1
Ｆ４－22(RH)																			1							1
Ｆ４－23(RH)																			1							1
Ｆ４－24(RH)																			1							1
Ｆ４－25(RH)																			1							1
Ｆ４－26(RH)											1															1
Ｆ４－27(RH)																			7	3						10
Ｆ４－28(OBC)	2									1		1							31(29)	1	4(3)					40(37)
Ｆ４－29(OBC)									1		1								16							18
Ｆ４－30(OBC)																			1		1					2
Ｆ４－31(OBC)																			8		1					9
Ｆ４－32(OBC)											1								30							31
Ｆ４－33(OBC)																			6							6
Ｆ４－34(OBC)																			1		1					2
Ｆ４－35(OBC)																			1							1
Ｆ４－36(OBC)																			1							1
Ｆ４－37(OBC)																			1							1
Ｆ４－38(OBC)											1															1
Ｆ４－39(OBC)																			1							1
Ｆ４－40(SHD)																			1							1
Ｆ５－19(SHB)																			1							1
Ｆ５－22(RH)																			3(2)							3(2)
その他(OBC)																			41	75						116
その他(SHD)																			1	1						2
その他(SHE)																				1						1
その他(QT)																		2								2
その他(不明)																		16								16
TOTAL	4								1	4	4	2						18	175(172)	81	10(9)					299(295)

第２表　Ｆ４－Ａブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CD	SM	SP	MB	MC	TOTAL
黒曜石Ｃ(OBC)	2								1	1	3	1							138(136)	76	7(6)					229(226)
流紋岩(RH)										1	1								19(18)	3						24(23)
頁岩Ａ(SHA)																			1							1
頁岩Ｂ(SHB)	1																		2							3
頁岩Ｃ(SHC)											1								3		3					7
頁岩Ｄ(SHD)	1										1		1						7	1						11
頁岩Ｅ(SHE)																			2	1						3
チャート(CH)																			1							1
砂岩(SA)																			1							1
ホルンフェルス(HF)																			1							1
理岩(QT)																		2								2
その他																		16								16
TOTAL	4								1	4	4	2						18	175(172)	81	10(9)					299(295)

第3表　F4－Aブロック礫組成表

母　岩	石　材	個数	重　量
F4R－1	SA	1	114.7
F4R－2	SA	1	708.1

石　材	個数	重　量
砂岩(SA)	2	822.8
合　計	2	822.8

剥片剥離を繰り返した後，新たに180度展開して51のD面に見られる節理状の剥離面を取り去るように50を剥離して新しい打面を形成している。その後も細かい打面調整を行いながら不定型な剥片を剥離していたようである。

2　F5-Aブロック（第17～25・230図，第4～6表，カラー図版2・12，図版2）

1）ブロックの概要

F5-Aブロックは，調査範囲中央のF5-11・12・20～23・31～33・43グリッドに位置する。ブロックの立地は北に向かって緩やかに下る台地北側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）に位置する。

ブロックの規模と形状は，長軸15m，短軸12mの範囲に70点の石器・礫が散漫な状態で環状に分布する。出土層位は，Ⅵ層を中心にⅨa層にかけて，80cmほどの高低差をもって包含されている（第17～19図）。

ブロックは，ナイフ形石器2点，台形石器1点，加工痕ある剥片2点，使用痕ある剥片4点，石刃2点，剥片52点（50個体），砕片2点，石核4点，礫1点の合計70点（68個体）で構成される。石器石材は，黒曜石C14点，流紋岩30点（29個体），頁岩B8点（7個体），頁岩D10点，頁岩E1点，チャート4点，砂岩2点である。礫石材は，流紋岩1点（1母岩；54.4g）で，識別率は100%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは25母岩を識別した。内訳は，黒曜石C11母岩（F5-2～10・24・25），流紋岩3母岩（F4-3，F5-22・23），頁岩B1母岩（F5-19），頁岩D7母岩（F5-11～16・18），頁岩E1母岩（F5-17），チャート1母岩（F5-20），砂岩1母岩（F5-21）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（69/69点）である。

・F4-3：自然面及び内部が黄褐色（2.5Y5/3）の流紋岩である。母岩の特徴は，F4-Aブロックで記したとおりである。石器群の内訳は，石刃1点（61.4g）の単独資料である。なお，この1点がF4-Aブロックの1点と接合して，その他に同一母岩が5点ある。

・F5-2：淡黒色半透明の黒曜石である。φ1mmほどの淡黄色と灰色の夾雑物を含む信州麦草峠産と考えられる。加工痕ある剥片1点（21.5g）の単独資料である。

・F5-3：薄墨を流した様な半透明の黒曜石である。φ1mmほどの灰色の夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。剥片1点（15.8g）の単独資料である。

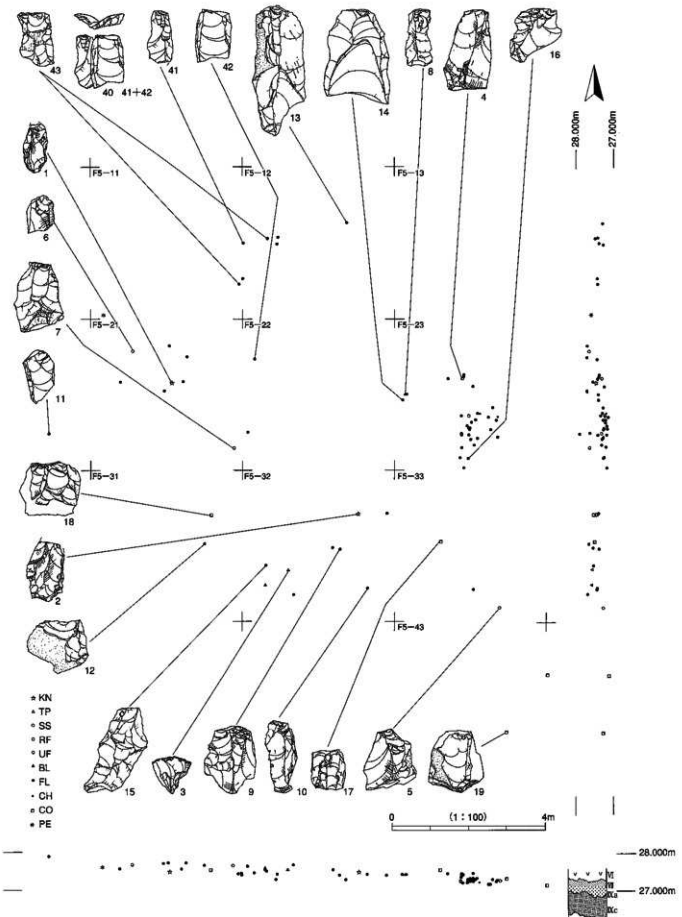
・F5-4：薄墨を流した様な半透明の地に黒灰色の筋が多数入る黒曜石である。信州麦草峠産と考えられる。使用痕ある剥片1点（9.9g）の単独資料である。

・F5-5：黒色半透明の黒曜石である。φ1mmほどの灰色の夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。石核1点（10.7g）の単独資料である。

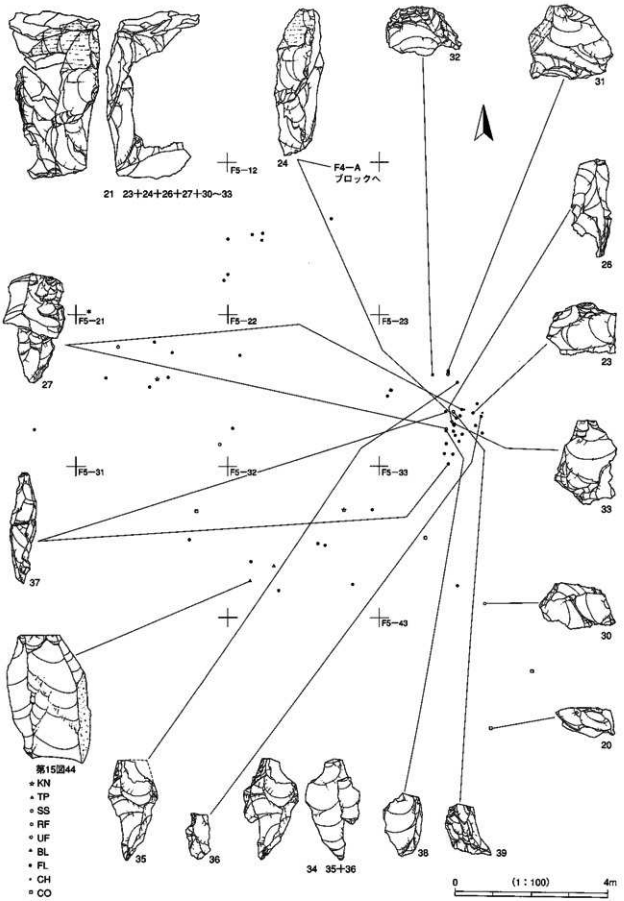
・F5-6：薄墨を流した様な半透明の地に黒灰色の筋が多数入る黒曜石である。信州麦草峠産と考えられる。ナイフ形石器1点（2.5g）の単独資料である。

・F5-7：淡黒色半透明で黒灰色の筋が入る黒曜石である。φ1mmほどの白色と灰色の夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，使用痕ある剥片1点の合計2点（14.1g）である。

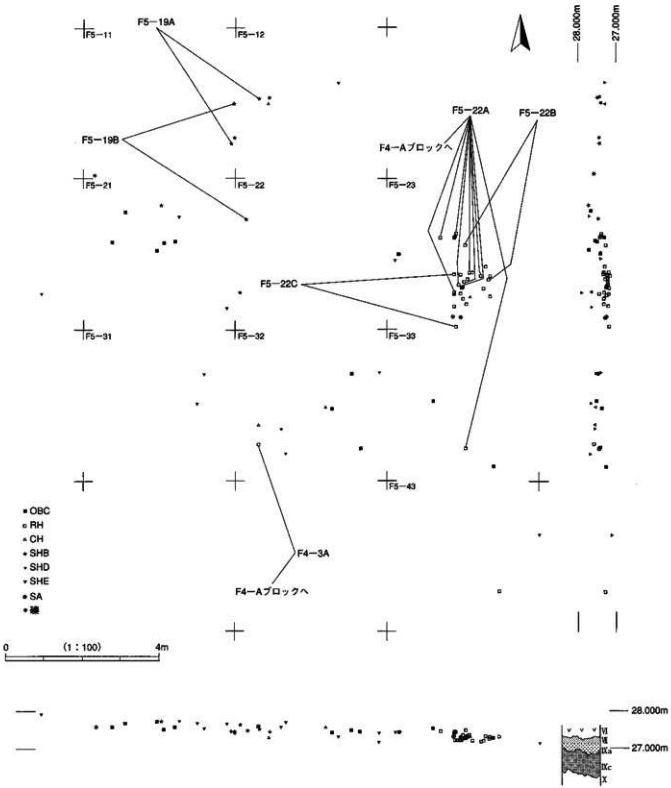
・F5-8：薄墨を流した様な透明な黒曜石である。φ1mmほどの白色の夾雑物を含む。信州麦草峠産と考



第17図　Ｆ５－Ａブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図（１）－



第18図　Ｆ５－Ａブロック出土遺物分布図（２）　－石器別分布図（２）－



第19図　Ｆ５－Ａブロック出土遺物分布図（３）　－石材別分布図－

えられる。剥片1点（1.7g）の単独資料である。

・F5-9：薄墨を流した様な透明な黒曜石である。φ1㎜ほどの白色と灰色の夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。剥片1点（2.2g）の単独資料である。

・F5-10：薄墨を流した様な透明な地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。φ1㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。石刃1点（3.1g）の単独資料である。

・F5-11：内部は褐灰色（10YR4/1），節理は暗灰黄色（2.5Y4/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点，石核1点の合計2点（40.2g）である。

・F5-12：自然面は褐色（7.5YR4/3），内部は褐灰色（10YR4/1）の硬質緻密な頁岩である。あるいは嶺岡産頁岩とした方がよいかもしれない。石器群の内訳は，剥片2点（20.2g）である。

・F5-13：灰褐色（7.5YR4/2）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（4.1g）の単独資料である。

・F5-14：内部は赤灰色（2.5YR4/1），にぶい黄色（2.5Y6/3）の岩石片が入る硬質緻密な頁岩である。使用痕ある剥片1点（11.9g）の単独資料である。

・F5-15：褐灰色（10YR4/1）の硬質緻密な頁岩である。あるいは嶺岡産頁岩とした方がよいかもしれない。台形石器1点（5.1g）の単独資料である。

・F5-16：内部は灰色（5Y5/1）で灰白色（7.5Y8/1），浅黄橙色（10YR8/4）の斑が入り，節理は灰褐色（7.5YR4/2）の硬質緻密な頁岩である。石核1点（34.9g）の単独資料である。

・F5-17：灰色（5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。剥片1点（27.0g）の単独資料である。

・F5-18：自然面は灰オリーブ色（5Y6/2），内部は暗オリーブ灰色（7.5GY4/1）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（39.2g）である。

・F5-19：灰オリーブ色（7.5Y5/2）の北関東産頁岩である。母岩の特徴は，F4-Aブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，剥片8点（7個体；26.8g）である。接合資料は，剥片2点（1個体；4.3g），剥片2点（6.9g）がある。その他に同一母岩がF4-Aブロックに1点がある。

・F5-20：暗灰色（N3/0）で黒色（N2/1）の筋が入るチャートである。石器群の内訳は，剥片4点（17.1g）である。

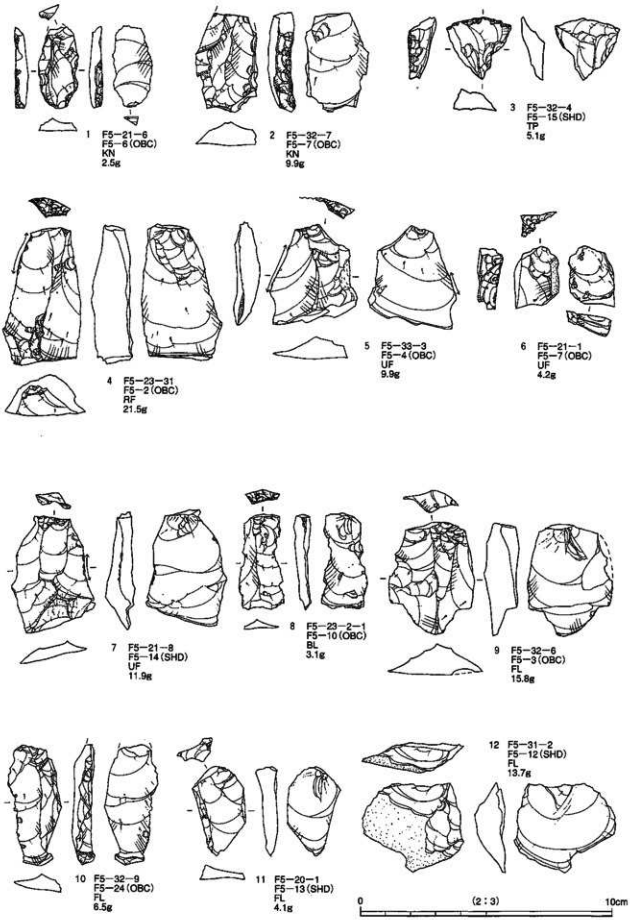
・F5-21：オリーブ灰色（5GY5/1）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片2点（7.9g）である。

・F5-22：灰色（5Y5/1）の流紋岩である。母岩の特徴は，F4-Aブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片1点，剥片24点（23個体），砕片2点の合計28点（27個体；184.1g）である。接合資料は3グループあり，Aグループは加工痕ある剥片1点，剥片8点の合計124.6gで，F4-Aブロックの剥片3点（2個体）と接合している。その内，剥片1点がF4-Aブロックの剥片1点と接合して1個体となる。Bグループは剥片2点（13.8g），Cグループは剥片2点（1個体；6.7g）である。

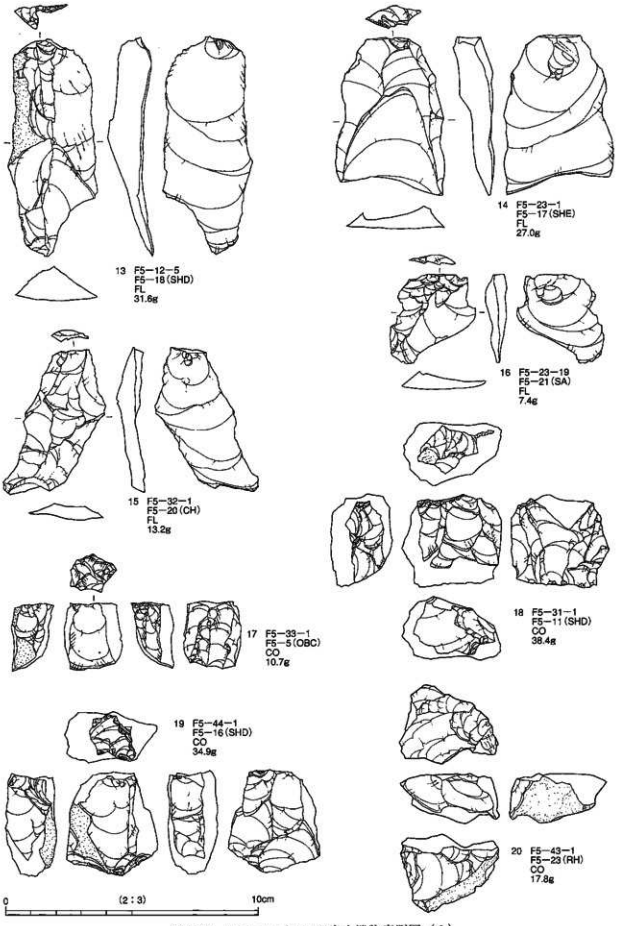
・F5-23：自然面はにぶい赤褐色（7.5YR5/4），内部は灰黄色（2.5Y7/2）で石英の結晶が入る流紋岩である。石核1点（17.8g）の単独資料である。

・F5-24：薄墨を流した様な透明な黒曜石である。φ1㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，剥片2点（10.0g）である。

・F5-25：透明な地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。φ1㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，剥片2点（0.7g）である。



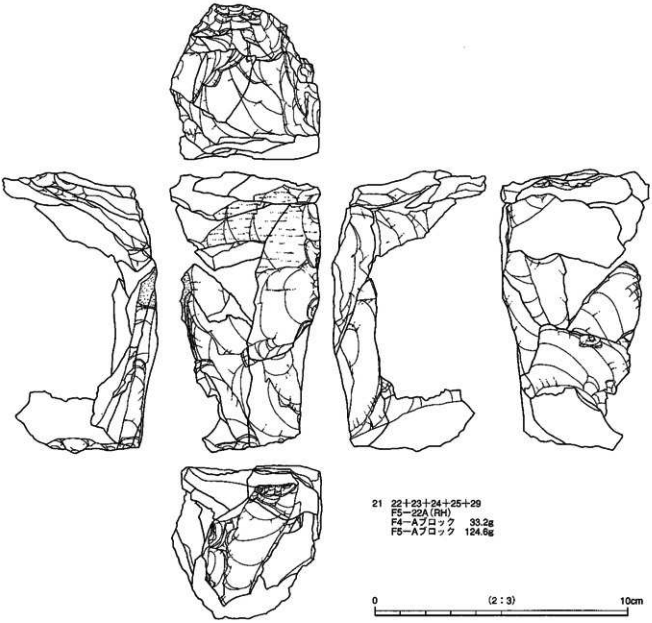
第20図　Ｆ５－Ａブロック出土遺物実測図（１）



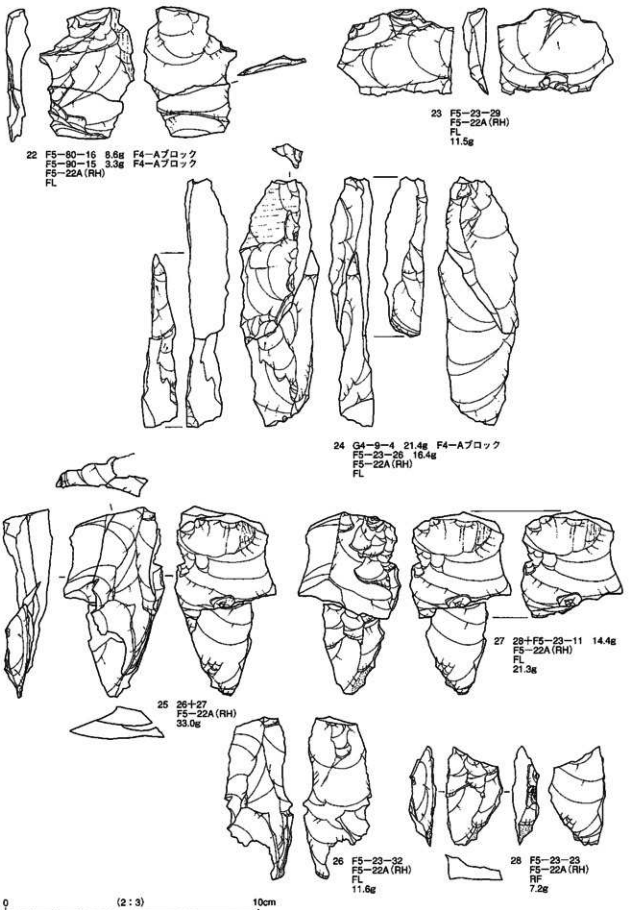
第21図　F５-Aブロック出土遺物実測図（２）

３）出土遺物（第20・21図）

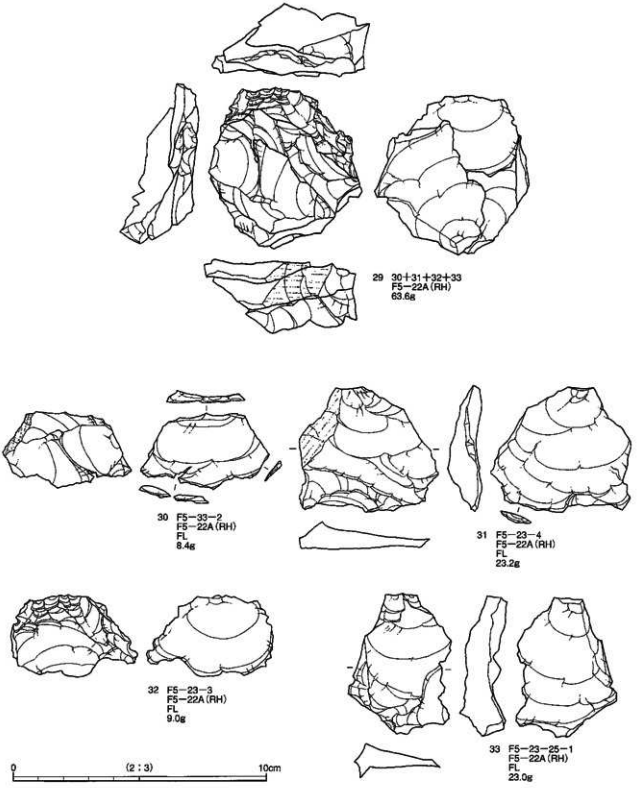
１は信州麦草峠産の黒曜石によるナイフ形石器である。縦長剥片を用い，素材の打面部を基部としている。打面の一部が残っている。先端部が欠損しているが，二側縁加工のナイフ形石器であると考えられる。２は信州麦草峠産の黒曜石によるナイフ形石器である。上部が欠損するため，形態は不明であるが，右側縁下部に90度に近い急角度の調整加工が見られ，一側縁加工あるいは部分加工のナイフ形石器と考えられる。３は嶺岡産頁岩による台形石器である。不定型な切断剥片を用い，素材の主要剥離面側を表面として上部と両側縁に調整加工を行っている。４は信州麦草峠産の黒曜石による加工痕ある剥片である。石刃状の切断剥片を用い，左側縁上部に細かい調整加工を行っている。中央の後下部に表面からの細かい剥離面があるが，石核整形の段階の剥離面と考えられる。５・６は信州麦草峠産の黒曜石による使用痕ある剥片



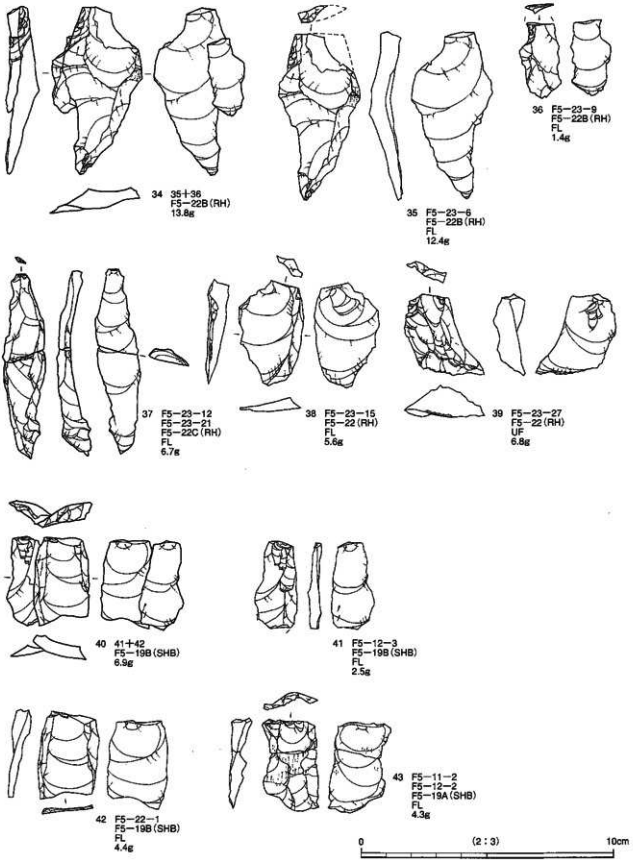
第22図　Ｆ５－Ａブロック出土遺物実測図（３）



第23図　F５－Aブロック出土遺物実測図（４）



第24図　Ｆ５－Ａブロック出土遺物実測図（５）



第25図　F５－Aブロック出土遺物実測図（６）

である。不定型な剥片を素材とし，５は左側縁中央，６は左側面の稜上に刃こぼれが見られる。なお，６の左側面には表面からの剥離面があるが，切り合い関係から素材の剥離前のものである。７は硬質緻密な頁岩による使用痕ある剥片である。石刃状の剥片を素材とし，正面右側縁及び裏面左側縁の中央に刃こぼれが見られる。下部に見られる素材の剥離方向と反対の剥離面から両設打面の石核から剥離されたものと考えられる。８は信州麦草峠産の黒曜石による石刃である。９は信州麦草峠産の黒曜石による剥片である。表面に見られる剥離面から90度の打面転移による剥離手順が想定される。下部が欠損するため形態は不明である。10は信州麦草峠産の黒曜石による石刃状の剥片である。正面と右側面下部については接する角度が直角に近いことから，柱状の石核から剥離された可能性がある。11・12は硬質緻密な頁岩による不定型な剥片である。13は硬質緻密な頁岩，14は頁岩による剥片である。13は表面を覆う剥離面の剥離方向が裏面と直交するものが多く，90度の打面転移の痕跡が見られる。14は両設打面の石核を180度反転した後，最初に剥離された剥片である。15はチャートによる剥片である。これも両設打面の石核から剥離されたものである。16は砂岩による不定型な剥片である。17は信州麦草峠産の黒曜石による両設打面の石核である。細かい調整により入念に打面を作り出している。下部は楔状になっていることから，下部からの剥離作業が不可能になった後，180度反転して剥離作業を続けている。裏面右側と左側の一部に素材の主要剥離面が残っていることから剥片を素材としたことがわかる。18・19は硬質緻密な頁岩の石核である。18は90度の打面転移の痕跡が若干見られるが，19とともに17と同様の剥離作業を行ったものと考えられる。20は流紋岩による石核である。比較的厚手の素材の主要剥離面を打面として不定型な剥片を剥離している。

４）接合資料とその関連資料（第22～25図）

・F5-22（第22～24図，第25図34～39）　灰色（5Y5/1）の流紋岩である。加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片１点，剥片24点（23個体），砕片２点の合計28点（27個体）で構成される。接合資料は３グループある。

21は加工痕ある剥片１点（28），剥片９点（22～24・26・27・30～33）の接合資料である。その他にF4-Ａブロックの剥片３点（２個体）が接合する。22を剥離して打面を作り出し，24を剥離するが，２点に欠損する。さらに，180度反転して，26・27を剥離している。27は意図的なものか不明だが，２点に切断しており，28は右側面の一部に調整加工が行われている。その後も30・31は反時計回りに，32・33は時計回りに求心的な剥離を行って打面を作り出しているが，石核は持ち出されている。

34は剥片２点（35・36）の接合資料である。37～39には接合しなかった同一母岩の資料を図示した。37・38は剥片，39は使用痕ある剥片で末端に刃こぼれが見られる。

この個体は比較的大型の礫を素材として，短軸方向に打面と剥離面を交互に入れ替えながら，石核の側面調整を行い，その後，求心的な剥離で打面を作り出し，180度の反転を繰り返しながら最大で６cm～９cmの石刃状の剥片を剥離したものと考えられる。

・F5-19（第25図40～43）　灰オリーブ色（7.5Y5/2）の北関東産頁岩である。剥片８点（７個体）で構成される。接合資料は２グループある。

40は剥片２点（41・42）の接合資料である。43は剥片２点が接合して１個体となる。剥離面打面の石核から剥離された寸づまりの剥片である。

第4表　F5－Aブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
F4－3 (BN)												1														1
F5－2 (OBC)										1																1
F5－3 (OBC)																			1							1
F5－4 (OBC)											1															1
F5－5 (OBC)																					1					1
F5－6 (OBC)	1																									1
F5－7 (OBC)	1										1															2
F5－8 (OBC)																			1							1
F5－9 (OBC)																			1							1
F5－10 (OBC)												1														1
F5－11 (SHD)																			1		1					2
F5－12 (SHD)																			2							2
F5－13 (SHD)																			1							1
F5－14 (SHD)											1															1
F5－15 (SHD)		1																								1
F5－16 (SHD)																					1					1
F5－17 (SHE)																			1							1
F5－18 (SHD)																			2							2
F5－19 (SHB)																			8(7)							8(7)
F5－20 (CH)																			4							4
F5－21 (SA)																			2							2
F5－22 (RH)										1	1								24(23)	2						28(27)
F5－23 (RH)																					1					1
F5－24 (OBC)																			2							2
F5－25 (OBC)																			2							2
TOTAL	2	1								2	4	2							52(50)	2	4					69(67)

第5表　F5－Aブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
黒曜石C (OBC)	2									1	2	1							7		1					14
流紋岩 (RH)										1	1	1							24(23)	2	1					30(29)
頁岩B (SHB)																			8(7)							8(7)
頁岩D (SHD)		1									1								6		2					10
頁岩E (SHE)																			1							1
チャート (CH)																			4							4
砂岩 (SA)																			2							2
TOTAL	2	1								2	4	2							52(50)	2	4					69(67)

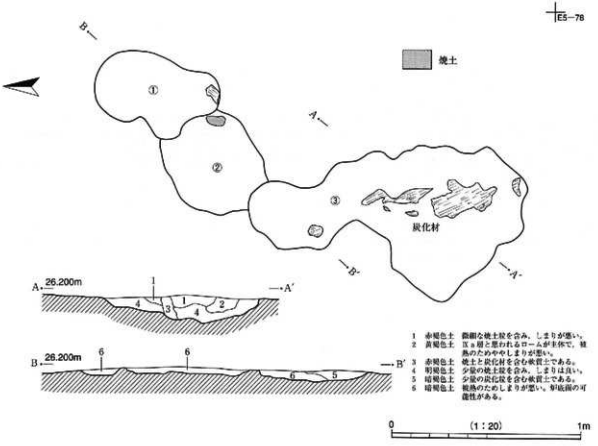
第6表　F5－Aブロック礫組成表

母　岩	石　材	個数	重　量
F5R－1	RH	1	54.4

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	1	54.4
合　計	1	54.4

3　焼土遺構（第26図，図版３）

E5-67グリッドのⅨａ層中で，長さ30cm～40cm，厚さ２cm～３cmの大型の炭化材などを伴う焼土遺構を３基検出した。北に向かって緩やかに下る台地北側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）に位置する。第６文化層のE5-Cブロックが近接するが，同一文化層の遺物は検出されていない。これらは，①；長軸70cm・短軸40cm，②；長軸70cm・短軸50cm，③；長軸150cm・短軸80cmで不整楕円形を呈し，中央部の深さは，５cm～15cmほどである。検出段階では底面に近かったせいか明確なプランは確認できず，やや赤茶けた焼土と炭化物が集中する部分を遺構として認識した。その性格については，明確なプランが確認されなかったこと，近くに関連する遺物などが検出されていないこと，炭化物の分布状況の確認に問題がなかったのかなど遺構として認識するには不確定な要素もあるが，調査時の所見では炭化物が同一レベルでごく限られた狭い範囲に集中するとされていることから，野火などによって形成されたというよりも，炉跡と考えた方が良いと思われる。



第26図　Ｅ５－67グリッド検出焼土遺構

第3節　第5文化層

第5文化層は，立川ローム層Ⅵ層を中心に包含されている石器群である。E4-Aブロックの1か所が該当する。

1　E4-Aブロック（第27～30・230図，第7・8表，カラー図版2・12，図版2）

1）ブロックの概要

E4-Aブロックは，調査範囲の中央より南側のD4-92・93，E4-01～03グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地上ではあるが北へ向かって下る緩斜面で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は南へ60mである。

ブロックの規模と形状は，長軸10m，短軸8mの範囲に167点の石器が分布する。北と東へそれぞれ4mほど離れて2点出土しているが，当ブロックに含めた。出土層位は，Ⅵ層を中心にⅤ層からⅨa層にかけて，80cmほどの高低差をもって包含されている（第27・28図）。

ブロックは，ナイフ形石器2点，楔形石器6点（3個体），加工痕ある剥片3点，使用痕ある剥片3点，剥片47点（45個体），砕片102点，石核4点（3個体）の合計167点（161個体）で構成される。石器石材は，黒曜石B154点（149個体），頁岩A9点（8個体），頁岩D3点，チャート1点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは9母岩を識別した。内訳は，黒曜石B5母岩（E4-1～5），頁岩A2母岩（E4-6・7），頁岩D1母岩（E4-8），チャート1母岩（E4-10）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は35%（59/167点）である。

・E4-1：自然面は淡黒色，スリガラス状で内部は薄墨を流した様な透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。一部に被熱のためか透明感が失われたものがある。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，剥片19点（18個体），砕片2点，石核3点（2個体）の合計25点（23個体；47.4g）である。接合資料は，剥片3点（2個体），石核2点（1個体）の合計5点（3個体；12.0g）である。

・E4-2：透明な黒曜石である。一部に灰白色の部分が入るものがある。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，加工痕ある剥片2点，使用痕ある剥片2点，剥片10点の合計15点（12.3g）である。

・E4-3：黒色半透明の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，楔形石器5点（2個体；7.6g）で，すべて接合している。

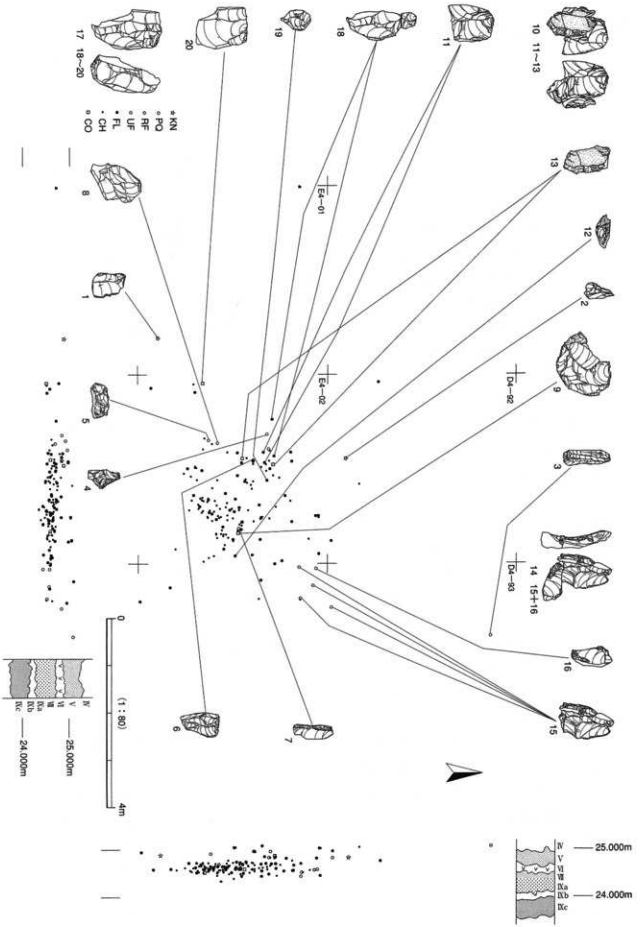
・E4-4：透明な地に黒灰色のモヤと筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，剥片1点の合計2点（2.6g）である。

・E4-5：薄墨を流した様な透明な地に灰色の筋が入る黒曜石である。φ1mmほどの灰白色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。楔形石器1点（2.2g）の単独資料である。

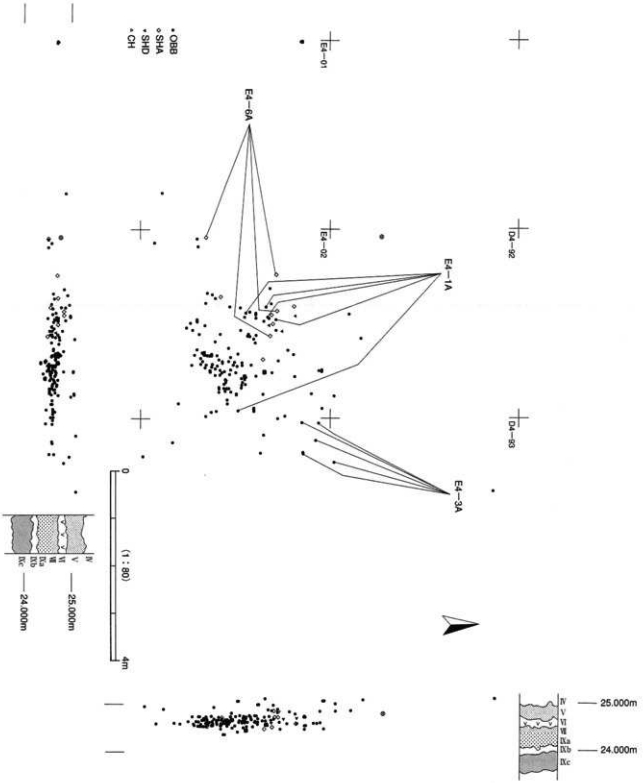
・E4-6：黒褐色（5YR3/1）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，剥片6点（5個体），石核1点の合計7点（6個体；29.6g）である。接合資料は，剥片3点（2個体），石核1点の合計4点（3個体；22.8g）である。

・E4-7：黄灰色（2.5Y4/1）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，砕片1点の合計2点（4.0g）である。

・E4-8：灰褐色（7.5YR4/2）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（1.4g）の単独資料である。



第27図　Ｅ４－Ａブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－



第28図　Ｅ４－Ａブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

・**E4-10**：オリーブ灰色（10Y5/2）のチャートである。剥片１点（0.8ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，信州和田峠周辺産の黒曜石の剥片９点，砕片97点の合計106点（10.2ｇ），硬質緻密な頁岩の砕片２点（0.2ｇ）がある。

３）出土遺物（第29図１～９）

１・２は信州和田峠周辺産の黒曜石によるナイフ形石器である。１は両側縁に細かいに調整加工を行っている。２は左側縁に細かい調整加工を行っている。右側縁上部に刃こぼれが見られる。１は上部と下部，２は下部が欠損するため，形態は不明である。石刃ないしは石刃状の剥片を素材とする二側縁加工のものであろうか。３は信州和田峠周辺産の黒曜石による楔形石器である。裏面下部左側に長軸方向に直交する素材の主要剥離面と考えられる剥離面が見られることから比較的大型の剥片を素材にしたと考えられる。４・５は信州和田峠周辺産の黒曜石による加工痕ある剥片である。４は不定型な剥片の下部に調整加工が見られるが，切断時に生じた可能性もある。また，右側縁に見られる細かい剥離痕についても新旧関係は不明である。５も不定型な剥片の下部に調整加工が見られるが，刃こぼれとした方がよいかもしれない。８は東北産頁岩による加工痕ある剥片である。不定型な剥片を素材にして左側縁上部に調整加工を行っている。下部に刃こぼれが見られる。６・７は信州和田峠周辺産の黒曜石による使用痕ある剥片である。６は表面右側縁と裏面両側縁に，７は右側縁に刃こぼれが見られる。９は信州和田峠周辺産の黒曜石による石核である。表面の下部中央に素材の主要剥離面が見られることから，剥片を素材として求心的な剥離作業を行ったと考えられる。表裏下部と上面に見られる細かい剥離面はそれぞれが対向することから，両極技法によるものと考えられ，消耗した石核から同技法によって小型の剥片を剥離して作業を終了している。

４）接合資料とその関連資料（第29・30図）

・**E4-1**（第29図10～13）　薄墨を流した様な透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器１点，剥片19点（18個体），砕片２点，石核３点（２個体）の合計25点（23個体）で構成される。

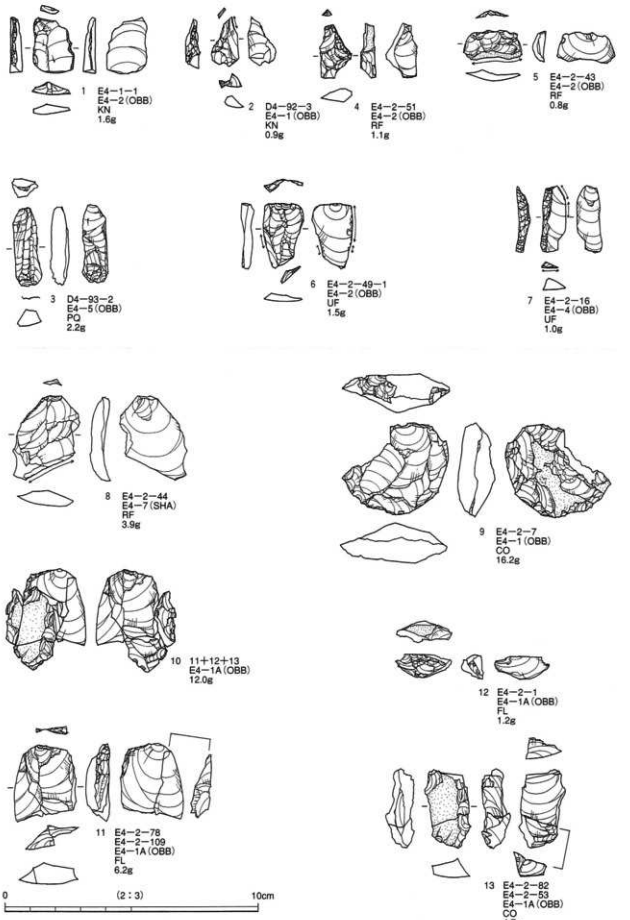
10は剥片３点（２個体；11・12），石核２点（１個体；13）の接合資料である。10の裏面左側に素材の主要剥離面が見られることから，剥片を素材として，12を剥離した後，90度転回して11を剥離している。

第７表　Ｅ４－Ａブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
Ｅ４－１(OBB)	1																		19(18)	2	3(2)					25(23)
Ｅ４－２(OBB)	1									2	2								10							15
Ｅ４－３(OBB)									5(2)																	5(2)
Ｅ４－４(OBB)											1								1							2
Ｅ４－５(OBB)									1																	1
Ｅ４－６(SHA)																			6(5)		1					7(6)
Ｅ４－７(SHA)										1										1						2
Ｅ４－８(SHD)																			1							1
Ｅ４－10 (CH)																			1							1
その他 (OBB)																			9	97						106
その他 (SHD)																				2						2
TOTAL	2								6(3)	3	3								47(45)	102	4(3)					167(161)

第８表　Ｅ４－Ａブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
黒曜石Ｂ(OBB)	2								6(3)	2	3								39(38)	99	3(2)					154(149)
頁岩Ａ(SHA)										1									6(5)	1	1					9(8)
頁岩Ｄ(SHD)																			1	2						3
チャート(CH)																			1							1
TOTAL	2								6(3)	3	3								47(45)	102	4(3)					167(161)



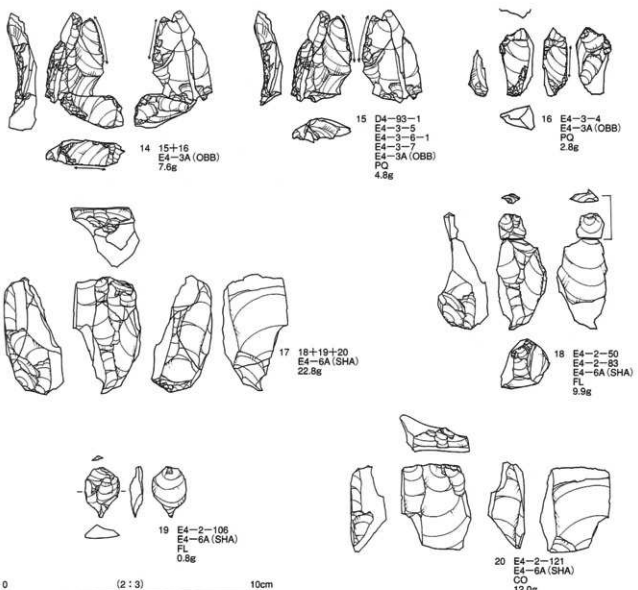
第29図　E４－Aブロック出土遺物実測図（1）

13の上部は11の剥離時に同時に欠損したものと考えられる。上下両端に見られる細かい剥離痕から両極技法によるものと考えられる。また，12の右側面に見られる細かい剥離痕は剥離前のものである。

・**E4-3（第30図14～16）**　黒色半透明の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。楔形石器５点（２個体）で構成される。

14は楔形石器５点（２個体；15・16）の接合資料である。裏面に素材の主要剥離面が見られることから，剥片を素材として，16を剥離した後，90度転回してその後も作業を続けて15を作出するが，４つに欠損している。16は，15の製作（あるいは使用）過程で剥離された削片と見るべきかも知れない。ともに刃こぼれが見られる。

・**E4-6（第30図17～20）**　黒褐色（5YR3/1）の東北産頁岩である。剥片６点（５個体），石核１点の合計７点（６個体）で構成される。



第30図　Ｅ４－Ａブロック出土遺物実測図（２）

17は剥片３点（２個体；18・19），石核１点（20）の接合資料である。両設打面の石核から打面調整を行いながら19を剥離した後，18を剥離したが，末端が20の裏面まで抜けてしまったため，作業を終了している。

第４節　第６文化層

第６文化層は，立川ローム層第１黒色帯とその周辺（Ⅳ・Ⅴ層下部）を中心に包含されている石器群である。E4-B，E5-Cブロックの２か所が該当する。

１　E4-Bブロック（第31～33・230図，第９・10表，カラー図版２）

１）ブロックの概要

E4-Bブロックは，調査範囲中央のE4-22・23グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地上ではあるが，北に向かって緩やかに下る台地北側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は南へ40mである。

ブロックの規模と形状は，長軸３m，短軸１mの範囲に３点の石器が分布する。出土層位は，投影図ではⅢ層を中心にほぼ水平に包含されている。しかし特に時期を特定できる石器が出土していないことや調査時の所見ではⅣ層となっていることから第６文化層として扱った（第31・32図）。

ブロックは，楔形石器１点，石核１点，不明１点の合計３点で構成されており，石器石材は，安山岩１点，チャート１点，不明１点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは２母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（E4-11），チャート１母岩（E4-９）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は67%（2/3点）である。

・E4-９：自然面は黄灰色（2.5Y4/1），内部は灰色（5Y4/1），節理は灰褐色（7.5YR4/2）で，暗緑灰色（10GY3/1）の筋が入るチャートである。石器群の内訳は，楔形石器１点（25.8ｇ）の単独資料である。

・E4-11：自然面は褐灰色（10YR5/2），内部は黄灰色（2.5Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。原石は，厚さが１cmほどの扁平な礫と考えられる。石器群の内訳は，石核１点（46.5ｇ）の単独資料である。

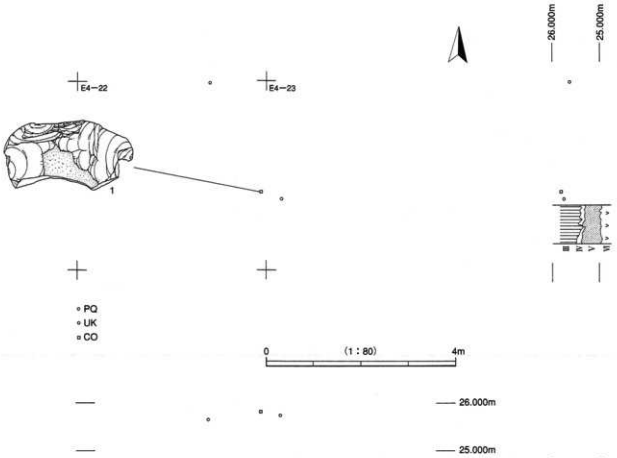
なお，母岩分類できなかった資料に，石材・器種不明の１点（62.5ｇ）がある。

第９表　E４－Bブロック母岩別石器組成表

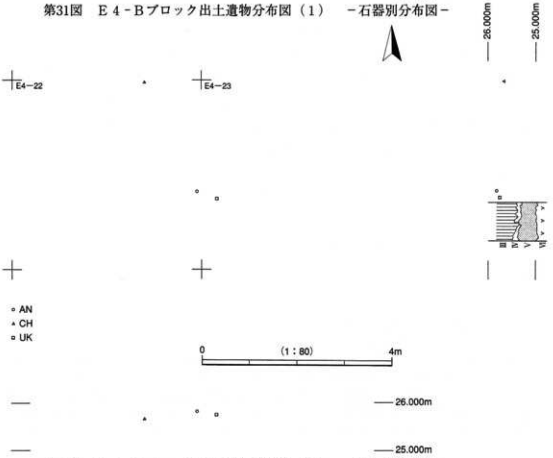
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
E４－９（CH）									1																	1
E４－11（AN）																					1					1
その他（不明）																		1								1
TOTAL									1									1			1					3

第10表　E４－Bブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
安山岩（AN）																					1					1
チャート（CH）									1																	1
その他																		1								1
TOTAL									1									1			1					3



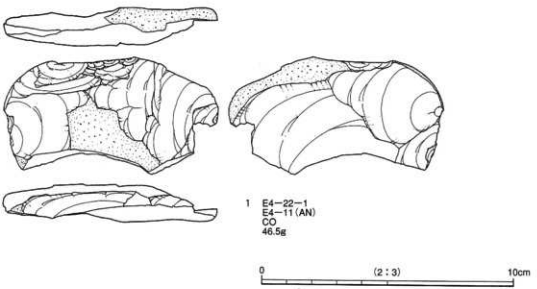
第31図　Ｅ４－Ｂブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－



第32図　Ｅ４－Ｂブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

3）出土遺物（第33図）

1は安山岩の石核である。厚さが1cmほどの扁平な礫を素材として周辺から求心的な剥離作業を行っている。



第33図　E4－Bブロック出土遺物実測図

2 E5-Cブロック（第34～36・230図，第11・12表，カラー図版2・12，図版2）

1）ブロックの概要

E5-Cブロックは，調査範囲中央のE5-77・78・87・88グリッドに位置する。ブロックの立地は北に向かって緩やかに下る台地北側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）に位置する。

ブロックの規模と形状は，直径6mの範囲に20点の石器が分布する。出土層位は，Ⅳ・Ⅴ層を中心としており，30cmほどの高低差をもって包含されている（第34・35図）。

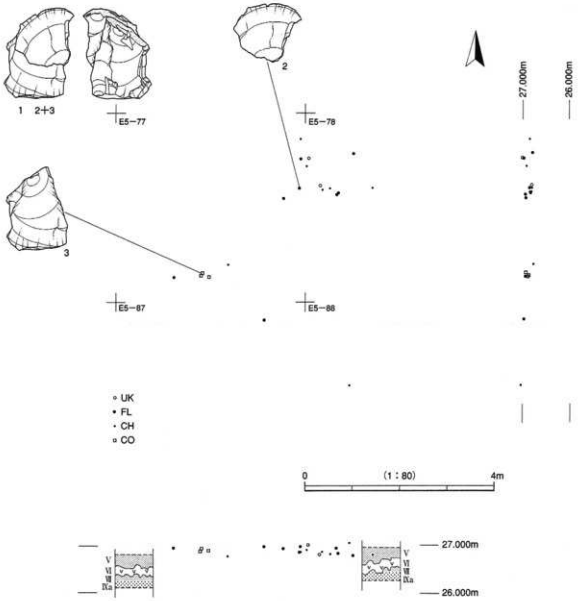
ブロックは，剥片8点，砕片7点，石核3点，不明2点の合計20点で構成される。石器石材は，頁岩D1点，凝灰岩1点，ホルンフェルス16点，不明2点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは3母岩を識別した。内訳は，凝灰岩1母岩（E5-12），ホルンフェルス2母岩（E5-10・11）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は85%（17/20点）である。

・**E5-10**：自然面は灰褐色（10YR4/1），内部は黄灰色（2.5Y4/1）の脆弱なホルンフェルスである。剥片8点，砕片6点，石核1点の合計15点（83.7g）である。接合資料は，剥片1点，石核1点の合計2点（74.0g）である。

・**E5-11**：自然面は黄灰色（10YR4/1），内部は灰色（5Y5/1），節理は灰黄色（2.5Y6/2）で脆弱なホルン



第34図　Ｅ５－Ｃブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－

第11表　Ｅ５－Ｃブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
Ｅ５－10（OH0）																			8	6	1					15
Ｅ５－11（OH0）																					1					1
Ｅ５－12（TU）																					1					1
その他（SHD）																				1						1
その他（不明）																		2								2
TOTAL																		2	8	7	3					20

第12表　Ｅ５－Ｃブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
頁岩D（SHD）																				1						1
凝灰岩（TU）																					1					1
ホルンフェルス（HO）																			8	6	2					16
その他																		2								2
TOTAL																		2	8	7	3					20

フェルスである。石核1点（77.9g）の単独資料である。

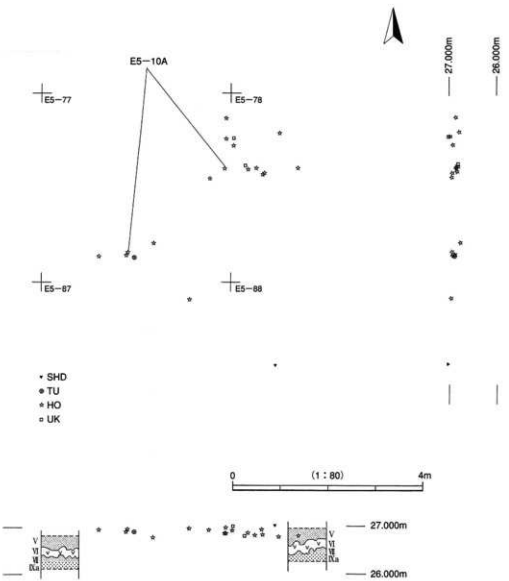
・**E5-12**：自然面は灰褐色（10YR5/2），内部は灰色（5Y6/1），節理は灰黄褐色（5YR4/2）の凝灰岩である。石核1点（79.9g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，硬質緻密な頁岩の砕片1点（0.3g），石材・器種不明の2点（2.7g）がある。

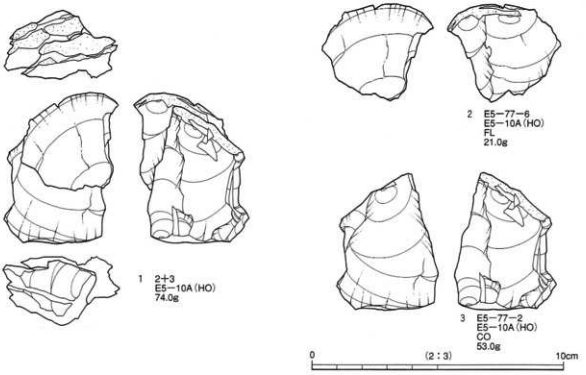
3）接合資料とその関連資料（第36図）

・**E5-10（第36図）**　黄灰色（2.5Y4/1）のホルンフェルスである。剥片8点，砕片6点，石核1点の合計15点で構成される。

1は剥片1点（2），石核1点（3）の接合資料である。両設打面の石核から2を剥離したが，3も縦に割れ，作業が終了している。



第35図　E5－Cブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－

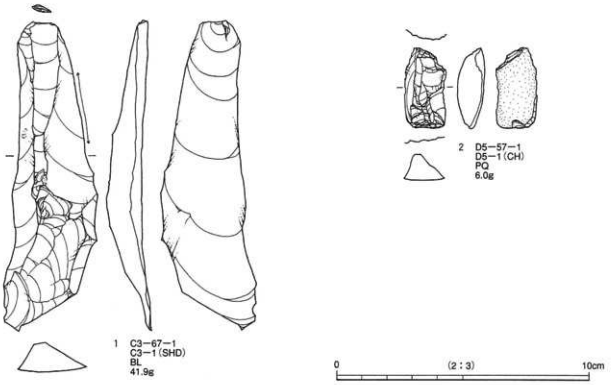


第36図　Ｅ５－Ｃブロック出土遺物実測図

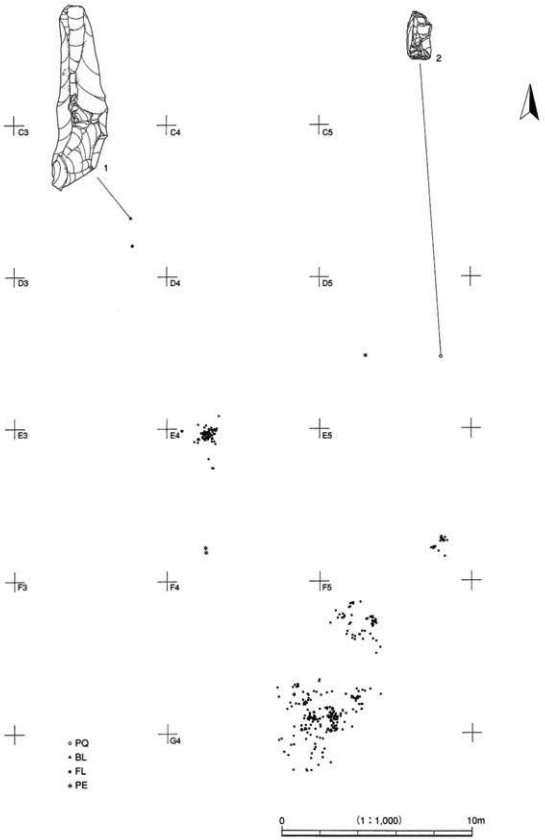
第５節　ブロック外出土遺物

ここでは，ブロックを形成していないグリッド単独（２点以下）出土の遺物と上層遺構等に混在していた遺物について記述する（第37・38図，カラー図版２，図版２・３）。

１は浅黄色（2.5Y7/3）の硬質緻密な頁岩による石刃である。打面調整が見られる。表面には稜上からの剥離面があるが，石核の側面調整痕と考えられる。右側縁に刃こぼれが見られる。C3-67グリッドのⅦ層から出土した。２は自然面は灰褐色（7.5YR4/2），内部は褐灰色（10YR4/1）で明紫灰色（5RP7/1）の縞が混じるチャートの楔形石器である。左側面に素材の主要剥離面と考えられる剥離面が見られることから，比較的厚い剥片を素材としたものと考えられる。上下両端に潰痕状の剥離痕が見られる。D5-57グリッドのⅥ層から出土しているが，詳細は不明である。



第37図　草刈遺跡Ｆ区ブロック外出土遺物実測図



第38図　草刈遺跡Ｆ区ブロック外出土遺物分布図

第３章　草刈遺跡Ｈ区（219-039）

第１節　調査の概要

草刈遺跡Ｈ区では，旧石器時代（下層）の調査を平成元・２・５・８年度に実施した。調査区の位置は，草刈遺跡のほぼ中央にあたり，村田川に面した台地の南側である。

平成元年度は6,685㎡，平成２年度は5,900㎡を調査対象として，４％を基本に確認調査を行い，その結果に基づいて1,344㎡の本調査を行った。また，平成５年度は500㎡，平成８年度は1,100㎡を調査対象として４％を基本に確認調査を行い，調査を終了した。調査の結果，１か所のブロックと20か所の単独出土地点を検出した（第39図）。

本調査区の石器群は第６文化層にあたるが，文化層の設定は草刈遺跡全域で行っている。

第６文化層は，立川ローム層のソフトローム層下部（Ⅲ層）から第１黒色帯（Ⅴ層）にかけて包含される石器群で，石器997点，礫4,148点が１か所（L9-Aブロック）から出土した。

第２節　第６文化層

第６文化層は，立川ローム層第１黒色帯とその周辺（Ⅳ・Ⅴ層下部）を中心に包含されている石器群である。L9-Aブロックの１か所が該当する。

１　L9-Aブロック（第40～100・231図，第13～15表，カラー図版３～６・13，図版３）

１）ブロックの概要

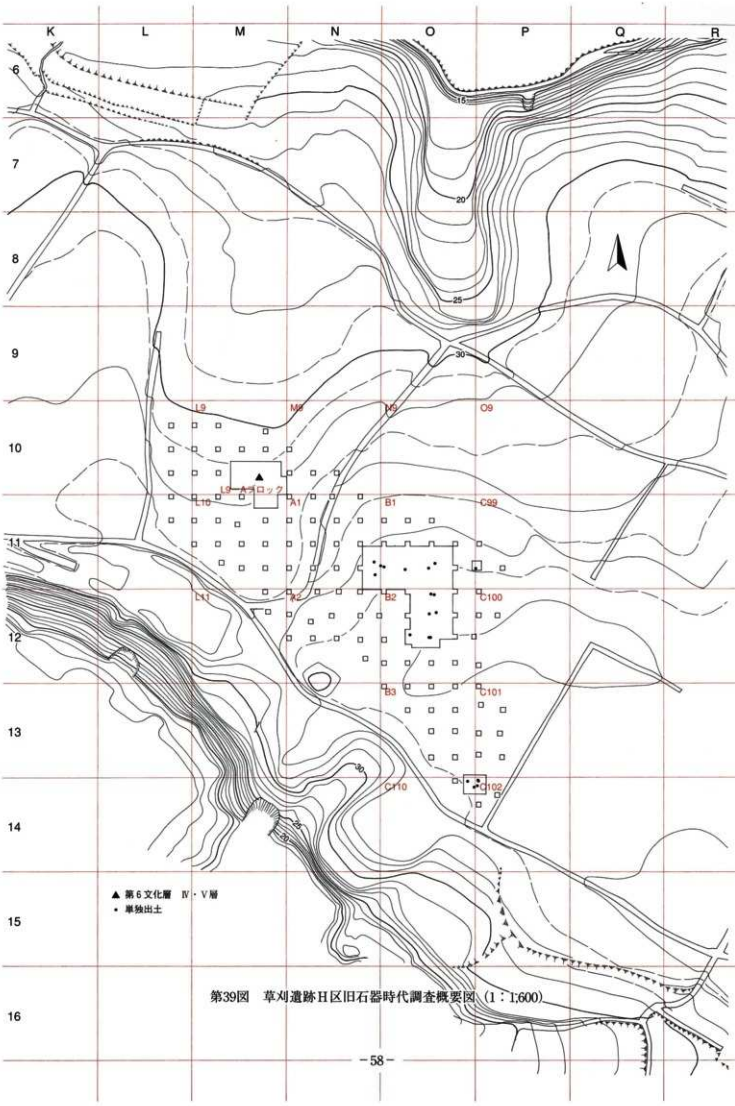
L9-Aブロックは，調査範囲西側のL9-65・66・74～78・84～89・95～99，L10-07・08グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地上ではあるが，北に向かって下る緩斜面で，傾斜変換点（台地の縁辺）に位置する。

ブロックの規模と形状は，長軸20m，短軸16mの範囲に石器・礫5,145点が分布する。大きく東西２か所に分かれ，さらに西側は南北２か所に分かれる。出土層位は，Ⅳ層下部からⅥ層上部にかけてで，各石器は40cmほどの高低差をもって，北東に向かって緩やかに下って包含されている（第40～62図）。

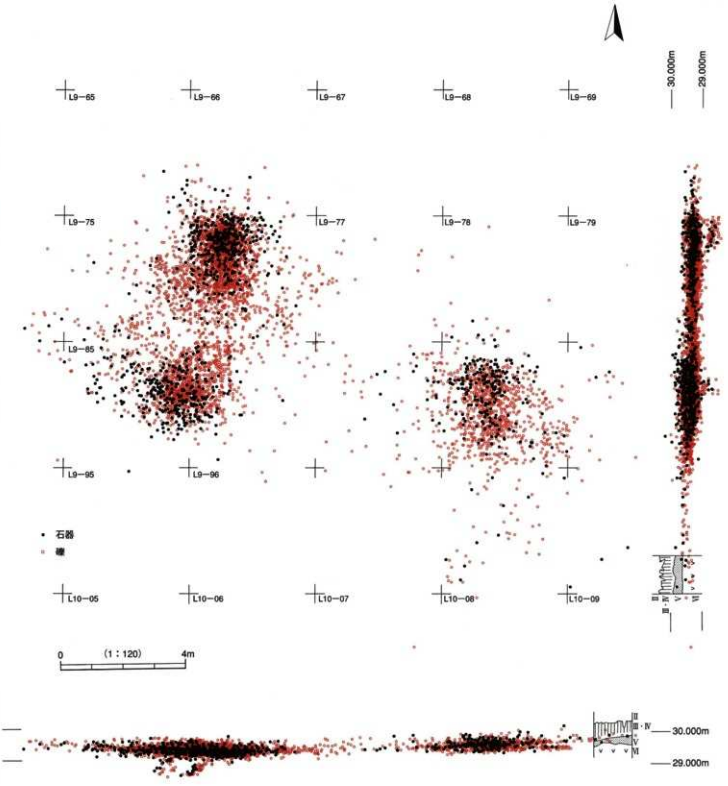
ブロックは，ナイフ形石器９点（８個体），掻器４点，削器15点（10個体），加工痕ある剥片17点（14個体），使用痕ある剥片３点，敲石４点，剥片843点（814個体），砕片23点，石核79点（48個体）の合計997点（928個体）で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ１点，安山岩12点，流紋岩８点，頁岩Ｃ19点，頁岩Ｅ３点（２個体），チャート154点（143個体），凝灰岩104点（95個体），粘板岩４点（３個体），砂岩284点（254個体），ホルンフェルス376点（359個体），瑪瑙・玉髄32点，礫石材は，安山岩52点，流紋岩533点，頁岩66点，チャート817点，凝灰岩77点，砂岩2,268点，ホルンフェルス262点，石英３点，瑪瑙・玉髄４点，礫岩64点，不明２点である。礫は母岩分類できたものが2,104点（788母岩），母岩分類できなかったものが2,044点で，総重量が53,048.0gである。また，剥片生産を終了した石核や敲石を加熱して他の焼け礫と同様に使用したと考えられる母岩が数例あり，石器ブロックと焼け礫との同時性を示している。

２）母岩の特徴と内容

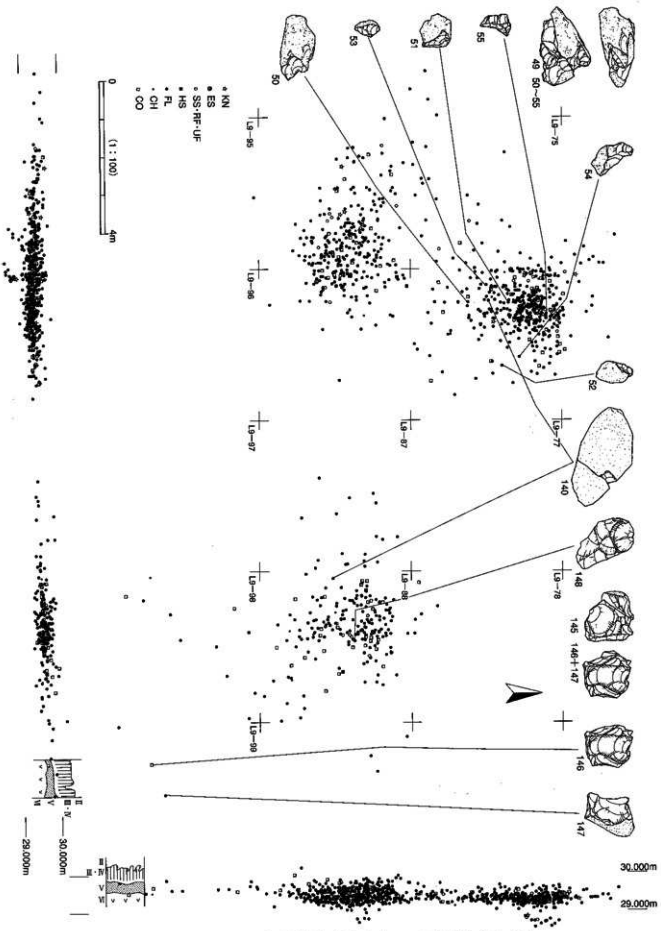
本ブロックでは85母岩を識別した。内訳は，安山岩３母岩（L9-28～30），流紋岩１母岩（L9-9），頁岩Ｃ



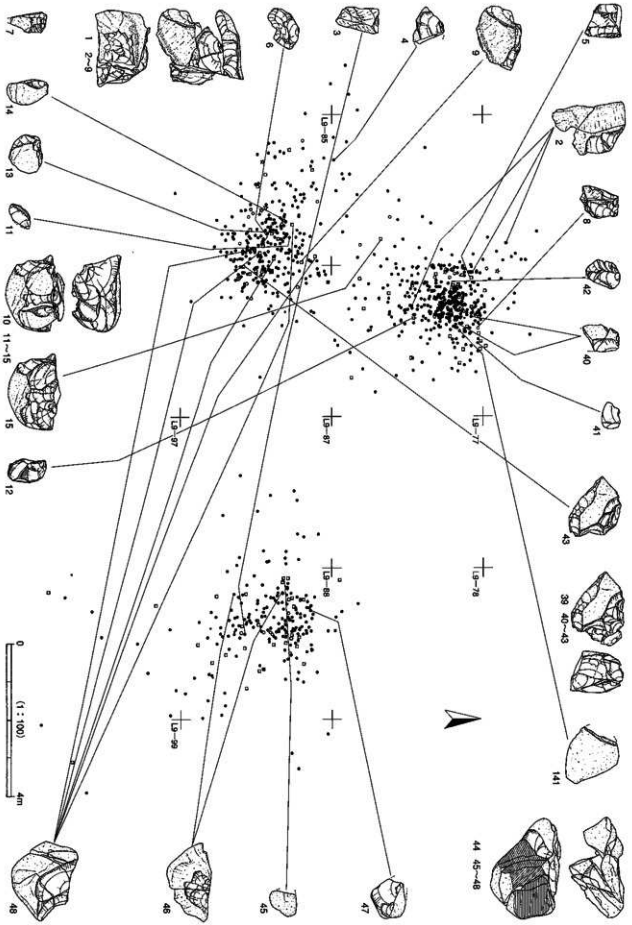
第39図　草刈遺跡H区旧石器時代調査概要図（1：1,600）



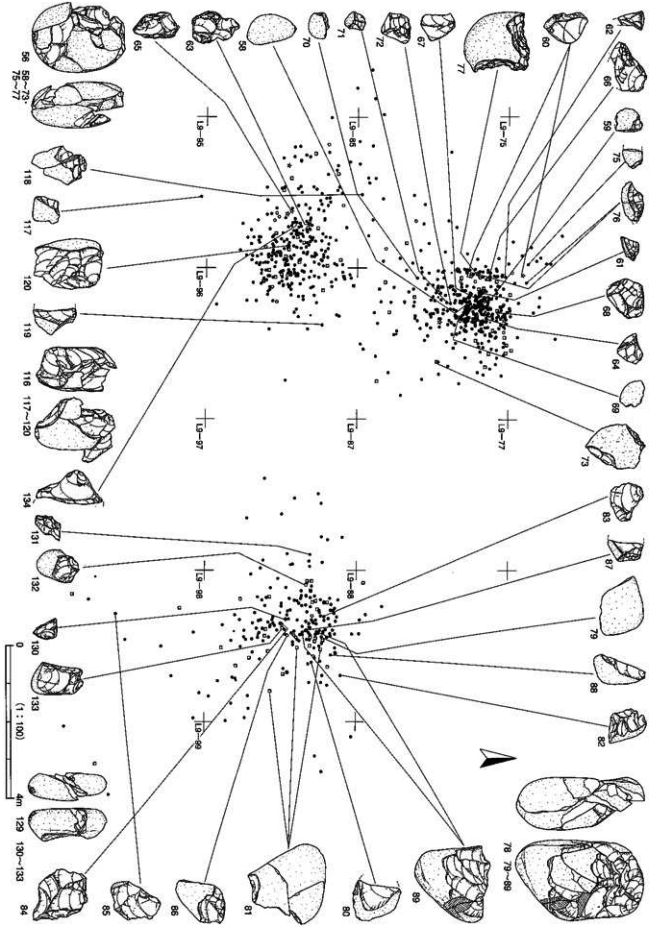
第40図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（１）　－石器・礫分布図－



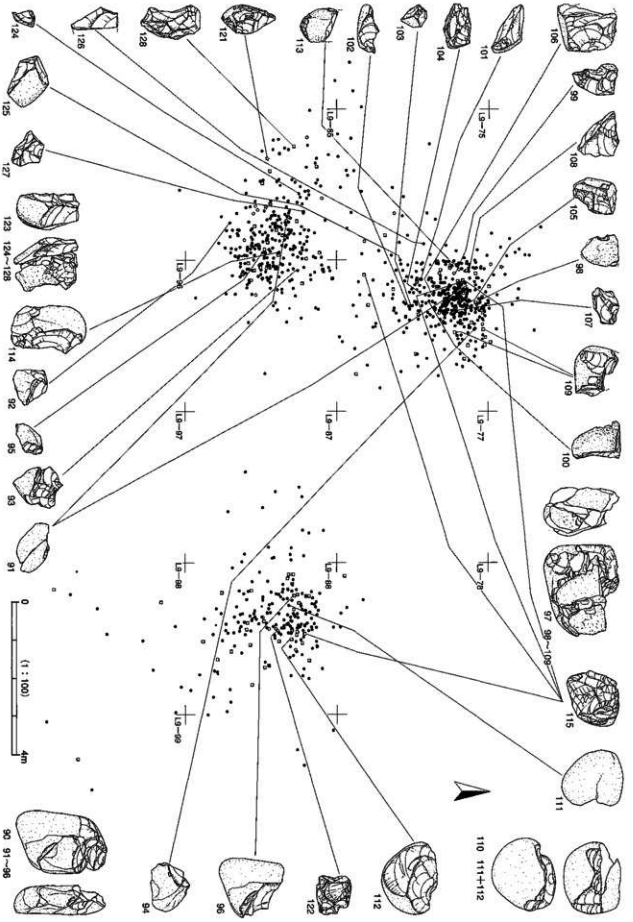
第41図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（２）　－石器別分布図（１）－



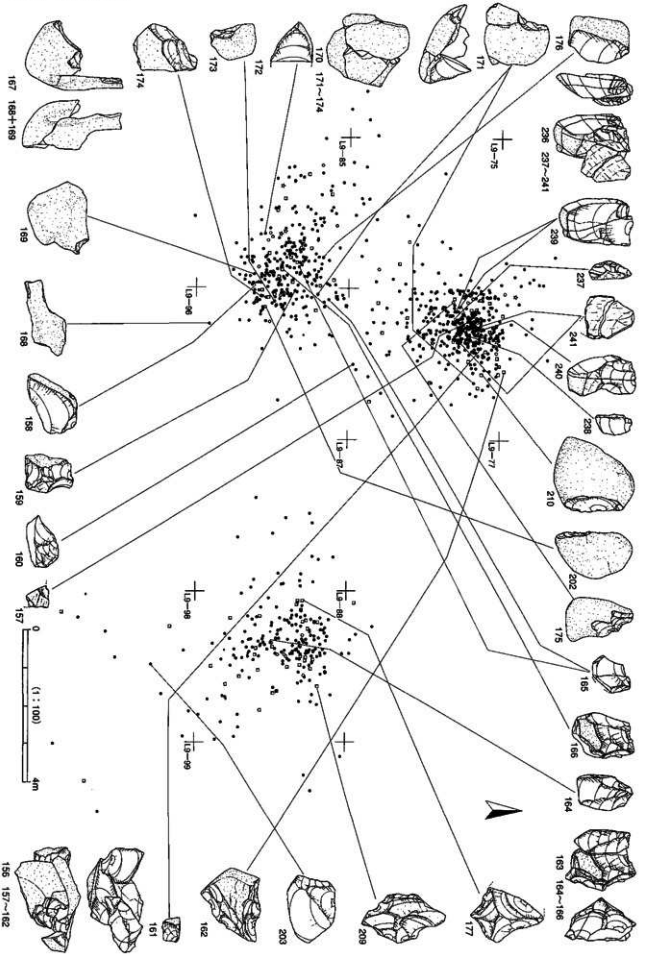
第42図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（３）　－石器別分布図（２）－



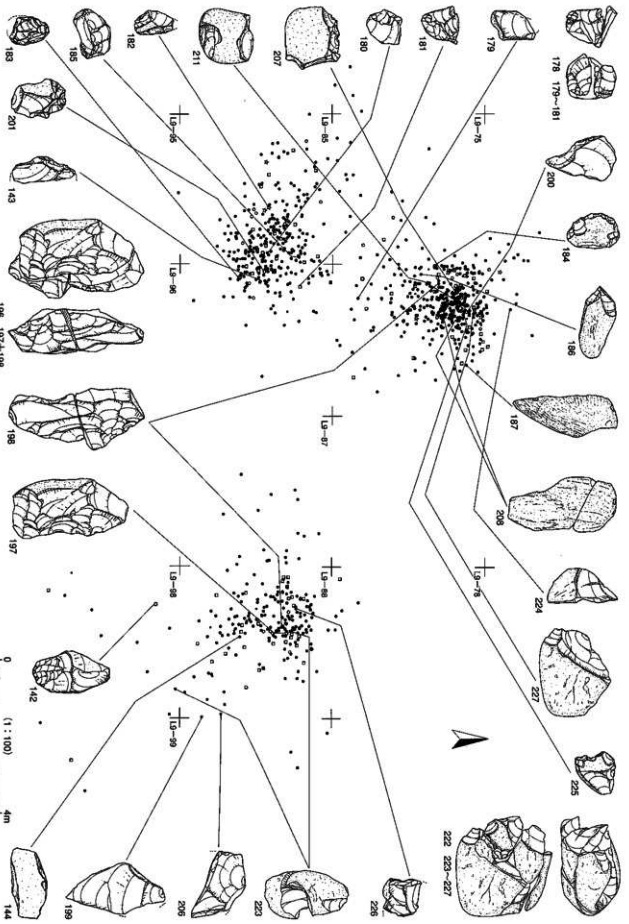
第43図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（４）　－石器別分布図（３）－



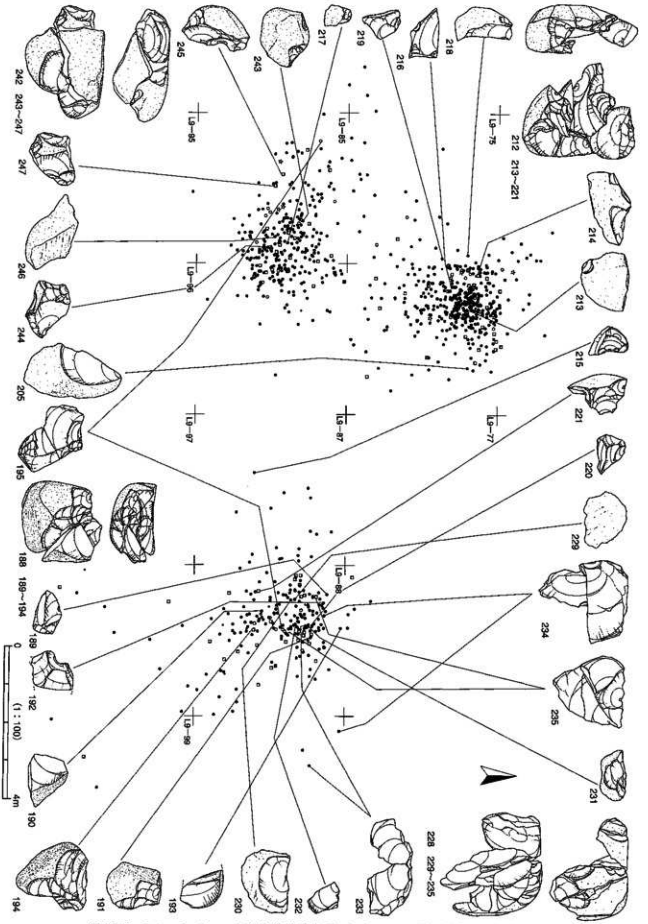
第44図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（５）　－石器別分布図（４）－



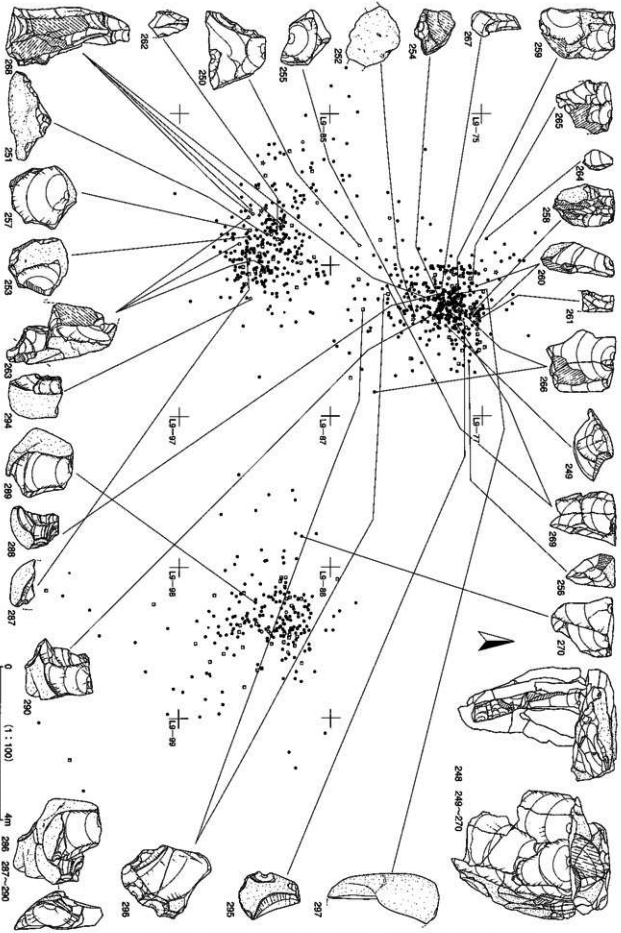
第45図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（６）　－石器別分布図（５）－



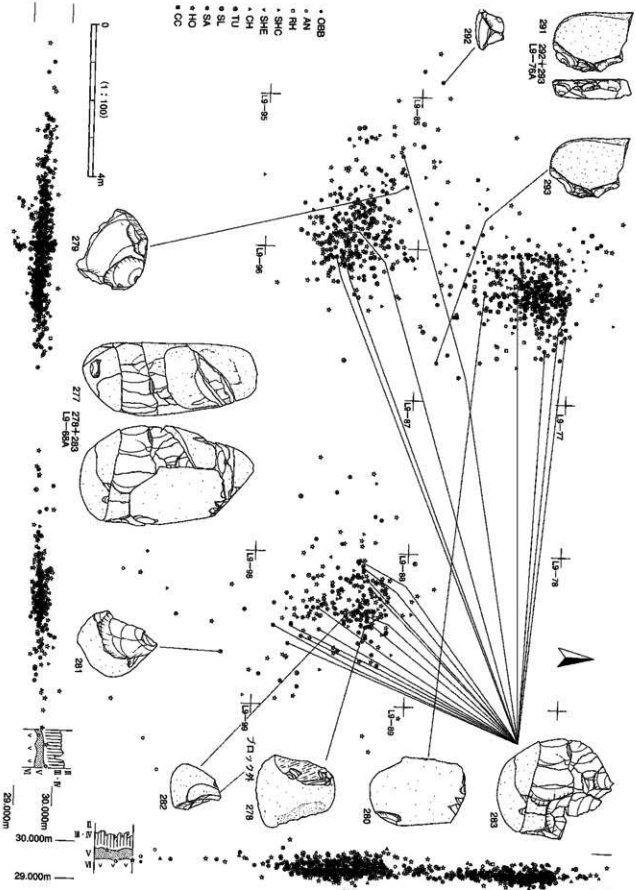
第46図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（７）　－石器別分布図（６）－



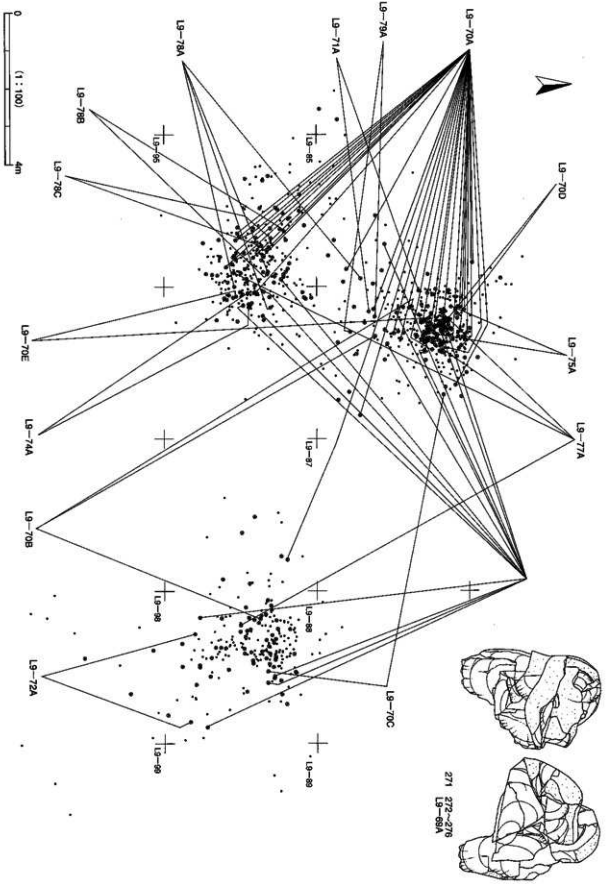
第47図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（８）　－石器別分布図（７）－



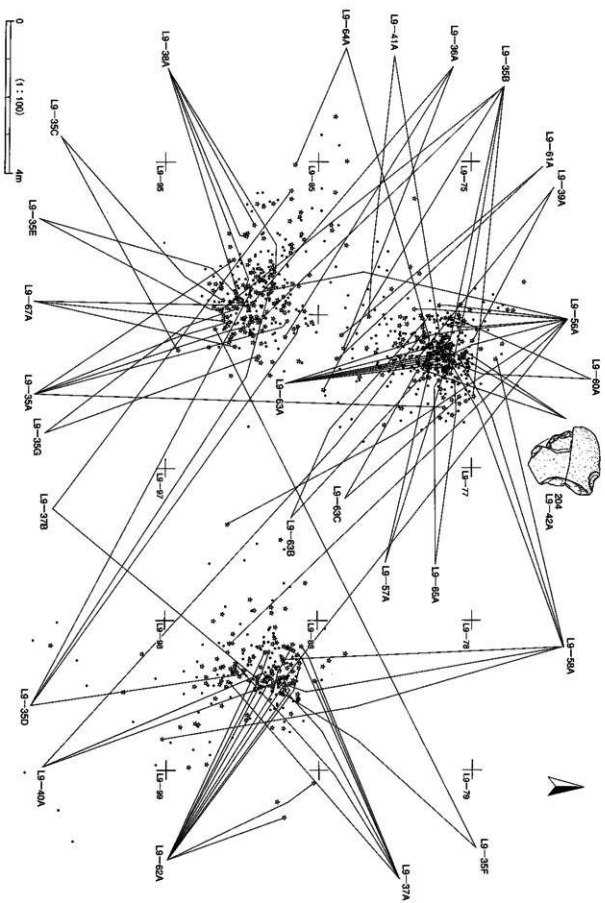
第48図　L９－Aブロック出土遺物分布図（９）　－石器別分布図（８）－



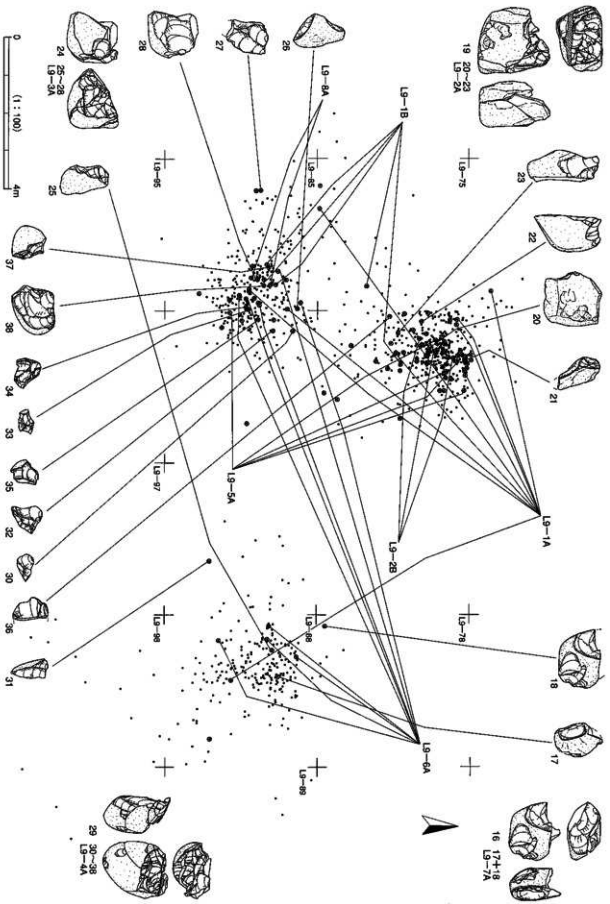
第49図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（10）　－石材別分布図（１）－



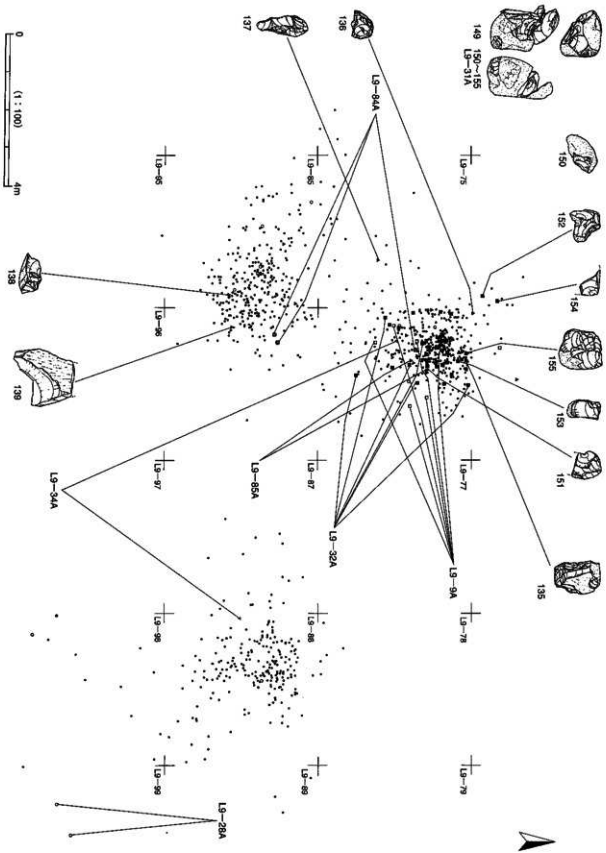
第50図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（11）　－石材別分布図（２）－

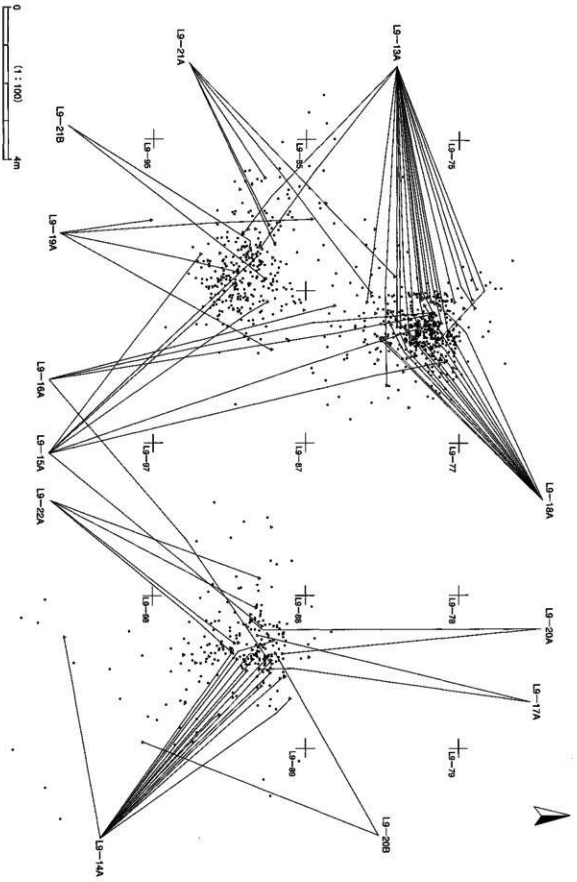


第51図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（12）　－石材別分布図（３）－

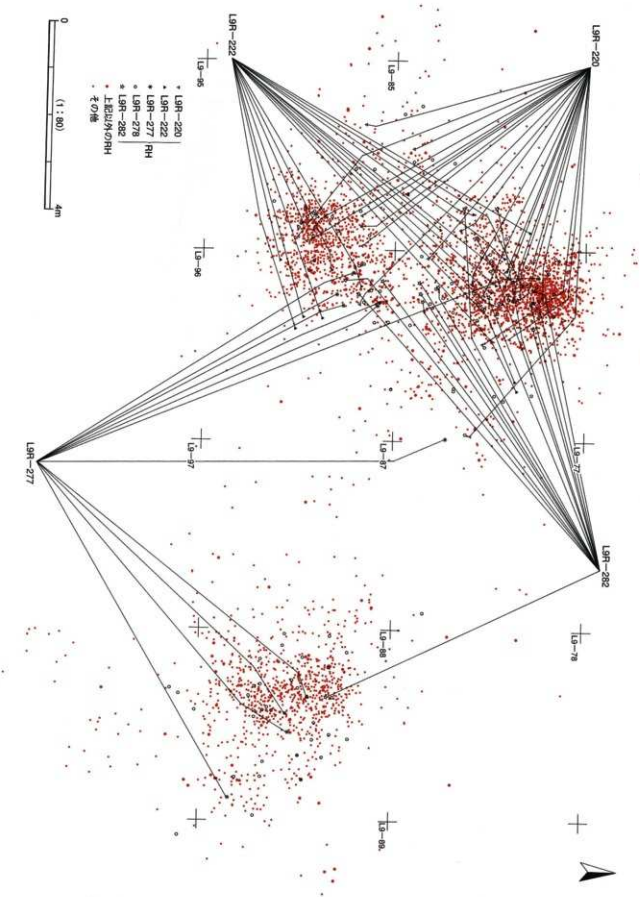


第52図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（13）　－石材別分布図（４）－

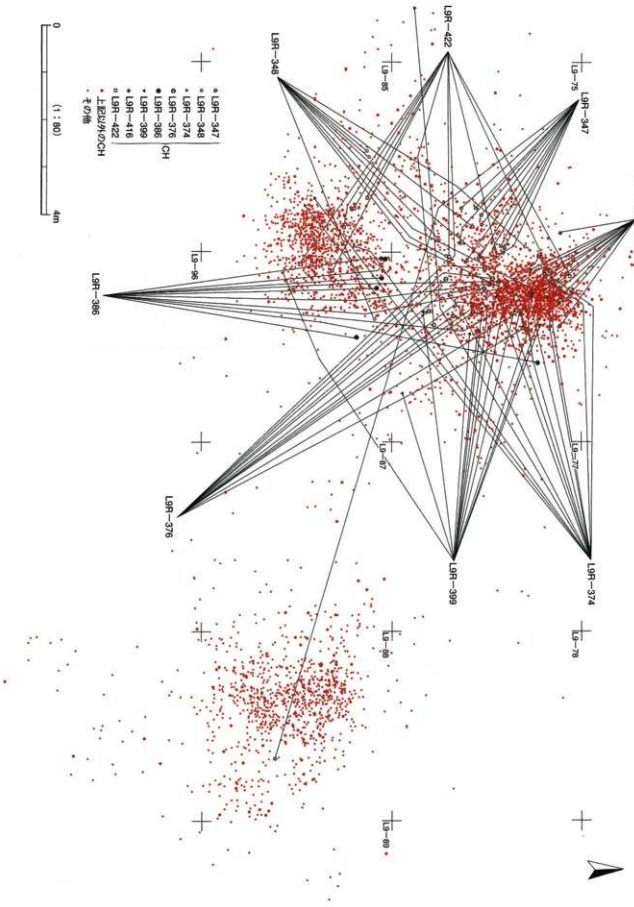

149
156~155
L9-31A
150
L9-75
L9-77
L9-78
L9-79
L9-80
L9-81
L9-82
L9-83
L9-84
L9-85
L9-86
L9-87
L9-88
L9-89
L9-90
L9-91
L9-92
L9-93
L9-94
L9-95
L9-96
L9-97
L9-98
L9-99
L9-100
L9-101
L9-102
L9-103
L9-104
L9-105
L9-106
L9-107
L9-108
L9-109
L9-110
L9-111
L9-112
L9-113
L9-114
L9-115
L9-116



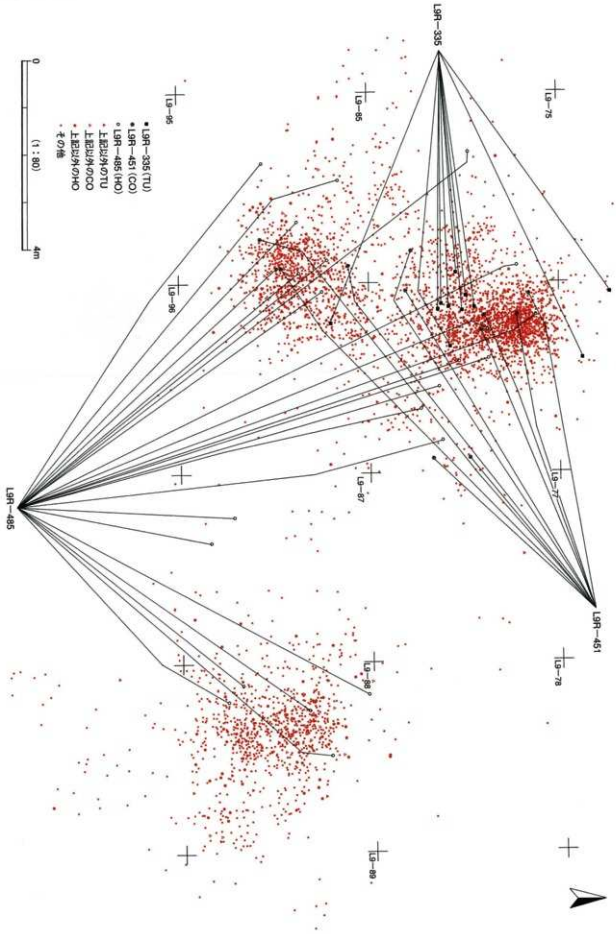
第54図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（15）　－石材別分布図（６）－



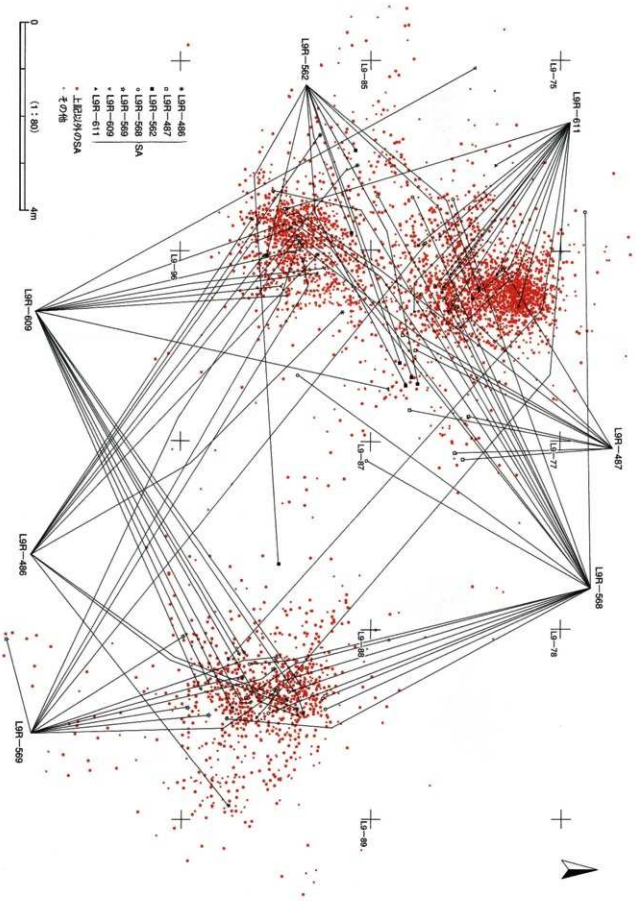
第55図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（16）　－礫母岩別分布図（１）－



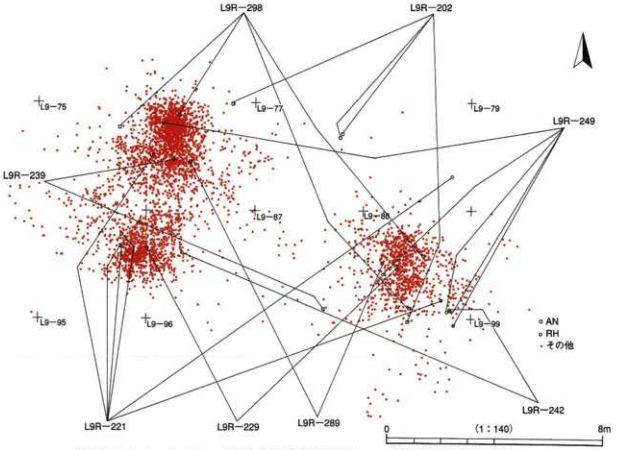
第56図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（17）　－礫母岩別分布図（２）－



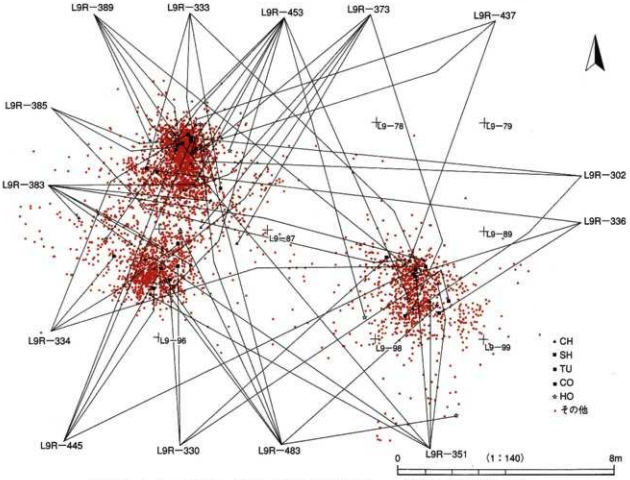
第57図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（18）　－礫母岩別分布図（３）－



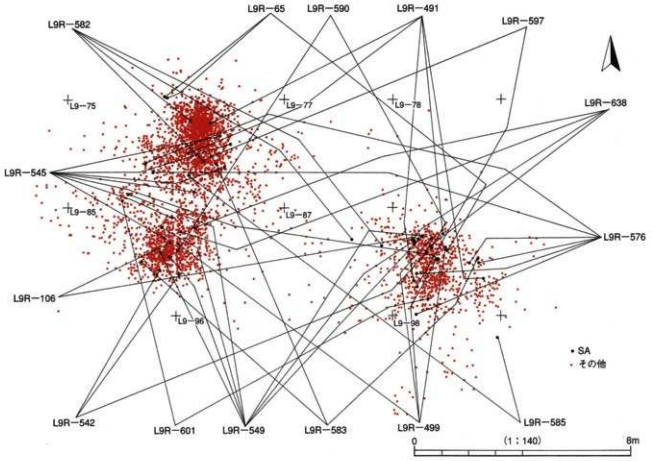
第58図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（19）　－礫母岩別分布図（４）－



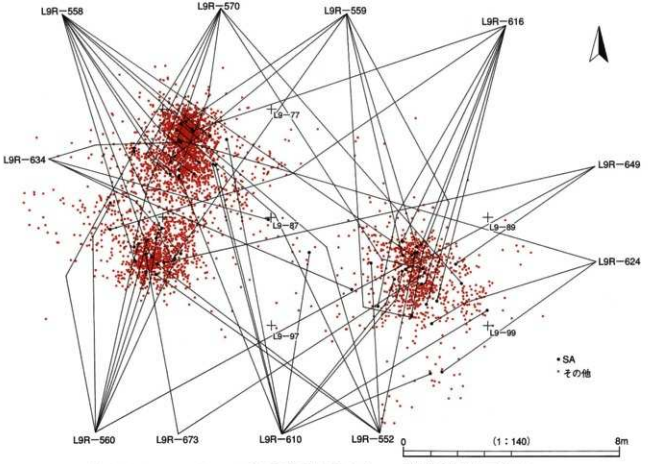
第59図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（20）　－礫母岩別分布図（５）－



第60図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（21）　－礫母岩別分布図（６）－



第61図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（22）　－礫母岩別分布図（７）－



第62図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物分布図（23）　－礫母岩別分布図（８）－

1母岩（L9-85），頁岩E1母岩（L9-34），チャート14母岩（L9-13～26），凝灰岩12母岩（L9-1～8・10～12・27），粘板岩1母岩（L9-84），砂岩16母岩（L9-68～83），ホルンフェルス34母岩（L9-33・35～67），瑪瑙・玉髄2母岩（L9-31・32）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は67%（666/997点）である。

・L9-1：凝灰岩である。自然面がにぶい黄色（2.5Y6/3），内部がオリーブ灰色（10Y6/2）の資料と自然面が灰黄褐色（10YR5/2），内部が黄灰色（2.5Y6/1）及び灰白色（10Y6/2）の資料がある。一部に被熱によりにぶい褐色（7.5YR5/3）に変色したものがある。自然面には砂が鉄分で凝固した部分が見られ，砂礫層起源の円礫と考えられる。原石は，拳の半分ほどの不定型な亜角礫と考えられるが，これを2分割して石核の素材にしている。本ブロックではこれら2分割した素材を3個体として剥片生産が行われている。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，加工痕ある剥片1点，剥片11点（9個体），石核3点の合計16点（14個体；163.7g）である。接合資料は，加工痕ある剥片1点，剥片7点（5個体）と石核2点の合計10点（8個体；87.8g）のものと，ナイフ形石器1点，剥片3点，石核1点の合計5点（65.3g）のものである。

・L9-2：自然面は褐色（7.5YR4/3），内部は明オリーブ灰色（5GY7/1）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片9点，石核2点の合計11点（89.9g）である。接合資料は，剥片2点，石核2点の合計4点（78.7g）のものと，剥片3点（5.9g）のものである。

・L9-3：自然面はにぶい赤褐色（5YR4/3），内部はオリーブ灰色（10Y5/2）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片6点，石核1点の合計7点（56.3g）である。接合資料は剥片3点，石核1点の合計4点（52.4g）である。

・L9-4：自然面は灰オリーブ色（5Y6/2），内部はオリーブ灰色（10Y6/2）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片8点，石核1点の合計9点（37.7g）で，すべて接合している。

・L9-5：自然面はにぶい黄色（2.5Y6/3），内部は明オリーブ灰色（5GY7/1）で，白色の筋が入る凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片7点（6個体），石核1点の合計8点（7個体；41.4g）である。接合資料は，剥片4点（3個体），石核1点の合計5点（4個体；39.0g）である。

・L9-6：自然面はにぶい黄色（2.5Y6/3），内部は灰白色（5Y7/2）及びにぶい褐色（7.5YR5/4）の凝灰岩である。被熱により，にぶい褐色（7.5YR5/3）に変色したものがある。石器群の内訳は，剥片4点（3個体），石核6点（1個体）の合計10点（4個体；79.8g）で，すべて接合している。

・L9-7：自然面及び内部が灰オリーブ色（5Y6/2）の凝灰岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，石核1点の合計2点（26.8g）で，すべて接合している。

・L9-8：自然面は灰黄色（2.5Y7/2），内部は灰白色（5Y7/2）の地に灰色（7.5Y5/1）の斑とにぶい黄褐色（10YR5/3）の筋が入る凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片3点（27.9g）である。接合資料は，剥片2点（26.3g）である。

・L9-9：自然面はにぶい黄色（2.5Y6/3），内部は橙オリーブ灰色（2.5GY6/1）の凝灰岩質の流紋岩である。石器群の内訳は，剥片8点（31.7g）である。接合資料は，剥片6点（27.0g）である。

・L9-10：自然面は暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は灰オリーブ色（5Y6/2），節理はにぶい黄橙色（10YR6/4）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片13点（41.4g）である。

・L9-11：オリーブ灰色（10Y6/2）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片2点（1.3g）である。

・L9-12：自然面はにぶい黄色（2.5Y6/3），内部は灰色（7.5Y6/1）の凝灰岩である。剥片1点（10.5g）の単独資料である。

・L9-13：自然面及び内部が暗赤灰色（5R3/1）のチャートである。石器群の内訳は，ナイフ形石器4点（3個体），削器1点，使用痕ある剥片1点，剥片20点（19個体），砕片1点，石核1点の合計28点（26個体；84.5g）である。接合資料は，ナイフ形石器4点（3個体），削器1点，使用痕ある剥片1点，剥片14点（13個体），石核1点の合計21点（19個体；81.0g）である。

・L9-14：自然面はにぶい褐色（7.5YR5/4），内部はにぶい黄橙色（10YR6/4）及び暗灰黄色（2.5Y4/2）のチャートである。89は被熱によって暗赤褐色（7.5R3/2）に変色した可能性が高い。石器群の内訳は，削器1点，使用痕ある剥片1点，剥片9点（8個体），石核3点（1個体）の合計14点（11個体；156.3g）で，すべて接合している。

・L9-15：自然面及び内部は灰色（N4/0），節理は灰褐色（7.5YR4/2）のチャートである。自然面は摩滅して平滑になっている。石器群の内訳は，剥片6点（5個体），石核1点の合計7点（6個体；63.8g）で，すべて接合している。

・L9-16：自然面は灰色（10Y5/1），内部は灰色（5Y5/1）で，灰黄褐色（10YR4/2）の筋が入り，節理は灰黄褐色（10YR4/2）のチャートである。石器群の内訳は，剥片1点，石核4点（1個体）の合計5点（2個体；44.4g）である。接合資料は，石核4点（1個体；44.3g）である。

・L9-17：自然面は赤灰色（2.5YR4/1），内部は褐灰色（10YR4/1）のチャートである。石器群の内訳は，剥片1点，石核1点の合計2点（80.6g）で，すべて接合している。

・L9-18：自然面は灰褐色（7.5YR4/2），内部は黄灰色（2.5Y4/1）で黒色の筋が入るチャートである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片2点，剥片17点，砕片1点，石核2点（1個体）の合計22点（21個体；102.4g）である。接合資料は，加工痕ある剥片2点，剥片9点，石核2点（1個体）の合計13点（12個体；84.8g）である。

・L9-19：自然面は灰黄褐色（10YR5/2），内部は灰色（10Y4/1）で，にぶい黄褐色（10YR5/3）の筋が入り，節理はにぶい黄褐色（10YR5/3）のチャートである。石器群の内訳は，剥片6点（5個体；48.0g）である。接合資料は，剥片5点（4個体；45.5g）である。

・L9-20：自然面は灰オリーブ色（7.5Y5/2），内部はオリーブ灰色（5GY5/1）で，暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）の筋が入るチャートである。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，加工痕ある剥片1点，剥片7点の合計9点（27.7g）である。接合資料は，剥片2点（7.3g）のものと，剥片2点（4.8g）のものがある。

・L9-21：自然面及び内部は暗灰色（N3/0）と黄灰色（2.5Y5/1）が混じるチャートである。石器群の内訳は，剥片13点，石核1点の合計14点（52.2g）である。接合資料は，剥片4点，石核1点の合計5点（33.0g）のものと，剥片2点（3.5g）のものがある。

・L9-22：自然面は灰色（5Y4/1），内部は灰色（10Y4/1）で，褐色（7.5YR4/3）の筋が入り，節理は褐色（7.5YR4/3）のチャートである。石器群の内訳は，剥片4点，石核2点の合計6点（25.2g）である。接合資料は，剥片2点，石核2点の合計4点（23.6g）である。

・L9-23：自然面及び内部は灰色（N4/0）で，緑黒色（10G2/1）の筋が入るチャートである。剥片1点（15.1g）の単独資料である。

・L9-24：自然面は褐灰色（10YR4/1）及び灰色（7.5Y4/1），内部は褐灰色（10YR4/1）のチャートである。掻器1点（5.4g）の単独資料である。

・L9-25：自然面は褐灰色（10YR4/1），内部は灰褐色（5YR4/2）で，灰白色（7.5Y8/2）の筋が入るチャートである。敲石1点（7.9g）の単独資料である。

・L9-26：自然面は褐灰色（10YR4/1）及び灰色（10Y4/1），内部は褐灰色（10YR4/1）で黒褐色（5YR3/1）の部分があるチャートである。剥片1点（9.8g）の単独資料である。

・L9-27：自然面は褐灰色（10YR4/1），内部は黄灰色（2.5Y4/1）で石英脈が入る凝灰岩である。剥片1点（6.4g）の単独資料である。

・L9-28：自然面はにぶい褐色（7.5YR5/3），内部は黄灰色（2.5Y4/1）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片2点，石核1点の合計3点（41.6g）である。接合資料は，剥片1点，石核1点の合計2点（32.3g）である。

・L9-29：自然面はにぶい黄橙色（10YR6/4），内部は灰黄色（2.5Y6/2）で，風化した軟質の安山岩である。石器群の内訳は，剥片6点，石核1点の合計7点（24.7g）である。

・L9-30：自然面は灰オリーブ色（5Y5/2），内部は灰色（5Y6/1）の安山岩である。剥片1点（5.7g）の単独資料である。

・L9-31：自然面は明褐色（5YR4/6），内部はにぶい黄橙色（10YR7/2）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片6点，石核1点の合計7点（32.2g）である。接合資料は，剥片5点，石核1点の合計6点（31.5g）である。

・L9-32：自然面はにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は灰白色（5Y7/1）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片8点，石核1点の合計9点（73.8g）である。接合資料は，剥片5点，石核1点の合計6点（70.9g）である。

・L9-33：自然面は灰褐色（5YR4/2），内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）で，石英脈が層状に入るホルンフェルスである。原石は拳より一回りほど小さな円礫である。石器群の内訳は，削器1点，剥片3点，石核1点の合計5点（45.8g）である。

・L9-34：自然面及び内部が暗灰黄色（2.5Y5/2）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片3点（2個体；43.9g）である。接合資料は，剥片2点（1個体；37.4g）である。

・L9-35：自然面は灰色（N4/1），内部は灰色（10Y4/1）と粒子の粗い灰色（5Y4/1）が層状に混じるホルンフェルスである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，剥片52点（49個体），石核3点の合計56点（53個体；321.2g）である。接合資料は，7グループあり，Aグループは剥片5点（4個体；43.8g），Bグループは剥片5点，石核1点の合計6点（64.4g），Cグループは剥片2点（52.1g），Dグループは剥片3点（2個体），石核1点の合計4点（3個体；39.6g），Eグループは剥片2点（10.4g），Fグループは剥片2点（5.4g），Gグループは剥片2点（1個体；6.1g）である。

・L9-36：自然面は灰オリーブ色（5Y5/2），内部は灰色（7.5Y5/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，掻器2点，剥片15点，石核1点の合計19点（110.1g）である。接合資料は，剥片2点，石核1点の合計3点（22.4g）である。

・L9-37：自然面は黄灰色（2.5Y4/1），内部は灰黄褐色（10YR5/2）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片2点（1個体），剥片18点，石核1点の合計21点（20個体；123.9g）である。接

合資料は，剥片5点，石核1点の合計6点（74.4g）のものと，加工痕ある剥片2点（1個体；13.4g）のものがある。

・L9-38：自然面は黄灰色（2.5Y4/1），内部は灰色（5Y5/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片3点，石核2点の合計5点（103.0g）で，すべて接合している。

・L9-39：自然面は灰褐色（7.5YR5/2），内部は灰黄褐色（10YR6/2）及び黄灰色（2.5Y5/1）が混じるホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片9点，石核1点の合計10点（33.4g）である。接合資料は，剥片1点，石核1点の合計2点（17.2g）である。

・L9-40：自然面及び内部が黄灰色（2.5Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片4点，剥片9点（8個体），石核1点の合計11点（10個体；196.4g）である。接合資料は，剥片2点（1個体），石核1点の合計3点（2個体；130.7g）である。

・L9-41：自然面及び内部がにぶい黄橙色（10YR6/3）の黄粉をまぶしたようなホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片2点，石核1点の合計3点（43.6g）である。接合資料は，剥片1点，石核1点の合計2点（40.4g）である。

・L9-42：自然面及び内部が灰黄褐色（10YR5/2）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片3点（1個体），剥片2点の合計5点（3個体；50.8g）である。接合資料は，加工痕ある剥片3点（1個体；24.4g）である。

・L9-43：自然面は灰褐色（7.5YR5/2），内部は黄灰色（2.5Y5/1）のホルンフェルスである。石核1点（29.4g）の単独資料である。

・L9-44：自然面は褐灰色（10YR5/1），内部は灰色（5Y4/1）のホルンフェルスである。削器1点（19.2g）の単独資料である。

・L9-45：黄灰色（2.5Y5/1）のホルンフェルスである。石核1点（24.7g）の単独資料である。

・L9-46：自然面及び内部が灰色（N4/0）のホルンフェルスである。加工痕ある剥片1点（10.6g）の単独資料である。

・L9-47：自然面は灰色（5Y4/1），内部は灰色（7.5Y4/1）の地に灰色（5Y5/1）の斑が入るホルンフェルスである。石核1点（76.6g）の単独資料である。

・L9-48：自然面はにぶい黄褐色（10YR5/3），内部は灰黄色（2.5Y6/2）のホルンフェルスである。剥片1点（11.8g）の単独資料である。

・L9-49：灰色（7.5Y4/1）の地に黄灰色（2.5Y5/1）の部分が混じるホルンフェルスである。剥片1点（17.7g）の単独資料である。

・L9-50：自然面及び内部は褐灰色（10YR5/1）で，灰白色（5Y8/1）の斑が入るホルンフェルスである。石核1点（24.1g）の単独資料である。

・L9-51：自然面は黄灰色（2.5Y5/1），内部は灰黄褐色（10YR5/2）のホルンフェルスである。石核1点（34.6g）の単独資料である。

・L9-52：自然面及び内部は黄灰色（2.5Y5/1），節理は灰黄褐色（10YR5/2）で，灰白色（5Y8/1）の斑が入るホルンフェルスである。剥片1点（18.3g）の単独資料である。

・L9-53：自然面は灰褐色（7.5YR4/2），内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）の黄粉状で斑・節理は灰赤色（2.5YR4/2）のホルンフェルスである。剥片1点（6.6g）の単独資料である。

・L9-54：自然面は灰褐色（7.5YR4/2），内部は黄灰色（2.5Y4/1）のホルンフェルスである。剥片１点（12.7ｇ）の単独資料である。

・L9-55：自然面は灰色（5Y4/1），内部は黄灰色（2.5Y4/1）と褐灰色（10YR4/1）が混じるホルンフェルスである。敲石１点（11.4ｇ）の単独資料である。

・L9-56：自然面は灰色（10Y4/1），内部は灰色（7.5Y4/1）のホルンフェルスである。221は，被熱によりにぶい赤褐色（5YR4/3）に変色している。石器群の内訳は，剥片10点，石核２点の合計12点（102.6ｇ）である。接合資料は，剥片７点，石核２点の合計９点（94.1ｇ）である。

・L9-57：自然面は黄灰色（2.5Y4/1），内部は灰色（5Y5/1），節理は灰褐色（7.5YR4/2）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片７点（６個体；52.0ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；24.2ｇ）である。

・L9-58：自然面及び内部が褐灰色（10YR4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片８点（７個体），石核１点の合計10点（９個体；190.5ｇ）である。接合資料は，加工痕ある剥片１点，剥片４点（３個体），石核１点の合計６点（５個体；168.3ｇ）である。

・L9-59：自然面は暗灰黄色（2.5Y4/2），内部は灰色（5Y5/1），節理はにぶい黄褐色（10YR5/3）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点（54.5ｇ）である。

・L9-60：自然面は褐灰色（7.5YR4/1），内部は灰色（10Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；18.4ｇ）で，すべて接合している。

・L9-61：自然面及び内部が灰黄褐色（10YR5/2）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；24.7ｇ）で，すべて接合している。

・L9-62：自然面及び内部が灰色（7.5Y4/1）の地に暗灰黄色（2.5Y5/2）の斑が入るホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片21点（19個体），石核１点の合計22点（20個体；206.1ｇ）である。接合資料は，剥片９点（８個体），石核１点の合計10点（９個体；136.8ｇ）である。

・L9-63：自然面及び内部は灰色（5Y4/1），節理は灰褐色（7.5YR4/2）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，剥片13点（10個体）の合計14点（11個体；67.9ｇ）である。接合資料は，３グループあり，Ａグループはナイフ形石器１点，剥片６点の合計７点（５個体；36.4ｇ），Ｂグループは剥片２点（14.6ｇ），Ｃグループは剥片２点（１個体；12.7ｇ）である。

・L9-64：自然面は暗赤灰色（2.5YR3/1），内部は灰色（10Y4/1），節理は灰褐色（7.5YR4/2）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片３点（２個体；25.7ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；15.2ｇ）である。

・L9-65：自然面は灰黄褐色（10YR5/2），内部は黄灰色（2.5Y5/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片４点（53.7ｇ）である。接合資料は，剥片２点（11.8ｇ）である。

・L9-66：自然面及び内部が灰色（5Y5/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点（31.6ｇ）である。

・L9-67：自然面は灰色（5Y4/1）及び暗灰色（N3/0），内部は灰色（10Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片３点（17.9ｇ）で，すべて接合している。

・L9-68：自然面及び内部が灰色（5Y5/1）の砂岩で，被熱した部分については，自然面はにぶい黄褐色（7.5YR5/3）及び灰白色（2.5Y7/1），内部は黄灰色（2.5Y5/1）及び灰白色（2.5Y7/1）に変色している。

節理はにぶい黄褐色（10YR5/3）である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，剥片4点，石核20点（1個体）の合計25点（6個体；425.8g）で，すべて接合している。さらにブロック外の剥片1点が接合する。

・L9-69：自然面及び内部が灰色（5Y5/1）の砂岩で，被熱した部分については，自然面はにぶい赤褐色（5YR5/3），内部は灰黄褐色（10YR5/2）に変色している。石器群の内訳は，削器2点，剥片14点，石核1点の合計17点（312.4g）である。接合資料は，削器2点，剥片11点，石核1点の合計14点（287.6g）である。

・L9-70：自然面及び内部は灰色（5Y5/1），節理は灰褐色（5YR5/2）の砂岩である。被熱により変色しているものがある。石器群の内訳は，削器8点（3個体），剥片58点（55個体），石核1点の合計67点（59個体；429.4g）である。接合資料は，5グループあり，Aグループは削器8点（3個体），剥片21点（18個体），石核1点の合計30点（22個体；353.8g），Bグループは剥片3点（20.2g），Cグループは剥片2点（8.8g），Dグループは剥片2点（5.4g），Eグループは剥片2点（8.5g）である。

・L9-71：自然面は灰褐色（7.5YR5/2），内部は灰黄褐色（10YR5/2）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片2点（1個体；32.6g）で，すべて接合している。

・L9-72：自然面はにぶい褐色（7.5YR5/3），内部は灰黄褐色（10YR6/2）の砂岩である。被熱により変色しているものがある。石器群の内訳は，剥片3点（2個体；20.5g）である。接合資料は，剥片2点（1個体；16.5g）である。

・L9-73：自然面及び内部が灰色（5Y5/1）の砂岩である。削器1点（12.4g）の単独資料である。

・L9-74：自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/2），節理はオリーブ褐色（2.5Y4/6）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片3点（87.4g）である。接合資料は，剥片2点（52.2g）である。

・L9-75：自然面及び内部が灰黄褐色（10YR5/2）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片6点（12.6g）である。接合資料は，剥片2点（5.9g）である。

・L9-76：自然面は灰色（10Y4/1），内部は黄灰色（2.5Y4/1）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片1点，石核1点の合計2点（37.7g）で，すべて接合している。

・L9-77：自然面は黄灰色（2.5Y5/1），内部は灰色（5Y5/1）の砂岩で，被熱した部分については，自然面は灰褐色（7.5YR5/2），内部は黄灰色（2.5YR5/1）に変色している。石器群の内訳は，剥片4点（61.0g）で，すべて接合している。

・L9-78：自然面は灰黄色（2.5Y6/2），内部は灰色（5Y6/1）の砂岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，剥片40点の合計41点（200.9g）である。接合資料は，3グループあり，Aグループは剥片4点（18.2g），Bグループは剥片2点（8.6g），Cグループは剥片2点（12.6g）である。

・L9-79：自然面はにぶい黄橙色（10YR6/3），内部は灰黄色（2.5Y6/2）の砂岩である。被熱により変色しているものがある。石器群の内訳は，石核2点（1個体；51.9g）で，接合している。

・L9-80：内部は灰黄色（2.5Y6/2），節理はにぶい褐色（7.5YR5/4）の砂岩である。原石は拳より一回りほど小さな円礫である。石器群の内訳は，剥片13点（29.5g）である。

・L9-81：自然面はにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は灰黄色（2.5Y6/2）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片3点（24.5g）である。

・L9-82：自然面が褐色（7.5YR4/3）の砂岩である。敲石1点（101.6g）の単独資料である。

・L9-83：自然面及び内部が灰褐色（7.5YR4/2）の砂岩である。敲石1点（38.8g）の単独資料である。

・L9-84：自然面及び内部は灰色（N4/0）で，灰オリーブ色（7.5Y6/2）の斑が入る粘板岩である。石器群の内訳は，剥片4点（3個体；24.2g）である。接合資料は，剥片3点（2個体；22.2g）である。

・L9-85：暗灰黄色（2.5Y5/2）と淡黄色（5Y8/3）が混じり，新鮮な面は黒褐色（2.5Y3/1）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（3.3g）で，すべて接合している。

なお，母岩分類できなかった資料に，信州和田峠周辺産の黒曜石の砕片1点（0.1g），安山岩の剥片1点（0.3g），嶺岡産頁岩のナイフ形石器1点，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片1点，剥片14点の合計17点（49.3g），チャートの剥片30点，砕片7点の合計37点（21.6g），凝灰岩の剥片21点（37.8g），砂岩の掻器1点，剥片87点，砕片5点の合計93点（172.8g），ホルンフェルスの剥片141点，砕片4点の合計145点（260.1g），瑪瑙・玉髄の剥片12点，砕片4点の合計16点（18.8g）がある。

3）出土遺物（第73図113・114，第74図121・122，第76図，第84図201～203・206・207，第85・100図）

113～115・121・122はチャートによる石器である。113は掻器である。表面に自然面を残す不定型な剥片を素材として，末端に調整加工を行っている。114は剥片である。115は4点が接合して1個体となっている石核である。打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。121は二側縁加工のナイフ形石器である。不定型な剥片の打面側を基部として両側縁に比較的粗い調整加工を行っている。122は加工痕ある剥片である。不定型な剥片の上下両端及び両側縁に粗い調整加工を行っている。

135～139は母岩分類できなかったその他の嶺岡産頁岩による石器である。単独母岩として扱った方が良かったかもしれない。135は灰黄褐色（10YR5/2）のナイフ形石器である。不定型な剥片を横位に用い，二側縁に急角度で粗い調整加工片を行っている。136は褐灰色（10YR4/1）の加工痕ある剥片である。不定型な剥片の末端に調整加工を行っている。137は灰黄褐色（10YR4/2）の地に黒褐色（10YR3/2）の縞が入る使用痕ある剥片である。左側縁に刃こぼれがみられる。138はにぶい黄橙色（10YR6/3）の地に褐灰色（10YR4/1）の斑が入る。139は自然面は灰褐色（7.5YR4/2），内部は黄灰色（2.5Y4/1）である。それぞれ不定型な剥片である。

140は頁岩による不定型な剥片である。表面に自然面を残す。

141は凝灰岩による不定型な剥片である。表面に自然面を残す。

142～144・201～203・206・207・209～211はホルンフェルスによる石器である。142は表面に縦溝状の剥離痕を残す石核である。143は削器である。右側縁を欠損するため，形態は不明だが，左側縁に裏面からの調整加工により粗い鋸歯状の刃部を作り出している。144は横長剥片である。201は加工痕ある剥片である。不定型な剥片の右側縁の一部に調整を行っている。202は削器である。表面に自然面を残す不定型な剥片を素材として，左側縁下半部に調整加工を行っている。203は剥片である。206は不定型な剥片である。207は石核である。求心的な剥離作業によって不定型な小型の剥片を剥離している。209～211は石核である。209は求心的な剥離作業によって不定型な小型の剥片を剥離している。210は不定型な小型の扁平礫を素材として左方向から1枚，211は分割した小型の剥片を素材として上下から2枚ほど不定型な剥片を剥離している。

294～297は砂岩による石器である。この内，295は母岩分類できなかったその他の砂岩である。294は削器である。表面に自然面を残す不定型な切断剥片を素材として，左側縁に調整加工を行っている。また，表面上部の左側には，左側縁の加工後に，切断面を打面として，上方向から幅広の樋状剥離が行われている。295は自然面は灰黄橙色（10YR5/2），内部は灰色（5Y5/1）の掻器である。表面に自然面を残す不定

型な剥片を素材として，末端に調整加工を行っている。296は石核である。不定型な剥片を素材として，求心的な剥離作業によって，左側では表面方向から，右側では裏面方向からの打撃により，不定型な小型の剥片を剥離している。その後，2つに欠損している。297は縦長剥片である。

4）接合資料とその関連資料（第63～75・77～84・86～99図）

1～48は凝灰岩，49～55は流紋岩，56～112・116～120・123～134はチャート，145～148は安山岩，149～155は瑪瑙・玉髄，156～200・204・205・208・212～247はホルンフェルス，248～290は砂岩の接合資料とその関係資料である。

・L9-1（第63図，第64図10～15）　オリーブ灰色（10Y6/2）の資料と黄灰色（2.5Y6/1）及び灰白色（10Y6/2）の資料がある凝灰岩である。ナイフ形石器1点，加工痕ある剥片1点，剥片11点（9個体），石核3点の合計16点（14個体）で構成される。接合資料は2グループある。

1は加工痕ある剥片1点（8），剥片8点（5個体；2～4・6・7），石核2点（5・9）の接合資料である。本接合資料から見た剥片剥離作業は，拳の半分ほどの楕円礫を分割し，その分割片のひとつから小型不定型の剥片を生産するものである。打面から背面にかけては自然面，作業面は礫の分割面（主要剥離面）を用い，打点は石核の周囲を移動している。

具体的な剥離手順は，①：分割礫を用意し（持ち込み），石核素材とする。②：19（石核の一部）が節理面に沿って割れる。③：分割面を作業面として剥片生産を開始する。はじめに実測図13の最上段の面で，上位から14→15→16の順で小型不定型の剥片を連続して剥離する。④：石核が二つに割れる（20・21）。⑤：20の石核を用い，実測図20の上面を作業面として，18→17の順に小型不定型の剥片を剥離する。その後，剥片若干を剥離して，石核20の作業を終了する。21については，実測図21の表面下半の剥離，次いで右側面の剥離を行い，作業を終了している。なお，21は被熱により灰褐色に変色している。

10はナイフ形石器1点（12），剥片3点（11・13・14），石核1点（15）の接合資料である。

・L9-7（第64図16～18）　灰オリーブ色（5Y6/2）の凝灰岩である。加工痕ある剥片1点，石核1点の合計2点で構成される。

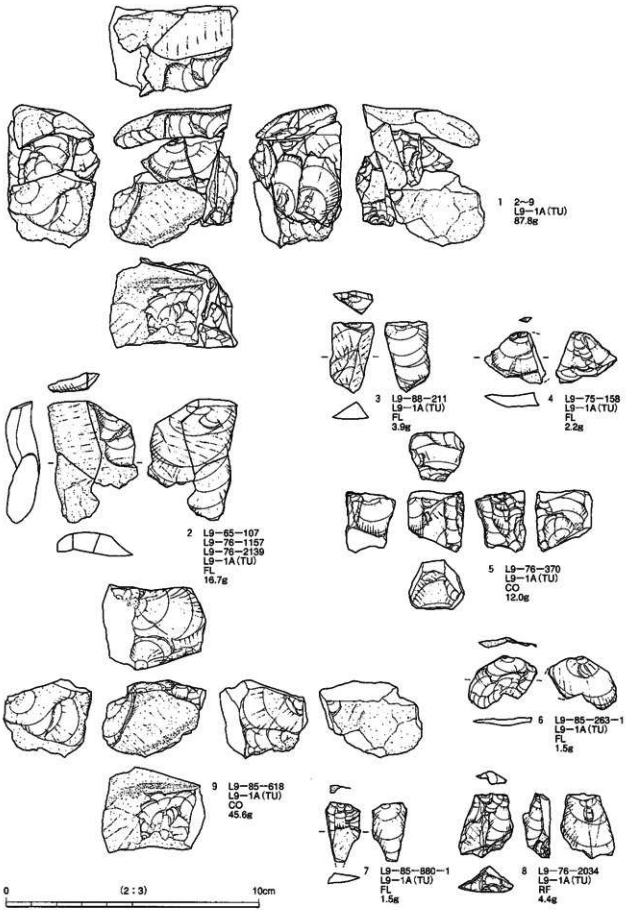
16は加工痕ある剥片1点（17），石核1点（18）の接合資料である。小型で不定型な礫を素材として，90度の打面転移を行いながら，16の上方向から17を剥離している。17は左側縁に調整加工を行っており，その後，被熱により変色している。その後も，18は90度の打面転移を行いながら，不定型な剥片を剥離して，作業を終了している。

・L9-2（第65図19～23）　明オリーブ灰色（5GY7/1）の凝灰岩である。剥片9点，石核2点の合計11点で構成される。接合資料は2グループある。

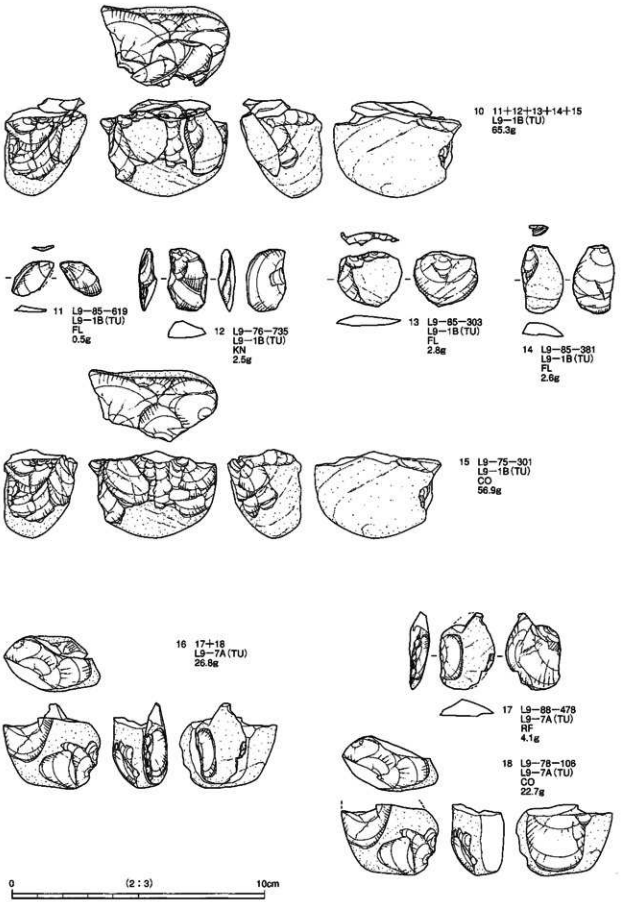
19は剥片2点（20・21）と石核2点（22・23）の接合資料である。小型の不定型な礫を素材として，19の正面右方向から20を剥離した後，上方向からの打撃により，2分割している。分割された22と23は，引き続き上部で打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。21は23から剥離したものである。

・L9-3（第65図24～28）　オリーブ灰色（10Y5/2）の凝灰岩である。剥片6点，石核1点の合計7点で構成される。

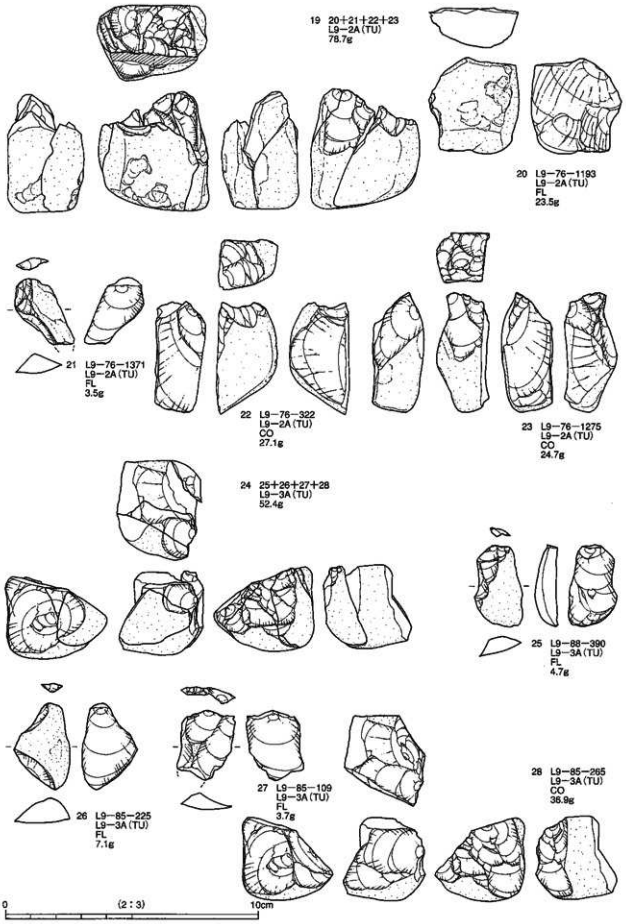
24は剥片3点（25～27）と石核1点（28）の接合資料である。小型で不定型な礫を素材として，90度の打面転移を行いながら，25は上方向から，26・27は右方向から，不定型な剥片を剥離している。



第63図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（１）



第64図　L9－Aブロック出土遺物実測図（2）



第65図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（３）

・L9-4（第66図29～38）　オリーブ灰色（10Y6/2）の凝灰岩である。剥片8点，石核1点の合計9点で構成される。

29は剥片8点（30～37）と石核1点（38）の接合資料である。小型で不定型な礫を素材として，打面と作業面を入れ替えながら，30→31→32→33→34→35→36→37の順に不定型な剥片を剥離している。

・L9-5（第66図39～43）　明オリーブ灰色（5GY7/1）の凝灰岩である。剥片7点（6個体），石核1点の合計8点（7個体）で構成される。

39は剥片4点（3個体；40～42）と石核1点（43）の接合資料である。不定型な礫を分割した剥片を素材として，打面と作業面を入れ替えながら，40→41→42の順に不定型な剥片を剥離している。

・L9-6（第67図44～48）　灰白色（5Y7/2）及びにぶい褐色（7.5YR5/4）の凝灰岩である。剥片4点（3個体），石核6点（1個体）の合計10点（4個体）で構成される。

44は剥片3点（45～47），石核6点（1個体；48）の接合資料である。拳の半分ほどの不定型な礫を素材として，45→46→47の順に上方向から不定型な剥片を剥離している。その後，48は被熱により変色しており，その際に6つに分割したものと考えられる。

・L9-9（第67図49～55）　橙オリーブ灰色（2.5GY6/1）の凝灰岩質の流紋岩である。剥片8点で構成される。

49は剥片6点（50～55）の接合資料である。小型で不定型な礫を素材として，打面と作業面を入れ替えながら，53→52を左方向，50を表面方向，51→54→55を左方向から不定型な剥片を剥離している。

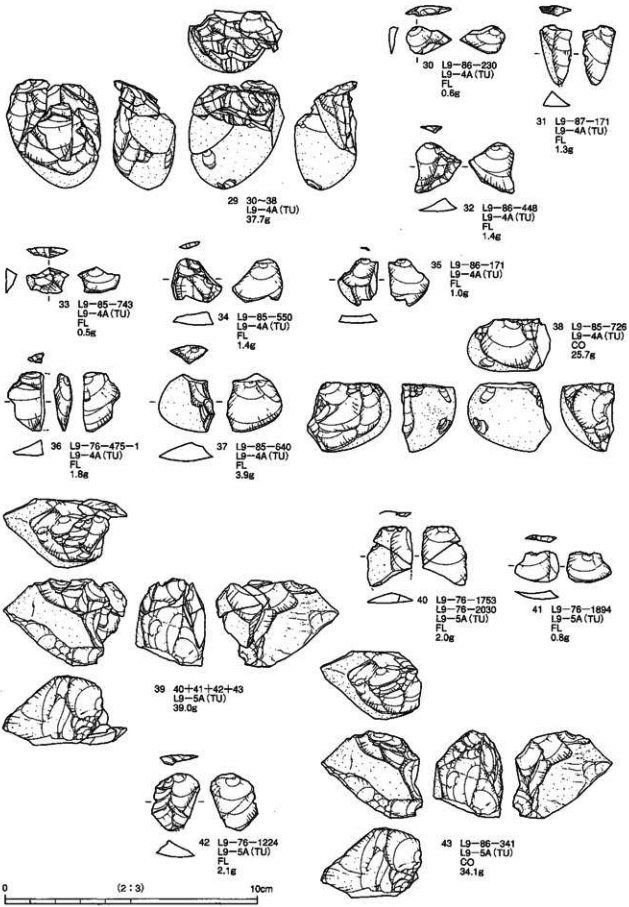
・L9-13（第68・69図）　暗赤灰色（5R3/1）のチャートである。ナイフ形石器4点（3個体），削器1点，使用痕ある剥片1点，剥片20点（19個体），砕片1点，石核1点の合計28点（26個体）で構成される。

56はナイフ形石器4点（3個体；60・63・65），削器1点（77），使用痕ある剥片1点（68），剥片14点（58・59・61・62・64・66・67・69～72・75・76），石核1点（73）の接合資料である。拳の半分ほどの扁平な楕円礫を素材として，下方向からの打撃で57と74に分割し，57は求心的な剥離作業によって，58→59→60，続いて新旧関係が不明の61・62→63→64→65→66→67→68→69→70→71→72の順に不定型な剥片を剥離している。この内，比較的大きな剥片を素材として，ナイフ形石器としている。これらはすべて，素材を横位に用いて，60は左側縁に，63は両側縁の下部に，65は両側縁に調整加工を行っている。また，68は使用痕ある剥片であるが，両側縁に刃こぼれが見られる。なお，57の網掛けの部分は，同一のポジティブな剥離面である。

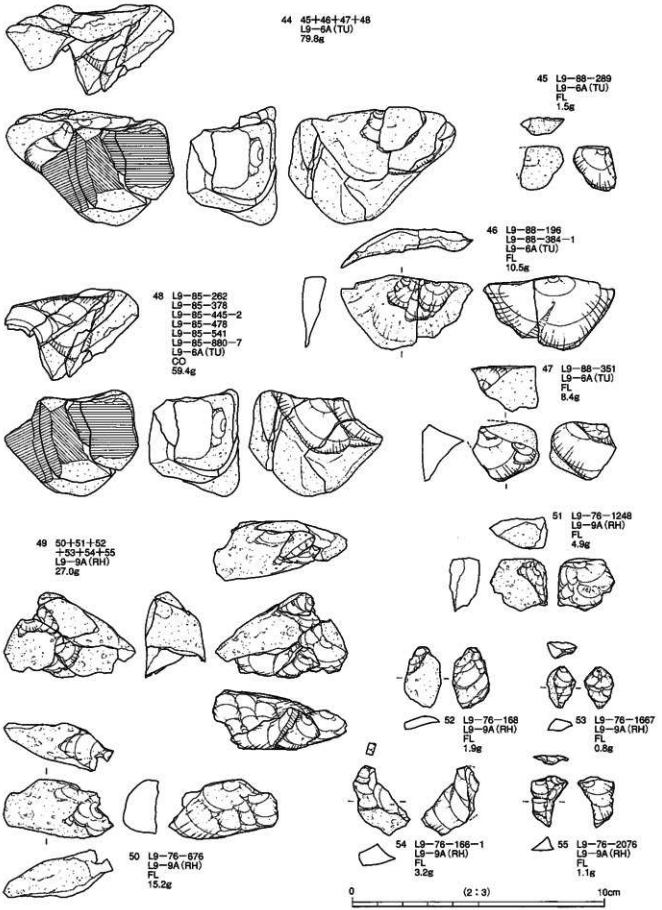
一方，74は打面側を下にして上部及び右側縁に比較的粗い鋸歯状の調整加工を行って，削器（77）に仕上げている。75・76はその際に剥離した剥片であるが，刃部再生の可能性もある。

・L9-14（第70図，第71図88・89）　にぶい黄橙色（10YR6/4）及び暗灰黄色（2.5Y4/2）のチャートである。89は被熱によって変色した可能性が高い。削器1点，使用痕ある剥片1点，剥片9点（8個体），石核3点（1個体）の合計14点（11個体）で構成される。

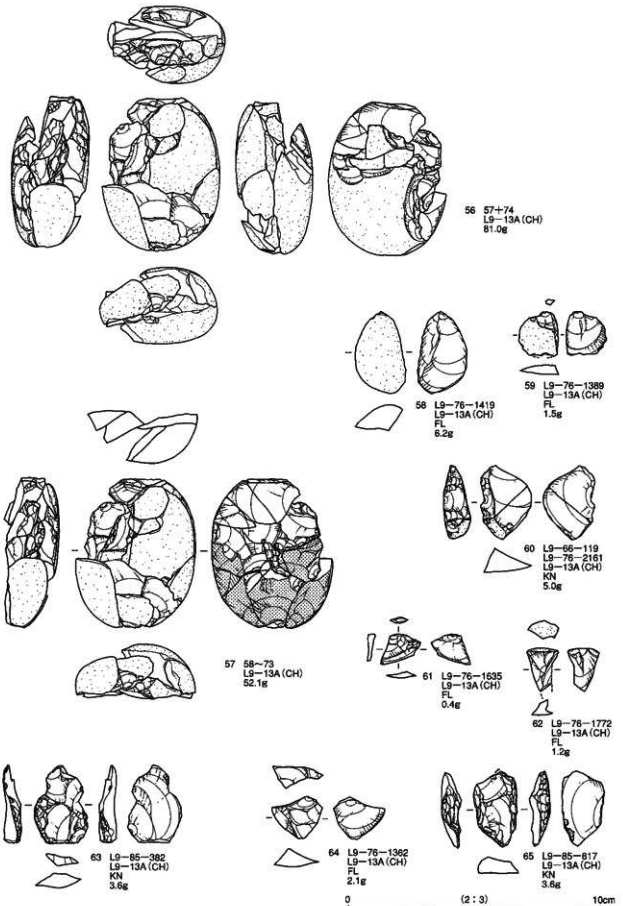
78は削器1点（84），使用痕ある剥片1点（86），剥片9点（8個体；79・80・82・83・85・87～89），石核3点（1個体；81）の接合資料である。拳ほどの不定型な礫を素材として，左右方向から79→80→81，上方向から82→83→84→85→86→87→88→89の順に不定型な剥片を剥離している。この内，84は右側縁に比較的粗い鋸歯状の調整加工を行って，削器に仕上げている。また，86は左側縁下部に刃こぼれが見られる。81は末端で1枚剥離した後，欠損したため作業を終了している。あるいは削器等の未製品の可能性も



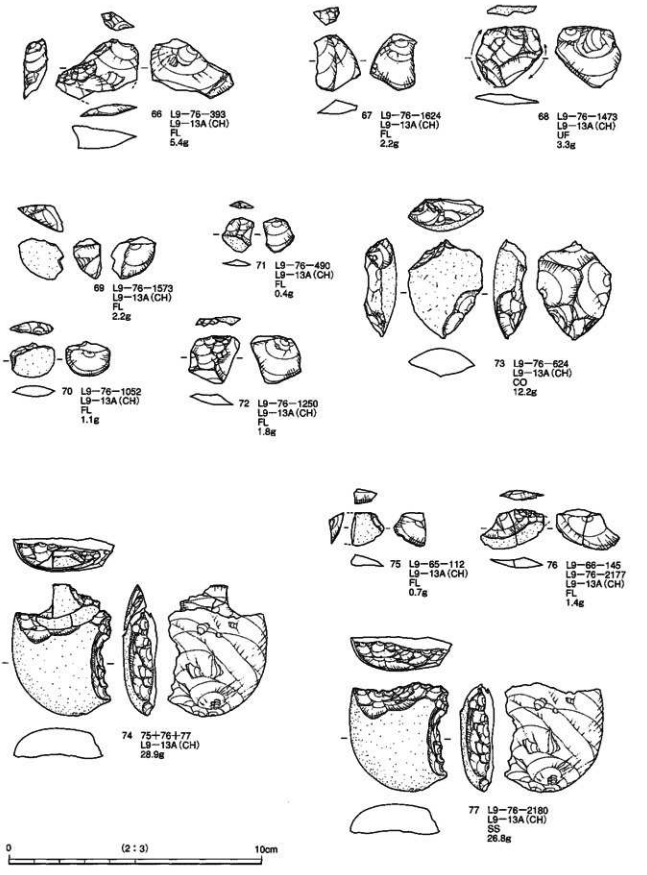
第66図　L9－Aブロック出土遺物実測図（4）



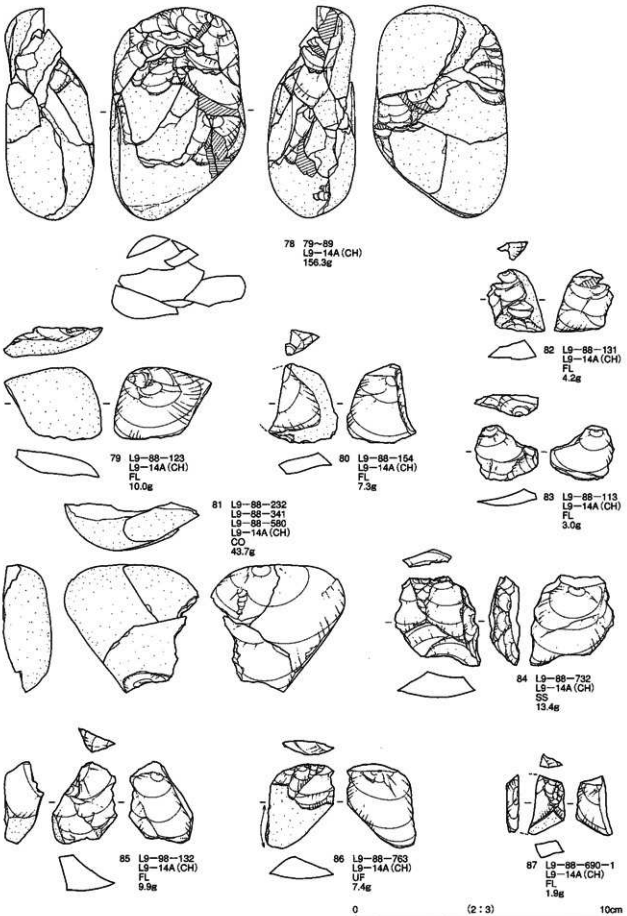
第67図　L9－Aブロック出土遺物実測図（5）



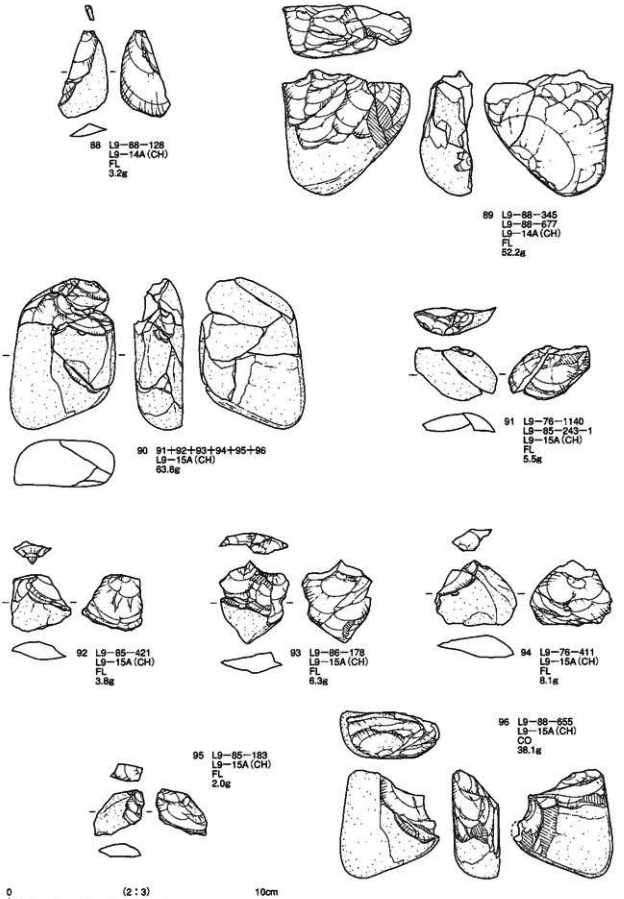
第68図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（６）



第69図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（７）



第70図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（８）



第71図　L９-Aブロック出土遺物実測図（９）

ある。

・L9-15（第71図90～96）　灰色（N4/0）のチャートである。自然面は摩滅して平滑になっている。剥片６点（５個体），石核１点の合計７点（６個体）で構成される。

90は剥片５点（91～95），石核１点（96）の接合資料である。拳の半分ほどの不定型な礫を素材として，上方向から91→92→93を剥離した後，打面と作業面を入れ替えながら94→95の順に不定型な剥片を剥離している。

・L9-18（第72図）　黄灰色（2.5Y4/1）のチャートである。加工痕ある剥片２点，剥片17点，砕片１点，石核２点（１個体）の合計22点（21個体）で構成される。

97は加工痕ある剥片（99・105），剥片９点（98・100～104・106～108），石核１点（１個体；96）の接合資料である。拳の半分ほどの不定型な礫を素材として，上方向からの打撃を主体として，98→99→100→101→102→103→106→105→104・107→108の順に不定型な剥片を剥離している。この内，99は左側縁に比較的粗い鋸歯状の調整加工を行っており，刃こぼれが見られる。また，105は右側縁に比較的粗い鋸歯状の調整加工を行っており，刃こぼれが見られる。109は右側縁で１枚剥離した後，欠損したため作業を終了している。

・L9-17（第73図110～112）　褐灰色（10YR4/1）のチャートである。剥片１点，石核１点の合計２点で構成される。110は剥片１点（111），石核１点（112）の接合資料である。小型の円礫を素材として，打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。

・L9-19（第74図116～120）　灰色（10Y4/1）のチャートである。剥片５点（４個体）で構成される。

116は剥片５点（４個体；117～120）の接合資料である。小型の不定型な礫を素材として，左方向から117・上方向から118→119→下方向から120の順に不定型な剥片を剥離している。

・L9-21（第75図123～128・134）　暗灰色（N3/0）と黄灰色（2.5Y5/1）が混じるチャートである。剥片13点，石核１点の合計14点で構成される。接合資料は２グループある。

123は剥片４点（124～127），石核１点（128）の接合資料である。小型の不定型な礫を素材として，90度の打面転移を行いながら，125→126→127→124の順に不定型な剥片を剥離している。134は接合しなかった同一母岩の不定型な剥片である。

・L9-22（第75図129～133）　灰色（10Y4/1）のチャートである。剥片４点，石核２点の合計６点で構成される。

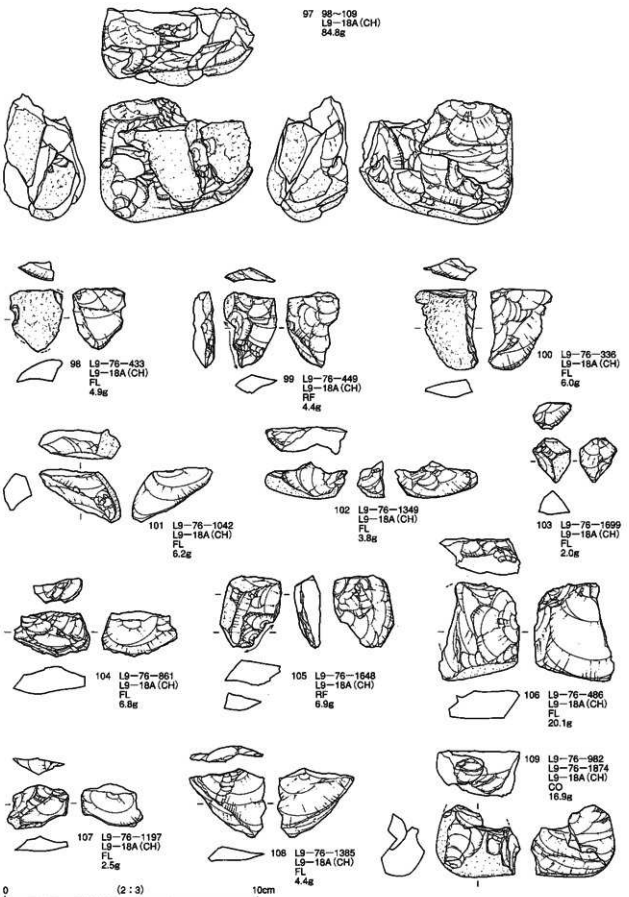
129は剥片２点（130・131），石核２点（132・133）の接合資料である。小型で不定型な円柱状の礫を２分割して，132の上方向から130・131を剥離している。また，133も上方向から不定型な剥片を剥離しているが，正面下部に敲打痕が見られることから，両極打法によるものと考えられる。

・L9-28（第77図145～148）　黄灰色（2.5Y4/1）の安山岩である。剥片２点，石核１点の合計３点で構成される。

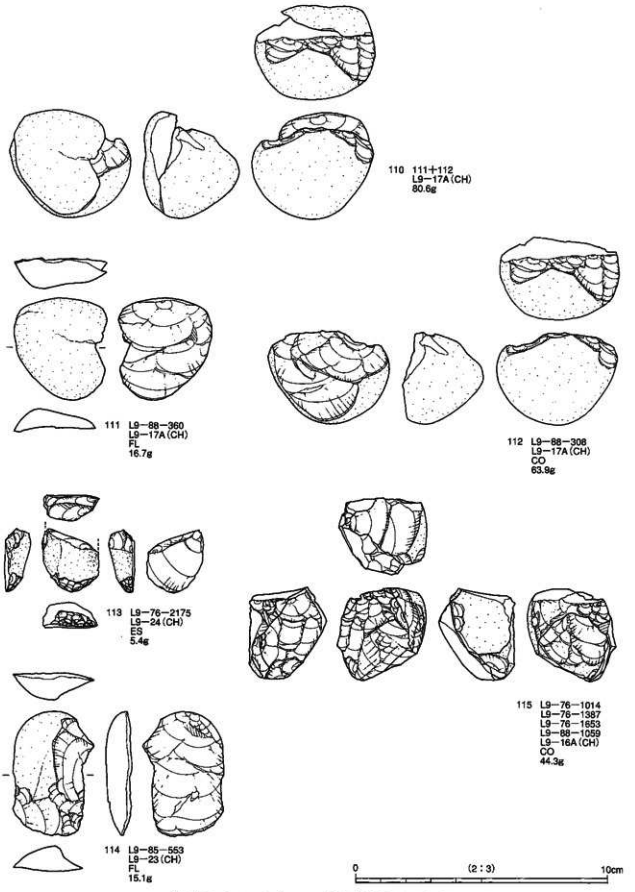
145は剥片１点（147），石核１点（146）の接合資料である。90度の打面転移を行いながら，147を剥離している。148は接合しなかった同一母岩の不定型な剥片である。

・L9-31（第77図149～155）　にぶい黄橙色（10YR7/2）の瑪瑙・玉髓である。剥片６点，石核１点の合計７点で構成される。

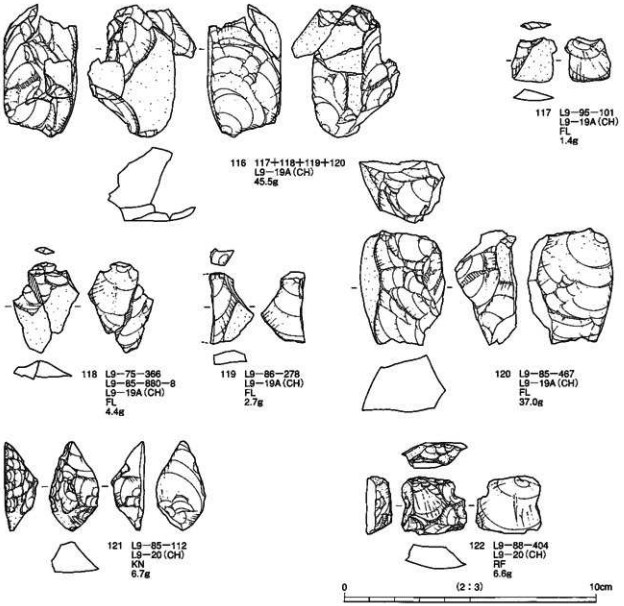
149は剥片５点（150～154），石核１点（155）の接合資料である。小型で不定型な礫を素材として，打



第72図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（10）



第73図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（11）



第74図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（12）

面と作業面を入れ替えながら，150→151→153→154→152→155の順に不定型な剥片を剥離している。

・**L9-35（第78～80図）**　灰色（10Y4/1）のホルンフェルスである。加工痕ある剥片１点，剥片52点（49個体），石核３点の合計56点（53個体）で構成される。接合資料は７グループある。

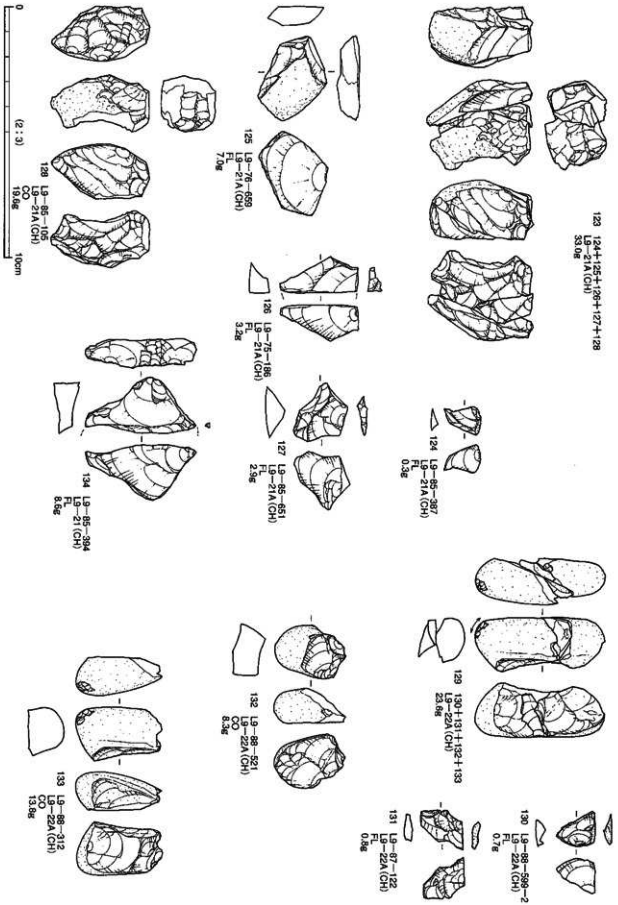
接合資料Ｂ（第78図）　156は剥片５点（157～161），石核１点（162）の接合資料である。156は上方向から157→160→159→161→158，下方向から161→162の順に不定型な剥片を剥離している。

接合資料Ｄ（第79図163～166）　163は剥片３点（２個体；164・165），石核１点（166）の接合資料である。163は打面と作業面を入れ替えながら，164・165を剥離している。

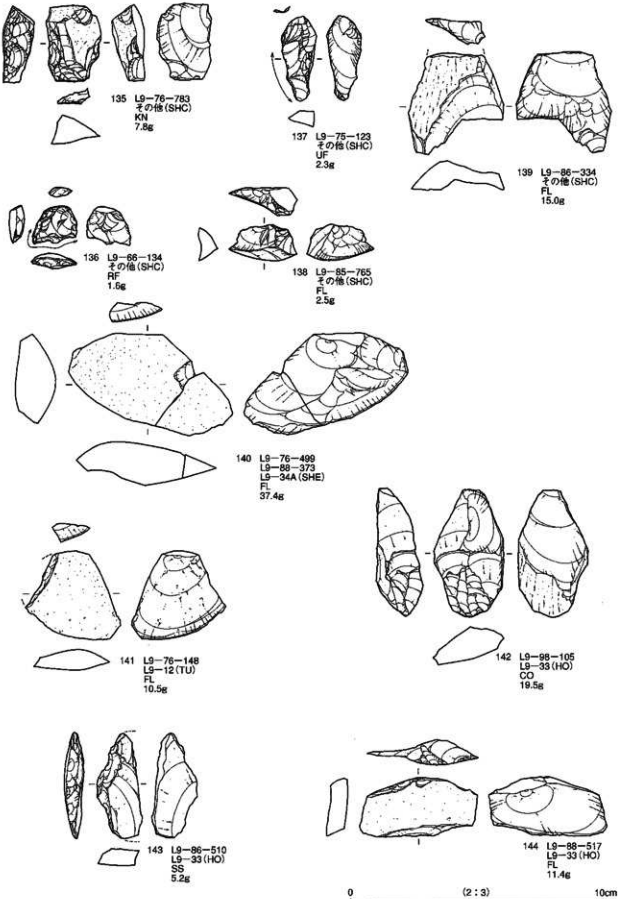
接合資料Ｃ（第79図167～169）　167は剥片２点（168・169）の接合資料である。節理で分割された石核から168を剥離した後，180度打面を転移して169を剥離している。

接合資料Ａ（第80図170～174）　170は剥片５点（４個体；171～174）の接合資料である。170は上方向から171→172→173→174の順に不定型な剥片を剥離している。

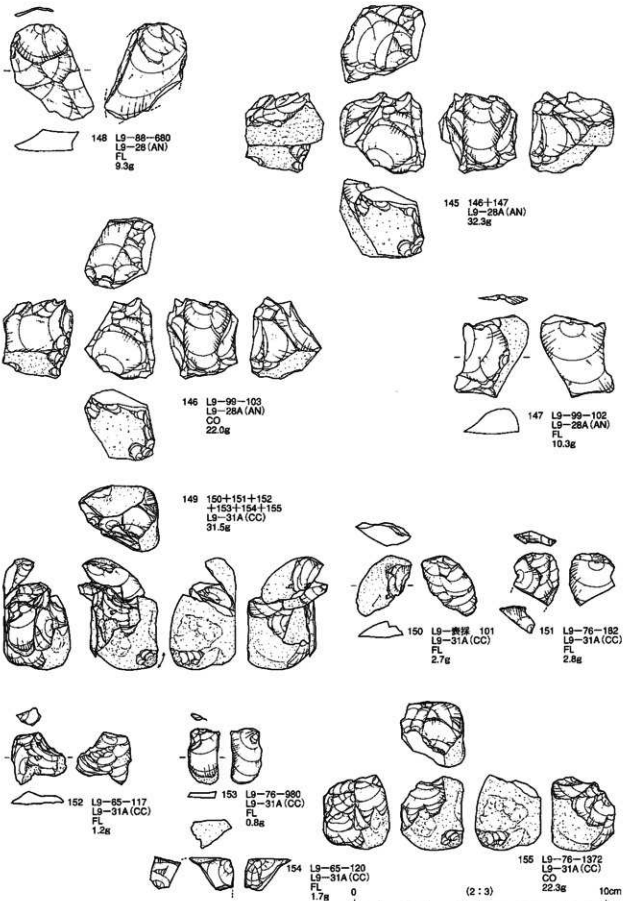
175～177は接合しなかった同一母岩の資料である。175は加工痕ある剥片である。右側縁上部に粗い鋸



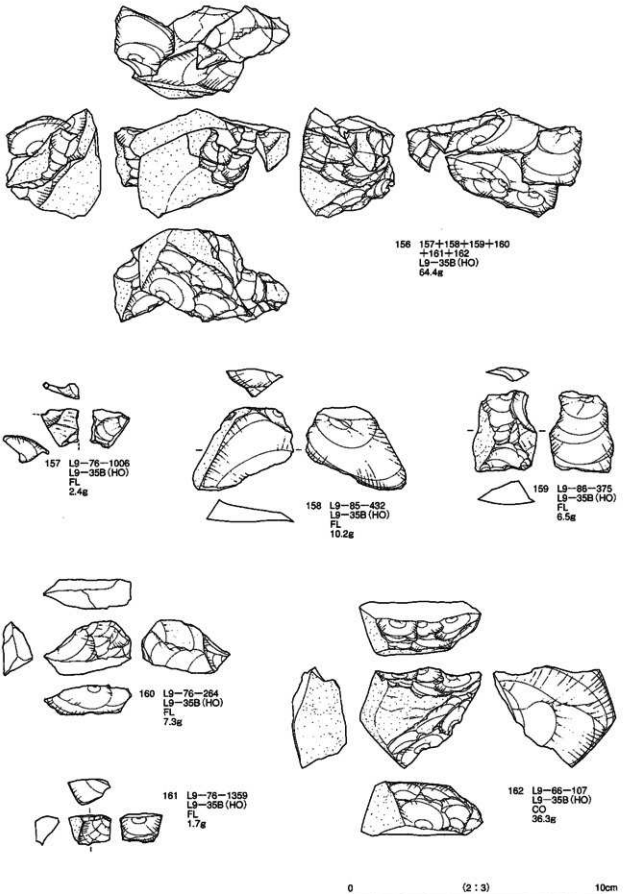
第75図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（13）



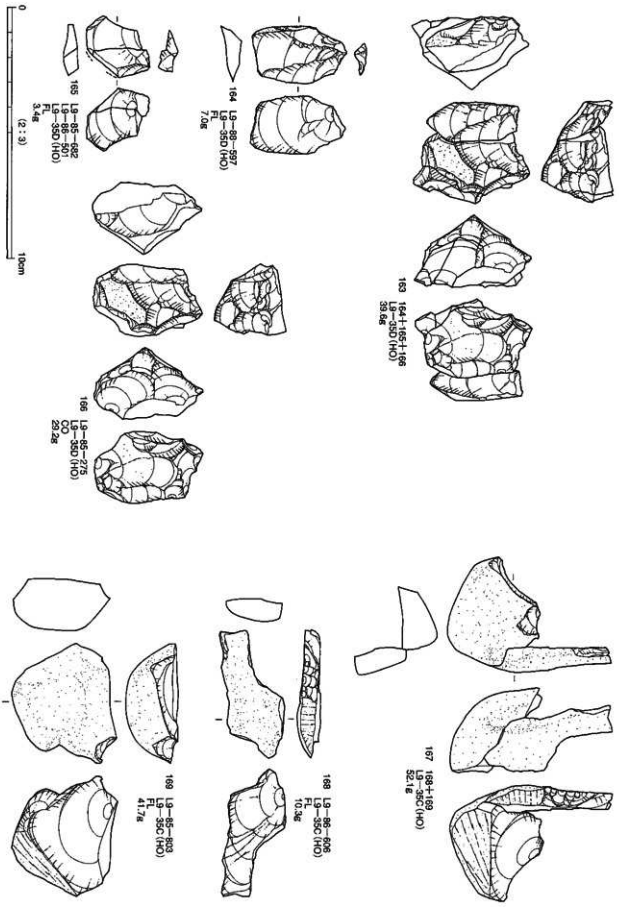
第76図　L9-Aブロック出土遺物実測図（14）



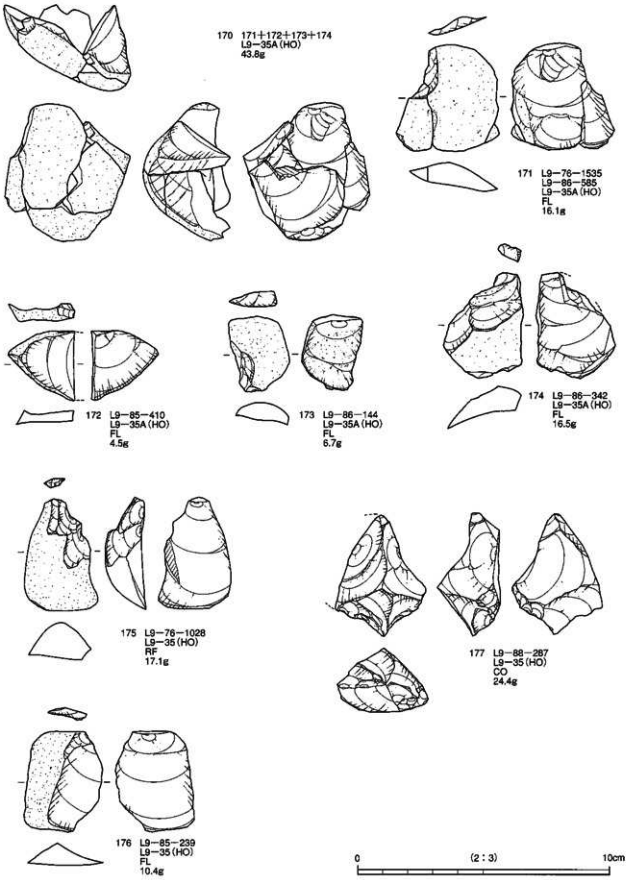
第77図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（15）



第78図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（16）



第79図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（17）



第80図　L 9 - Aブロック出土遺物実測図（18）

歯状の調整加工を行っている。176は不定型な剥片である。177は石核である。作業面を打面として，求心的な剥離作業によって剥片を剥離して，作業を終了している。

・L9-36（第81図）　灰色（7.5Y5/1）のホルンフェルスである。ナイフ形石器１点，掻器２点，剥片15点，石核１点の合計19点で構成される。

178は剥片２点（179・180），石核１点（181）の接合資料である。90度の打面転移を行いながら，179・180を剥離している。

182～187は接合しなかった同一母岩の資料である。182はナイフ形石器である。厚手の剥片を素材として，右側縁に粗い鋸歯状の調整加工を行っている。183・184は掻器である。両者とも厚手の剥片を素材として，両側縁に裏面からの急角度の剥離によって刃部を作り出している。185～187は不定型な剥片である。

・L9-37（第82図）　灰黄褐色（10YR5/2）のホルンフェルスである。加工痕ある剥片２点（１個体），剥片18点，石核１点の合計21点（20個体）で構成される。接合資料は２グループある。

195は，欠損した加工痕ある剥片同士が接合して１個体となったものである。

188は，剥片５点（189～193），石核１点（194）の接合資料である。188の網掛けの部分は，同一のポジティブな剥離面と考えられることから，小型の礫を分割した剥片を素材として，概ね上方向から190→189・191→194→192→193の順に不定型な剥片を剥離している。195は末端に調整加工を行っている。

・L9-40（第83図）　黄灰色（2.5Y4/1）のホルンフェルスである。加工痕ある剥片４点，剥片９点（８個体），石核１点の合計11点（10個体）で構成される。

196は剥片１点（198），石核１点（197）の接合資料である。交互剥離と求心的な剥離作業によって横長剥片を主体として多様な剥片を剥離している。

199・200は接合しなかった同一母岩の資料である。200は加工痕ある剥片である。左側縁に粗い鋸歯状の調整加工を行っている。199は不定型な剥片である。

・L9-42（第84図204・205）　灰黄褐色（10YR5/2）のホルンフェルスである。加工痕ある剥片３点（１個体），剥片２点の合計５点（３個体）で構成される。

204は欠損した加工痕ある剥片同士が接合して１個体となったものである。両側縁及び上部の一部に調整加工を行っている。

205は接合しなかった同一母岩の不定型な剥片である。

・L9-57（第84図208）　灰色（5Y5/1）のホルンフェルスである。剥片７点（６個体）で構成される。

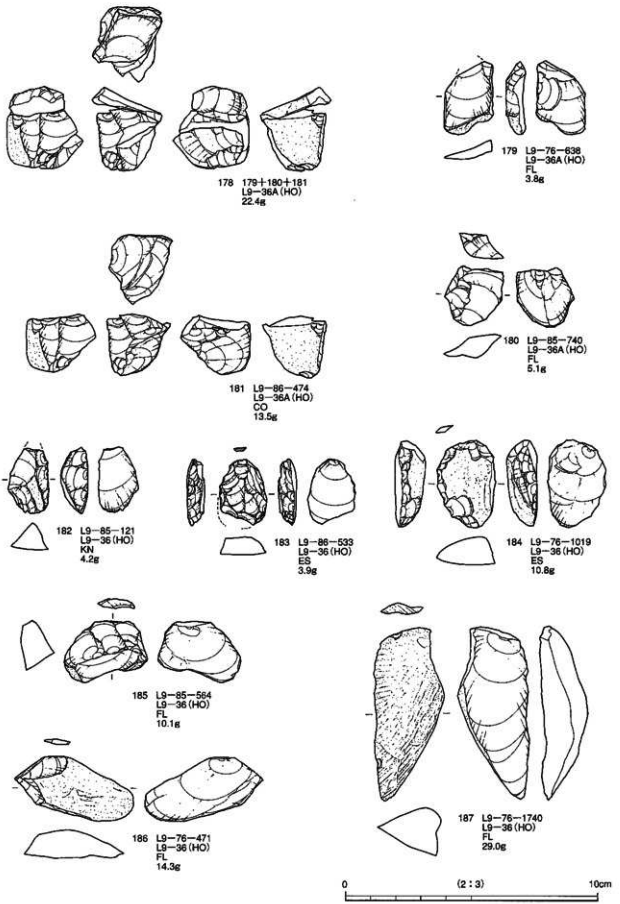
208は欠損した剥片同士が接合して１個体となったものである。

・L9-56（第86図）　灰色（7.5Y4/1）のホルンフェルスである。剥片10点，石核２点の合計12点で構成される。

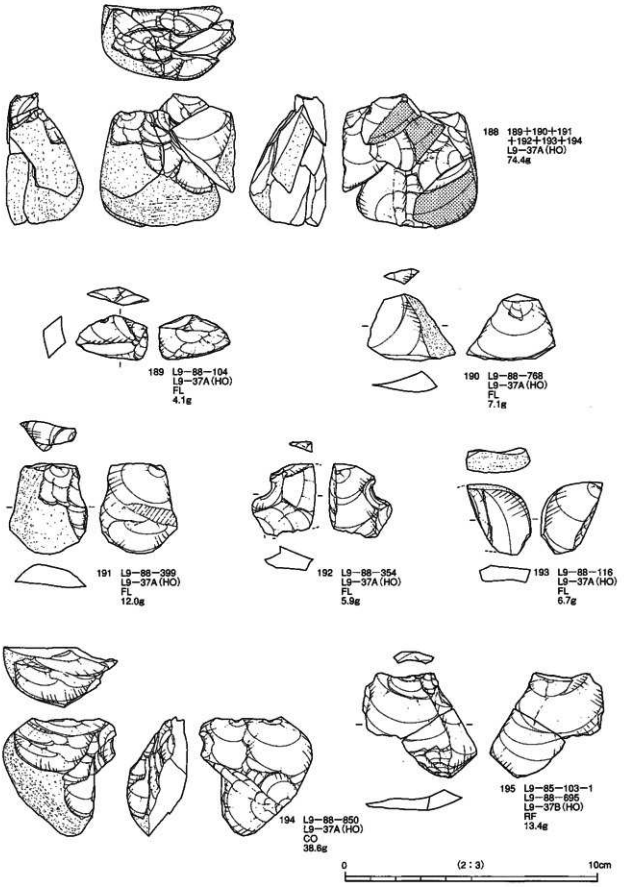
212は剥片７点（213・215～220），石核２点（214・221）の接合資料である。拳の半分ほどの不定型な礫を２分割して213を剥離した後，214は求心的な剥離作業により，215→217→216の順に不定型な剥片を剥離し作業を終了している。221は打面と作業面を入れ替えながら，218→219→220→221の順に不定型な剥片を剥離し作業を終了している。

・L9-58（第87図）　褐灰色（10YR4/1）のホルンフェルスである。加工痕ある剥片１点，剥片８点（７個体），石核１点の合計10点（９個体）で構成される。

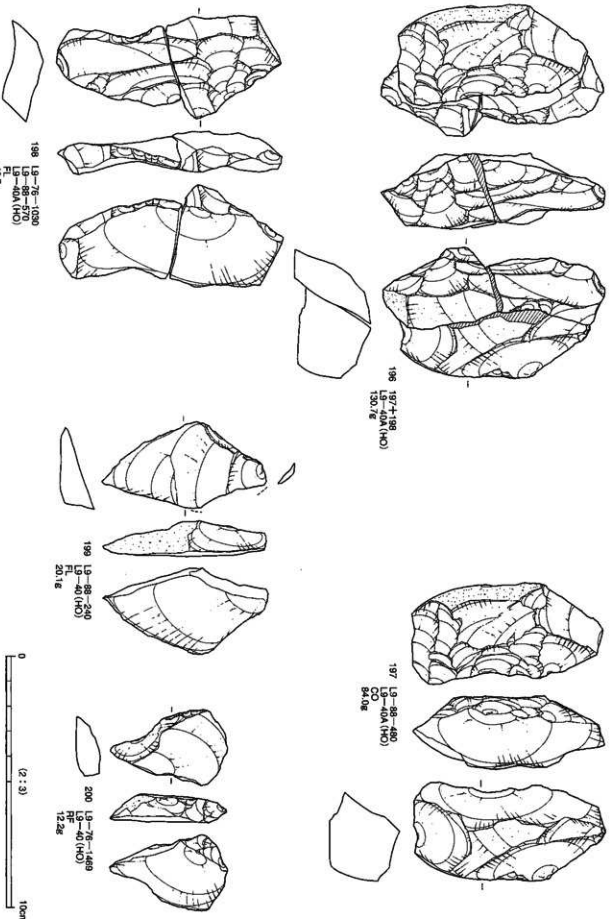
222は加工痕ある剥片１点（225），剥片４点（３個体；223・224・226），石核１点（227）の接合資料で



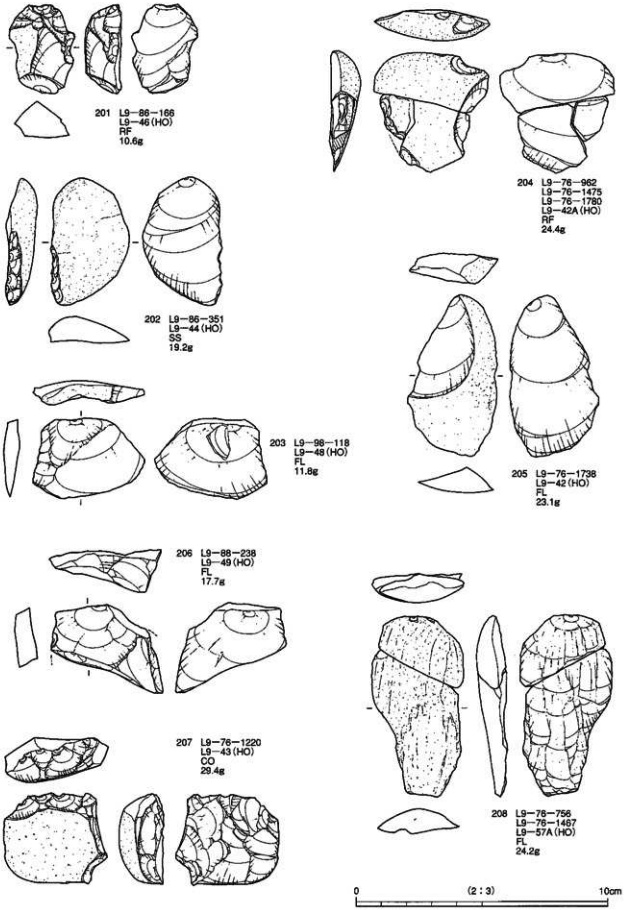
第81図　L９－Aブロック出土遺物実測図（19）



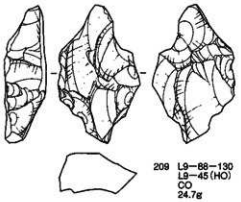
第82図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（20）

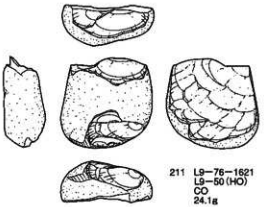


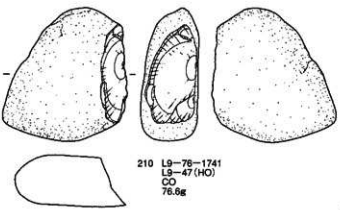
第83図　L 9 - Aブロック出土遺物実測図 (21)

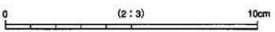


第84図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（22）









第85図　L 9 - Aブロック出土遺物実測図（23）

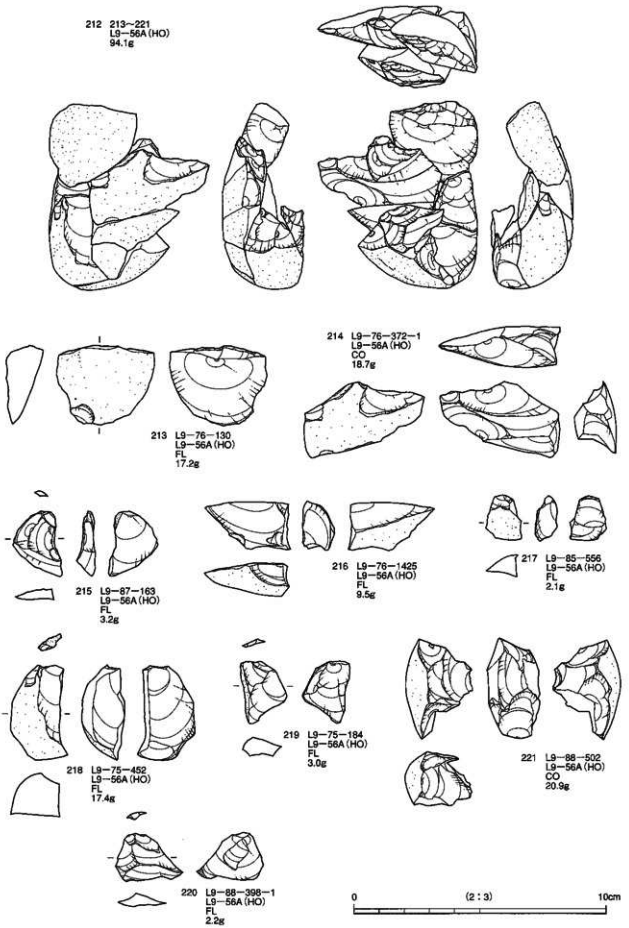
ある。拳の半分ほどの不定型な礫を素材として，打面と作業面を入れ替えながら，224→223→225→226→227の順に不定型な剥片を剥離している。

・**L9-62（第88図，第89図234・235）**　灰色（7.5Y4/1）のホルンフェルスである。剥片21点（19個体），石核1点の合計22点（20個体）で構成される。

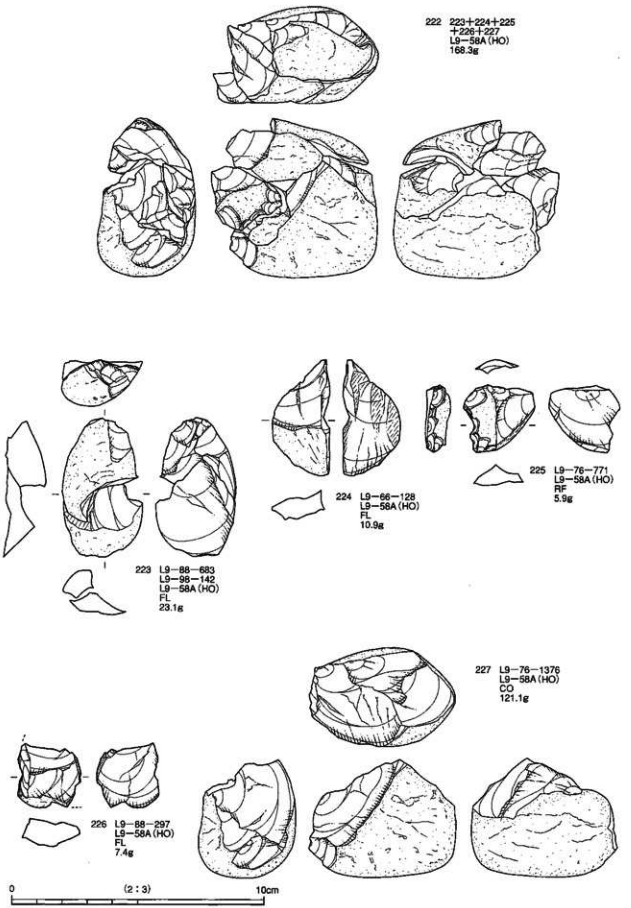
228は剥片9点（7個体；229～235），石核1点（235）の接合資料である。拳の半分ほどの不定型な礫を素材として，打面と作業面を入れ替えながら231→230→233→229→232→235の順に不定型な剥片を剥離している。235の剥片とした資料は，石核の欠損したものの可能性がある。

・**L9-63（第89図236～241）**　灰色（5Y4/1）のホルンフェルスである。ナイフ形石器1点，剥片13点（10個体）の合計14点（11個体）で構成される。接合資料は3グループある。

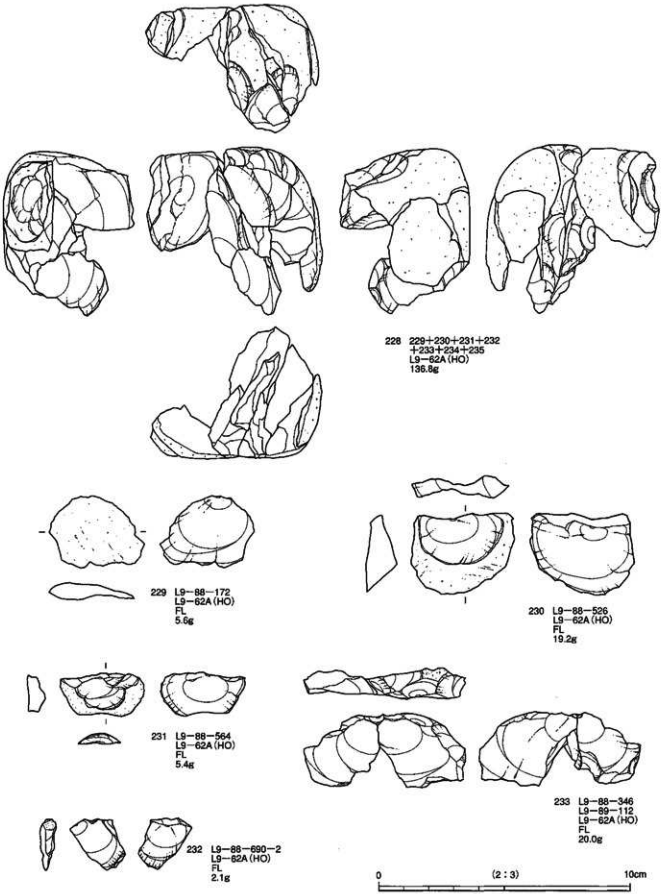
236はナイフ形石器1点（237），剥片6点（4個体；238・239・240・241）の接合資料である。上方向から237・241→240→239→238の順に不定型な剥片を剥離している。237と241の新旧関係は不明である。237はナイフ形石器である。切断剥片を素材として，左側縁に調整加工を行っている。



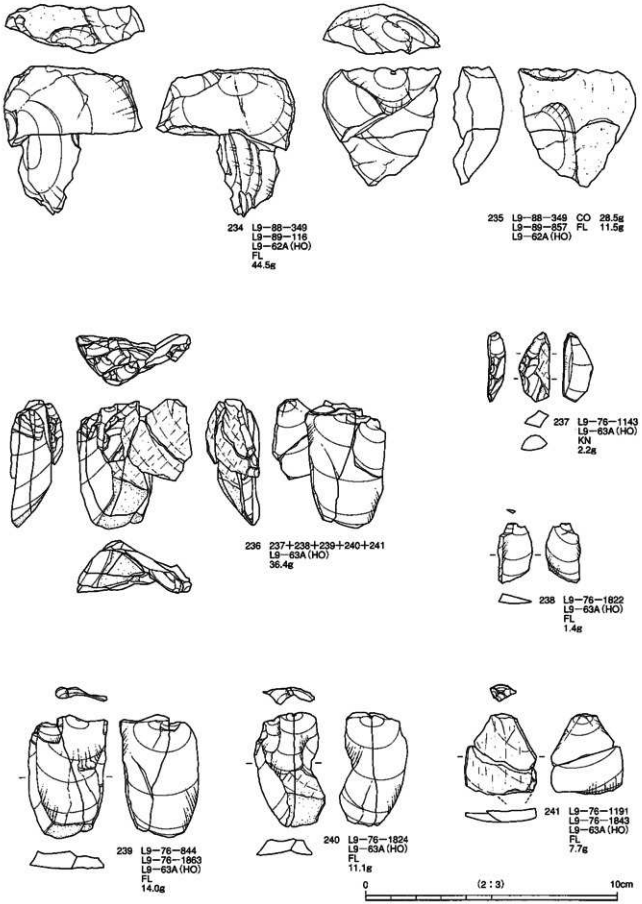
第86図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（24）



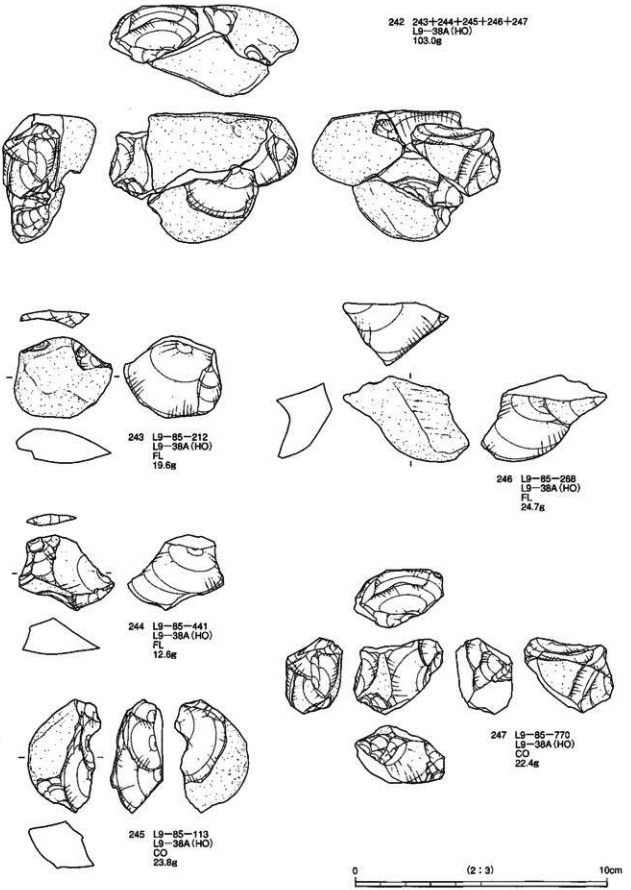
第87図　L9－Aブロック出土遺物実測図（25）



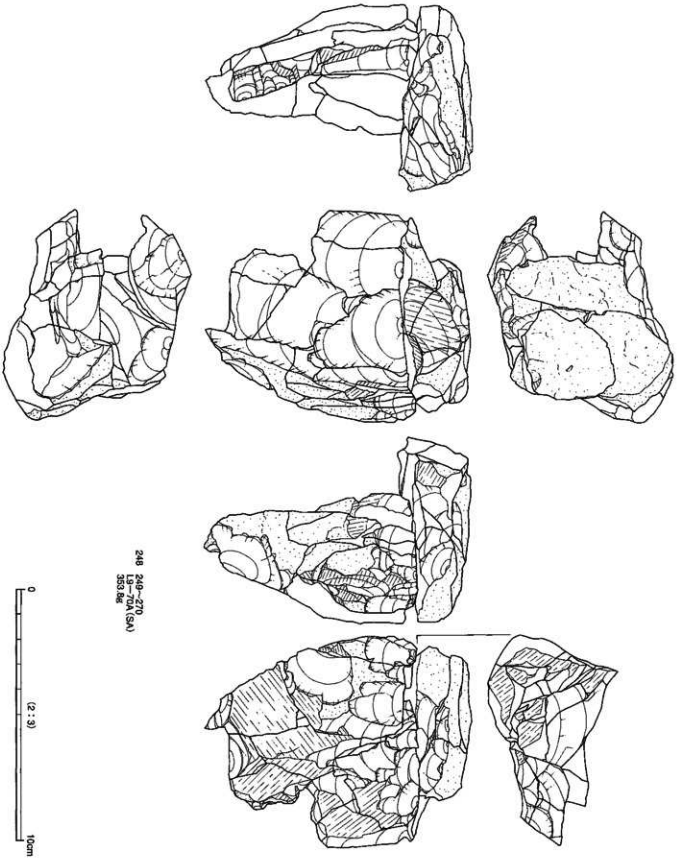
第88図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（26）



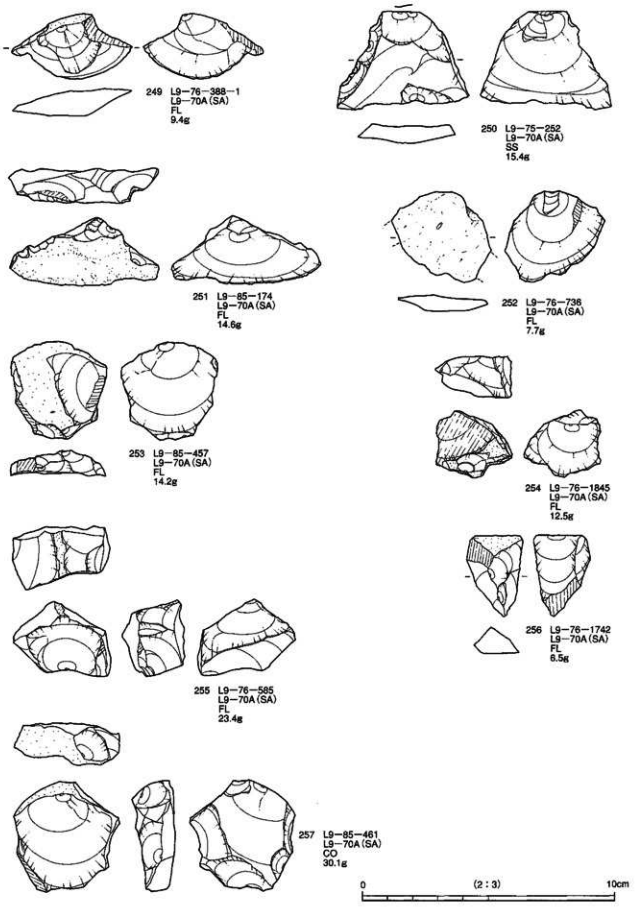
第89図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（27）



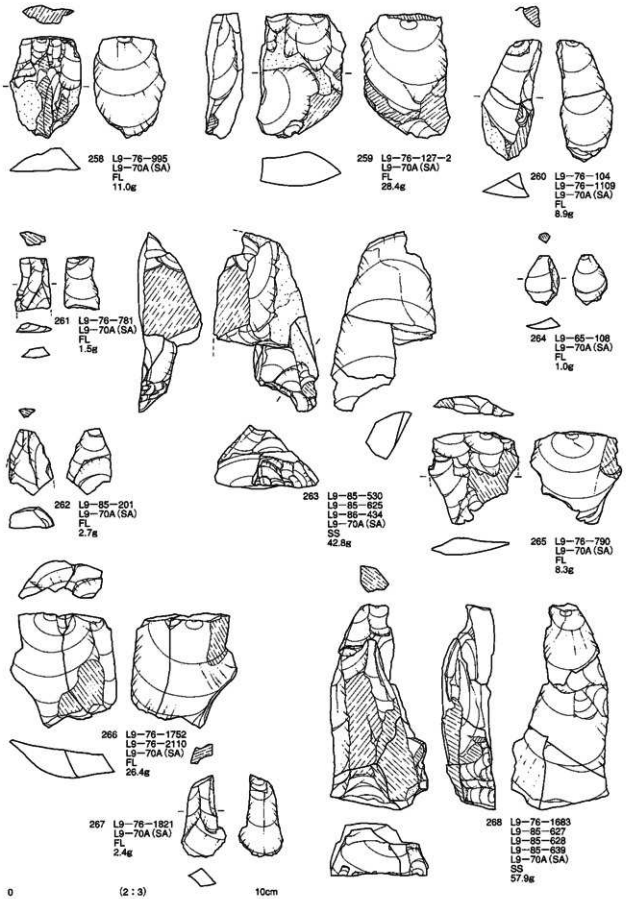
第90図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（28）



第91図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（29）



第92図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（30）



第93図　L 9 - Aブロック出土遺物実測図（31）

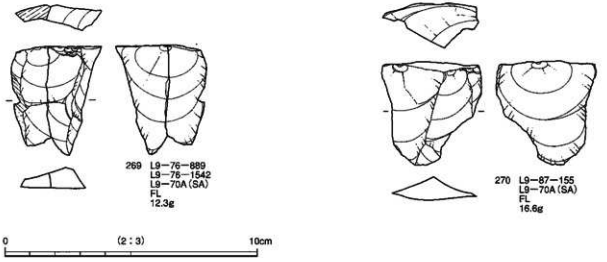
・L9-38（第90図）　灰色（5Y5/1）のホルンフェルスである。剥片3点，石核2点の合計5点で構成される。

242は剥片3点（243・244・246），石核2点（245・247）の接合資料である。拳の半分ほどの不定型な礫を正面の左方向から2分割して，245は打面と作業面を入れ替えながら，243→244の順に不定型な剥片を剥離し作業を終了している。247は打面と作業面を入れ替えながら，246など不定型な剥片を剥離し作業を終了している。

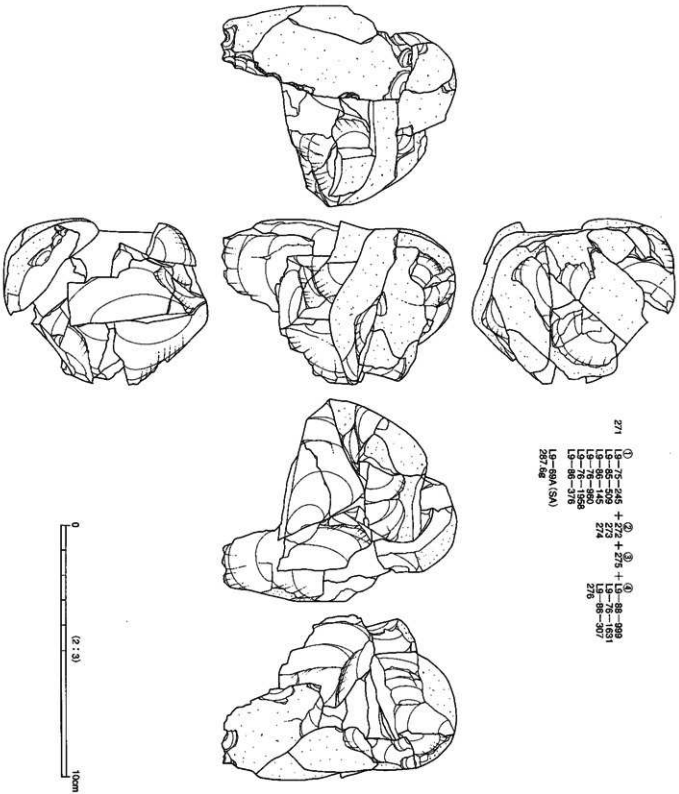
・L9-70（第91～94図）　灰色（5Y5/1）の砂岩である。削器8点（3個体），剥片58点（55個体），石核1点の合計67点（59個体）で構成される。接合資料は5グループある。

248は削器8点（3個体；250・263・268），剥片21点（18個体；249・251～256・258～262・264～267・269・270），石核1点（257）の接合資料である。大型の礫を素材として，①249～257と②258～270に分割している。①は求心的な剥離作業により，249→250→251・252→254→256→255→253→257の順に不定型な剥片を剥離し作業を終了している。252については分割前後での新旧関係は不明であるが，剥片剥離の流れから分割後の剥離と考えられる。250は削器である。左側縁及び末端の一部に粗い鋸歯状の調整加工を行っている。①の剥離後，②はその剥離面を打面として，すべて上方向から258→259→260→261→262・263の順に剥離した後，新旧関係の不明な265・266と264→267→268を剥離し，引き続き269→270の順に縦長剥片を含む多様な剥片を剥離している。263・268は削器である。263は末端の一部に，268は右側縁に急角度の調整加工を行って刃部を作り出している。なお，263は262と接合して1個体となる剥片で，この剥片の欠損あるいは切断したものを素材としている。

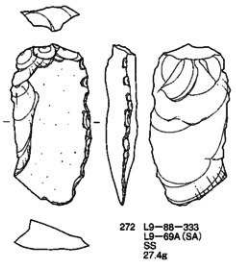
また，253・257・259・263の内のL9-85-625とL9-86-434・268が，被熱のため赤化している。

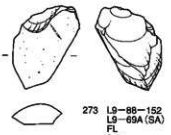


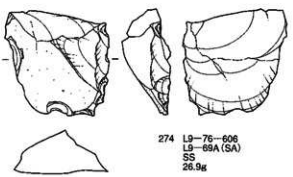
第94図　L9－Aブロック出土遺物実測図（32）

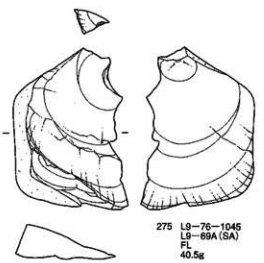


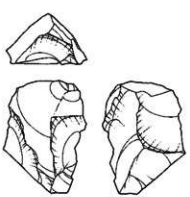
第95図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（33）

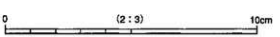




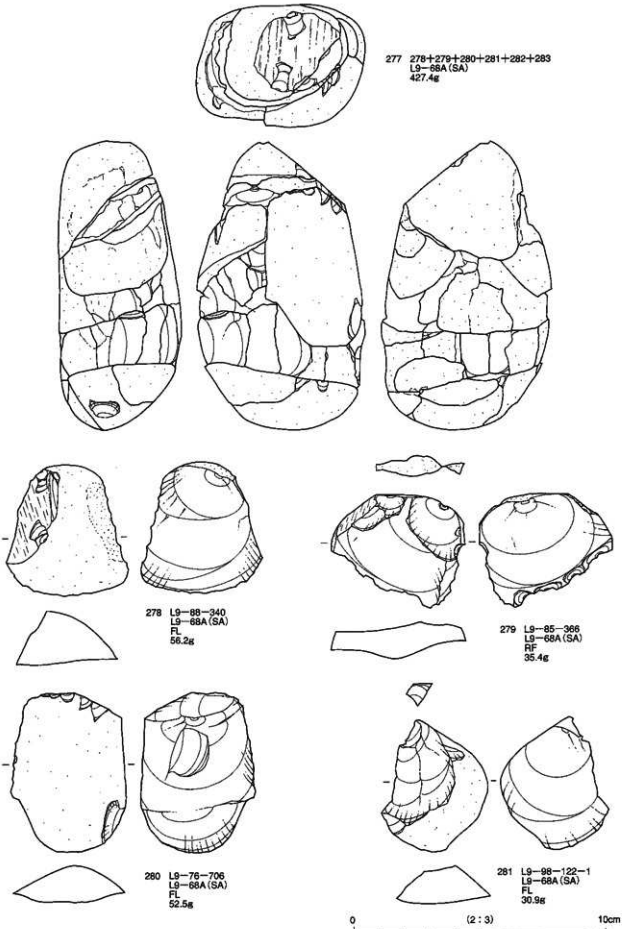




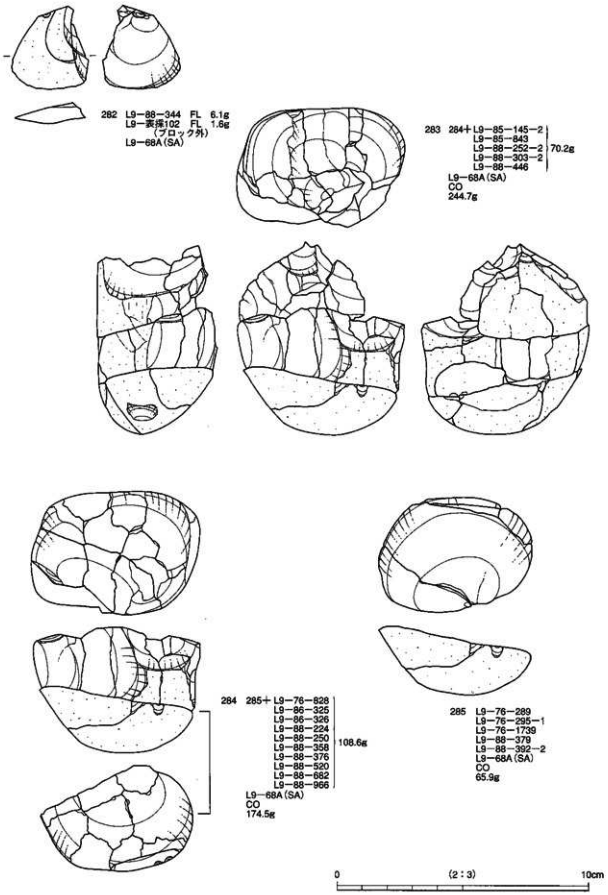




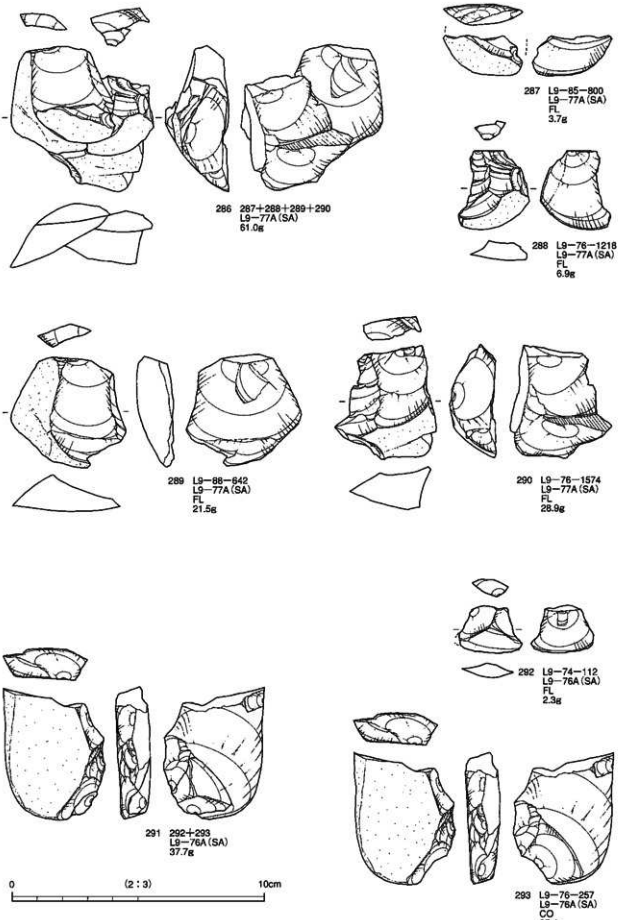
第96図　L 9 - Aブロック出土遺物実測図（34）



第97図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（35）



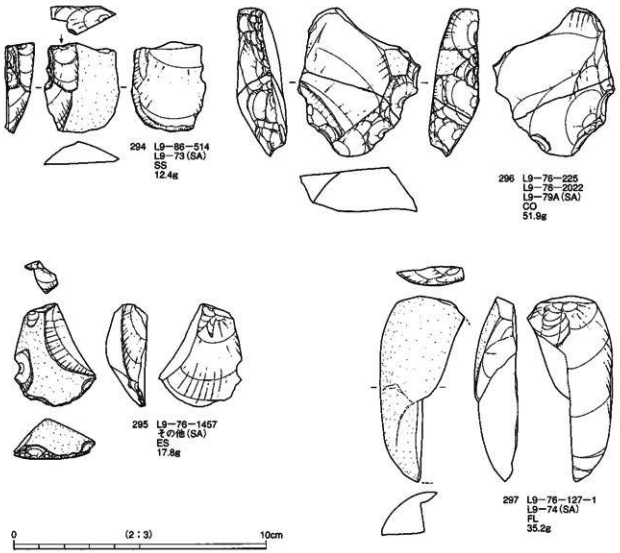
第98図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（36）



第99図　L9-Aブロック出土遺物実測図（37）

・L9-69（第95・96図）　灰色（5Y5/1）の砂岩である。削器２点，剥片14点，石核１点の合計17点で構成される。

271は削器２点（272・274），剥片11点（271・273・275），石核１点（276）の接合資料である。拳ほどの不定型な礫を素材として，大きく４つに分割あるいは欠損している。①はL9-75-245，L9-85-509，L9-86-145→L9-76-960・1958→L9-86-376の順で節理等で剥離・欠損したもの，②は上方向から273→272→274の順で剥離したもの，③は左方向から剥離したもの（275），④はL9-88-999→L9-76-1631，L9-86-307→276の順で節理等で剥離・欠損したものである。この内，272は右側縁に，274は右側縁下部から末端にかけて調整加工を行って，削器としている。



第100図　Ｌ９－Ａブロック出土遺物実測図（38）

第13表　Ｌ９－Ａブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PD	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	SL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
L９－１（TU）	1									1									11(9)		3					16(14)
L９－２（TU）																			9		2					11
L９－３（TU）																			6		1					7
L９－４（TU）																			8		1					9
L９－５（TU）																			7(6)		1					8(7)
L９－６（TU）																			4(3)		6(1)					10(4)
L９－７（TU）										1											1					2
L９－８（TU）																			3							3
L９－９（RH）																			8							8
L９－10（TU）																			13							13
L９－11（TU）																			2							2
L９－12（TU）																			1							1
L９－13（CH）	4(3)					1					1								20(19)	1	1					28(26)
L９－14（CH）						1					1								9(8)		3(1)					14(11)
L９－15（CH）																			6(5)		1					7(6)
L９－16（CH）																			1		4(1)					5(2)
L９－17（CH）																			1		1					2
L９－18（CH）										2									17	1	2(1)					22(21)
L９－19（CH）																			6(5)							6(5)
L９－20（CH）	1									1									7							9
L９－21（CH）																			13		1					14
L９－22（CH）																			4		2					6
L９－23（CH）																			1							1
L９－24（CH）					1																					1
L９－25（CH）																1										1
L９－26（CH）																			1							1
L９－27（TU）																			1							1
L９－28（AN）																			2		1					3
L９－29（AN）																			6		1					7
L９－30（AN）																			1							1
L９－31（CC）																			6		1					7
L９－32（CC）																			8		1					9
L９－33（HO）						1													3		1					5
L９－34（SHH）																			3(2)							3(2)
L９－35（HO）										1									52(49)		3					56(53)
L９－36（HO）	1				2														16		1					19
L９－37（HO）										2(1)									18		1					21(20)
L９－38（HO）																			3		2					6
L９－39（HO）																			9		1					10
L９－40（HO）										1									9(8)		1					11(10)
L９－41（HO）																			2		1					3
L９－42（HO）										3(1)									2							5(3)
L９－43（HO）																					1					1
L９－44（HO）						1																				1
L９－45（HO）																					1					1
L９－46（HO）										1																1
L９－47（HO）																					1					1
L９－48（HO）																			1							1
L９－49（HO）																			1							1
L９－50（HO）																					1					1
L９－51（HO）																					1					1
L９－52（HO）																			1							1
L９－53（HO）																			1							1
L９－54（HO）																			1							1
L９－55（HO）																1										1
L９－56（HO）																			10		2					12
L９－57（HO）																			7(6)							7(6)
L９－58（HO）										1									8(7)		1					10(9)
L９－59（HO）																			2							2
L９－60（HO）																			2(1)							2(1)

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	PL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
L９－61（MO）																			2(1)							2(1)
L９－62（MO）																			21(19)		1					22(20)
L９－63（MO）	1																		13(10)							14(11)
L９－64（MO）																			3(2)							3(2)
L９－65（MO）																			4							4
L９－66（MO）																			2							2
L９－67（MO）																			3							3
L９－68（SA）											1								4		20(1)					25(6)
L９－69（SA）						2													14		1					17
L９－70（SA）						8(3)													58(55)		1					67(59)
L９－71（SA）																			2(1)							2(1)
L９－72（SA）																			3(2)							3(2)
L９－73（SA）						1																				1
L９－74（SA）																			3							3
L９－75（SA）																			6							6
L９－76（SA）																			1		1					2
L９－77（SA）																			4							4
L９－78（SA）											1								40							41
L９－79（SA）																					2(1)					2(1)
L９－80（SA）																			13							13
L９－81（SA）																			3							3
L９－82（SA）																1										1
L９－83（SA）																1										1
L９－84（SL）																			4(3)							4(3)
L９－85（SHC）																			2							2
その他（ORB）																				1						1
その他（AN）																			1							1
その他（SHC）	1										1	1							14							17
その他（CH）																			30	7						37
その他（TU）																			21							21
その他（SA）					1														87	5						93
その他（MO）																			141	4						145
その他（CC）																			12	4						16
TOTAL	9(8)				4	15(10)				17(14)	3					4			843(814)	23	79(48)					997(928)

第14表　Ｌ９－Ａブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	PL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
黒曜石Ｂ（OBB）																				1						1
安山岩（AN）																			10		2					12
流紋岩（RH）																			8							8
頁岩Ｃ（SHC）	1										1	1							16							19
頁岩Ｅ（SHE）																			3(2)							3(2)
チャート（CH）	5(4)				1	2				3	2					1			116(112)	9	15(9)					154(143)
凝灰岩（TU）	1									2									86(82)		16(10)					104(95)
粘板岩（SL）																			4(3)							4(3)
砂岩（SA）					1	11(6)				2						2			238(233)	5	25(5)					284(254)
ホルンフェルス（HO）	2				2	2				9(6)						1			336(322)	4	20					375(360)
頁岩・泥岩（CC）																			26	4	2					32
TOTAL	9(8)				4	15(10)				17(14)	3					4			843(814)	23	79(48)					997(928)

第15表　Ｌ９－Ａブロック礫組成表

母　岩	石　材	個数	重　量
Ｌ９Ｒ－1	SA	1	57.0
Ｌ９Ｒ－2	SA	1	117.2
Ｌ９Ｒ－3	SA	1	38.6
Ｌ９Ｒ－4	SA	1	28.3
Ｌ９Ｒ－5	SA	1	58.6
Ｌ９Ｒ－6	SA	1	36.6
Ｌ９Ｒ－7	SA	1	37.1
Ｌ９Ｒ－8	SA	1	36.4
Ｌ９Ｒ－9	SA	1	55.7
Ｌ９Ｒ－10	SA	1	30.4

母　岩	石　材	個数	重　量
Ｌ９Ｒ－11	SA	1	25.6
Ｌ９Ｒ－12	SA	1	66.5
Ｌ９Ｒ－13	SA	1	76.8
Ｌ９Ｒ－14	SA	1	53.4
Ｌ９Ｒ－15	SA	1	21.4
Ｌ９Ｒ－16	SA	1	63.5
Ｌ９Ｒ－17	SA	1	54.1
Ｌ９Ｒ－18	SA	1	43.0
Ｌ９Ｒ－19	SA	1	34.5
Ｌ９Ｒ－20	SA	1	35.7

母　岩	石　材	個数	重　量
Ｌ９Ｒ－21	SA	1	30.1
Ｌ９Ｒ－22	SA	1	23.0
Ｌ９Ｒ－23	SA	1	56.5
Ｌ９Ｒ－24	SA	1	33.7
Ｌ９Ｒ－25	SA	1	44.8
Ｌ９Ｒ－26	SA	1	45.8
Ｌ９Ｒ－27	SA	1	83.4
Ｌ９Ｒ－28	SA	1	41.7
Ｌ９Ｒ－29	SA	1	50.7
Ｌ９Ｒ－30	SA	1	24.9

母　岩	石　材	個数	重　量
Ｌ９Ｒ－31	SA	1	27.8
Ｌ９Ｒ－32	SA	1	21.0
Ｌ９Ｒ－33	SA	1	30.5
Ｌ９Ｒ－34	SA	1	56.2
Ｌ９Ｒ－35	SA	1	34.1
Ｌ９Ｒ－36	SA	1	96.3
Ｌ９Ｒ－37	SA	1	84.1
Ｌ９Ｒ－38	SA	1	32.9
Ｌ９Ｒ－39	SA	1	33.5
Ｌ９Ｒ－40	SA	1	29.8

母岩	石材	個数	重量
L9R-41	SA	1	56.9
L9R-42	SA	1	34.8
L9R-43	SA	2	36.7
L9R-44	SA	1	47.1
L9R-45	SA	1	49.1
L9R-46	SA	1	64.9
L9R-47	SA	1	49.6
L9R-48	SA	1	56.5
L9R-49	SA	1	69.2
L9R-50	SA	1	33.6
L9R-51	SA	1	42.5
L9R-52	SA	1	28.3
L9R-53	SA	1	32.3
L9R-54	SA	1	73.2
L9R-55	SA	1	34.9
L9R-56	SA	1	29.6
L9R-57	SA	1	53.0
L9R-58	SA	2	55.3
L9R-59	SA	2	102.8
L9R-60	SA	1	31.3
L9R-61	SA	1	56.9
L9R-62	SA	1	74.3
L9R-63	SA	1	32.9
L9R-64	SA	1	84.9
L9R-65	SA	3	89.8
L9R-66	SA	1	150.7
L9R-67	SA	1	111.8
L9R-68	SA	1	102.7
L9R-69	SA	1	92.4
L9R-70	SA	1	129.2
L9R-71	SA	1	97.2
L9R-72	SA	1	66.9
L9R-73	SA	3	47.8
L9R-74	SA	1	26.7
L9R-75	SA	1	38.0
L9R-76	SA	1	30.4
L9R-77	SA	1	40.4
L9R-78	SA	1	39.8
L9R-79	SA	1	62.2
L9R-80	SA	1	57.8
L9R-81	SA	2	51.2
L9R-82	SA	1	32.8
L9R-83	SA	1	48.1
L9R-84	SA	1	63.0
L9R-85	SA	1	30.1
L9R-86	SA	1	83.4
L9R-87	SA	1	48.5
L9R-88	SA	1	87.0
L9R-89	SA	1	46.7
L9R-90	SA	1	40.0
L9R-91	SA	1	39.6
L9R-92	SA	1	77.5
L9R-93	SA	1	38.3
L9R-94	SA	1	44.5
L9R-95	SA	1	41.0
L9R-96	SA	1	30.7
L9R-97	SA	1	40.9
L9R-98	SA	1	41.1
L9R-99	SA	1	33.6
L9R-100	SA	2	31.1

母岩	石材	個数	重量
L9R-101	SA	7	82.6
L9R-102	SA	1	25.9
L9R-103	SA	1	36.4
L9R-104	SA	2	42.7
L9R-105	SA	4	43.7
L9R-106	SA	2	44.9
L9R-107	SA	1	33.9
L9R-108	SA	2	92.8
L9R-109	SA	3	41.1
L9R-110	CH	1	33.0
L9R-111	CH	2	57.0
L9R-112	CH	1	41.6
L9R-113	CH	2	49.5
L9R-114	CH	1	79.3
L9R-115	CH	1	40.1
L9R-116	CH	1	33.2
L9R-117	CH	1	8.5
L9R-118	CH	1	78.9
L9R-119	CH	1	54.8
L9R-120	CH	1	39.5
L9R-121	CH	4	31.9
L9R-122	CH	1	30.1
L9R-123	CH	1	35.8
L9R-124	CH	1	49.6
L9R-125	CH	1	27.2
L9R-126	CH	1	35.2
L9R-127	CH	1	28.4
L9R-128	CH	1	13.4
L9R-129	CH	1	43.0
L9R-130	CH	1	40.7
L9R-131	CH	1	63.6
L9R-132	CH	1	50.8
L9R-133	CH	1	30.2
L9R-134	CH	1	37.3
L9R-135	CH	1	62.7
L9R-136	CH	1	43.9
L9R-137	CH	1	59.1
L9R-138	CH	1	37.8
L9R-139	CH	1	110.7
L9R-140	CH	2	33.6
L9R-141	CH	1	34.8
L9R-142	CH	1	44.9
L9R-143	CH	1	68.1
L9R-144	CH	1	35.6
L9R-145	CH	1	30.4
L9R-146	CH	1	33.4
L9R-147	CH	1	36.8
L9R-148	CH	1	90.3
L9R-149	CH	1	94.5
L9R-150	CH	1	43.6
L9R-151	CH	1	38.7
L9R-152	CH	1	67.0
L9R-153	RH	1	79.7
L9R-154	RH	1	27.4
L9R-155	RH	1	21.7
L9R-156	RH	1	38.4
L9R-157	RH	1	36.9
L9R-158	RH	1	27.4
L9R-159	RH	1	16.0
L9R-160	RH	3	56.9

母岩	石材	個数	重量
L9R-161	RH	1	39.9
L9R-162	RH	2	68.0
L9R-163	RH	1	46.9
L9R-164	RH	2	26.1
L9R-165	RH	1	106.4
L9R-166	RH	4	129.5
L9R-167	RH	3	57.8
L9R-168	RH	1	127.4
L9R-169	RH	1	23.8
L9R-170	RH	1	50.8
L9R-171	RH	1	60.9
L9R-172	RH	1	34.1
L9R-173	RH	4	73.6
L9R-174	RH	1	28.5
L9R-175	RH	1	30.1
L9R-176	RH	1	45.4
L9R-177	RH	1	44.4
L9R-178	RH	1	47.7
L9R-179	RH	1	42.0
L9R-180	RH	6	98.4
L9R-181	RH	1	33.8
L9R-182	RH	4	110.4
L9R-183	RH	1	133.9
L9R-184	RH	2	75.6
L9R-185	RH	1	36.5
L9R-186	RH	1	77.6
L9R-187	RH	1	137.2
L9R-188	HO	1	37.5
L9R-189	HO	3	224.1
L9R-190	HO	1	40.5
L9R-191	HO	1	59.5
L9R-192	HO	3	60.3
L9R-193	HO	3	58.6
L9R-194	HO	1	35.3
L9R-195	HO	1	95.5
L9R-196	HO	1	33.9
L9R-197	AN	1	71.7
L9R-198	AN	1	27.5
L9R-199	AN	1	22.9
L9R-200	AN	1	75.7
L9R-201	AN	1	34.0
L9R-202	AN	4	169.0
L9R-203	AN	1	55.1
L9R-204	AN	1	39.5
L9R-205	AN	1	44.2
L9R-206	AN	1	134.1
L9R-207	SH	1	36.1
L9R-208	SH	1	57.9
L9R-209	SH	1	51.3
L9R-210	CO	1	36.3
L9R-211	CO	1	49.6
L9R-212	CO	1	42.5
L9R-213	CO	1	23.2
L9R-214	CO	1	52.6
L9R-215	CO	1	51.7
L9R-216	CO	3	47.1
L9R-217	不明	1	98.8
L9R-218	不明	1	25.6
L9R-219	RH	4	35.9
L9R-220	RH	24	343.9

母岩	石材	個数	重量
L9R-221	RH	8	482.5
L9R-222	RH	18	166.0
L9R-223	RH	3	113.0
L9R-224	RH	6	389.2
L9R-225	RH	4	133.4
L9R-226	RH	2	44.0
L9R-227	RH	2	23.1
L9R-228	RH	3	35.0
L9R-229	RH	2	66.1
L9R-230	RH	2	58.2
L9R-231	RH	6	115.6
L9R-232	RH	5	43.4
L9R-233	RH	3	97.0
L9R-234	RH	3	49.1
L9R-235	RH	4	74.4
L9R-236	RH	2	67.1
L9R-237	RH	2	18.3
L9R-238	RH	3	18.8
L9R-239	RH	2	6.7
L9R-240	RH	2	35.7
L9R-241	RH	2	83.4
L9R-242	RH	2	66.3
L9R-243	RH	2	29.8
L9R-244	RH	2	35.4
L9R-245	RH	2	18.2
L9R-246	RH	2	20.7
L9R-247	RH	2	19.6
L9R-248	RH	2	23.7
L9R-249	RH	5	79.8
L9R-250	RH	7	81.1
L9R-251	RH	5	40.0
L9R-252	RH	8	136.4
L9R-253	RH	5	62.4
L9R-254	RH	5	47.2
L9R-255	RH	1	59.2
L9R-256	RH	1	36.4
L9R-257	RH	1	24.5
L9R-258	RH	1	40.0
L9R-259	RH	1	24.7
L9R-260	RH	1	36.3
L9R-261	RH	1	47.1
L9R-262	RH	1	19.1
L9R-263	RH	1	54.9
L9R-264	RH	1	41.5
L9R-265	RH	1	33.2
L9R-266	RH	1	24.7
L9R-267	RH	1	27.3
L9R-268	RH	1	80.5
L9R-269	RH	1	73.4
L9R-270	RH	1	31.5
L9R-271	RH	1	20.8
L9R-272	RH	1	13.8
L9R-273	RH	1	55.0
L9R-274	RH	1	26.0
L9R-275	RH	1	20.7
L9R-276	RH	2	66.8
L9R-277	RH	11	334.7
L9R-278	RH	103	1961.7
L9R-279	RH	3	6.6
L9R-280	RH	4	49.8

母岩	石材	個数	重量
L 9 R-281	RH	4	67.2
L 9 R-282	RH	17	264.2
L 9 R-283	AN	8	190.6
L 9 R-284	AN	8	93.9
L 9 R-285	AN	2	31.6
L 9 R-286	AN	1	46.5
L 9 R-287	AN	1	34.3
L 9 R-288	AN	2	20.7
L 9 R-289	AN	2	76.3
L 9 R-290	AN	1	40.2
L 9 R-291	AN	1	24.9
L 9 R-292	AN	2	20.7
L 9 R-293	AN	1	17.2
L 9 R-294	AN	1	17.3
L 9 R-295	AN	1	29.2
L 9 R-296	AN	1	48.8
L 9 R-297	AN	1	41.5
L 9 R-298	AN	4	54.6
L 9 R-299	AN	1	82.2
L 9 R-300	AN	1	3.0
L 9 R-301	SH	2	46.0
L 9 R-302	SH	3	41.0
L 9 R-303	SH	1	43.1
L 9 R-304	SH	2	38.8
L 9 R-305	SH	2	11.8
L 9 R-306	SH	1	44.9
L 9 R-307	SH	2	31.0
L 9 R-308	SH	1	21.3
L 9 R-309	SH	1	14.6
L 9 R-310	SH	2	4.3
L 9 R-311	SH	4	20.7
L 9 R-312	SH	8	24.4
L 9 R-313	SH	5	38.9
L 9 R-314	SH	3	8.0
L 9 R-315	SH	1	10.4
L 9 R-316	SH	1	26.9
L 9 R-317	SH	3	19.3
L 9 R-318	SH	1	10.3
L 9 R-319	SH	1	5.3
L 9 R-320	SH	1	11.2
L 9 R-321	TU	1	45.0
L 9 R-322	TU	1	36.3
L 9 R-323	TU	1	22.4
L 9 R-324	TU	1	30.8
L 9 R-325	TU	1	90.5
L 9 R-326	TU	2	52.8
L 9 R-327	TU	3	64.1
L 9 R-328	TU	1	84.3
L 9 R-329	TU	1	25.0
L 9 R-330	TU	4	161.1
L 9 R-331	TU	4	67.7
L 9 R-332	TU	6	130.9
L 9 R-333	TU	4	107.5
L 9 R-334	TU	4	154.1
L 9 R-335	TU	11	77.6
L 9 R-336	TU	3	41.5
L 9 R-337	TU	1	26.7
L 9 R-338	TU	1	12.4
L 9 R-339	TU	1	21.8
L 9 R-340	TU	1	23.2

母岩	石材	個数	重量
L 9 R-341	TU	2	74.2
L 9 R-342	CO	1	98.3
L 9 R-343	CO	1	63.0
L 9 R-344	CO	3	33.7
L 9 R-345	CO	1	35.2
L 9 R-346	CH	7	74.4
L 9 R-347	CH	12	70.1
L 9 R-348	CH	10	91.6
L 9 R-349	CH	5	50.2
L 9 R-350	CH	9	120.4
L 9 R-351	CH	6	126.5
L 9 R-352	CH	6	110.7
L 9 R-353	CH	1	27.0
L 9 R-354	CH	2	31.3
L 9 R-355	CH	7	53.9
L 9 R-356	CH	3	53.4
L 9 R-357	CH	1	41.9
L 9 R-358	CH	6	52.6
L 9 R-359	CH	2	38.2
L 9 R-360	CH	3	50.5
L 9 R-361	CH	2	31.3
L 9 R-362	CH	5	76.9
L 9 R-363	CH	5	44.7
L 9 R-364	CH	2	30.8
L 9 R-365	CH	1	29.8
L 9 R-366	CH	1	21.5
L 9 R-367	CH	1	3.5
L 9 R-368	CH	4	51.3
L 9 R-369	CH	3	93.4
L 9 R-370	CH	6	78.9
L 9 R-371	CH	7	53.3
L 9 R-372	CH	8	49.8
L 9 R-373	CH	6	20.9
L 9 R-374	CH	13	121.9
L 9 R-375	CH	5	26.5
L 9 R-376	CH	11	75.3
L 9 R-377	CH	4	89.3
L 9 R-378	CH	5	76.1
L 9 R-379	CH	5	38.7
L 9 R-380	CH	4	61.5
L 9 R-381	CH	4	34.2
L 9 R-382	CH	4	57.8
L 9 R-383	CH	7	58.2
L 9 R-384	CH	8	43.7
L 9 R-385	CH	3	26.2
L 9 R-386	CH	10	50.9
L 9 R-387	CH	3	45.9
L 9 R-388	CH	4	39.3
L 9 R-389	CH	5	42.6
L 9 R-390	CH	2	25.7
L 9 R-391	CH	2	43.7
L 9 R-392	CH	2	9.8
L 9 R-393	CH	1	46.8
L 9 R-394	CH	1	29.2
L 9 R-395	CH	1	22.3
L 9 R-396	CH	1	15.2
L 9 R-397	CH	1	14.1
L 9 R-398	CH	1	7.0
L 9 R-399	CH	13	97.3
L 9 R-400	CH	7	38.5

母岩	石材	個数	重量
L 9 R-401	CH	3	31.0
L 9 R-402	CH	9	65.8
L 9 R-403	CH	2	42.0
L 9 R-404	CH	2	27.6
L 9 R-405	CH	7	44.5
L 9 R-406	CH	5	62.0
L 9 R-407	CH	4	43.1
L 9 R-408	CH	4	57.1
L 9 R-409	CH	3	24.6
L 9 R-410	CH	4	34.5
L 9 R-411	CH	6	65.1
L 9 R-412	CH	2	40.9
L 9 R-413	CH	4	45.8
L 9 R-414	CH	4	34.3
L 9 R-415	CH	2	19.2
L 9 R-416	CH	12	81.8
L 9 R-417	CH	1	48.0
L 9 R-418	CH	8	49.9
L 9 R-419	CH	2	61.8
L 9 R-420	CH	1	27.7
L 9 R-421	CH	4	20.6
L 9 R-422	CH	11	39.0
L 9 R-423	CH	3	79.7
L 9 R-424	CH	2	25.9
L 9 R-425	CH	4	16.0
L 9 R-426	CH	4	27.1
L 9 R-427	CH	6	64.1
L 9 R-428	CH	5	33.6
L 9 R-429	CH	5	92.3
L 9 R-430	CH	3	46.2
L 9 R-431	CH	6	37.5
L 9 R-432	CH	6	22.8
L 9 R-433	CH	4	39.3
L 9 R-434	CH	2	16.4
L 9 R-435	CH	3	36.2
L 9 R-436	CH	4	37.3
L 9 R-437	CH	3	27.8
L 9 R-438	CH	2	33.0
L 9 R-439	CH	2	13.1
L 9 R-440	CH	2	23.7
L 9 R-441	CH	3	60.5
L 9 R-442	CH	1	19.7
L 9 R-443	CO	3	58.0
L 9 R-444	CO	4	38.3
L 9 R-445	CO	5	81.1
L 9 R-446	CO	1	54.4
L 9 R-447	CO	1	75.9
L 9 R-448	CO	1	33.8
L 9 R-449	CO	2	50.0
L 9 R-450	CO	1	9.2
L 9 R-451	CO	11	222.3
L 9 R-452	QU	3	30.9
L 9 R-453	HO	9	132.9
L 9 R-454	HO	4	74.8
L 9 R-455	HO	4	50.9
L 9 R-456	HO	1	33.9
L 9 R-457	HO	1	62.2
L 9 R-458	HO	2	59.5
L 9 R-459	HO	1	115.8
L 9 R-460	HO	3	67.1

母岩	石材	個数	重量
L 9 R-461	HO	2	31.4
L 9 R-462	HO	2	69.1
L 9 R-463	HO	2	46.2
L 9 R-464	HO	2	37.7
L 9 R-465	HO	1	28.7
L 9 R-466	HO	1	18.2
L 9 R-467	HO	1	28.1
L 9 R-468	HO	1	18.4
L 9 R-469	HO	1	23.4
L 9 R-470	HO	1	41.3
L 9 R-471	HO	1	18.0
L 9 R-472	HO	1	20.5
L 9 R-473	HO	2	22.0
L 9 R-474	HO	1	32.7
L 9 R-475	HO	1	14.1
L 9 R-476	HO	1	12.8
L 9 R-477	HO	1	7.1
L 9 R-478	HO	1	11.0
L 9 R-479	HO	1	23.3
L 9 R-480	HO	1	20.7
L 9 R-481	HO	1	19.6
L 9 R-482	HO	1	16.0
L 9 R-483	HO	7	363.0
L 9 R-484	HO	4	79.5
L 9 R-485	HO	24	289.1
L 9 R-486	SA	10	195.1
L 9 R-487	SA	10	134.1
L 9 R-488	SA	4	90.3
L 9 R-489	SA	5	111.7
L 9 R-490	SA	5	139.7
L 9 R-491	SA	8	144.5
L 9 R-492	SA	5	79.4
L 9 R-493	SA	2	142.0
L 9 R-494	SA	3	97.0
L 9 R-495	SA	4	95.5
L 9 R-496	SA	1	100.6
L 9 R-497	SA	3	61.6
L 9 R-498	SA	2	84.2
L 9 R-499	SA	4	101.2
L 9 R-500	SA	2	66.0
L 9 R-501	SA	2	62.4
L 9 R-502	SA	2	53.0
L 9 R-503	SA	2	47.9
L 9 R-504	SA	1	35.7
L 9 R-505	SA	1	75.0
L 9 R-506	SA	2	56.3
L 9 R-507	SA	1	58.8
L 9 R-508	SA	1	55.4
L 9 R-509	SA	1	48.7
L 9 R-510	SA	4	72.3
L 9 R-511	SA	1	27.4
L 9 R-512	SA	2	47.5
L 9 R-513	SA	3	49.7
L 9 R-514	SA	1	36.7
L 9 R-515	SA	1	46.0
L 9 R-516	SA	1	50.2
L 9 R-517	SA	1	32.2
L 9 R-518	SA	2	46.0
L 9 R-519	SA	2	35.1
L 9 R-520	SA	2	65.3

母　岩	石　材	個数	重　量
L 9 R-521	SA	1	35.1
L 9 R-522	SA	1	37.8
L 9 R-523	SA	2	66.6
L 9 R-524	SA	4	234.5
L 9 R-525	SA	4	48.0
L 9 R-526	SA	2	115.4
L 9 R-527	SA	2	37.7
L 9 R-528	SA	1	68.0
L 9 R-529	SA	1	33.4
L 9 R-530	SA	3	154.4
L 9 R-531	SA	4	56.9
L 9 R-532	SA	5	89.9
L 9 R-533	SA	1	58.0
L 9 R-534	SA	4	64.8
L 9 R-535	SA	4	56.3
L 9 R-536	SA	2	61.6
L 9 R-537	SA	6	83.1
L 9 R-538	SA	5	85.1
L 9 R-539	SA	5	99.8
L 9 R-540	SA	1	41.7
L 9 R-541	SA	3	32.2
L 9 R-542	SA	3	41.5
L 9 R-543	SA	5	54.6
L 9 R-544	SA	2	47.4
L 9 R-545	SA	7	98.0
L 9 R-546	SA	4	100.3
L 9 R-547	SA	1	75.1
L 9 R-548	SA	2	52.0
L 9 R-549	SA	7	80.9
L 9 R-550	SA	3	94.6
L 9 R-551	SA	1	49.8
L 9 R-552	SA	6	94.1
L 9 R-553	SA	1	40.1
L 9 R-554	SA	2	56.5
L 9 R-555	SA	4	51.3
L 9 R-556	SA	3	107.2
L 9 R-557	SA	3	76.2
L 9 R-558	SA	9	96.1
L 9 R-559	SA	7	256.3
L 9 R-560	SA	8	247.6
L 9 R-561	SA	5	213.7
L 9 R-562	SA	10	209.2
L 9 R-563	SA	4	38.7
L 9 R-564	SA	9	84.9
L 9 R-565	SA	3	61.2
L 9 R-566	SA	3	91.4
L 9 R-567	SA	4	31.6
L 9 R-568	SA	22	275.4
L 9 R-569	SA	12	288.9
L 9 R-570	SA	8	129.5
L 9 R-571	SA	7	175.1
L 9 R-572	SA	7	185.4
L 9 R-573	SA	9	120.0
L 9 R-574	SA	8	111.8
L 9 R-575	SA	5	121.4
L 9 R-576	SA	6	120.1
L 9 R-577	SA	5	57.7
L 9 R-578	SA	2	68.8
L 9 R-579	SA	4	92.4
L 9 R-580	SA	4	101.3

母　岩	石　材	個数	重　量
L 9 R-581	SA	2	75.7
L 9 R-582	SA	4	66.9
L 9 R-583	SA	3	88.2
L 9 R-584	SA	3	107.3
L 9 R-585	SA	2	36.9
L 9 R-586	SA	3	51.2
L 9 R-587	SA	2	42.3
L 9 R-588	SA	3	82.8
L 9 R-589	SA	2	51.9
L 9 R-590	SA	2	32.3
L 9 R-591	SA	3	50.0
L 9 R-592	SA	2	20.5
L 9 R-593	SA	2	32.5
L 9 R-594	SA	2	17.7
L 9 R-595	SA	2	31.0
L 9 R-596	SA	2	36.7
L 9 R-597	SA	2	24.0
L 9 R-598	SA	3	39.7
L 9 R-599	SA	2	28.8
L 9 R-600	SA	2	29.4
L 9 R-601	SA	2	43.7
L 9 R-602	SA	2	36.2
L 9 R-603	SA	2	20.9
L 9 R-604	SA	2	39.8
L 9 R-605	SA	2	46.7
L 9 R-606	SA	2	23.7
L 9 R-607	SA	2	32.9
L 9 R-608	SA	3	21.7
L 9 R-609	SA	17	177.4
L 9 R-610	SA	9	117.6
L 9 R-611	SA	17	217.2
L 9 R-612	SA	6	75.7
L 9 R-613	SA	4	52.3
L 9 R-614	SA	5	85.3
L 9 R-615	SA	6	102.4
L 9 R-616	SA	8	190.6
L 9 R-617	SA	5	70.1
L 9 R-618	SA	2	39.1
L 9 R-619	SA	3	115.0
L 9 R-620	SA	2	95.1
L 9 R-621	SA	2	88.0
L 9 R-622	SA	1	47.6
L 9 R-623	SA	2	57.8
L 9 R-624	SA	3	84.1
L 9 R-625	SA	5	92.4
L 9 R-626	SA	4	61.6
L 9 R-627	SA	2	52.3
L 9 R-628	SA	6	46.9
L 9 R-629	SA	2	31.7
L 9 R-630	SA	2	57.9
L 9 R-631	SA	3	84.0
L 9 R-632	SA	2	52.6
L 9 R-633	SA	5	90.3
L 9 R-634	SA	4	94.9
L 9 R-635	SA	3	56.1
L 9 R-636	SA	2	13.6
L 9 R-637	SA	2	92.3
L 9 R-638	SA	4	55.7
L 9 R-639	SA	2	33.4
L 9 R-640	SA	4	34.7

母　岩	石　材	個数	重　量
L 9 R-641	SA	2	33.7
L 9 R-642	SA	2	18.4
L 9 R-643	SA	2	38.9
L 9 R-644	SA	4	39.8
L 9 R-645	SA	2	35.4
L 9 R-646	SA	2	34.5
L 9 R-647	SA	5	85.3
L 9 R-648	SA	3	62.3
L 9 R-649	SA	3	73.5
L 9 R-650	SA	2	20.6
L 9 R-651	SA	5	52.5
L 9 R-652	SA	2	45.9
L 9 R-653	SA	3	38.9
L 9 R-654	SA	2	24.4
L 9 R-655	SA	2	64.3
L 9 R-656	SA	2	94.3
L 9 R-657	SA	2	41.4
L 9 R-658	SA	5	56.8
L 9 R-659	SA	2	23.7
L 9 R-660	SA	3	58.5
L 9 R-661	SA	3	48.0
L 9 R-662	SA	2	60.1
L 9 R-663	SA	4	53.6
L 9 R-664	SA	2	50.0
L 9 R-665	SA	2	16.3
L 9 R-666	SA	2	69.1
L 9 R-667	SA	4	102.2
L 9 R-668	SA	2	48.4
L 9 R-669	SA	4	99.5
L 9 R-670	SA	4	52.2
L 9 R-671	SA	2	80.8
L 9 R-672	SA	2	41.1
L 9 R-673	SA	2	36.3
L 9 R-674	SA	2	17.6
L 9 R-675	SA	8	62.0
L 9 R-676	SA	2	45.9
L 9 R-677	SA	3	49.2
L 9 R-678	SA	2	39.3
L 9 R-679	SA	2	12.2
L 9 R-680	SA	1	45.5
L 9 R-681	SA	1	24.2
L 9 R-682	SA	1	37.8
L 9 R-683	SA	1	49.1
L 9 R-684	SA	1	85.1
L 9 R-685	SA	1	55.4
L 9 R-686	SA	1	58.3
L 9 R-687	SA	1	32.2
L 9 R-688	SA	1	37.8
L 9 R-689	SA	1	24.4
L 9 R-690	SA	1	38.7
L 9 R-691	SA	1	42.5
L 9 R-692	SA	1	39.0
L 9 R-693	SA	1	33.0
L 9 R-694	SA	1	53.7
L 9 R-695	SA	1	42.6
L 9 R-696	SA	1	28.4
L 9 R-697	SA	1	39.5
L 9 R-698	SA	1	37.6
L 9 R-699	SA	1	46.9
L 9 R-700	SA	2	16.7

母　岩	石　材	個数	重　量
L 9 R-701	SA	1	25.1
L 9 R-702	SA	1	12.1
L 9 R-703	SA	1	18.0
L 9 R-704	SA	1	15.6
L 9 R-705	SA	1	22.4
L 9 R-706	SA	1	18.3
L 9 R-707	SA	2	16.7
L 9 R-708	SA	1	20.5
L 9 R-709	SA	1	13.4
L 9 R-710	SA	1	19.3
L 9 R-711	SA	1	24.1
L 9 R-712	SA	1	21.5
L 9 R-713	SA	1	20.0
L 9 R-714	SA	1	20.0
L 9 R-715	SA	1	24.6
L 9 R-716	SA	2	30.1
L 9 R-717	SA	1	12.7
L 9 R-718	SA	1	18.7
L 9 R-719	SA	1	23.3
L 9 R-720	SA	1	33.6
L 9 R-721	SA	1	23.3
L 9 R-722	SA	1	27.4
L 9 R-723	SA	2	18.0
L 9 R-724	SA	1	20.3
L 9 R-725	SA	1	19.6
L 9 R-726	SA	1	33.7
L 9 R-727	SA	1	43.8
L 9 R-728	SA	1	28.0
L 9 R-729	SA	1	10.8
L 9 R-730	SA	1	32.1
L 9 R-731	SA	1	22.2
L 9 R-732	SA	1	32.9
L 9 R-733	SA	1	23.5
L 9 R-734	SA	1	17.0
L 9 R-735	SA	1	41.9
L 9 R-736	SA	1	23.4
L 9 R-737	SA	1	33.0
L 9 R-738	SA	1	35.7
L 9 R-739	SA	1	21.9
L 9 R-740	SA	1	18.0
L 9 R-741	SA	1	27.3
L 9 R-742	SA	1	20.9
L 9 R-743	SA	1	28.5
L 9 R-744	SA	1	24.5
L 9 R-745	SA	1	28.5
L 9 R-746	SA	1	22.2
L 9 R-747	SA	1	18.0
L 9 R-748	SA	1	19.8
L 9 R-749	SA	1	30.8
L 9 R-750	SA	1	15.2
L 9 R-751	SA	1	24.7
L 9 R-752	SA	1	34.1
L 9 R-753	SA	1	25.6
L 9 R-754	SA	2	28.7
L 9 R-755	SA	1	42.1
L 9 R-756	SA	1	19.8
L 9 R-757	SA	1	29.1
L 9 R-758	SA	1	29.6
L 9 R-759	SA	1	34.9
L 9 R-760	SA	1	32.0

母　岩	石　材	個数	重　量
L９R-761	SA	1	42.4
L９R-762	SA	1	47.5
L９R-763	SA	1	17.0
L９R-764	SA	1	29.8
L９R-765	SA	1	24.9
L９R-766	SA	1	38.1
L９R-767	SA	1	35.7
L９R-768	SA	1	26.9
L９R-769	SA	1	11.1
L９R-770	SA	1	19.7
L９R-771	SA	1	22.5
L９R-772	SA	1	29.3
L９R-773	SA	1	28.2
L９R-774	SA	1	29.3
L９R-775	SA	1	22.4

母　岩	石　材	個数	重　量
L９R-776	SA	1	21.6
L９R-777	SA	1	39.7
L９R-778	SA	1	22.2
L９R-779	SA	1	41.6
L９R-780	SA	1	23.1
L９R-781	SA	1	37.6
L９R-782	SA	1	35.6
L９R-783	SA	1	27.9
L９R-784	SA	1	38.6
L９R-785	SA	1	14.5
L９R-786	SA	2	14.3
L９R-787	TU	3	22.9
L９R-788	CH	2	9.6
その他	RH	153	358.6
その他	SH	18	74.3

母　岩	石　材	個数	重　量
その他	CH	337	613.8
その他	TU	20	31.1
その他	SA	1332	6171.4
その他	HO	160	220.6
その他	CC	4	1.2
その他	CO	20	58.5

石　材	個数	重　量
安山岩(AN)	52	1517.3
流紋岩(RH)	533	9122.6
頁岩(SH)	66	690.4
チャート(CH)	817	7156.4
凝灰岩(TU)	77	1402.6
砂岩(SA)	2268	29034.3
ホルンフェルス(HO)	262	2753.6
石英(QU)	3	30.9
瑪瑙・玉髄(CC)	4	1.2
礫岩(CO)	64	1214.4
不明(UK)	2	124.4
合　計	4148	53048.0

・L9-68（第97・98図）　灰色（5Y5/1）の砂岩である。加工痕ある剥片１点，剥片４点，石核20点（１個体）の合計25点（６個体）で構成される。

277は加工痕ある剥片１点（279），剥片４点（278・280～282），石核20点（１個体；283）の接合資料である。その他にブロック外の剥片１点（282）が接合する。拳ほどの不定型な棒状の礫を素材として，右側面に敲打痕がみられることから，敲石として使用され，その後，大きく４つに分割あるいは欠損している。この内，上部の278～282は表面方向から278→279，上方向から280，再び表面方向から281→282の順に不定型な剥片を剥離し作業を終了している。279は裏面右側縁の上部と下部に調整加工を行っている。283は節理あるいは被熱等で欠損している。また，280と283は被熱のため赤化している。

・L9-77（第99図286～290）　灰色（5Y5/1）の砂岩である。剥片４点で構成される。

286は剥片４点（287～290）の接合資料である。上方向から287→289→288→290の順に不定型な剥片を剥離している。

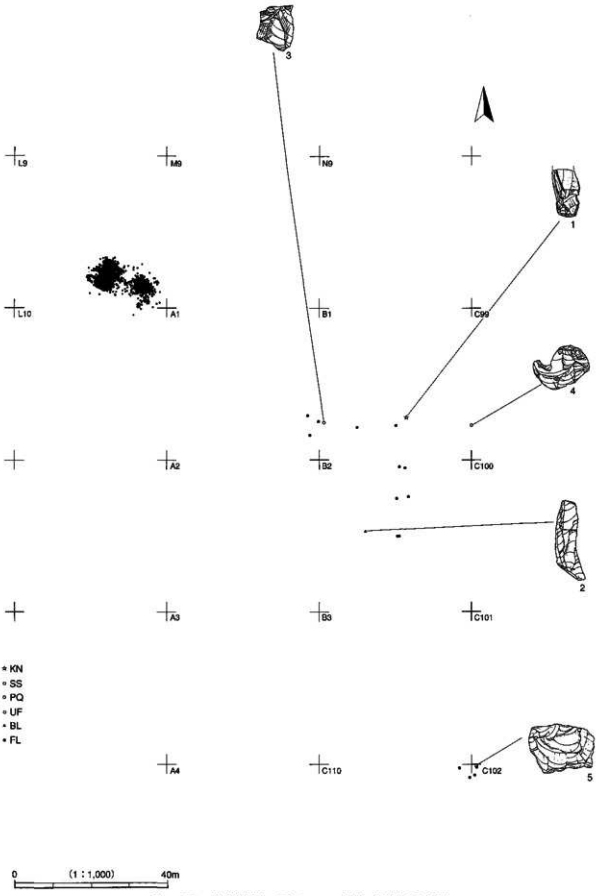
・L9-76（第99図291～293）　黄灰色（2.5Y4/1）の砂岩である。剥片１点，石核１点の合計２点で構成される。

291は剥片１点（292），石核１点（293）の接合資料である。打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。

第３節　ブロック外出土遺物

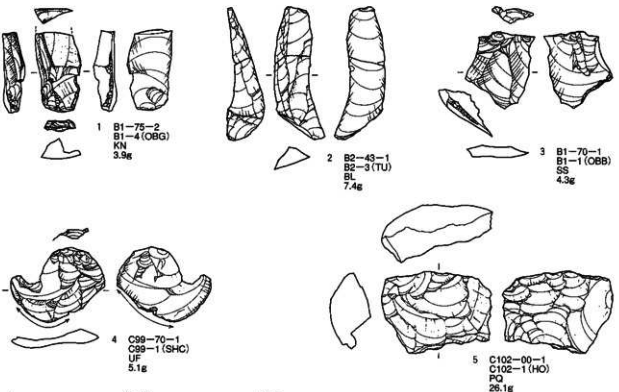
ここでは，ブロックを形成していないグリッド単独（２点以下）出土の遺物について記述する。20か所で単独に旧石器時代石器が出土した。（第101・102図，カラー図版６）

１は自然面及び内部が黒灰色で産地不明の黒曜石によるナイフ形石器である。縦長剥片を縦位に用い，末端を先端部として，基部に調整加工を行っている。上部が欠損している。B1-75グリッドのⅨ層から出土している。産地は不明である。２はオリーブ灰色（10Y4/2）の凝灰岩による石刃である。表面には裏面と同一方向の剥離面とともに逆方向の剥離面や表面方向からの剥離面も見られる。B2-43グリッドのⅨ層から出土している。３は透明でφ１㎜ほどの夾雑物を含む信州和田峠周辺産の黒曜石による削器である。



第101図　草刈遺跡H区ブロック外出土遺物分布図

裏面右側縁下部に調整加工を行っている。B1-70グリッドから出土しているが，出土層位は不明である。４は灰色（5Y4/1）の地にオリーブ黒色（5Y3/1）の斑と筋が入る嶽岡産頁岩による使用痕ある剥片である。表裏両面の末端に刃こぼれが見られる。C99-70グリッドから出土しているが，出土層位は不明である。５は暗灰黄色（2.5Y5/2）のホルンフェルスによる楔形石器である。両端に対向する剥離痕が見られる。C102-00グリッドのⅥ層から出土している。なお，５を含むC102-00及びC110-09グリッドのⅥ層からⅦ層にかけて出土した５点は，平面的な分布や出土層位さらに石材など共通する点も多いことから，１つのブロックとして認識した方が良いかもしれない。



第102図　草刈遺跡Ⅱ区ブロック外出土遺物実測図

第４章　草刈遺跡Ⅰ区（219-047）

第１節　調査の概要

草刈遺跡Ⅰ区では，旧石器時代（下層）の調査を平成２年度に実施した。調査区の位置は，草刈遺跡の北西部にあたり，北側は千葉市と市原市とを画する茂呂谷津に面し，南側は村田川に面した台地の中央である。

調査対象面積は，10,200㎡で，調査対象面積の４％を基本として確認調査を行い，その結果に基づいて272㎡の本調査を行った。調査の結果，６か所のブロックと４か所の単独出土地点を検出した（第103図）。

本調査区における６か所のブロックは，以下のとおり２枚の文化層に区分できる。文化層の設定は，草刈遺跡全域で行っており，本調査区の石器群は，第３・４文化層にあたる。

第３文化層は，立川ローム層第２黒色帯下半部（Ⅸ層下部）に包含される石器群で，10点の石器が１か所のブロック（E5-Bブロック）から出土した。

第４文化層は，立川ローム層第２黒色帯上半部（Ⅶ～Ⅸ層上部）に包含される石器群で，230点の石器と４点の礫が５か所のブロック（E5-A，D6-A・B，E6-A・Bブロック）から出土した。

第２節　第３文化層

１　E5-Bブロック（第104～106・231図，第16・17表，カラー図版６）

第３文化層は，立川ローム層第２黒色帯下半部（Ⅸ層下部）に包含される石器群で，E5-Bブロックの１か所が該当する。

１）ブロックの概要

E5-Bブロックは，調査範囲中央のE5-44～46，E5-55・56グリッドに位置する。ブロックの立地は，北に向かって緩やかに下る台地北側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）に位置する。

ブロックの規模と形状は，長軸10m，短軸５ｍの範囲に10点の石器が散漫に分布する。出土層位は，Ⅸａ層からⅨｃ層にかけてで，60cmほどの高低差をもって包含されている（第104・105図）。

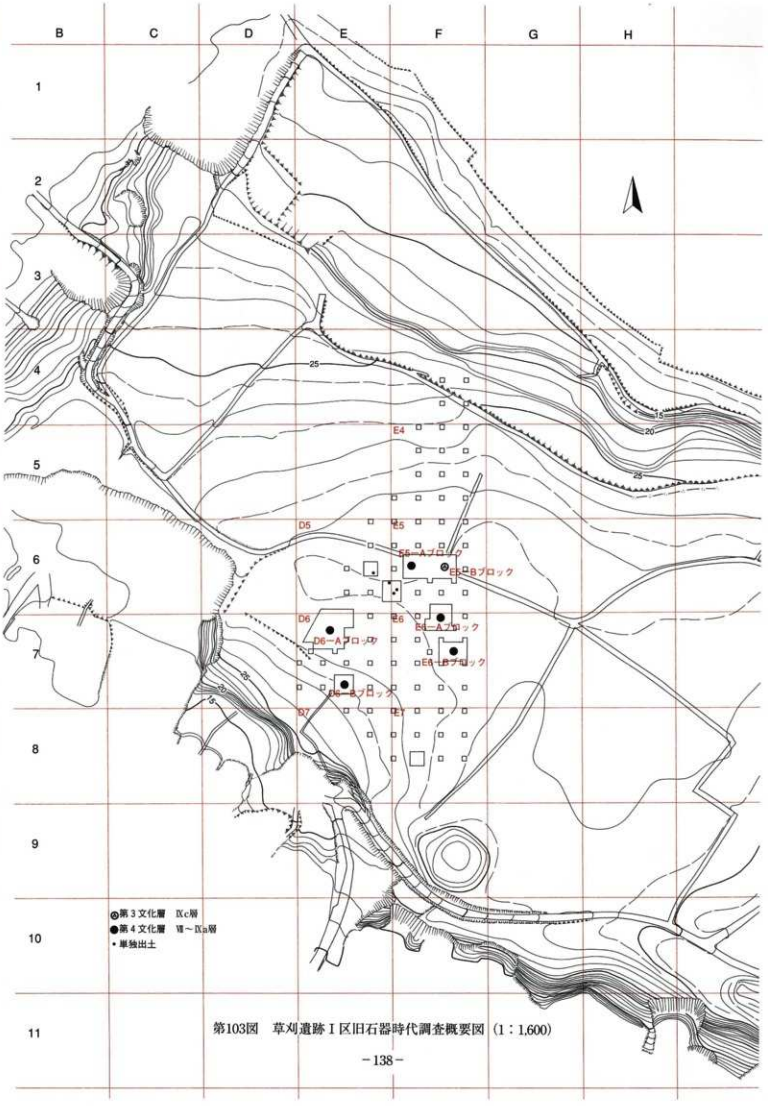
ブロックは，使用痕ある剥片４点，石刃１点，剥片４点，石核１点の合計10点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｆ８点，黒曜石Ｇ１点，チャート１点である。

２）母岩の特徴と内容

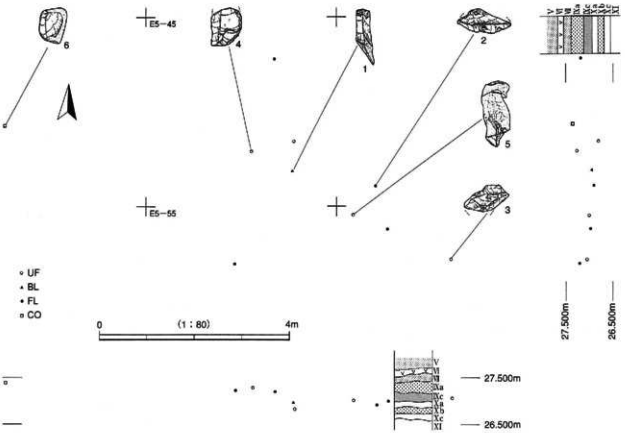
本ブロックでは５母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｆ３母岩（E5-１～３），黒曜石Ｇ１母岩（E5-４），チャート１母岩（E5-５）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（10/10点）である。

・E5-１：自然面は黒灰色で紙ヤスリ状，内部は黒灰色の地に灰色がかった縞が入る黒曜石である。φ１㎜ほどの夾雑物を含む。神津島産と考えられる。石器群の内訳は，石刃１点，使用痕ある剥片２点の合計３点（7.2ｇ）である。

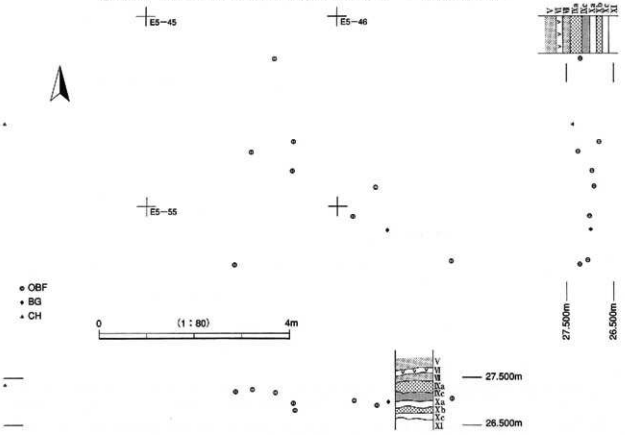
・E5-２：自然面は淡い黒色半透明で紙ヤスリ状，内部は黒灰色の地に灰色の縞が入る黒曜石である。φ１㎜ほどの夾雑物を含む。神津島産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片２点（5.6ｇ）である。



第103図　草刈遺跡Ⅰ区旧石器時代調査概要図（1：1,600）



第104図　Ｅ５－Ｂブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－



第105図　Ｅ５－Ｂブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

・E5-３：黒灰色半透明で灰色のモヤが入る黒曜石である。E5-２母岩に類似した質感であるが，やや夾雑物が少ない。あるいはE5-２と同一母岩かもしれない。神津島産と考えられる。石器群の内訳は，剥片３点（3.1ｇ）である。

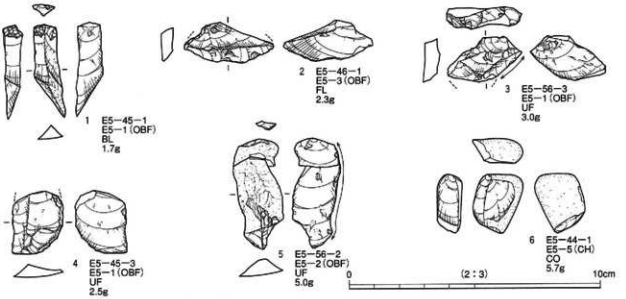
・E5-４：淡黒色半透明の黒曜石である。φ１㎜ほどの夾雑物を含む。産地は不明である。剥片１点（1.1ｇ）の単独資料である。

・E5-５：自然面及び内部がオリーブ灰色（2.5GY5/1）のチャートである。石核１点（5.7ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第106図）

１～５は神津島産の黒曜石である。１は石刃である。表面の打面直下に細かな剥離面が連続する。３・４は不定型な剥片を利用した使用痕ある剥片である。３は左側縁下部に刃こぼれが見られる。下部を欠損している。４は右側縁に刃こぼれが見られる。上部と下部を欠損している。５は使用痕ある剥片である。縦長剥片の裏面右側面縁に刃こぼれが見られる。２は不定型な剥片である。上部を欠損している。

６はチャートの石核である。２㎝ほどの不定型な偏平礫を用い，下部を切断するように剥離した後，自然面を打面として右側上部から剥片を剥離している。



第106図　Ｅ５－Ｂブロック出土遺物実測図

第16表　Ｅ５－Ｂブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
E５－１(OBF)											2	1														3
E５－２(OBF)											2															2
E５－３(OBF)																			3							3
E５－４(OBG)																			1							1
E５－５(CH)																					1					1
TOTAL											4	1							4		1					10

第17表　Ｅ５－Ｂブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
黒曜石F(OBF)											4	1							3							8
黒曜石G(OBG)																			1							1
チャート(CH)																					1					1
TOTAL											4	1							4		1					10

第3節　第4文化層

第4文化層は，立川ローム層第2黒色帯上半部（Ⅶ層～Ⅸ層上部）に包含される石器群で，D6-A・B，E5-A，E6-A・Bブロックの5か所が該当する。

1　D6-Aブロック（第107～116・231図，第18・19表，カラー図版6・7・14，図版3）

1）ブロックの概要

D6-Aブロックは，調査範囲中央のD6-02～05，D6-11～14，D6-21～24，D6-32・34グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地のほぼ中央である。

ブロックの規模と形状は，長軸20m，短軸13mの楕円形の範囲に141点の石器が散漫に分布する。出土層位は，Ⅳ・Ⅴ層からⅨa層にかけてで，1mほどの高低差をもって地形に沿って包含されている（第107～109図）。

ブロックは，ナイフ形石器4点，楔形石器2点，使用痕ある剥片1点，石刃17点（14個体），敲石2点，剥片107点（105個体），砕片5点，石核3点の合計141点（136個体）で構成される。石器石材は，黒曜石B1点，黒曜石C100点（96個体），安山岩3点，頁岩A1点，頁岩B11点，頁岩C4点，頁岩D15点（14個体），頁岩E2点，凝灰岩2点，砂岩2点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは28母岩を識別した。内訳は，黒曜石B1母岩（D6-8），黒曜石C7母岩（D6-1～7），安山岩1母岩（D6-26），凝灰岩2母岩（D6-24・25），頁岩A1母岩（D6-19），頁岩B9母岩（D6-10～18），頁岩C2母岩（D6-22・23），頁岩D1母岩（D6-9），頁岩E2母岩（D6-20・21），砂岩2母岩（D6-27・28）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は78%（110/141点）である。

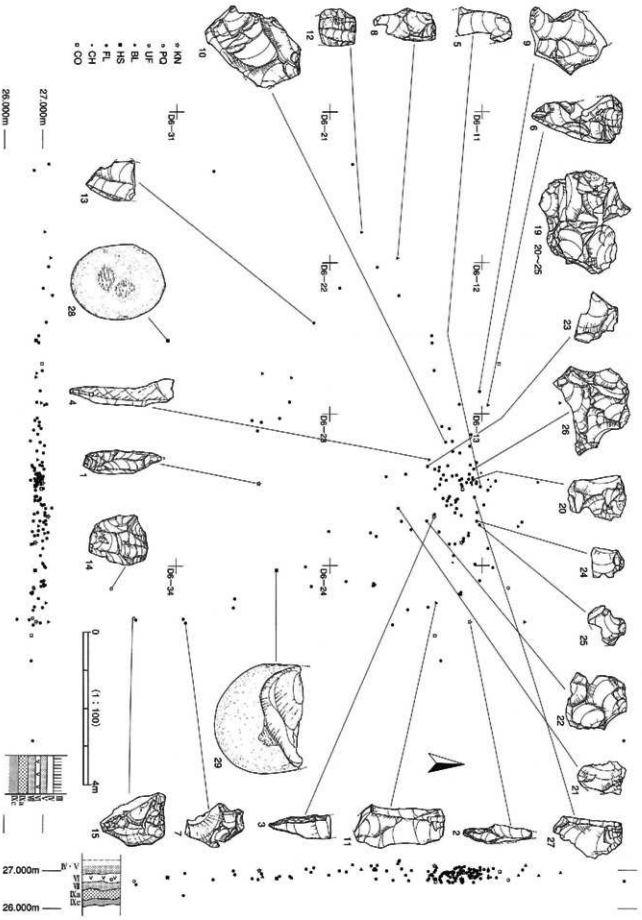
・**D6-1**：淡黒色透明な地に灰色がかったモヤと細かい気泡が入る黒曜石である。φ1㎜ほどの夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，石刃4点（3個体），剥片28点，石核1点の合計34点（33個体；95.9g）である。接合資料は，3グループあり，Aグループは剥片2点（17.1g），Bグループは剥片1点，石核1点の合計2点（34.7g），Cグループは石刃2点（1個体；1.0g）である。

・**D6-2**：内部及び節理は淡黒色半透明で灰色がかったモヤが入る黒曜石である。節理は紙ヤスリ状である。φ1㎜ほどの夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，石刃2点(1個体)，剥片14点(13個体)，石核1点の合計17点（15個体；56.8g）である。接合資料は，石刃2点（1個体；15.0g）のものと剥片2点（1個体；9.6g）のものがある。

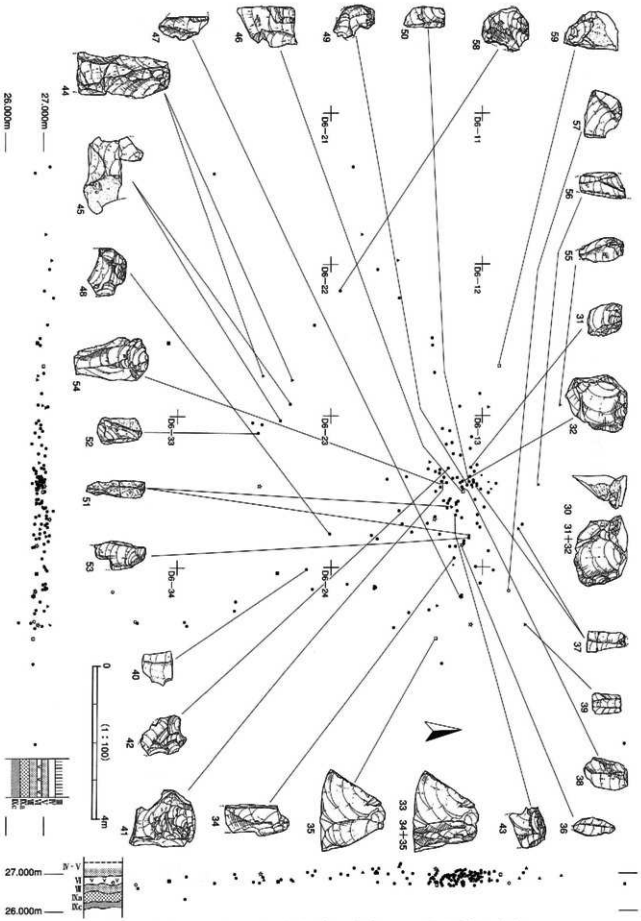
・**D6-3**：淡黒色透明な地に薄墨を流した様なモヤと細かい気泡が多数入る黒曜石である。φ1㎜ほどの夾雑物を多く含む。信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，石刃2点（1個体），剥片6点の合計8点（7個体；22.2g）である。接合資料は，石刃2点（1個体；1.6g）がある。

・**D6-4**：淡黒色透明な地に薄墨を流した様なモヤを部分的に含み，細かい気泡が入る黒曜石である。φ2㎜ほどの夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，石刃2点，剥片2点の合計5点（10.1g）である。

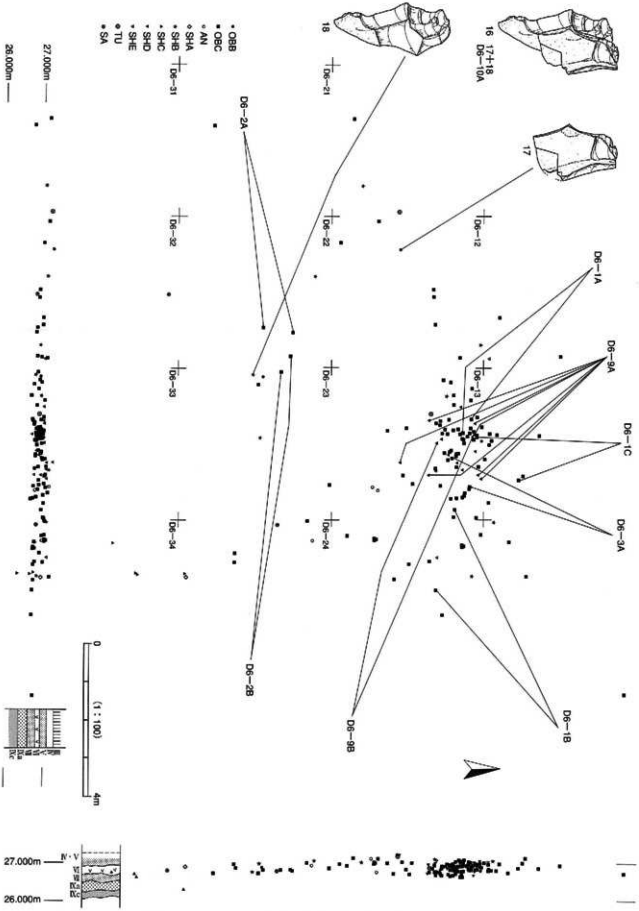
・**D6-5**：淡黒色透明な地に黒灰色の縞を含む黒曜石である。φ1㎜ほどの夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，剥片2点（4.1g）である。



第107図　Ｄ６－Ａブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図（１）－



第108図　D6－Aブロック出土遺物分布図（2）　－石器別分布図（2）－



第109図　Ｄ６－Ａブロック出土遺物分布図（３）　－石材別分布図－

・D6-6：薄墨を流した様な透明な地に細かい気泡が多数入る黒曜石である。φ1㎜ほどの夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，剥片2点（4.0g）である。

・D6-7：自然面は灰褐色（10YR5/2），内部は灰色（N4/0）の黒曜石である。φ1㎜～2㎜の夾雑物を多く含む。白濁した箇所や黄褐色の箇所など各面で異なる。被熱の可能性がある。信州麦草峠産と考えられる。石核1点（25.7g）の単独資料である。

・D6-8：黒灰色の地に灰色の縞が平行して入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点（1.3g）の単独資料である。

・D6-9：暗灰緑色（5G3/1）及びオリーブ灰色（10Y4/2），新鮮な面は黒色の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片15点（14個体；64.4g）である。接合資料は，剥片7点（50.4g）のものと剥片2点（1個体；1.9g）のものがある。

・D6-10：自然面及び内部が暗灰色（N3/0）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（35.0g）で，すべて接合している。

・D6-11：褐灰色（10YR4/1）の地に暗灰色（N3/0）の縞が入る北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石刃1点，剥片1点の合計2点（24.5g）である。

・D6-12：灰色（N4/0），褐灰色（10YR4/1）の北関東産頁岩である。ナイフ形石器1点（4.1g）の単独資料である。

・D6-13：褐色（7.5YR4/3）の地ににぶい赤褐色（2.5YR5/4）を部分的に含む北関東産頁岩である。ナイフ形石器1点（6.4g）の単独資料である。

・D6-14：暗灰色（N3/0）の北関東産頁岩である。部分的に黒褐色（10YR3/1）に変色している。ナイフ形石器1点（4.3g）の単独資料である。

・D6-15：暗灰色（N3/0）の地に部分的に褐灰色（10Y4/1）を含む北関東産頁岩である。石刃1点（4.7g）の単独資料である。

・D6-16：暗赤灰色（10R3/1）の地に部分的ににぶい褐色（7.5YR5/4）を含む北関東産頁岩である。剥片1点（19.3g）の単独資料である。

・D6-17：灰黄褐色（10YR6/2）と灰褐色（7.5YR5/2）の混じる北関東産頁岩である。剥片1点（4.2g）の単独資料である。

・D6-18：灰黄褐色（10YR5/2）の地に灰黄色（2.5Y6/2）の斑が入る北関東産頁岩である。剥片1点（2.1g）の単独資料である。

・D6-19：灰褐色（7.5YR5/2）の東北産頁岩である。剥片1点（4.7g）の単独資料である。

・D6-20：にぶい黄色（2.5Y6/3）の頁岩である。石刃1点（14.8g）の単独資料である。

・D6-21：内部及び新鮮な面が灰黄色（2.5Y7/2）の頁岩である。石刃1点（13.7g）の単独資料である。

・D6-22：内部は褐灰色（10YR4/1）で，節理は暗灰黄色（2.5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器1点，剥片1点の合計2点（17.5g）である。

・D6-23：自然面及び節理は灰褐色（7.5YR4/2），内部は灰色（7.5Y4/1）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器1点，剥片1点の合計2点（28.5g）である。

・D6-24：灰色（10Y5/1）の凝灰岩である。剥片1点（3.8g）の単独資料である。

・D6-25：灰オリーブ色（7.5Y5/2）の凝灰岩である。石刃1点（6.7g）の単独資料である。

・**D6-26**：自然面は灰黄褐色（10YR5/2），内部は灰色（7.5Y5/1）で灰白色及び黒色の鉱物を多数含む安山岩である。石器群の内訳は，剥片３点（19.7ｇ）である。

・**D6-27**：自然面は灰色（7.5Y5/1）の砂岩である。敲石１点（86.9ｇ）の単独資料である。

・**D6-28**：自然面は黄灰色（2.5Y4/1），内部は灰色（7.5Y4/1）の砂岩である。敲石１点（274.1ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，信州麦草峠産と考えられる黒曜石の石刃２点，剥片24点，砕片５点の合計31点（7.7ｇ）がある。

３）出土遺物（第110図，第111図11～15，第112図28，第113図，第116図）

１～３・５・９・10・12・13は北関東産頁岩による石刃石器群，４・６～８・11は東北産頁岩・産地不明の頁岩・凝灰岩による石刃石器群である。１～３はナイフ形石器である。１は石刃を素材として左側縁，

第18表　Ｄ６－Ａブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
D６－１(OBC)	1											4(3)							28		1					34(33)
D６－２(OBC)												2(1)							14(13)		1					17(15)
D６－３(OBC)												2(1)							6							8(7)
D６－４(OBC)											1	2							2							5
D６－５(OBC)																			2							2
D６－６(OBC)																			2							2
D６－７(OBC)																					1					1
D６－８(OBB)																			1							1
D６－９(SHB)																			15(14)							15(14)
D６－10(SHB)																			2							2
D６－11(SHB)												1							1							2
D６－12(SHB)	1																									1
D６－13(SHB)	1																									1
D６－14(SHB)	1																									1
D６－15(SHB)												1														1
D６－16(SHB)																			1							1
D６－17(SHB)																			1							1
D６－18(SHB)																			1							1
D６－19(SHA)																			1							1
D６－20(SHE)												1														1
D６－21(SHE)												1														1
D６－22(SHC)									1										1							2
D６－23(SHC)									1										1							2
D６－24 (TU)																			1							1
D６－25 (TU)												1														1
D６－26 (AN)																			3							3
D６－27 (SA)																1										1
D６－28 (SA)																1										1
その他　(OBC)												2							24	5						31
TOTAL	4								2		1	17(14)				2			107(105)	5	3					141(136)

第19表　Ｄ６－Ａブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
黒曜石Ｂ(OBB)																			1							1
黒曜石Ｃ(OBC)	1											12(9)							78(77)	5	3					100(96)
安山岩(AN)																			3							3
頁岩Ａ(SHA)																			1							1
頁岩Ｂ(SHB)	3											2							6							11
頁岩Ｃ(SHC)									2										2							4
頁岩Ｄ(SHD)																			15(14)							15(14)
頁岩Ｅ(SHE)												2														2
凝灰岩(TU)												1							1							2
砂岩(SA)																2										2
TOTAL	4								2		1	17(14)				2			107(105)	5	3					141(136)

右側縁の先端部，基部に調整加工を行っている。特に基部加工は打面部の欠損ないし切断後に打面部の厚みをとるように行われている。2は石刃を素材として基部に調整加工を行っている。右側縁の一部を欠損するため形態は不明だが，二側縁加工のナイフ形石器と考えられる。左側縁の一部には背面からの加工も見られる。先端部と右側縁の一部を欠損する。また，右側縁の一部には被熱によると考えられる剥落面が見られるが，詳細は不明である。さらに，全体的に調整加工された部位の稜線が摩耗したような状態になっている。3は石刃を素材として二側縁に調整加工を行っている。上部を欠損するするため形態は不明だが，二側縁加工のナイフ形石器と考えられる。2と同様，左側縁の一部には背面からの加工も見られる。左側縁の鈍角な加工に比べ，右側縁の鋭角な細かい加工により断面形が非対称な三角形を呈する。右側縁の一部に細かい刃こぼれが見られる。5・12は下部を欠損するため詳細は不明であるが，単設打面の石核から剥離されてた石刃と考えられる。13は上部を欠損するため，詳細が不明で，剥片としたが，石刃かもしれない。末端に細かい剥離痕が見られるが，使用痕の可能性がある。9・10は剥片である。9は下部と右側面に，10は下部に表面からの剥離面が見られることから，後述する19のような石刃生産に伴う打面再生剥片と考えられる。4は凝灰岩による石刃である。単設打面の石核から剥離されている。6は頁岩による石刃である。右側の剥離面に切られる右方向からの剥離面は，石核の側面調整かもしれない。7は東北産頁岩，8は凝灰岩による剥片である。7は右側面，8は左側面に，表面からの剥離面が見られることから，後述する19のような石刃生産に伴う打面再生剥片と考えられる。11は頁岩による石刃である。両側縁に刃こぼれが見られる。14・15は横岡産頁岩による不定型な剥片を主体とする石器群である。14・15は楔形石器である。14は上下両端に対向する剥離面が見られる。15は表面右側に素材の主要剥離面が見られることから分割礫を素材にしたと考えられる。上部の細かい剥離痕は，対向する末端に潰痕状の剥離痕が見られることから，両極技法によるものと考えられるが，通常の石核あるいはその転用の可能性もある。28・29は砂岩による敲石である。28は小型で扁平な楕円礫を素材とし，両面中央部と周縁に敲打痕が見られる。29は比較的大型の不定型な礫を素材とし，両面中央部，両側縁，下部に敲打痕が見られる。最終的には左側縁からの打撃により欠損したものと考えられる。

55～57は信州麦草峠産と考えられる黒曜石による石刃石器群である。55・56は石刃，57は使用痕ある剥片である。不定型な切断剥片を素材とし，左側縁に刃こぼれが見られる。切断と刃こぼれとの切り合い関係は不明である。58～59は信州麦草峠産と考えられる黒曜石による石器群である。58は剥片である。左側縁上部に表面方向の剥離面が見られることから，打面再生剥片の可能性がある。59は石核である。表面に自然面，裏面に素材の主要剥離面を残す剥片を素材として，90度の打面転移を行いながら，不定型な剥片を剥離している。

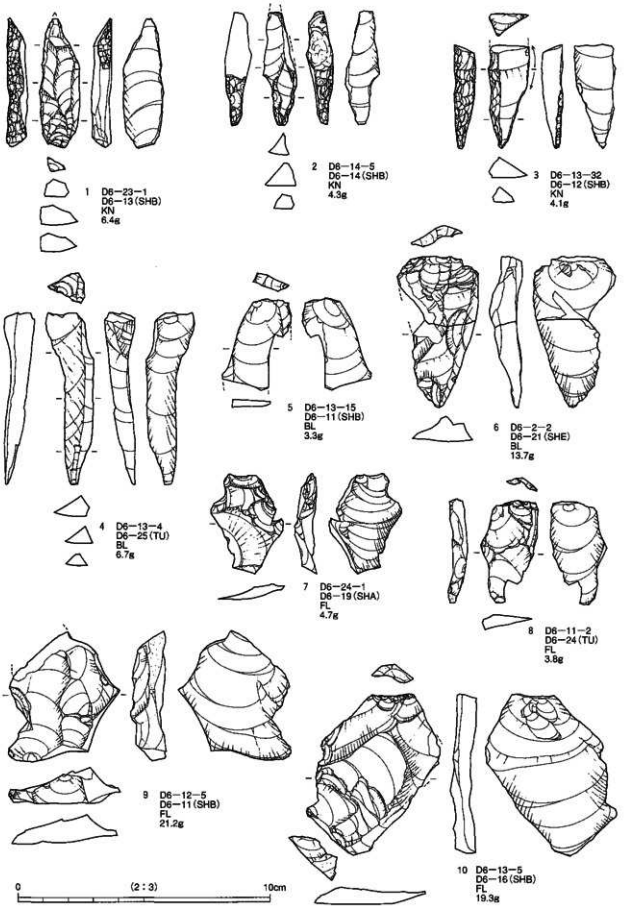
4）接合資料とその関連資料（第111～115図）

・**D6-10（第111図16～18）**　暗灰色（N3/0）の北関東産頁岩である。剥片2点で構成される。

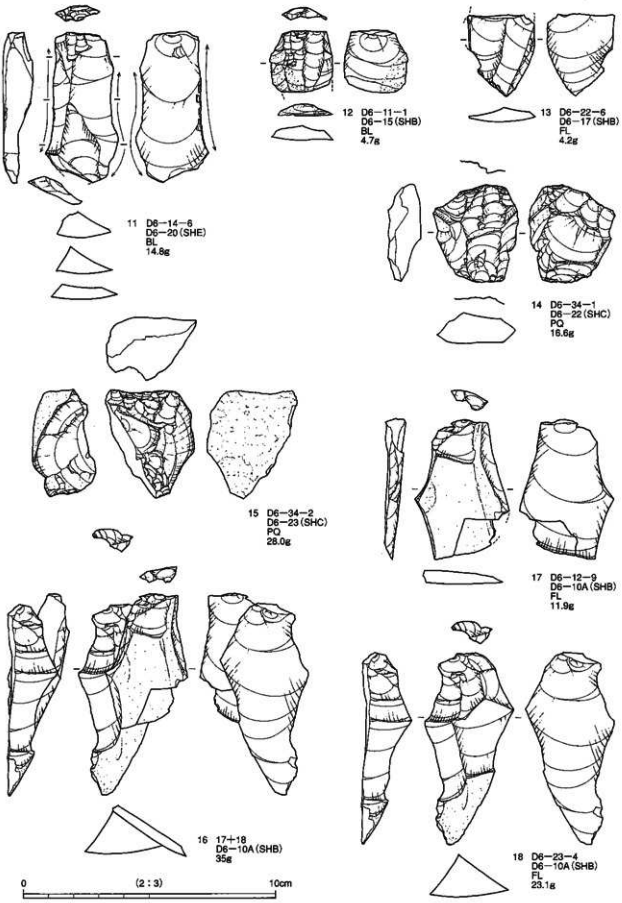
16は剥片2点（17・18）の接合資料である。剥離面打面の石核から17，18を剥離している。16の表面下部の自然面は，表面と左側面のなす角度がほぼ直角なことから，部分的なため詳細は不明だが，角柱状の礫を素材にして側面調整等を行わずに，石刃あるいは石刃状の剥片を剥離していた可能性がある。

・**D6-9（第112図19～27）**　暗灰緑色（5G3/1）及びオリーブ灰色（10Y4/2）の硬質緻密な頁岩である。新鮮な面は黒色である。剥片15点（14個体）で構成される。接合資料は2グループある。

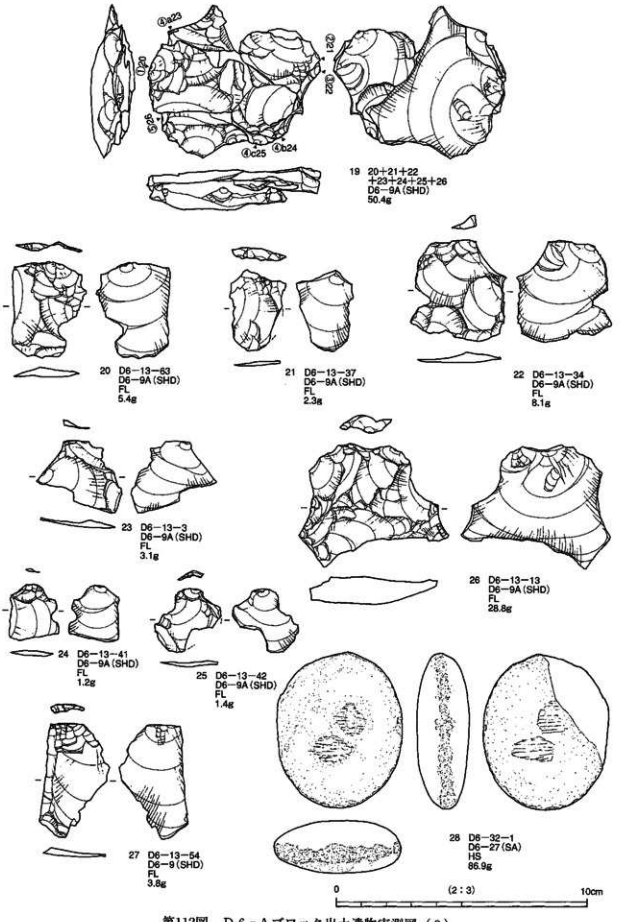
19は剥片7点（20～26）の接合資料である。90度の打点の移動により，①20→②21→③22の順番で剥離



第110図　Ｄ６－Ａブロック出土遺物実測図（１）



第111図　D6-Aブロック出土遺物実測図（2）



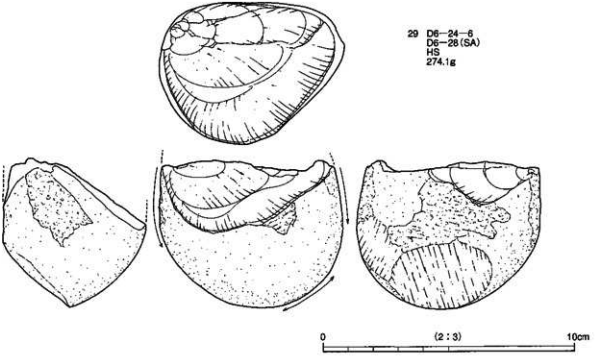
第112図　Ｄ６－Ａブロック出土遺物実測図（３）

した後，④a23ないし④b24→④c25を剥離し，最後に⑤26を剥離している。これらの剥片は，石刃を生産する石核の打面再生剥片と考えられるが，この個体の石刃や石核は遺跡にない。27は接合しなかった同一母岩の剥片である。上記の接合資料と同様，打面再生に伴うものと考えられる。

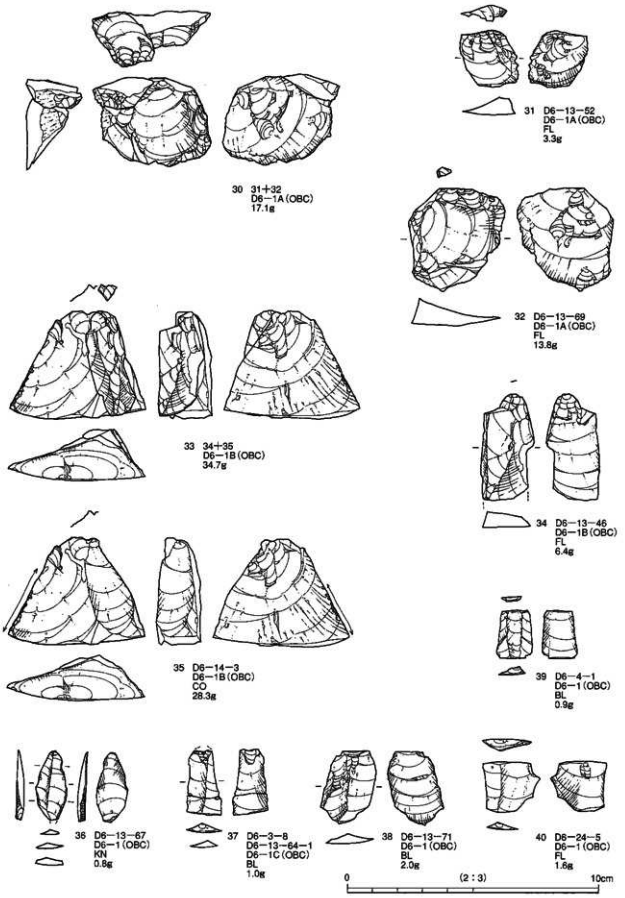
・D6-1（第114図，第115図41～43）　淡黒色透明な黒曜石で信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，石刃4点（3個体），剥片28点，石核1点の合計34点（33個体）で構成される。接合資料は3グループある。

30は剥片2点（31・32）の接合資料である。31など数枚を表面側から剥離して，これらの剥離面を打面として上方向から不定型な剥片を剥離している。最後は90度右方向に打点を移動して頭部調整を行った後，32を剥離している。33は剥片1点（34），石核1点（35）の接合資料である。大型の剥片を素材として34を剥離し，その後に35は欠損している。35の表面左側縁と裏面右側縁に刃こぼれが見られるが，素材の段階か欠損後かは不明である。37は2点が接合して1個体となる石刃である。36・38～43は接合しなかった同一母岩のナイフ形石器，石刃，剥片である。36は石刃による基部加工のナイフ形石器である。素材の打面部を基部として，調整加工を行っている。37～39は単設打面の石核から剥離された小型の石刃である。36も同様の石刃を素材にしたものと考えられる。40～43は剥片である。40は上下が欠損するため，形態は不明であるが，石刃かもしれない。41は剥片である。上面に右方向からの剥離面が見られるが，30のような剥離作業に伴って作出されたものと考えられる。42～43は石刃を生産する石核の打面再生剥片と考えられる。

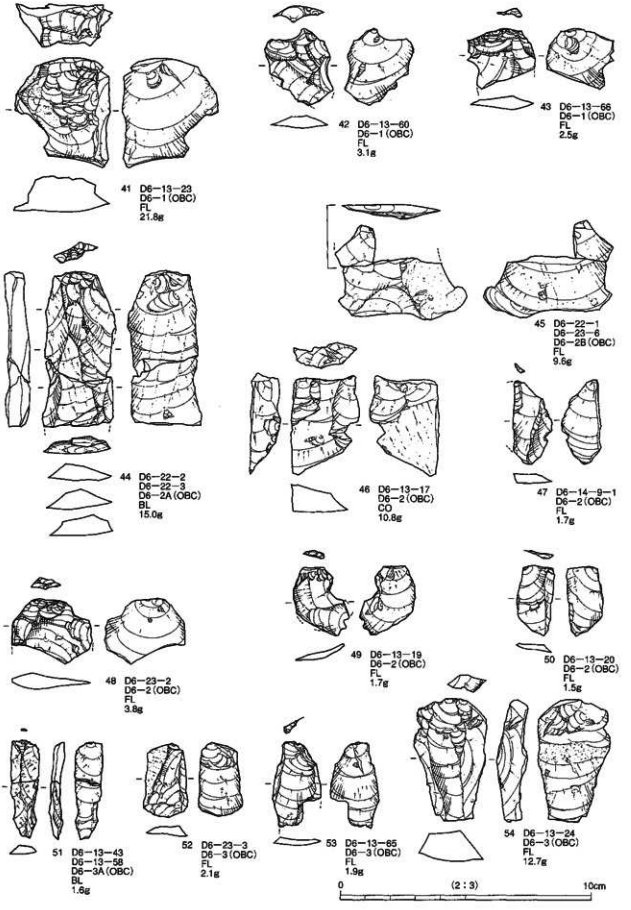
・D6-2（第115図44～50）　淡黒色半透明の黒曜石で信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，石刃2点（1個体），剥片14点（13個体），石核1点の合計17点（15個体）で構成される。接合資料は2グループある。



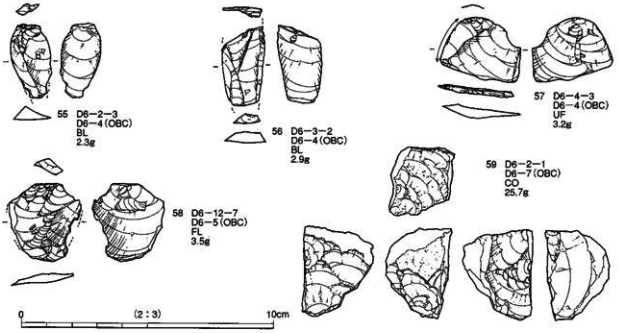
第113図　D6-Aブロック出土遺物実測図（4）



第114図　Ｄ６－Ａブロック出土遺物実測図（５）



第115図　Ｄ６－Ａブロック出土遺物実測図（６）



第116図　D6－Aブロック出土遺物実測図（7）

44・45は欠損した石刃・剥片の接合資料である。44は入念に打面調整が施された石核から剥離された石刃である。45は末端が蝶番状の剥片である。欠損が著しく形態は不明である。46～50は接合しなかった同一母岩の剥片・石核である。46は左側面の切断面に細かい剥離面が見られることから石核とした。両面にポジティブな剥離面が見られる。47・50は石刃状の剥片である。48・49は石刃を生産する石核の打面再生剥片かもしれない。

・D6-3（第115図51～54）　淡黒色透明の黒曜石で信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，石刃2点（1個体），剥片6点の合計8点（7個体）で構成される。

51は欠損した石刃の接合資料である。右側面の下部に右方向ないしは裏面からの剥離面が見られる。52～54は接合しなかった同一母岩の剥片である。この個体からは，52や53に見られるような右方向や下方あるいは両面からの剥離面から，90度の打面転移を行いながら，石刃や縦長剥片を剥離したと考えられる。

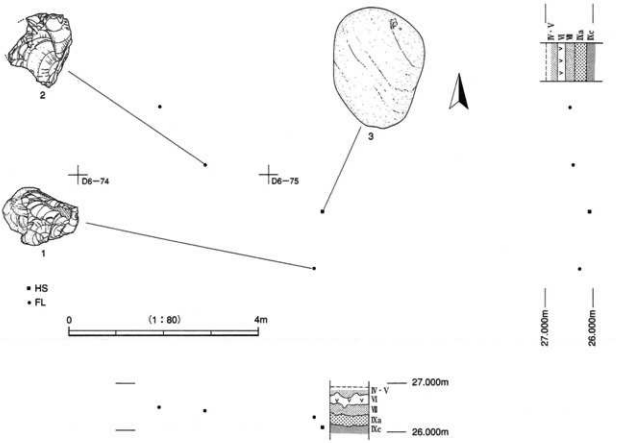
2　D6-Bブロック（第117～119・231図，第20・21表，カラー図版7）

1）ブロックの概要

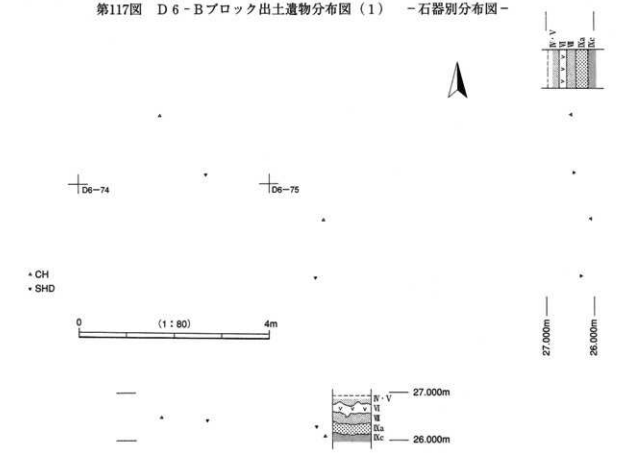
D6-Bブロックは，調査範囲中央のD6-64・75グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の南側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）に位置する。

ブロックの規模と形状は，長軸5m，短軸1mの楕円形の範囲に4点の石器が分布する。出土層位はⅦ層からⅨa層にかけてで，50cmほどの高低差をもって包含されている（第117・118図）。

ブロックは，敲石1点，剥片3点の合計4点で構成される。石器石材は，頁岩D2点，チャート2点である。



第117図　Ｄ６－Ｂブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－



第118図　Ｄ６－Ｂブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，頁岩Ｄ１母岩（D6-29），チャート２母岩（D6-30・31）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（4/4点）である。

・**D6-29**：自然面は暗赤褐色（5YR3/2），内部及び節理は黄灰色（2.5Y4/1）の硬質緻密な頁岩である。自然面は滑らかな曲面で，原石は円礫である。石器群の内訳は，剥片２点（56.2ｇ）である。

・**D6-30**：灰色（10Y4/1）のチャートである。剥片１点（0.2ｇ）の単独資料である。

・**D6-31**：自然面が暗灰色（N3/0）の地に灰白色（7.5Y8/2）の石英脈が多数入るチャートである。敲石１点（257.7ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第119図）

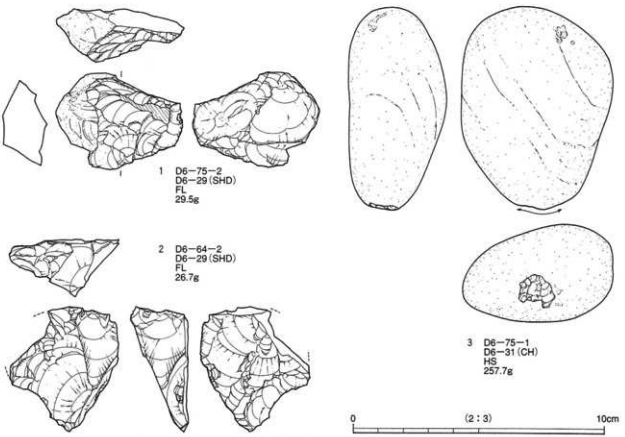
１・２は硬質緻密な頁岩による剥片である。１は礫を素材にして，右方向や下方向から不定型な剥片を

第20表　Ｄ６-Ｂブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
Ｄ６－29（SHD）																			2							2
Ｄ６－30（CH）																			1							1
Ｄ６－31（CH）																	1									1
TOTAL																	1		3							4

第21表　Ｄ６-Ｂブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
頁岩Ｄ（SHD）																			2							2
チャート（CH）																	1		1							2
TOTAL																	1		3							4



第119図　Ｄ６-Ｂブロック出土遺物実測図

剥離し，最後に上方向から剥離した後，１を剥離している。裏面左側の剥離面は被熱による剥落の可能性がある。表面は多方向からの剥離面で覆われている。２は多方向の剥離面を表面に残す剥片である。表面左側と裏面の主要剥離面は節理に沿って平坦になっている。表面右側縁と裏面左側縁の一部に細かい剥離痕が見られるが，詳細は不明である。３は敲石である。チャートの扁平礫の下端に敲打痕が見られる。表面と左側面の上部にも極めて浅い敲打痕状の傷が見られるが詳細は不明である。

３　E5-Aブロック（第120～122・231図，第22・23表，カラー図版７）

１）ブロックの概要

E5-Aブロックは，調査範囲中央のE5-41・42グリッドに位置する。ブロックの立地は，北に向かって緩やかに下る台地北側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）に位置する。

ブロックの規模と形状は，直径２ｍの範囲に石器が分布する。出土層位はⅦ・Ⅸａ層を中心としており，30cmほどの高低差をもって包含されている（第120・121図）。

ブロックは，石刃１点，剥片５点の合計６点で構成される。石器石材は，頁岩Ａ１点，頁岩Ｂ５点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，頁岩Ａ１母岩（E5-９），頁岩Ｂ３母岩（E5-６～８）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（6/6点）である。

・E5-６：自然面はにぶい黄褐色（10YR5/3），内部は褐灰色（10YR5/1），節理はにぶい赤褐色（5YR4/3）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石刃１点，剥片２点の合計３点（3.2ｇ）である。

・E5-７：灰褐色（7.5YR5/2）の北関東産頁岩である。剥片１点（3.6ｇ）の単独資料である。

・E5-８：自然面はにぶい褐色（7.5YR5/3），内部は灰褐色（7.5YR5/2）の北関東産頁岩である。剥片１点（6.1ｇ）の単独資料である。

・E5-９：褐灰色（5YR4/1）の地に黒褐色（5YR3/1）の縞が入る東北産頁岩である。剥片１点（4.6ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第122図）

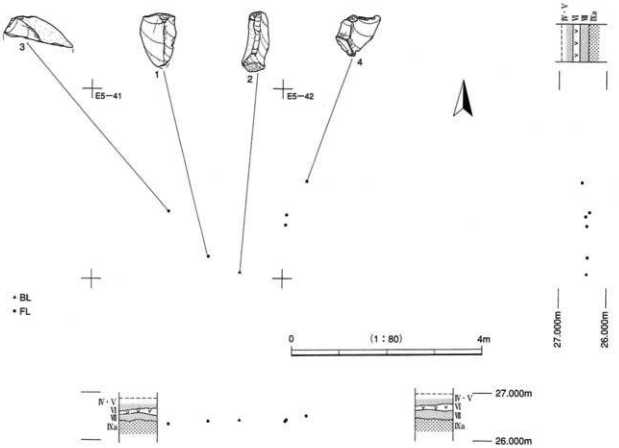
１は東北産頁岩による剥片である。入念な打面調整が施されている。２は北関東産頁岩による石刃であ

第22表　Ｅ５-Ａブロック母岩別石器組成表

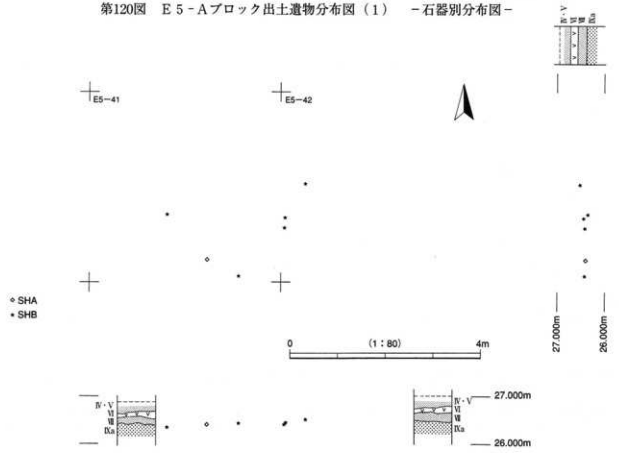
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
E５－６(SHB)												1							2							3
E５－７(SHB)																			1							1
E５－８(SHB)																			1							1
E５－９(SHA)																			1							1
TOTAL												1							5							6

第23表　Ｅ５-Ａブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
頁岩Ａ(SHA)																			1							1
頁岩Ｂ(SHB)												1							4							5
TOTAL												1							5							6

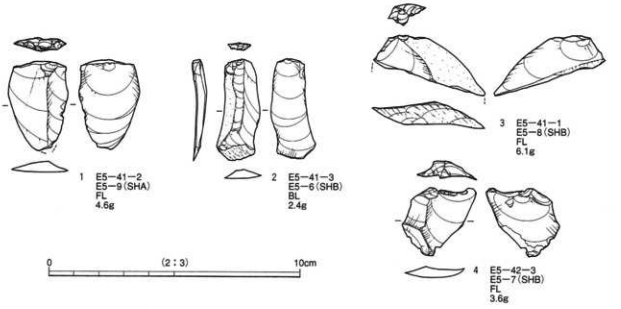


第120図　Ｅ５－Ａブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－



第121図　Ｅ５－Ａブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

る。入念な打面調整が施されている。自然面として図示した左側の面は，上方向からの剥離面あるいは節理の可能性もある。ただし，剥離面としても表面の風化の度合いから，表皮に極めて近い部分と考えられる。3・4は北関東産頁岩による不定型な剥片である。3は節理で下部を切断している。



第122図　E5-Aブロック出土遺物実測図

4　E6-Aブロック（第123～125・231図，第24・25表，カラー図版7，図版3）

1）ブロックの概要

E6-Aブロックは，調査範囲中央のE5-95，E6-04・05・13・14グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地のほぼ中央である。

ブロックの規模と形状は，長軸10m，短軸3mの範囲に13点の石器が分布する。出土層位はⅦ層を中心にⅤ層からⅨa層にかけてで，60cmほどの高低差で地形に沿って包含されている（第123・124図）。

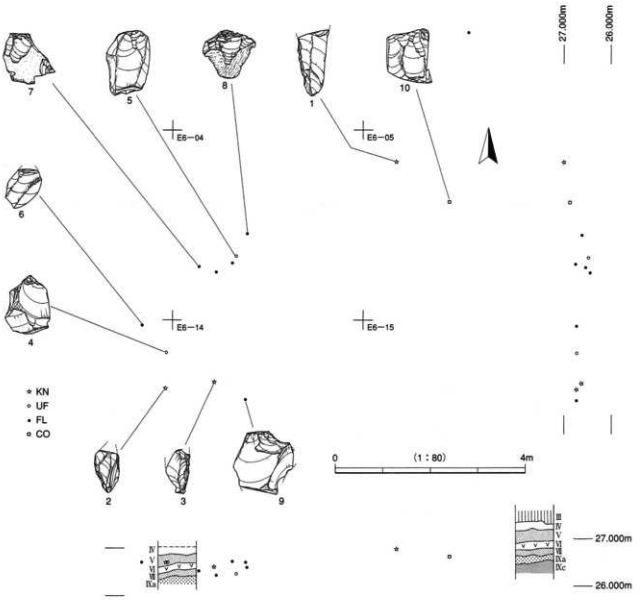
ブロックは，ナイフ形石器3点，使用痕ある剥片2点，剥片7点，石核1点の合計13点で構成される。石器石材は，黒曜石B2点，頁岩A5点，頁岩B5点，瑪瑙・玉髄1点である。

第24表　E6-Aブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	BF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
E6－1(SHB)	1																		2							3
E6－2(SHB)											1															1
E6－3(SHB)																			1							1
E6－4(SHA)	1										1															2
E6－5(SHA)	1																									1
E6－6(SHA)																			1							1
E6－7(SHA)																					1					1
E6－8(OBB)																			1							1
E6－9(OBB)																			1							1
E6－10(CC)																			1							1
TOTAL	3										2								7		1					13

第25表　Ｅ６－Ａブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
黒曜石Ｂ(OBB)																			2							2
頁岩Ａ(SHA)	2										1								1		1					5
頁岩Ｂ(SHB)	1										1								3							5
瑪瑙・玉髄(CC)																			1							1
TOTAL	3										2								7		1					13



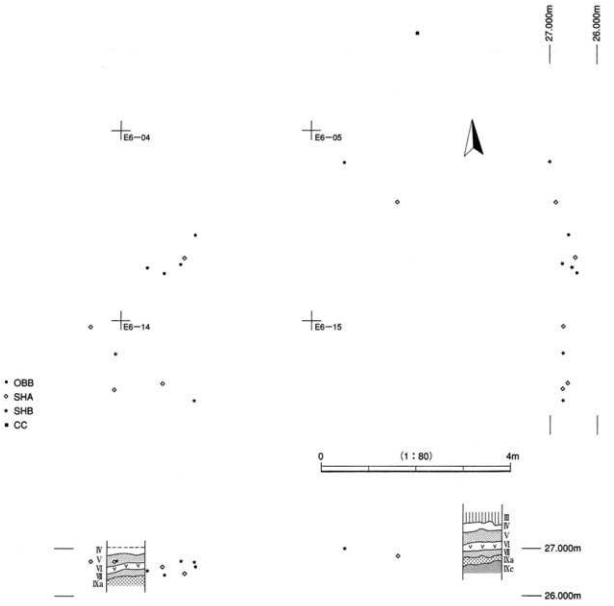
第123図　Ｅ６－Ａブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは10母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ２母岩（E6-８・９），頁岩Ａ４母岩（E6-４～７），頁岩Ｂ３母岩（E6-１～３），瑪瑙・玉髄１母岩（E6-10）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（13/13点）である。

・**E6-１**：にぶい褐色（7.5YR5/3）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，剥片２点の合計３点（14.4ｇ）である。

・E6-2：自然面はにぶい赤褐色（5YR5/4），内部は灰黄褐色（10YR5/2）の北関東産頁岩である。使用痕ある剥片1点（8.7g）の単独資料である。
・E6-3：自然面は灰黄褐色（10YR5/2），内部は灰褐色（7.5YR4/2）の北関東産頁岩である。剥片1点（5.5g）の単独資料である。
・E6-4：褐灰色（7.5YR4/1）の地に暗赤褐色（5YR3/2）の縞が入る東北産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，使用痕ある剥片1点の合計2点（17.1g）である。
・E6-5：黒褐色（5YR3/1）の東北産頁岩である。ナイフ形石器1点（2.4g）の単独資料である。
・E6-6：褐灰色（7.5YR4/1）の東北産頁岩である。剥片1点（2.3g）の単独資料である。
・E6-7：褐灰色（7.5YR4/1）の東北産頁岩である。黒褐色（10YR3/1）の付着物がみられる。石核1点（35.3g）の単独資料である。

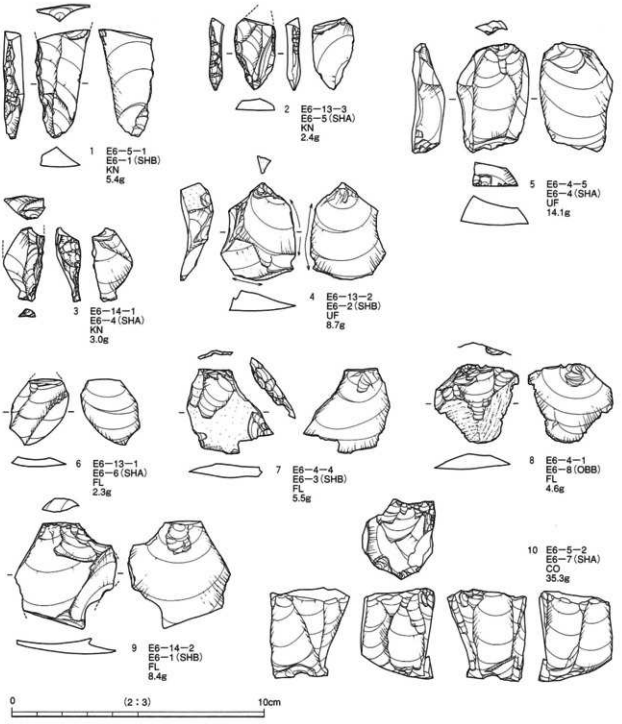


第124図　E6－Aブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－

・E6-８：自然面及び内部は薄墨を流した様な透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。φ２㎜ほどの夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（4.6ｇ）の単独資料である。
・E6-９：透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（0.9ｇ）の単独資料である。
・E6-10：灰白色（7.5Y7/1）の瑪瑙・玉髄である。剥片１点（0.4ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第125図）

１・４・７・９は北関東産，２・３・５・６・10は東北産頁岩である。



第125図　Ｅ６－Ａブロック出土遺物実測図

1～3はナイフ形石器である。1は石刃を用い，素材の打面部を基部として，左側縁に調整加工を行っている。上部を欠損するため形態は不明である。2は不定型な剥片を用い，素材の打面部を基部として，左側縁と右側縁の一部に細かな調整加工を行っている。上部は使用時に欠損し，右側縁下部は発掘時に欠損していることから形態は不明であるが，二側縁加工のナイフ形石器と考えられる。3は素材の打面部を先端部として，右側縁に調整加工を行っている。上部を欠損するため形態は不明である。4・5は使用痕ある剥片である。不定型な剥片を素材とし，表面右側縁と末端，裏面左側縁に刃こぼれが見られる。5は石刃状の剥片を素材として，下部の切断面に調整加工と言えるような剥離痕が見られる。6・7・9は剥片である。6は不定型な剥片，7・9は石刃を生産する石核の打面再生剥片の可能性がある。8は信州和田峠周辺産の黒曜石による剥片である。10は石刃を生産した石核である。平坦な剥離面に求心的な剥離によって打面調整を行いながら，石刃を剥離している。最後に剥離されたと考えられる左側面の剥離面は，石核の底面を抜け，反対側にまで達するようなもので，著しく石核の長さを減じてしまったものと考えられる。その後も，打点を180度転回し，新たに打面を作り出すように表面右側から打撃しているが，目的とした石刃が剥離できないと判断したのか，ここで作業を終了している。

5　E6-Bブロック（第126～133・231図，第26～28表，カラー図版7・8・14，図版3）

1）ブロックの概要

E6-Bブロックは，調査範囲中央のE6-35～38・45～48グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地のほぼ中央である。

ブロックの規模と形状は，長軸12m，短軸6mの範囲に70点の石器・礫が分布する。4点が2mほど集中部から東西に離れて出土している。出土層位はⅥ層からⅨc層にかけてで，60cmほどの高低差で地形に沿って包含されている（第126・127図）。

ブロックは，楔形石器3点，使用痕ある剥片1点，石刃8点（7個体），敲石1点，剥片42点，石核11点（8個体），礫4点の合計70点（66個体）で構成される。石器石材は，頁岩B1点，頁岩C60点（56個体），凝灰岩2点，砂岩2点，ホルンフェルス1点，礫石材は，チャート1点，砂岩3点である。

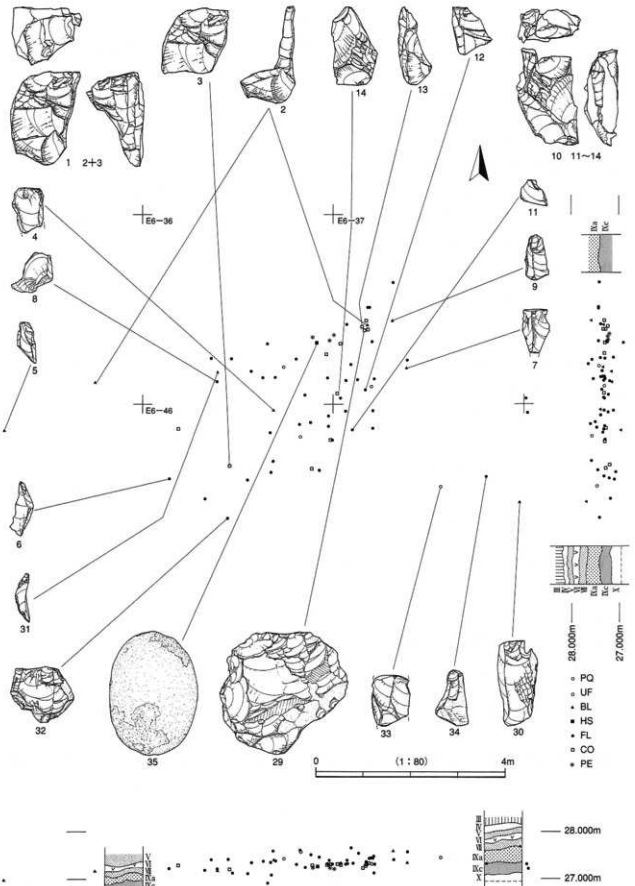
礫は，母岩分類できたものが4点（4母岩；1,548.4g）で，識別率は100%である。遺存状態は，極めて脆弱で比較的大型の砂岩の1母岩を除いて，ほぼ完形である。

2）母岩の特徴と内容

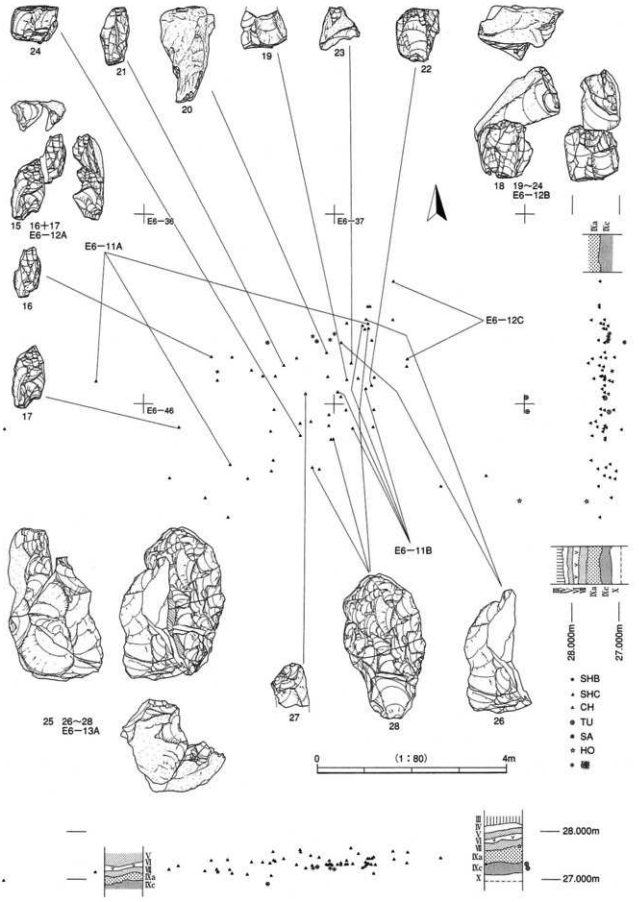
本ブロックでは10母岩を識別した。内訳は，頁岩B1母岩（E6-17），頁岩C7母岩（E6-11～16・19），砂岩1母岩（E6-20），ホルンフェルス1母岩（E6-18）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は94%（62/66点）である。

・**E6-11**：自然面は褐灰色（10YR4/1），内部は黄灰色（2.5Y4/1），暗灰黄色（2.5Y4/2）が混じる嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，石刃6点（5個体），剥片19点，石核3点の合計28点（27個体；166.6g）である。接合資料は，石刃2点（1個体），石核1点の合計3点（84.2g）のものと，剥片2点，石核2点の合計4点（49.1g）のものがある。

・**E6-12**：自然面は褐灰色（5Y4/1），内部は灰色（5Y4/1）と暗オリーブ色（5Y4/3）が混じり，節理は灰黄褐色（10YR4/2），褐色（10YR4/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器3点，剥片16点，石核2点の合計21点（130.6g）である。接合資料は，3グループあり，Aグループは剥片1点，石



第126図　Ｅ６－Ｂブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－



第127図　E６－Bブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

核１点の合計２点（20.6ｇ），Ｂグループは楔形石器３点，剥片２点，石核１点の合計６点（84.8ｇ），Ｃグループは剥片２点（2.3ｇ）である。

・**E6-13**：自然面はオリーブ黒色（5Y3/1），内部は暗灰色（N3/0），節理は褐灰色（10YR4/1）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点，石核５点（２個体）の合計６点（３個体；287.0ｇ）で，すべて接合する。

・**E6-14**：内部は灰色（N4/0）の地に褐灰色（10YR4/1）の斑が入り，節理は褐灰色（10YR4/1）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（13.0ｇ）の単独資料である。

・**E6-15**：自然面は褐灰色（5YR4/1），内部は暗灰色（N3/0）の地に暗オリーブ灰色（5GY4/1）の斑が入る嶺岡産頁岩である。剥片１点（5.0ｇ）の単独資料である。

・**E6-16**：黄灰色（2.5Y4/1）に褐灰色（10YR4/1）の斑の嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片１点（6.1ｇ）の単独資料である。

・**E6-17**：にぶい黄褐色（10YR5/3）の北関東産頁岩である。石刃１点（1.1ｇ）の単独資料である。

・**E6-18**：黄灰色（2.5Y4/1）のホルンフェルスである。石刃１点（12.0ｇ）の単独資料である。

・**E6-19**：自然面は褐色（7.5YR4/3），内部は黄灰色（2.5Y4/1），節理面は灰黄褐色（10YR4/2）を呈する嶺岡産頁岩である。石核１点（313.9ｇ）の単独資料である。

・**E6-20**：自然面はにぶい黄褐色（10YR5/3），内部はにぶい黄橙色（10YR6/3）の砂岩である。敲石１点（261.5ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，嶺岡産頁岩の剥片１点（0.1ｇ），凝灰岩の剥片２点（0.9ｇ），砂岩の剥片１点（0.2ｇ）がある。

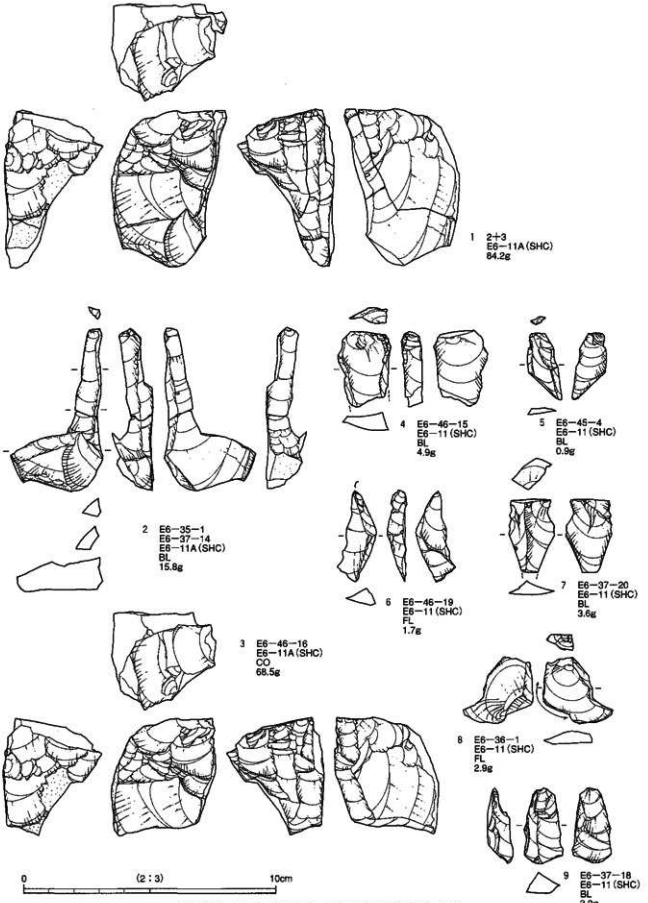
３）出土遺物（第133図）

29は嶺岡産頁岩による石核である。厚手の礫を素材にして，求心的な剥離作業により，不定型な剥片を作出している。30はホルンフェルスの石刃である。右側縁に刃こぼれが見られる。また，左側面は，ほぼ中央で縦方向に切断されている。31は北関東産頁岩による石刃で，大型の石刃の側縁から樋状剥離により作出された小石刃（削片）と考えられる。左側縁に見られる細かい剥離痕は，剥離後の調整加工と思われる。両者とも単独資料で，使用痕が見られることから搬入されたものと考えられる。33は嶺岡産頁岩による使用痕ある剥片である。右側縁の上部に刃こぼれが見られる。上下両端を欠損する。切り合い関係がないため，刃こぼれとの新旧関係は不明である。32・34は嶺岡産頁岩による不定型な剥片である。32は表面に求心的な剥離痕が見られることから，29のような石核から剥離されたものかもしれない。34は自然面を多く残す。35は砂岩による敲石である。扁平な礫を素材として，上下両端と両面下部に敲打痕が見られる。

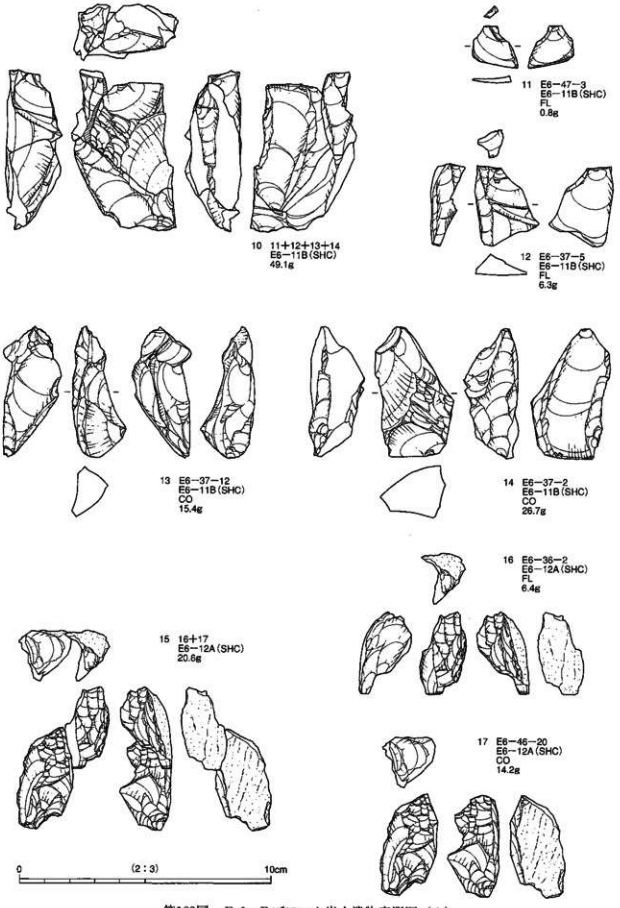
４）接合資料とその関連資料（第128～132図）

・**E6-11（第128図，第129図10～14）**　黄灰色（2.5Y4/1），暗灰黄色（2.5Y4/2）が混じる嶺岡産頁岩である。石刃６点（５個体），剥片19点，石核３点の合計28点（27個体）で構成される。接合資料は２グループある。

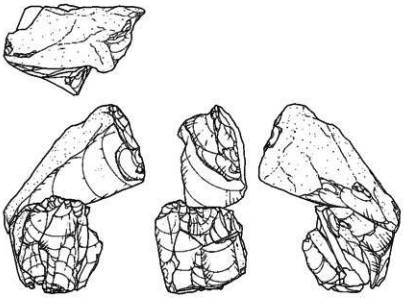
１は石刃２点（１個体；２），石核１点（３）の接合資料である。多少起伏のある平坦打面から，２を剥離している。この剥離は，石核の底面を抜け，反対側にまで達するようなもので，石核の長さは，2/3ほどに減じている。その後も，同方向から短い不定型な剥片を剥離しているが，目的とした石刃が剥離できないと判断したのか，作業を終了している。この個体は，左側面に自然面，裏面に素材の主要剥離面を



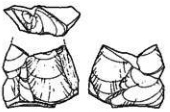
第128図　E６－Bブロック出土遺物実測図（1）



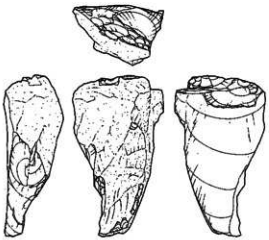
第129図　Ｅ６－Ｂブロック出土遺物実測図（２）



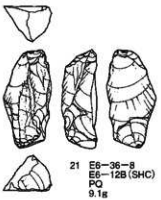
18　19+20+21
+22+23+24
E6−12B(SHC)
84.0g



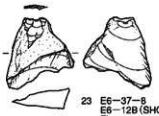
19　E6−37−3
E6−12B(SHC)
FL
6.5g



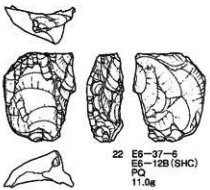
20　E6−36−13
E6−12B(SHC)
CO
43.0g



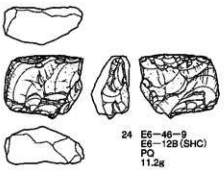
21　E6−36−8
E6−12B(SHC)
PO
9.1g



23　E6−37−8
E6−12B(SHC)
FL
3.7g



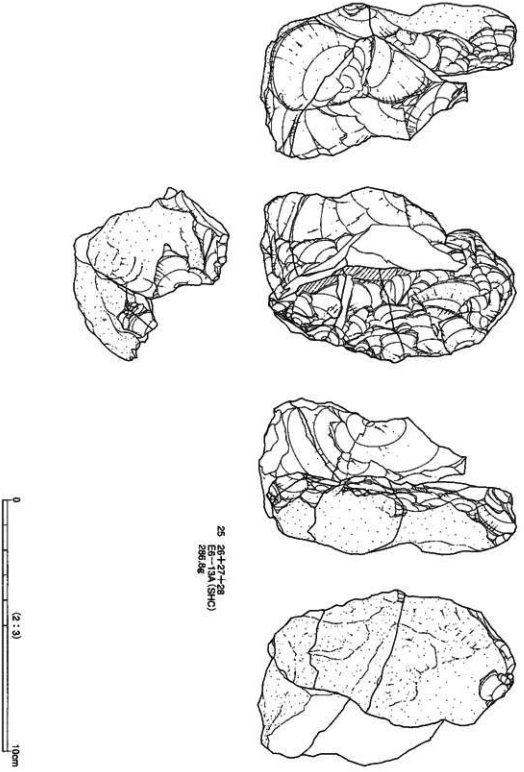
22　E6−37−6
E6−12B(SHC)
PO
11.0g



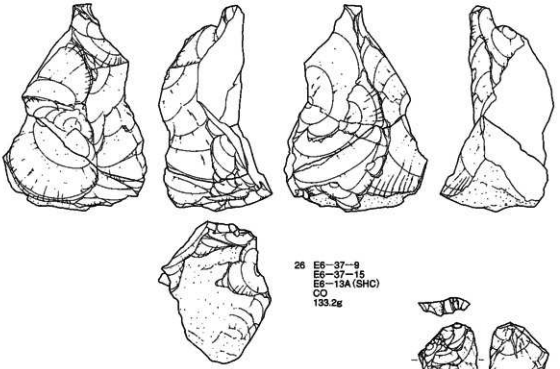
24　E6−46−9
E6−12B(SHC)
PO
11.2g

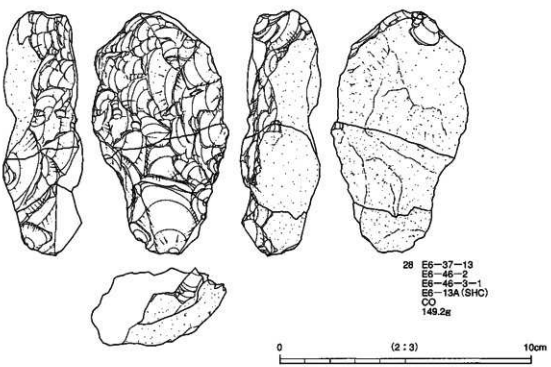
0　(2：3)　10cm

第130図　E6－Bブロック出土遺物実測図（3）

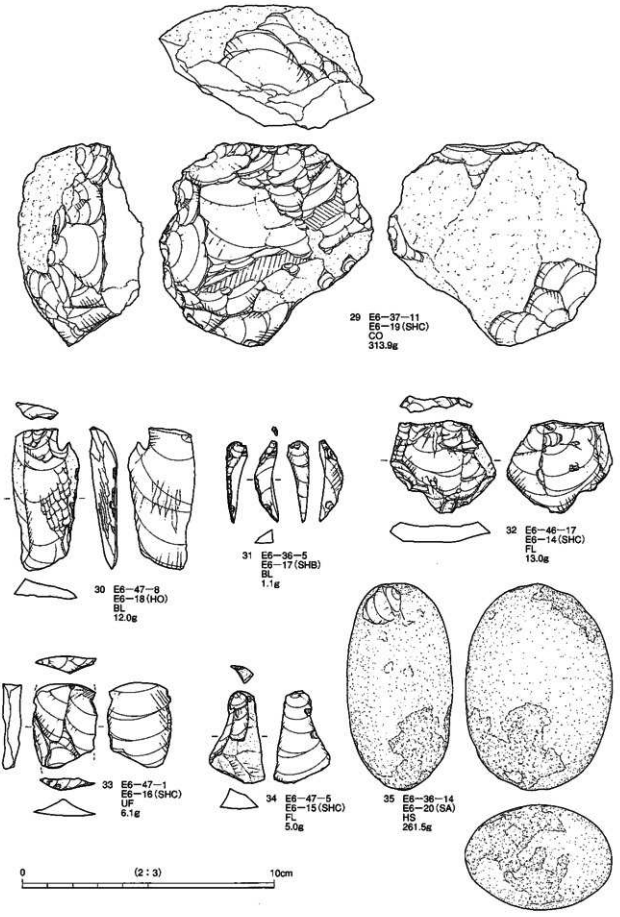


第131図　Ｅ６－Ｂブロック出土遺物実測図（４）





第132図　Ｅ６－Ｂブロック出土遺物実測図（５）



第133図　Ｅ６－Ｂブロック出土遺物実測図（６）

残すことから，分割礫を素材にし，上方向から石刃ないし石刃状の剥片の生産を目的としていたと考えられる。なお，表面下部の右方向からの剥離面は，これら石刃生産以前の剥離面であるが，分割前のものか，分割後の不定型な剥片の生産あるいは石核の側面調整に伴うものかは，不明である。4～9には接合しなかった同一母岩で，上記の生産に関係すると考えられる資料を図示した。4・5・7・9は石刃，6・8は剥片である。8は裏面左側縁に，極めて微細な剥離痕が見られるが，刃こぼれかどうか不明である。

10は剥片2点（11・12），石核2点（13・14）の接合資料である。10は裏面の右側下部などに素材の主要剥離面と考えられる剥離面が見られることから，大型の剥片を素材にしており，上下方向の打撃を基本として，11・12を含む不定型な剥片を剥離している。12は末端が，欠損したような状態となっている。10は打撃の衝撃により，二つに割れたようであるが，分割後も，10の裏面左側に見られる剥離面からもわかるように，下部からの打撃により14が剥離されている。その後，14は下方向から縦長剥片を，さらに13との分割面を打面として，上方向から不定型な小型の剥片を剥離した後，作業を終了している。一方，13は裏面下部に小さな剥離面が見られるが，ほとんど剥離作業を行うことはなかったと考えられる。なお，この個体の石核や剥片の表面に残る剥離痕は，末端が蝶番状や階段状のものが目立つ。

・E6-12（第129図15～17，130図）　灰色（5Y4/1）と暗オリーブ色（5Y4/3）が混じる嶺岡産頁岩である。楔形石器3点，剥片16点，石核2点の合計21点で構成される。接合資料は3グループある。

15は剥片1点（16），石核1点（17）の接合資料である。片面に節理を残す剥片から16を剥離している。17は上面の剥離面や節理を打面として，不定型な小型の剥片を剥離した後，作業を終了している。

18は楔形石器3点（21・22・24），剥片2点（19・23），石核1点（20）の接合資料である。18には自然

第26表　E6－Bブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
E6－11(SHC)												6(5)							19		3					28(27)
E6－12(SHC)									3										16		2					21
E6－13(SHC)																			1		5(2)					6(3)
E6－14(SHC)																			1							1
E6－15(SHC)																			1							1
E6－16(SHC)											1															1
E6－17(SHC)												1														1
E6－18 (MO)												1														1
E6－19(SHC)																					1					1
E6－20 (SA)																1										1
その他 (SHC)																			1							1
その他 (TU)																			2							2
その他 (SA)																			1							1
TOTAL									3		1	8(7)				1			42		11(8)					66(62)

第27表　E6－Bブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
頁岩B(SHB)												1														1
頁岩C(SHC)									3		1	6(5)							39		11(8)					60(56)
凝灰岩(TU)																			2							2
砂岩(SA)																1			1							2
ホルンフェルス(HO)												1														1
TOTAL									3		1	8(7)				1			42		11(8)					66(62)

第28表　E6－Bブロック礫組成表

母　岩	石　材	個数	重　量
E6R－1	SA	1	253.1
E6R－2	SA	1	223.0
E6R－3	SA	1	1056.3
E6R－4	CH	1	16.0

石　材	個数	重　量
チャート(CH)	1	16.0
砂岩(SA)	3	1532.4
合　計	4	1548.4

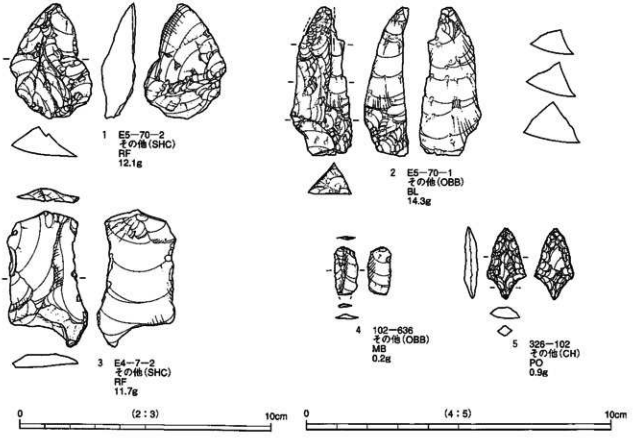
面と表面左側に素材の主要剥離面と考えられる剥離面が見られることから，比較的大型の角礫を分割した剥片を素材にして，剥離作業を行ったと考えられる。この過程の初期と思われる段階で剥離された20からは，不定型な小型の剥片が剥離されている。20の剥離後も作業は続けられ，上方向から19・21，下方向から23，表面方向から22・24を剥離している。19は上部を欠損し，21は楔形石器としたが，両極石核あるいは両極剥片とした方がよいかもしれない。その後も，23・24は楔形石器として使用されている。

・E6-13（第131・132図）　暗灰色（N3/0）の嶺岡産頁岩である。剥片1点，石核5点（2個体）の合計6点（3個体）で構成される。

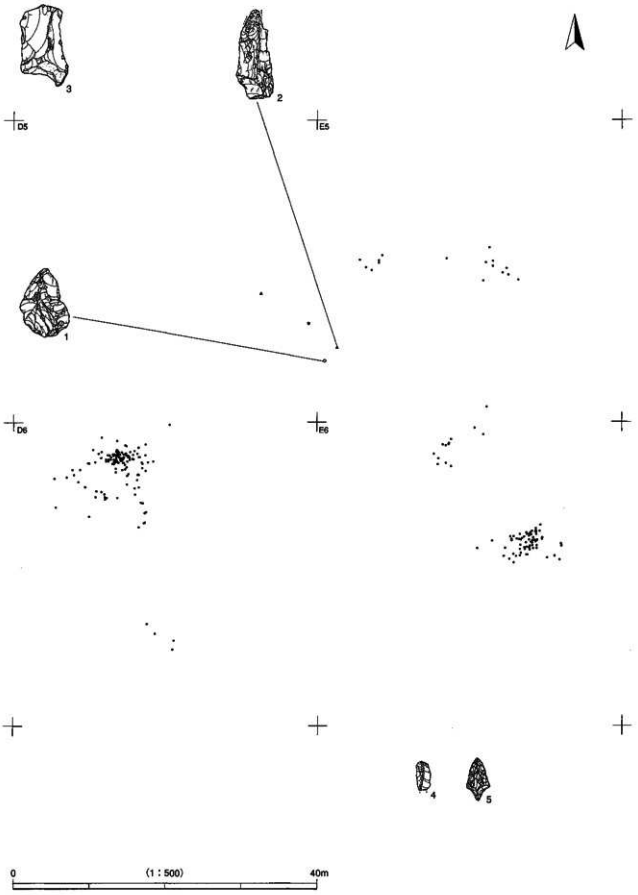
25は剥片1点（27），石核5点（2個体；26・28）の接合資料である。大型の角礫を分割して，26や28のような石核の素材を作り出している。26は作業面や分割面を打面として不定型な大型の剥片を剥離しているが，節理のため目的とする剥離作業を行うことができず，終了している。28は自然面を打面として，求心的な剥離作業を行っている。27はその過程で剥離された剥片である。この個体からは，末端が蝶番状の寸詰まりの剥片が剥離されている。

第4節　ブロック外出土遺物

ここでは，ブロックを形成していないグリッド単独（2点以下）出土の遺物と上層遺構等に混在していた遺物について記述する（第134・135図，カラー図版8，図版3）。



第134図　草刈遺跡Ⅰ区ブロック外出土遺物実測図



第135図　草刈遺跡Ⅰ区ブロック外出土遺物分布図

１は暗緑灰色（10YR4/1）と灰褐色（7.5YR5/2）の嶺岡産頁岩による加工痕ある剥片である。表面に多方向の剥離面を残す横長剥片を素材として，末端に調整加工が見られる。２は淡黒色半透明の地にφ２㎜～３㎜ほどの夾雑物を多数含む信州和田峠周辺産と考えられる黒曜石による石刃である。表面や裏面からの剥離面が見られることから，いわゆる稜付き石刃と考えられる。両端を欠損している。いずれもE5-70グリッドのⅦ層からⅨａ層にかけて出土しており，第４文化層の遺物と考えられる。

３は自然面は灰黄褐色（10YR4/2），内部は灰色（5Y4/1）の嶺岡産頁岩による加工痕ある剥片である。表面に多方向の剥離面を残す縦長剥片を素材として，右側縁下部に調整加工が見られる。出土層位は不明であるが，第４文化層の遺物であろうか。

４・５は上層遺構の覆土中から出土した旧石器時代資料である。

４は薄墨を流した様な透明な信州和田峠周辺産と考えられる黒曜石による細石刃と思われる。５は灰色（N4/0）チャートによる有茎尖頭器と思われる。表面の中央にネガティブな面，裏面の中央にポジティブな面が残っている。５については，多古町一鍬田甚兵衛山南遺跡などで類似の資料が出土していることや縄文時代前期の土器が多いことなどを根拠にした。ただし，後者については，上層は，整理中のため，詳細は不明である。また，Ｂ区や草刈六之台遺跡などからは発見されていないが，東部地区の上層では有茎石鏃や飛行機鏃が出土している。

第５章　草刈遺跡Ｊ区（219-058）

第１節　調査の概要

草刈遺跡Ｊ区では，旧石器時代の調査を平成３年度に実施した。調査区の位置は草刈遺跡の北西部にあたり，千葉市と市原市とを画する茂呂谷津に面した台地北側の緩斜面にかけてである。

調査対象面積は，15,000㎡で，調査対象面積の４％を基本として確認調査を行い，その結果に基づいて102㎡の本調査を行った。調査の結果，２か所のブロックと１か所の単独出土地点を検出した（第136図）。

本調査区における２か所のブロックは，以下のとおり２枚の文化層に区分できる。なお，文化層の設定は草刈遺跡全域で行っており，本調査区の石器群は第４・５文化層にあたる。

第４文化層は，立川ローム層第２黒色帯上半部（Ⅶ層～Ⅸ層上部）に包含される石器群で，３点の石器が１か所のブロック（J6-Aブロック）から出土した。

第５文化層は，立川ローム層のⅥ層を中心に包含される石器群で，３点の石器が１か所のブロック（K4-Aブロック）から出土した。

第２節　第４文化層

第４文化層は，立川ローム層第２黒色帯上部（Ⅶ層～Ⅸ層上部）に包含される石器群で，J6-Aブロックの１か所が該当する。

１　J6-Aブロック（第137・138・143・232図，第29・30表，カラー図版８）

１）ブロックの概要

J6-Aブロックは，調査範囲北側のJ6-25・33・35グリッドに位置する。ブロックの立地は，北に向かって緩やかに下る台地北側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）に位置する。

ブロックの規模と形状は，長軸８ｍ，短軸２ｍの範囲に３点の石器が分布する。出土層位はⅦ層からⅨａ層にかけてで，40cmほどの高低差をもって包含されている（第137・138図）。

ブロックは，錐状石器１点，加工痕ある剥片１点，剥片１点の合計３点で構成される。石器石材は，頁岩Ａ１点，頁岩Ｃ１点，ホルンフェルス１点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，頁岩Ａ１母岩（J6-１），頁岩Ｃ１母岩（J6-３），ホルンフェルス１母岩（J6-２）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（3/3点）である。

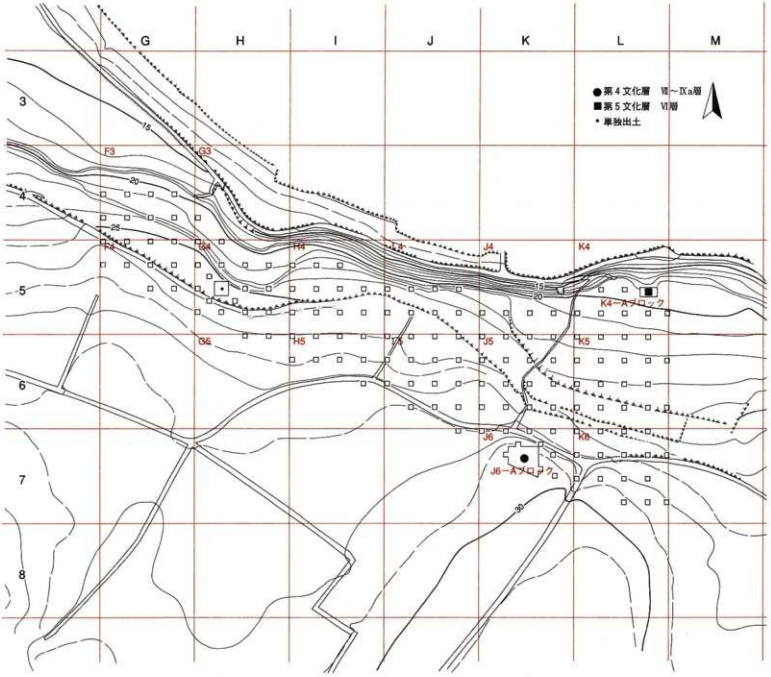
・J6-１：自然面はにぶい黄褐色（10YR5/3），内部は灰褐色（7.5YR5/3）の地に褐灰色（7.5YR4/1）の縞が入る東北産頁岩である。石錐１点（25.5ｇ）の単独資料である。

・J6-２：灰色（N4/0）のホルンフェルスである。剥片１点（16.6ｇ）の単独資料である。

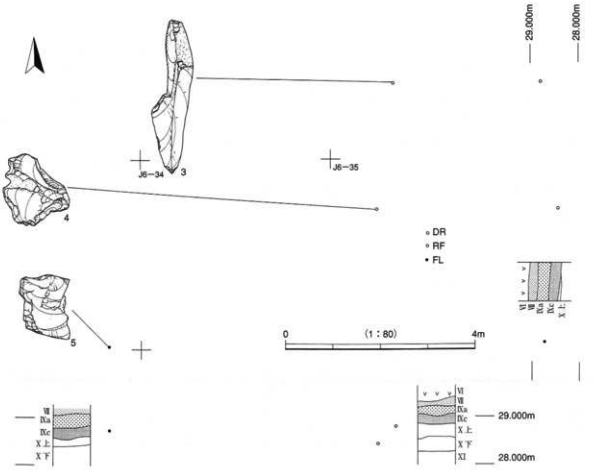
・J6-３：自然面は灰褐色（10YR4/2），内部は黄灰色（2.5Y4/1）に部分的ににぶい黄褐色（10YR5/4）が入る嶺岡産頁岩である。加工痕ある剥片１点（合計18.6ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第143図３～５）

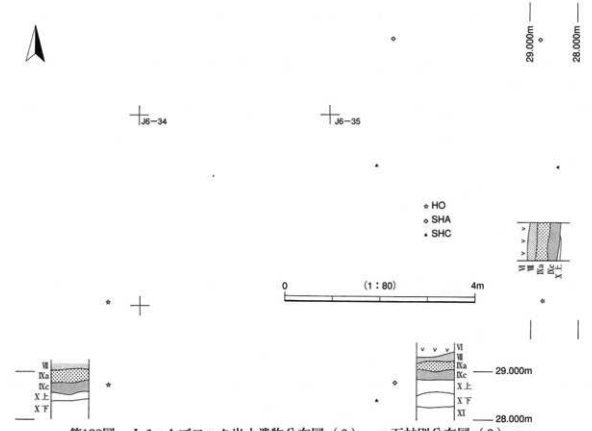
３は東北産頁岩による錐状石器である。石刃ないし石刃状の剥片を素材としている。末端の両側縁に細



第136図　草刈遺跡Ｊ区旧石器時代調査概要図（1：1,600）



第137図　Ｊ６－Ａブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図（１）－



第138図　Ｊ６－Ａブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図（２）－

かい調整加工を行って，錐部を作り出している。錐部の長さは0.5cmほどであるが，摩耗したような痕跡は見られない。また，左側面の上部には，表面中央の稜の上部を打点として，長さも幅も器体中央にまで及ぶ小石刃を剥離した面が残されている。左側面中央に見られる調整加工は，この剥離面を切っていることから小石刃を剥離した後のものである。さらに，表面左側縁と裏面右側縁には刃こぼれがある。４は東北産頁岩による加工痕ある剥片である。表面に，裏面と直交する剥離面と自然面を残す剥片を素材として，末端に調整加工を行っている。５はホルンフェルスによる不定型な剥片である。表面は，概ね裏面と同一方向の剥離面で構成されているが，下半部に数枚逆方向の細かい剥離面がある。末端の平坦でポジティブな剥離面は，石核の底面かもしれない。

第29表　Ｊ６－Ａブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
Ｊ６－１（SHA）								1																		1
Ｊ６－２（060）																			1							1
頁岩Ｃ（SHC）										1																1
TOTAL								1		1									1							3

第30表　Ｊ６－Ａブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
頁岩Ａ（SHA）								1																		1
頁岩Ｃ（SHC）										1																1
ホルンフェルス（060）																			1							1
TOTAL								1		1									1							3

第３節　第５文化層

第５文化層は，立川ローム層Ⅵ層を中心に包含されている石器群である。E4-Aブロックの１か所が該当する。

１　K4-Aブロック（第139・140・143・232図，第31・32表，カラー図版８）

１）ブロックの概要

K4-Aブロックは，調査範囲北側のK4-57・58グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地上ではあるが，北に向かって下る緩斜面で，このブロックから先は，急崖となっている。傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は南へ80mである。

ブロックの規模と形状は，東西方向に６ｍの長さで，ほぼ一直線に３点の石器が分布する。出土層位は，Ⅵ層に20cmほどの高低差をもって包含されている（第139・140図）。

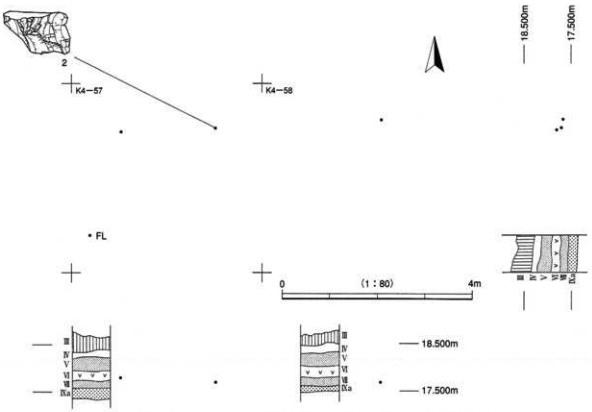
ブロックは，剥片３点で構成される。石器石材は，安山岩１点，ホルンフェルス１点，瑪瑙・玉髄１点である。

時期決定できる明確な資料が出土していないため，層位的な出土状態から第５文化層に属するものと判断した。

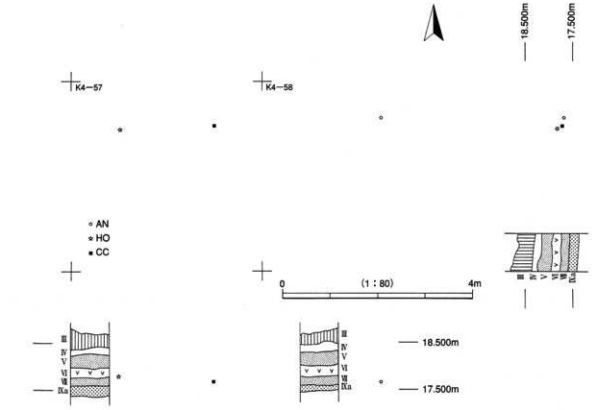
２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（K4-３），ホルンフェルス１母岩（K4-２），瑪瑙・玉髄１母岩（K4-１）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（3/3点）である。

・K4-１：灰白色（10YR7/1）の地に部分的に灰白色（10YR8/1）が入る瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片１点（16.2ｇ）の単独資料である。



第139図　K４－Aブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－



第140図　K４－Aブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

・K4-２：灰色（5Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片１点（0.9ｇ）の単独資料である。

・K4-３：黒褐色（2.5Y3/2）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片１点（1.0ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第143図２）

２は瑪瑙・玉髄による剥片である。表面は，概ね裏面と直交する剥離面で構成されているが，上部に稜上からの細かい剥離面が見られる。上面を欠損するため，詳細は不明であるが，石核の側面調整痕を残す剥片か90度の打面転移の際の剥片のいずれかと考えられる。

第31表　Ｋ４－Ａブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
K４－１（CC）																			1							1
K４－２（HO）																			1							1
K４－３（AN）																			1							1
TOTAL																			3							3

第32表　Ｋ４－Ａブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
安山岩(AN)																			1							1
ホルンフェルス(HO)																			1							1
瑪瑙・玉髄(CC)																			1							1
TOTAL																			3							3

第４節　ブロック外出土遺物

ここでは，ブロックを形成していないグリッド単独（２点以下）出土の遺物と上層遺構等に混在していた遺物について記述する（第141・142図，第143図１・６～９，カラー図版８）。

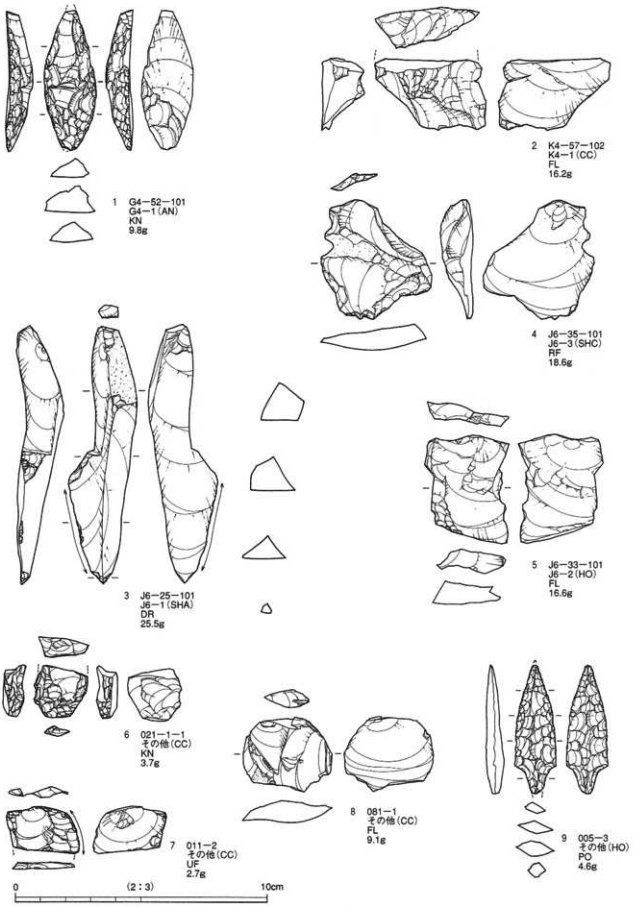
１か所で単独に旧石器時代石器が出土した。

１は暗灰黄色（2.5Y4/2）で，新鮮な面は黒色（N2/0）の安山岩によるナイフ形石器である。縦長剥片の打面部を基部にして，二側縁と裏面基部に調整加工を行っている。G4-52グリッドの黄褐色硬質ローム層の下部から出土しており，直下に第１黒色帯と考えられるローム層が堆積している。武蔵野台地における立川ローム層Ⅳ層上部の石器と考えられる。

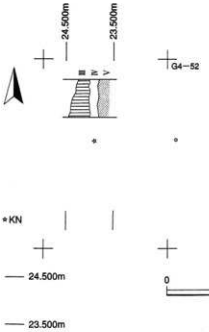
６～９は，上層遺構の覆度中から出土した旧石器時代資料である。

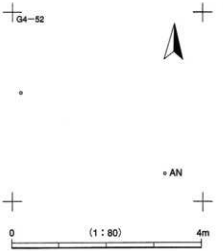
６は黄灰色（2.5Y5/1）に部分的に淡黄色（2.5Y8/3）が入る瑪瑙・玉髄によるナイフ形石器である。剥片の打面部を基部にして，基部に調整加工を行っている。上部を欠損するため形態は不明である。７は暗黄灰色（2.5Y5/2）に部分的に淡黄色（2.5Y8/3）が入る瑪瑙・玉髄による使用痕ある剥片である。左側縁に刃こぼれが見られる。上部を欠損する。８は自然面はにぶい橙色（7.5YR6/4），内部は褐灰色（10YR5/1）の地に灰白色（2.5Y8/1）の斑が入る瑪瑙・玉髄による剥片である。

９は黄灰色（2.5Y4/1）のホルンフェルスによる有茎尖頭器である。両面とも右側縁を主体に，最終的な調整加工を行っている。先端部と基部の一部が欠損している。第７文化層の遺物である。また，６～８の帰属文化層は，不明である。



第141図　Ｊ６－Ａ・Ｋ４－Ａブロック，草刈遺跡Ｊ区ブロック外出土遺物実測図
（１・６～９：ブロック外　２：Ｋ４－Ａブロック　３～５：Ｊ６－Ａブロック）





第142図　草刈遺跡Ｊ区ブロック外
出土遺物分布図（１）
－石器別分布図－

第143図　草刈遺跡Ｊ区ブロック外
出土遺物分布図（２）
－石材別分布図－

第6章　草刈遺跡K区（219-062）

第1節　調査の概要

草刈遺跡K区では，旧石器時代（下層）の調査を平成4・5・6年度に実施した。調査区の位置は，草刈遺跡のほぼ中央にあたり，千葉市と市原市とを画する茂呂谷津に面した台地の北側である。

平成4年度は15,000㎡，平成5年度は14,250㎡を調査対象として，4％を基本に確認調査を行った。その確認調査の結果に基づいて平成6年度は750㎡の本調査を行った。調査の結果，5か所のブロックと3か所の単独出土地点を検出した（第144図）。

本調査区における5か所のブロックは，以下のとおり3枚の文化層に区分できる。なお，文化層の設定は草刈遺跡全域で行っており，本調査区の石器群はその第4・5・6文化層にあたる。

第4文化層は，立川ローム層第2黒色帯上半部（Ⅶ層～Ⅸ層の上半部）に包含される石器群で，石器42点が2か所のブロック（K7-A，L8-Aブロック）から出土した。

第5文化層は，立川ローム層のⅥ層を中心に包含される石器群で，石器8点が1か所のブロック（N8-Aブロック）から出土した。

第6文化層は，立川ローム層のソフトローム層下部（Ⅲ層）から第1黒色帯（Ⅴ層）にかけて包含される石器群で，石器26点と礫39点が2か所のブロック（L4-A，L6-Aブロック）から出土した。

第2節　第4文化層

第4文化層は，立川ローム層第2黒色帯上部（Ⅶ層～Ⅸa層）に包含される石器群で，K7-A，L8-Aブロックの2か所が該当する。

1　K7-Aブロック（第145～149・232図，第33・34表，カラー図版8・14，図版4）

1）ブロックの概要

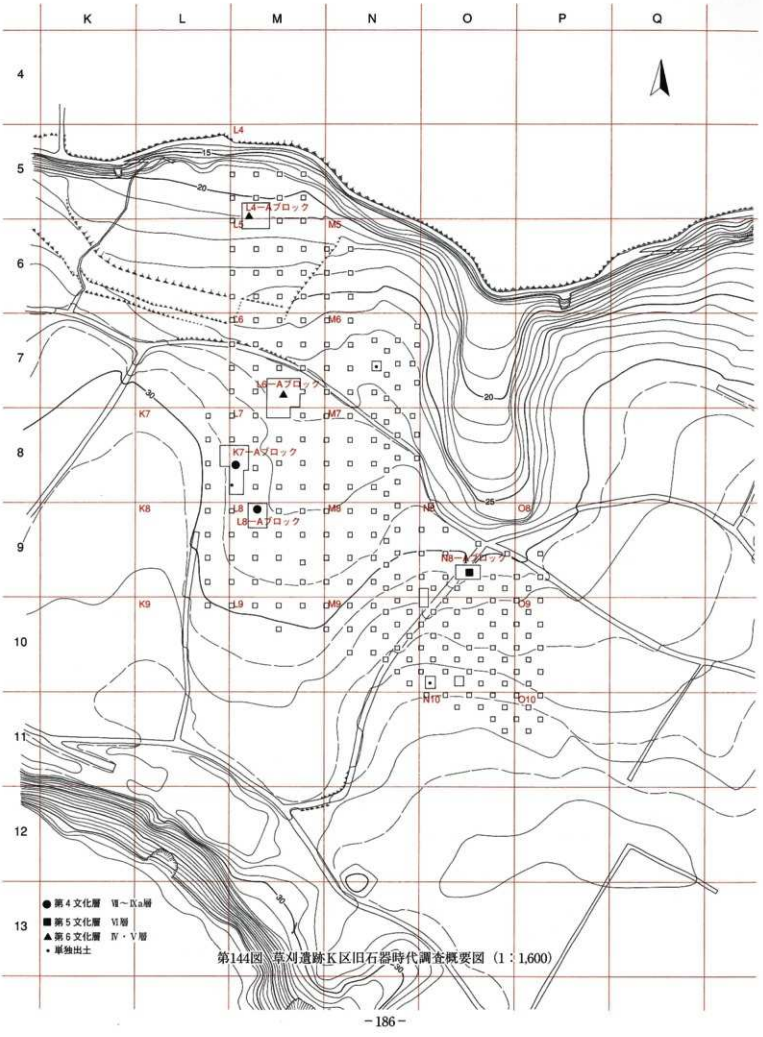
K7-Aブロックは，調査範囲中央のK7-59，L7-40・50・51・60グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地上ではあるが，北に向かって下る浅い谷状の緩斜面で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は南へ80mである。

ブロックの規模と形状は，長軸10m，短軸7mの範囲に32点の石器が散漫に分布する。出土層位は，Ⅲ層からXc層にかけてで，140cmほどの高低差をもっているが，中心はⅦ層からⅨ層で，60cmほどの高低差をもって包含されている（第145・146図）。

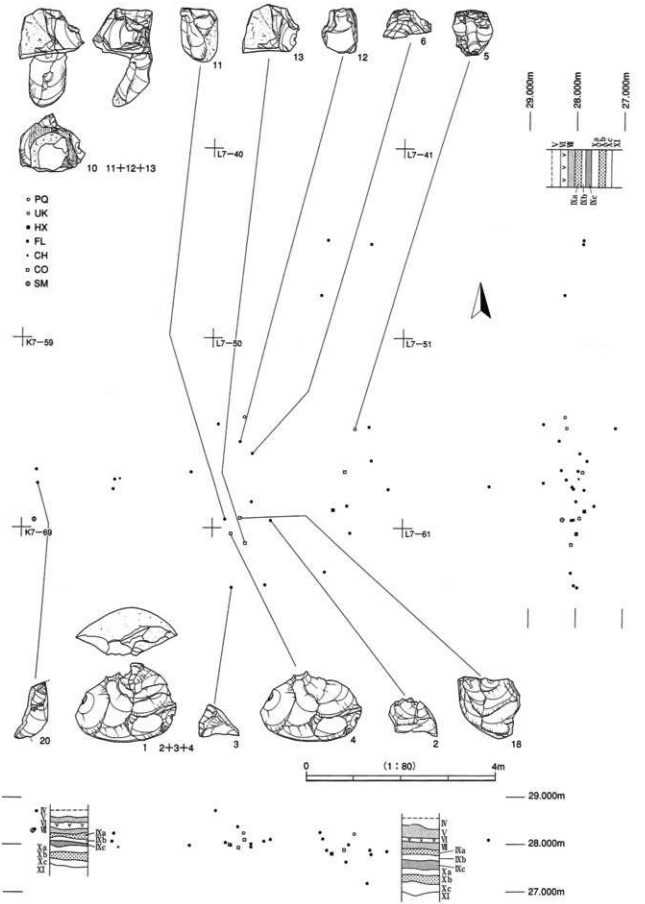
ブロックは，楔形石器1点，敲石1点，剥片23点，砕片1点，石核4点，原石1点，不明1点の合計32点で構成される。石器石材は，安山岩2点，頁岩B3点，頁岩C2点，頁岩D1点，頁岩E1点，チャート4点，凝灰岩1点，砂岩1点，ホルンフェルス16点，瑪瑙・玉髄1点である。

2）母岩の特徴と内容

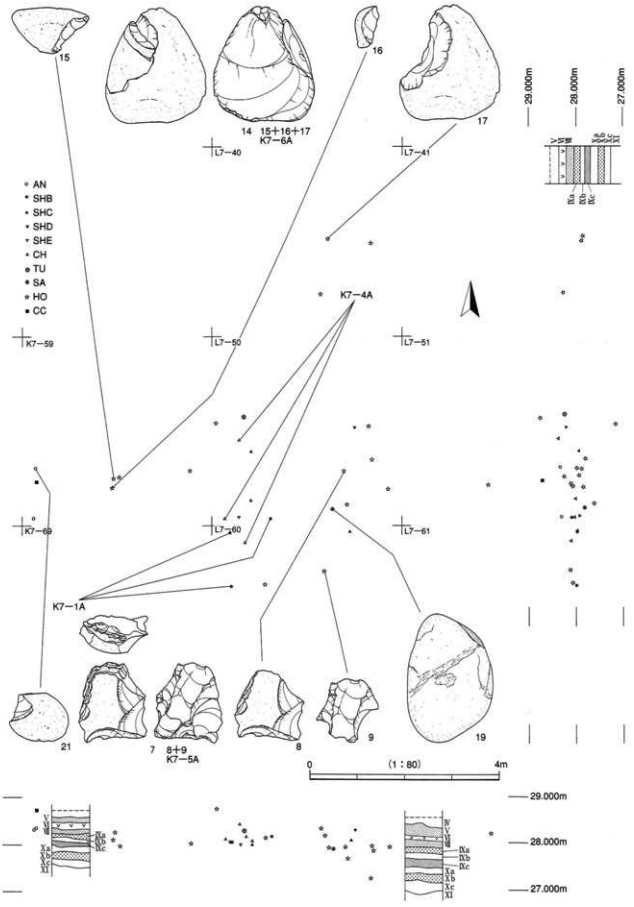
本ブロックでは15母岩を識別した。内訳は，安山岩2母岩（K7-12・14），頁岩B1母岩（K7-1），頁岩C1母岩（K7-3），頁岩D1母岩（K7-2），頁岩E1母岩（K7-7），チャート1母岩（K7-4），砂岩1母岩（K7-15），ホルンフェルス6母岩（K7-5・6・8～11），瑪瑙・玉髄1母岩（K7-13）で，母岩識別し



第144図 草刈遺跡K区旧石器時代調査概要図（1：1,600）



第145図　Ｋ７－Ａブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－



第146図　Ｋ７－Ａブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

た石器の石器総数に対する割合は97%（31/32点）である。

・K7-1：自然面はにぶい黄褐色（10YR4/3），内部はにぶい黄褐色（10YR5/3）と褐灰色（10YR6/1）が混じる北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点，石核1点の合計3点（96.0g）で，すべて接合している。

・K7-2：褐色（7.5YR4/3）とにぶい黄褐色（10YR4/3）の部分がある硬質緻密な頁岩である。楔形石器1点（7.4g）の単独資料である。

・K7-3：黄灰色（2.5Y4/1）で灰色（10Y4/1）の縞が入る嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（8.9g）である。

・K7-4：自然面は暗オリーブ灰色（5GY3/1），内部は暗緑灰色（10G3/1）の地に黒色（N2/0）の筋が入ったチャートで，節理は黒褐色（2.5Y3/2）である。石器群の内訳は，剥片3点，石核1点の合計4点（69.7g）である。接合資料は，剥片2点，石核1点の合計3点（65.1g）である。

・K7-5：自然面は灰色（5Y4/1），内部は灰色（N4/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片1点，石核1点の合計2点（61.7g）で，すべて接合している。

・K7-6：自然面は灰色（5Y4/1），内部は灰色（10Y4/1），節理は褐灰色（10YR4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片4点，砕片1点の合計5点（117.5g）である。接合資料は，剥片3点(112.3g)である。

・K7-7：自然面は灰色（7.5Y4/1），内部は灰色（5Y5/1），新鮮な面は黒色（N2/0）の頁岩である。石核1点（57.4g）の単独資料である。

・K7-8：自然面及び内部が灰色（10Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片3点（10.8g）である。

・K7-9：自然面及び内部は灰色（N4/0），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片3点（4.6g）である。

・K7-10：自然面及び内部は黄灰色（2.5Y4/1），新鮮な面は褐灰色（7.5YR4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片2点（5.1g）である。

・K7-11：灰色（7.5Y4/1）のホルンフェルスである。剥片1点（3.3g）の単独資料である。

・K7-12：自然面及び内部は灰色（N4/0）安山岩である。剥片1点（13.9g）の単独資料である。

・K7-13：自然面は黄褐色（10YR5/8），内部は淡黄色（2.5Y8/3）半透明の瑪瑙・玉髄である。剥片1点（3.8g）の単独資料である。

・K7-14：自然面が灰色（10Y4/1）の安山岩である。原石1点（65.0g）の単独資料である。

・K7-15：自然面が暗灰黄色（2.5Y5/2）に褐灰色（7.5YR4/1）と灰黄褐色（10YR5/2）の筋がある砂岩である。敲石1点（291.7g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，凝灰岩の器種不明1点（0.4g）がある。

3）出土遺物（第147図5・6，第149図18～21）

5は硬質緻密な頁岩による楔形石器である。上下両端に潰痕状の剥離痕が見られる。6は嶺岡産頁岩による剥片である。上下両方向の剥離痕が見られる。下面はポジティブな剥離面で，あるいは主要剥離面かもしれない。18は頁岩による石核である。分割した礫を素材にしており，分割面を打面として，上方向から不定型な剥片を剥離している。19は砂岩による敲石である。表面の中央に敲打痕が見られる。20は瑪

瑙・玉髄による剥片である。右側面を欠損する。21は安山岩による剥片である。平坦な打面から剥離された初期のものと考えられる。

4）接合資料とその関連資料（第147～149図）

・K7-1（第147図1～4）　にぶい黄褐色（10YR5/3）と褐灰色（10YR6/1）が混じる北関東産頁岩である。剥片2点，石核1点の合計3点で構成される。

1は剥片2点（2・3），石核1点（4）の接合資料である。本接合資料から見た剥離手順は，以下のとおりである。①；拳の半分程度の礫を石核の素材とする。②；上面の自然面を打面として，2→3の順に不定型な剥片を剥離する。③；左側面及び右側面の自然面を打面として，横長剥片を剥離し，作業を終了している。

・K7-5（第147図7～9）　灰色（N4/0）のホルンフェルスである。剥片1点，石核1点の合計2点で構成される。

7は剥片1点（9），石核1点（8）の接合資料である。礫を素材にして，表面は求心的な剥離作業を行って，裏面は，表面の剥離面や自然面を打面として，上下両方向を主体とした剥離作業を行って不定型な剥片を生産している。表面には自然面が大きく残っている。

・K7-4（第148図）　暗緑灰色（10G3/1）のチャートである。剥片3点，石核1点の合計4点で構成される。

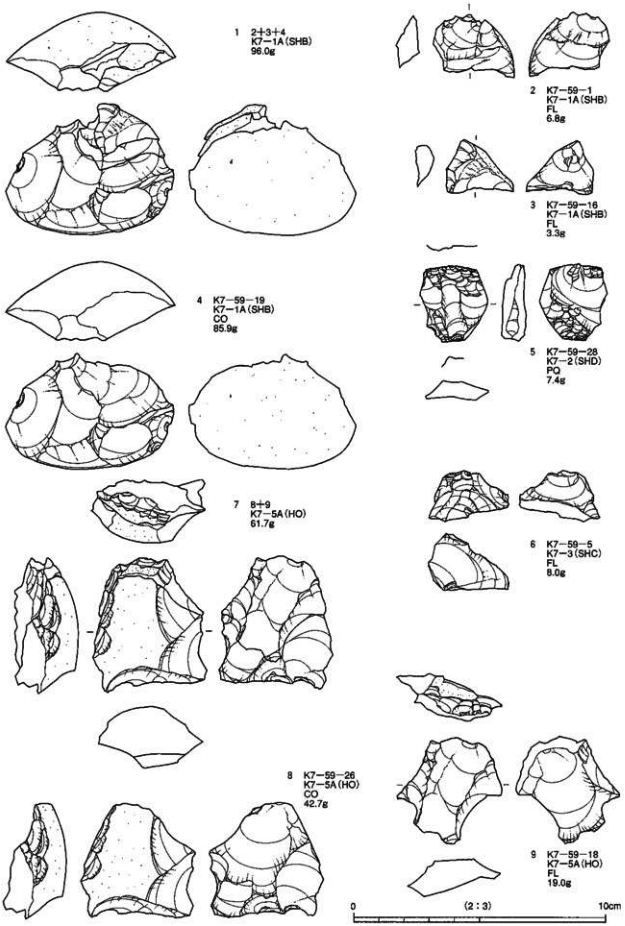
10は剥片2点（11・12），石核1点（13）の接合資料である。拳大ほどの礫を素材にして，10の裏面側

第33表　K7-Aブロック母岩別石器組成表

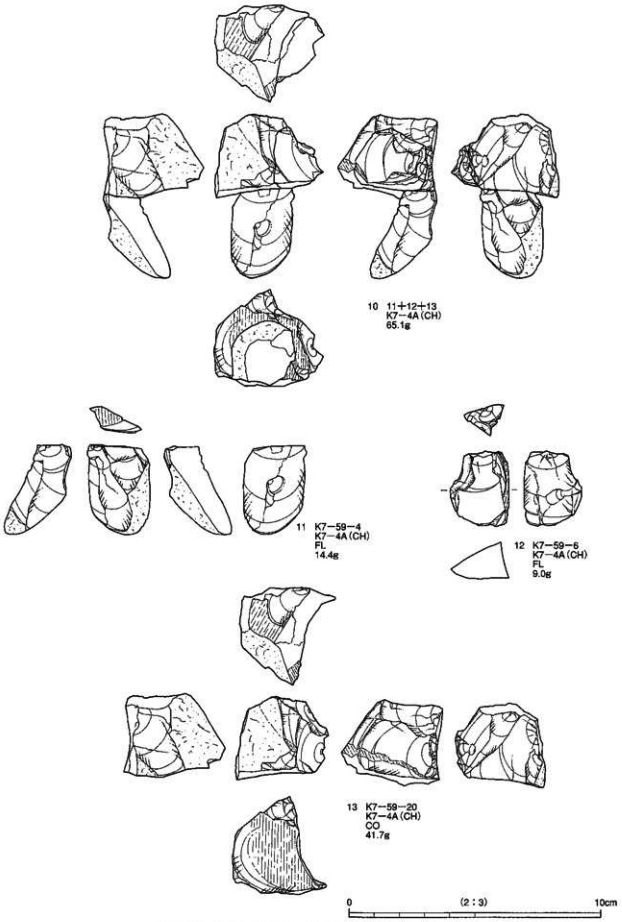
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
K7－1（SHB）																			2		1					3
K7－2（SHD）									1																	1
K7－3（SHC）																			2							2
K7－4（CH）																			3		1					4
K7－5（HG）																			1		1					2
K7－6（HG）																			4	1						5
K7－7（SHE）																					1					1
K7－8（HG）																			3							3
K7－9（HG）																			3							3
K7－10（HG）																			2							2
K7－11（HG）																			1							1
K7－12（AN）																			1							1
K7－13（CC）																			1							1
K7－14（AN）																						1				1
K7－15（SA）																1										1
その他（TU）																		1								1
TOTAL									1							1		1	23	1	4	1				32

第34表　K7-Aブロック石材別石器組成表

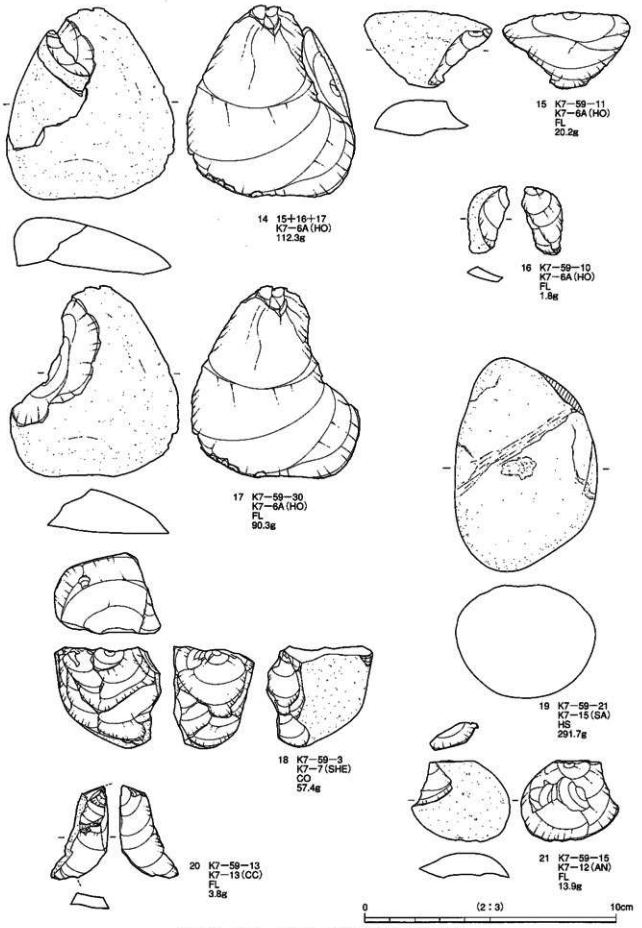
石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
安山岩(AN)																			1			1				2
頁岩B(SHB)																			2		1					3
頁岩C(SHC)																			2							2
頁岩D(SHD)									1																	1
頁岩E(SHE)																					1					1
チャート(CH)																			3		1					4
凝灰岩(TU)																		1								1
砂岩(SA)																1										1
ホルンフェルス(HG)																			14	1	1					16
瑙髄・玉髄(CC)																			1							1
TOTAL									1							1		1	23	1	4	1				32



第147図　K7-Aブロック出土遺物実測図（1）



第148図　Ｋ７－Ａブロック出土遺物実測図（２）



第149図　K７-Aブロック出土遺物実測図（３）

などから比較的大型で不定型な剥片を剥離している。その後，節理で２つに欠損あるいは分割した石核の１個体は，11を剥離して，このブロックから搬出されている。一方，残りの１個体（13）は，旧剥離面を打面にして，12など２枚程度剥離して作業を終了している。

・K7-6（第149図14～17）　灰色（10Y4/1）のホルンフェルスである。剥片４点，砕片１点の合計５点で構成される。

14は剥片３点（15～17）の接合資料である。大型の礫を素材にした石核の，左方向ないし斜め左方向から，16→15など３枚，さらに打点を上方向に移動して17を剥離している。17の末端に細かい剥離痕が見られるが，節理での剥落と考えられる。

２　L8-Aブロック（第150～152・232図，第35・36表，カラー図版８，図版４）

１）ブロックの概要

L8-Aブロックは，調査範囲中央のL8-02・03・12・13グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地上ではあるが，北に向かって下る浅い谷状の緩斜面で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は南へ40mである。

ブロックの規模と形状は，長軸４m，短軸２mの範囲に10点の石器が散漫に分布する。出土層位は，発掘調査時における図面等の不備から決定するができなかったが，出土状況の写真から，第２黒色帯上部と考えられる。50cmほどの高低差をもって包含されている（第150・151図）。

ブロックは，剥片７点，砕片２点，石核１点の合計10点で構成される。石器石材は，安山岩１点，頁岩Ｃ２点，頁岩Ｄ３点，頁岩Ｅ１点，ホルンフェルス３点である。

２）母岩の特徴と内容

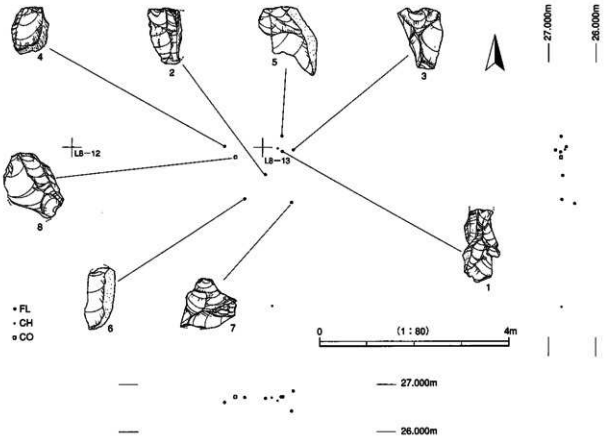
本ブロックでは８母岩を識別した。内訳は，頁岩Ｃ２母岩（L8-1・２），頁岩Ｄ３母岩（L8-3・５・６），頁岩Ｅ１母岩（L8-4），ホルンフェルス２母岩（L8-7・８）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は80%（8/10点）である。

第35表　Ｌ８－Ａブロック母岩別石器組成表

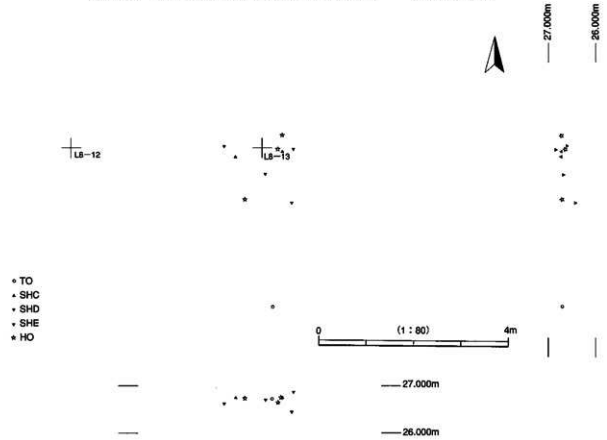
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
L８－１(SHC)																					1					1
L８－２(SHC)																			1							1
L８－３(SHD)																			1							1
L８－４(SHE)																			1							1
L８－５(SHD)																			1							1
L８－６(SHD)																			1							1
L８－７ (HO)																			1							1
L８－８ (HO)																			1							1
その他　(AN)																				1						1
その他　(HO)																				1						1
TOTAL																			7	2	1					10

第36表　Ｌ８－Ａブロック石材別石器組成表

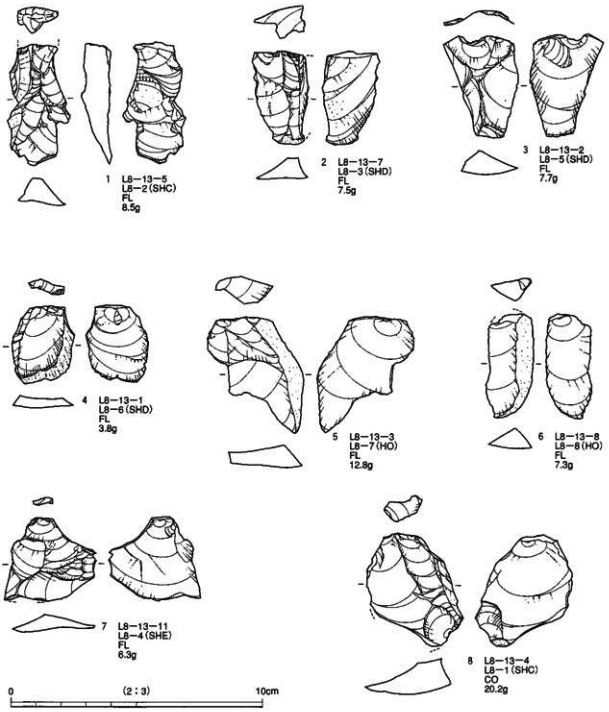
石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
安山岩(AN)																				1						1
頁岩Ｃ(SHC)																			1		1					2
頁岩Ｄ(SHD)																			3							3
頁岩Ｅ(SHE)																			1							1
ホルンフェルス(HO)																			2	1						3
TOTAL																			7	2	1					10



第150図　L８－Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第151図　L８－Aブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－



第152図　L8－Aブロック出土遺物実測図

・L8-1：内部は黄灰色（2.5Y5/1）とオリーブ灰色（2.5GY6/1）が混じり，節理は褐色（5YR4/3）の嶺岡産頁岩である。石核1点（20.2g）の単独資料である。

・L8-2：内部は褐灰色（10YR5/1）と灰色（N4/0）が混じり，節理は暗灰黄色（2.5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（8.5g）の単独資料である。

・L8-3：自然面はにぶい黄褐色（10YR5/3），内部はにぶい黄橙色（10YR6/2）の地に黄褐色（10YR5/3）

の縞が入り，新鮮な面は暗青灰色（5B4/1）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（7.5g）の単独資料である。

・L8-4：褐灰色（7.5YR4/1）の地に紫灰色（5RP5/1）とにぶい黄褐色（10YR5/3）の斑が入る頁岩である。剥片1点（6.3g）の単独資料である。

・L8-5：にぶい褐色（7.5YR5/4）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（7.7g）の単独資料である。

・L8-6：自然面は褐色（7.5YR4/4），内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）と黄褐色（10YR5/8）が混じる硬質緻密な頁岩である。剥片1点（3.8g）の単独資料である。

・L8-7：自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）のホルンフェルスである。剥片1点（12.8g）の単独資料である。

・L8-8：自然面及び内部は灰色（5Y5/1）のホルンフェルスである。剥片1点（7.3g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，風化した軟質の安山岩の砕片1点（0.1g）とホルンフェルスの砕片1点（0.5g）がある。

3）出土遺物（第152図）

1は嶺岡産頁岩，2～4は硬質緻密な頁岩，7は頁岩，5・6はホルンフェルスによる剥片である。1・3・5・7は多方向，2・4・6は上方向からの剥離面が見られる。8は嶺岡産頁岩による石核である。不定型な剥片の裏面下部から1枚，その剥離面を打面として，表面下部から1枚小型の剥片を剥離している。

第3節　第5文化層

第5文化層は，立川ローム層Ⅵ層を中心に包含されている石器群である。N8-Aブロックの1か所が該当する。なお，遺構として認識することができなかったため，図示しなかったが，N9-00グリッドのⅤ層下部で，長軸70cm，短軸50cm，厚さ5cmの範囲に焼土粒及び炭化粒が，多少見られる箇所が検出されている。

1　N8-Aブロック（第153～155・232図，第37・38表，カラー図版8，図版4）

1）ブロックの概要

N8-Aブロックは，調査範囲北端のN8-65・74・75グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地上ではあるが，北に向かって下る緩斜面で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は南へ60mである。

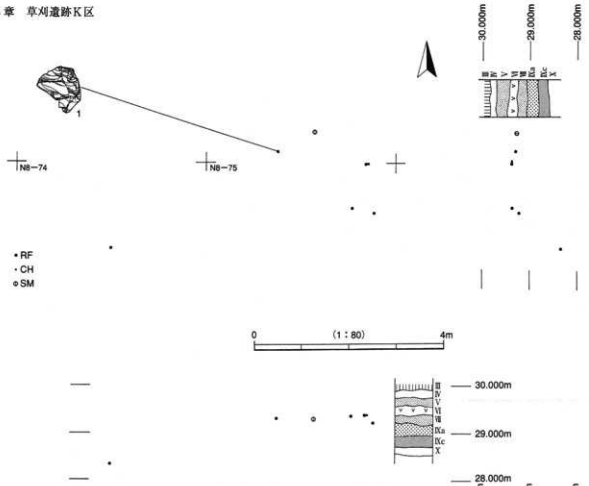
ブロックの規模と形状は，長軸6m，短軸2mの範囲に8点の石器が散漫に分布するが，1点は平面的

第37表　N8－Aブロック母岩別石器組成表

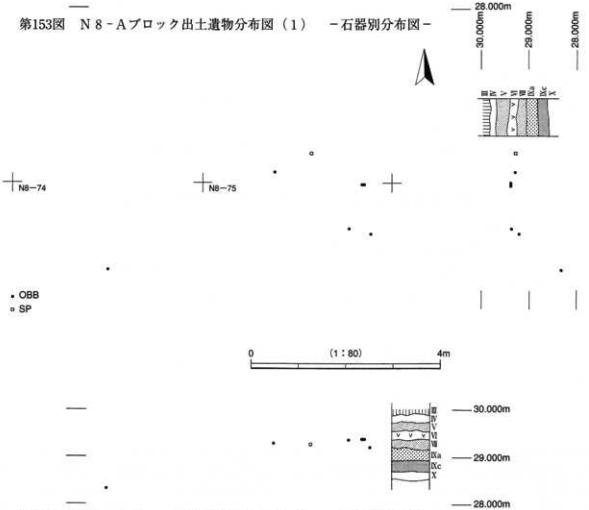
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
N8－1（OBB）																			5	2						7
N8－2（SP）																						1				1
TOTAL																			5	2		1				8

第38表　N8－Aブロック石材別石器組成表

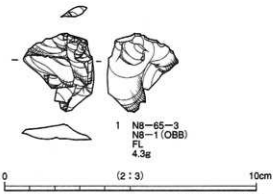
石　　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
黒曜石B（OBB）																			5	2						7
蛇紋岩（SP）																						1				1
TOTAL																			5	2		1				8



第153図　Ｎ８－Ａブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－



第154図　Ｎ８－Ａブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－



第155図　Ｎ８－Ａブロック出土遺物実測図

にも垂直的にも離れていることから，異なる文化層の可能性もある。これを除くと，長軸２ｍ，短軸１ｍの範囲に集中している。（第153・154図）。出土層位は，Ⅵ層からⅩ層にかけてで，130cmほどの高低差をもっているが，中心は，Ⅵ層からⅦ層で，20cmほどの高低差をもって包含されている。

ブロックは，剥片５点，砕片２点，原石１点の合計８点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ７点，蛇紋岩１点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは２母岩を識別した。内訳は，黒曜石１母岩（N8-１），蛇紋岩１母岩（N8-２）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（8/8点）である。

・N8-１：薄墨を流した様な透明な黒曜石である。φ１㎜～２㎜ほどの気泡を僅かに含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片５点，砕片２点の合計７点（12.4ｇ）である。

・N8-２：オリーブ灰色（5GY5/1）の地に暗オリーブ灰色（5GY3/1）の蛇紋岩である。原石１点（34.3ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第155図）

１は信州和田峠周辺産の黒曜石による剥片である。上方向からの剥離面が見られる不定型な剥片である。なお，図示しなかったが，蛇紋岩による原石は不定型な扁平礫である。

第４節　第６文化層

第６文化層は，立川ローム層第１黒色帯（Ⅴ層）からソフトローム層（Ⅲ層）にかけて包含される石器群で，L4-A，L6-Aブロックの２か所が該当する。

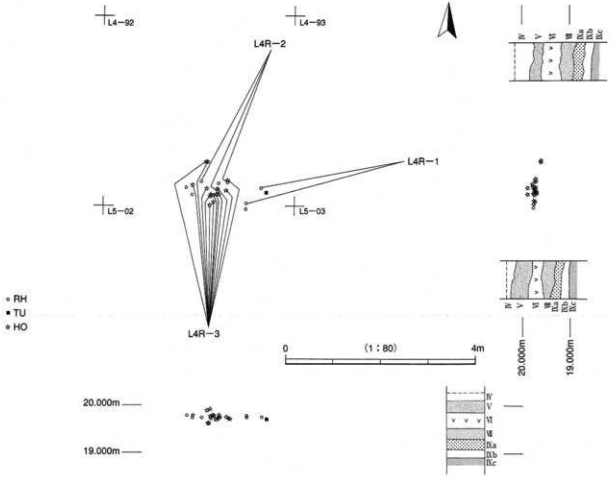
１　L4-Aブロック（第156・232図，第39表，図版４）

１）ブロックの概要

L4-Aブロックは，調査範囲北端のL4-92，L5-02グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地上ではあるが，北に向かって下る緩斜面で，10mほど先は急崖となっている。傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は南へ160mである。

ブロックの規模と形状は，長軸２ｍ，短軸１ｍの範囲に30点の礫がまとまって分布する。出土層位はⅤ層を中心としており，40cm程の高低差をもって包含されている（第156図）。

ブロックは，礫30点（801.6ｇ）で構成される。礫石材は，流紋岩12点，チャート２点，凝灰岩１点，砂岩１点，ホルンフェルス14点である。礫は母岩分類できたものが24点（４母岩），母岩分類できなかったものが６点で総重量801.6ｇである。



第156図　Ｌ４－Ａブロック出土遺物分布図　－礫石材別分布図－

第39表　Ｌ４－Ａブロック礫組成表

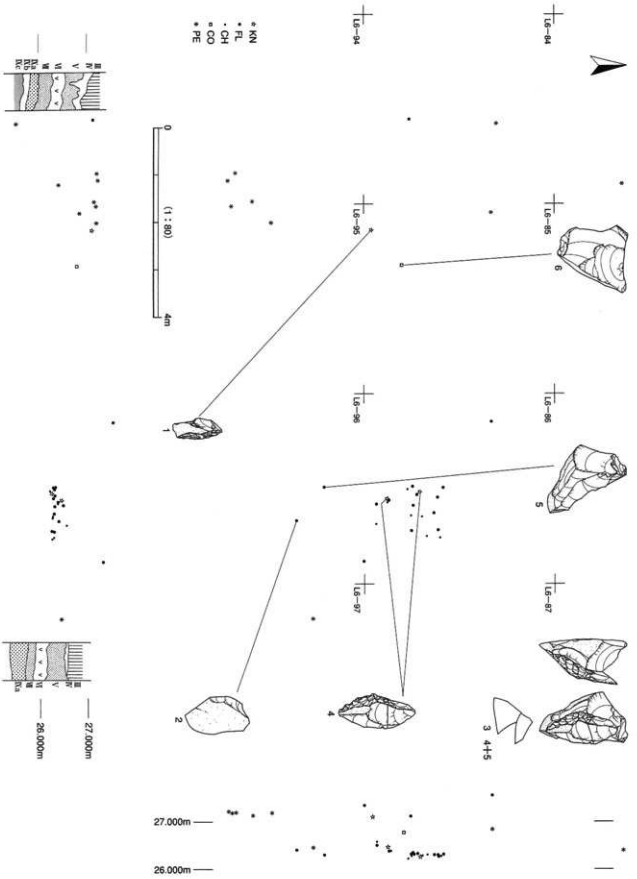
母　岩	石 材	個数	重 量
Ｌ４Ｒ－１	RH	3	80.5
Ｌ４Ｒ－２	RH	6	183.5
Ｌ４Ｒ－３	HO	14	205.0
Ｌ４Ｒ－４	TU	1	42.7
その他	RH	3	118.9
その他	CH	2	101.5
その他	SA	1	69.5

石　　材	個数	重 量
流紋岩(RH)	12	382.9
チャート(CH)	2	101.5
凝灰岩(TU)	1	42.7
砂岩(SA)	1	69.5
ホルンフェルス(HO)	14	205.0
合　　計	30	801.6

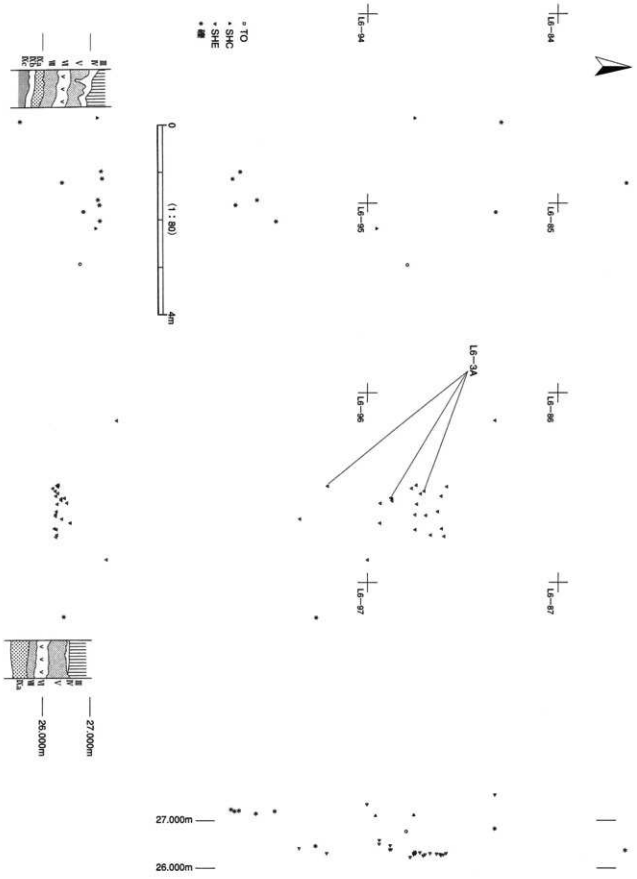
2　L6-Aブロック（第157～160・232図，第40～42表，カラー図版８・14，図版４）

１）ブロックの概要

L6-Aブロックは，調査範囲中央のL6-74・84～86・94～97グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地上ではあるが，北に向かって下る浅い谷状の緩斜面で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は南へ80ｍである。ブロックの規模と形状は，長軸11ｍ，短軸８ｍの範囲に35点の石器・礫が散漫に分布する。出土層位はⅢ層からⅨｂ層にかけてで，200cmほどの高低差をもっているが，中心は，Ⅴ層で，地形に沿って包含されている（第157～159図）。なお，垂直分布グラフでは，２枚に分層できそうだが，地形的に西



第157図　Ｌ６－Ａブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－



第158図　Ｌ６－Ａブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

第40表　L6－Aブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
L6－1(SHC)	1																									1
L6－2(SHC)																			1							1
L6－3(SHE)	2(1)																		14	7						23(22)
L6－4 (T0)																					1					1
TOTAL	3(2)																		15	7	1					26(25)

第41表　L6－Aブロック石材別石器組成表

石　　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
安山岩(AN)																					1					1
頁岩C(SHC)	1																		1							2
頁岩E(SHE)	2(1)																		14	7						23(22)
TOTAL	3(2)																		15	7	1					26(25)

第42表　L6－Aブロック礫組成表

母　　岩	石 材	個数	重 量
L6R－1	SA	8	164.7
L6R－2	AN	1	363.1
L6R－3	AN	1	28.3
L6R－4	SA	1	5.5
L6R－5	SA	1	18.2

石　　材	個数	重 量
安山岩(AN)	2	391.4
砂岩(SA)	7	188.4
合　　計	9	579.8

側から東側に傾斜していることによる。また，本ブロックは，礫を主体とする西側と石器を主体とする東側に細分することが可能であるが，同一ブロックとして認識した。

ブロックは，ナイフ形石器3点（2個体），剥片15点，砕片7点，石核1点，礫9点の合計35点（34個体）で構成される。石器石材は，風化した軟質の安山岩1点，頁岩C2点，頁岩E23点（22個体），礫石材は，安山岩2点，砂岩7点である。礫は，西側に比較的散漫に分布する状況を示している。母岩分類できたものが9点（5母岩；579.8g）で，識別率は100%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは4母岩を識別した。内訳は，風化した軟質の安山岩1母岩（L6-4），頁岩C2母岩（L6-1・2），頁岩E1母岩（L6-3）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（26/26点）である。

・**L6-1**：自然面は黄灰色（2.5Y6/1），内部は褐灰色（10YR5/1）の地に灰黄色（2.5Y6/2）の斑が入る嶺岡産頁岩である。ナイフ形石器1点（2.7g）の単独資料である。

・**L6-2**：黄灰色（2.5Y4/1）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（0.8g）の単独資料である。

・**L6-3**：自然面及び内部は灰色（5Y5/1），新鮮な面は黒色（N2/0）の頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器2点（1個体），剥片14点，砕片7点の合計23点（22個体；65.0g）である。接合資料は，剥片1点，ナイフ形石器2点（1個体）の合計3点（2個体；35.8g）である。

・**L6-4**：自然面はにぶい黄褐色（10YR4/3），内部は灰色（5Y6/1）に風化した軟質の安山岩である。石核1点（39.0g）の単独資料である。

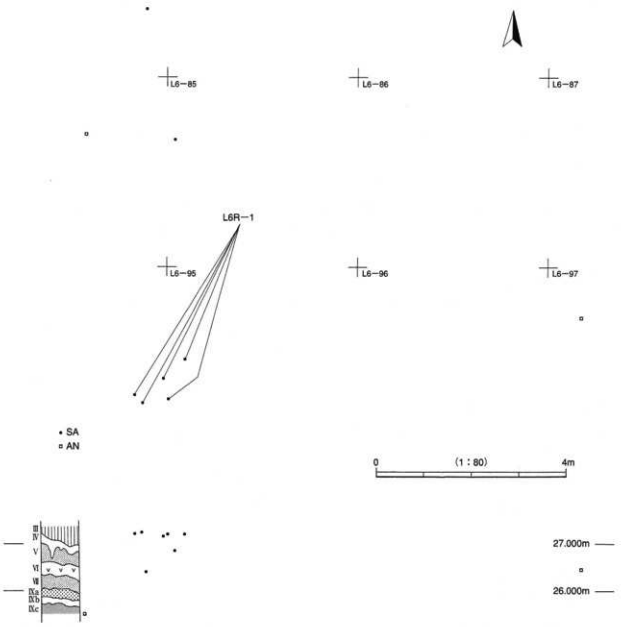
3）出土遺物（第160図1・6）

1は嶺岡産頁岩によるナイフ形石器である。不定型な剥片を横位に用い，二側縁に調整加工を行っている。6は風化した軟質の安山岩による石核である。作業面と打面を頻繁に入れ替えて，不定型な剥片を剥離している。

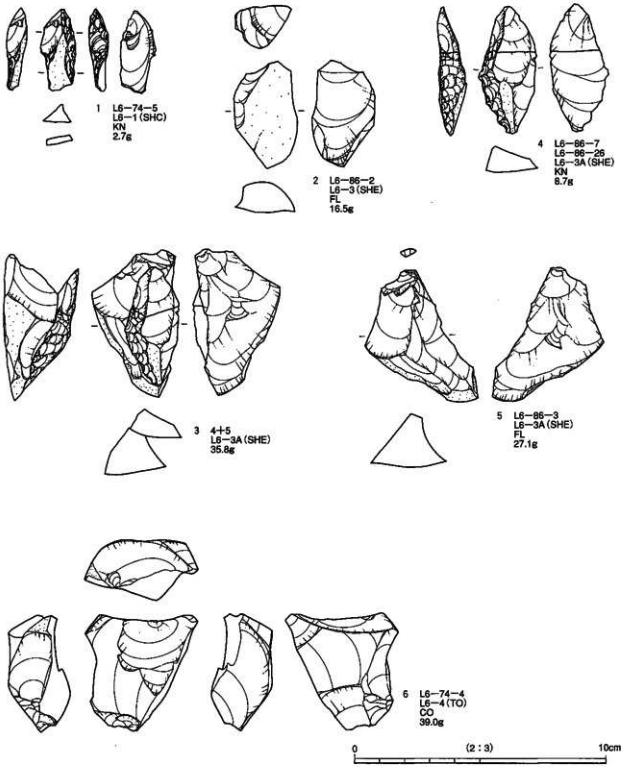
４）接合資料とその関連資料（第160図）

・L6-３（第160図２～５）　灰色（5Y5/1）の頁岩である。ナイフ形石器２点（１個体），剥片14点，砕片７点の合計23点（22個体）で構成される。

３はナイフ形石器２点（１個体；４），剥片１点（５）の接合資料である。４は上方向から連続して剥離された不定型な剥片の１枚を縦位に用い，左側縁に調整加工を行ったナイフ形石器である。その後も，上方向を主体として，表面からの剥離を交えながら，打点を90度右に移動して，５を剥離している。表面左側の剥離面は，右側に見られる剥離面の旧打面と考えられる。２は厚手の不定型な剥片であるが，初期のものと考えられる。



第159図　Ｌ６－Ａブロック出土遺物分布図（３）　－礫石材別分布図－

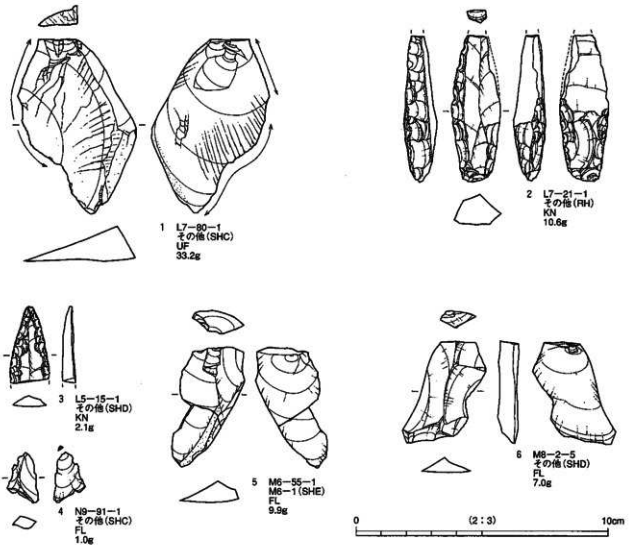


第160図　L6−Aブロック出土遺物実測図

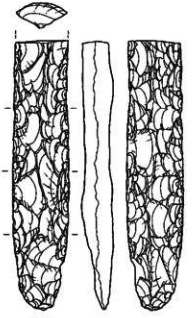
第5節　ブロック外出土遺物

ここでは，ブロックを形成していないグリッド単独（2点以下）出土の遺物と上層遺構等に混在していた遺物について記述する。3か所で単独に旧石器時代石器が出土した（第161～163図，カラー図版9，図版4）。

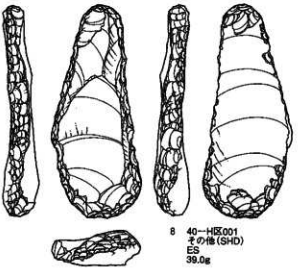
1・4・5は単独出土の石器群である。1は自然面は灰黄褐色（10YR4/2），内部は灰色（7.5Y4/1）と灰色（7.5Y6/1）が混じり，節理は暗灰黄色（2.5Y4/2）の嶺岡産頁岩による使用痕ある剥片である。不定型な剥片を素材として，表面左側縁と裏面右側縁に刃こぼれが見られる。L7-80グリッドのⅦ層から出土しており，第4文化層に帰属する可能性が高い。4は褐灰色（7.5YR4/1）で不純物を含む嶺岡産頁岩による剥片である。表面右側の剥離面は，ポジティブな面である。N9-91グリッドのⅨa層から出土しており，第4文化層に帰属する可能性が高い。5は自然面及び内部は灰色（5Y5/1），新鮮な面は灰色（7.5Y4/1）の頁岩による剥片である。表面右側には，裏面からの剥離面が見られることから，90度の打面転移による剥離作業が想定される。出土層位は，不明であるが，第5文化層に帰属する可能性がある。



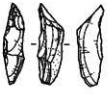
第161図　草刈遺跡K区ブロック外出土遺物実測図（1）



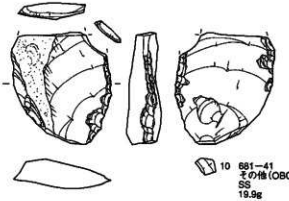
7　156−括
その他(SL)
PO
36.3g



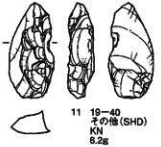
8　40−H区001
その他(SHD)
ES
39.0g



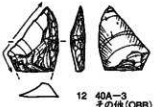
9　515−3
その他(SHD)
KN
2.0g



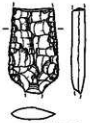
10　681−41
その他(OBC)
SS
19.9g



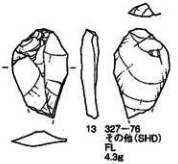
11　19−40
その他(SHD)
KN
6.2g



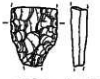
12　40A−3
その他(OBB)
KN
2.0g



15　148−19
その他(SHD)
PO
4.8g



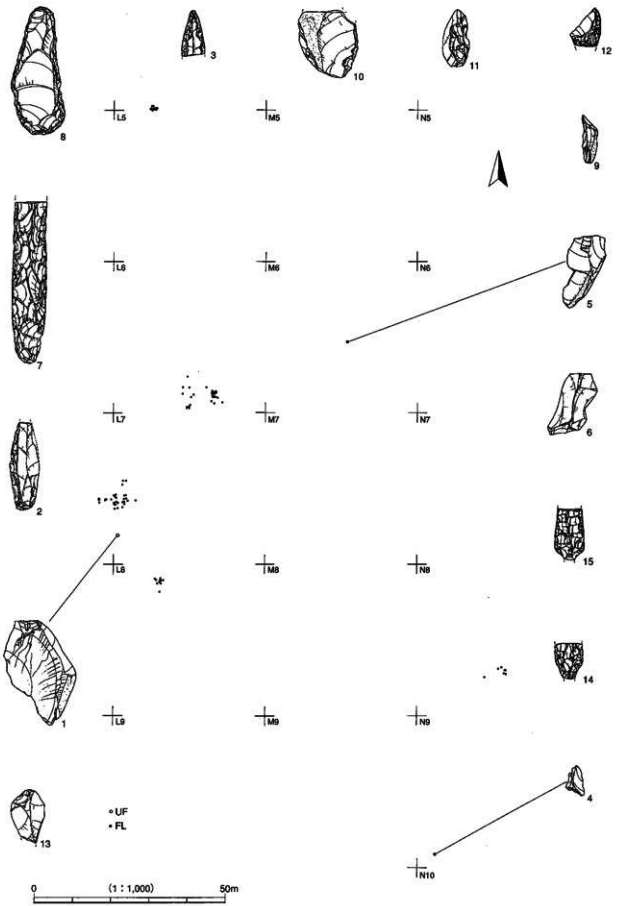
13　327−76
その他(SHD)
FL
4.3g



14　40B−14
その他(CH)
PO
3.2g

0　(2：3)　10cm

第162図　草刈遺跡Ｋ区ブロック外出土遺物実測図（２）



第163図　草刈遺跡K区ブロック外出土遺物分布図

2・3・6はグリッド一括で出土した石器である。2は浅黄色（2.5Y7/3）でφ1㎜～2㎜程の石英を含む流紋岩によるナイフ形石器である。単設打面の石核から剥離された中型の石刃の打面部を基部にして，二側縁と裏面基部に調整加工を行っている。L7-21グリッドから出土した。3は黄灰色（2.5Y4/1）の硬質緻密な頁岩によるナイフ形石器である。剥片の打面部を基部にして，両側縁に調整剥片を行っている。下半部を欠損するため形態は不明である。あるいは，片面周辺加工の尖頭器とした方がよいかもしれない。L5-15グリッドから出土した。6は暗灰黄色（2.5Y5/2）の硬質緻密な頁岩による剥片である。多方向の剥離面が見られる。M8-2グリッドから出土した。

7～14は上層遺構の覆土中から出土した旧石器時代資料である。

7は灰色（10Y4/1），新鮮な面は灰色（N4/0）の硬質緻密な粘板岩による槍先形石器である。表面の方が裏面に比べ，凹凸があり，最終的な剥離痕は，表面に集中する傾向がうかがわれる。本ノ木型尖頭器に分類される。156号住居のソフトロームの壁に突き刺さった状態で出土している。8は灰褐色（7.5YR4/2）と黒褐色（7.5YR3/1）の部分がある硬質緻密な頁岩による掻器である。あるいは東北産であろうか。末端の稜線は，使用によるものか，潰れている。また，表面上部の樋状の剥離及び末端から右側縁下部と裏面上部の剥離及び末端の剥離面は，他の風化した剥離面と光沢が異なり，さらに表面上部の稜線には，鉄分の可能性のある褐色の付着物が見られる。多少の時間差と考えられ，後世の農作業などによる可能性もある。9は自然面は灰褐色（7.5YR5/2），内部は黄灰色（2.5Y5/1）と灰黄色（2.5Y6/2）の部分がある硬質緻密な頁岩によるナイフ形石器である。不定型な剥片を横位に用い，左側縁に調整加工を行っている。10は信州麦草峠産の黒曜石による削器である。自然面及び内部は黒灰色半透明な地に黒色の縞が入る。φ1㎜～2㎜の白色の夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。不定型な剥片を素材として，表面の右側縁及び左側縁下部，裏面の左側縁及び右側縁上部の調整加工を行っている。11は灰黄褐色（10YR5/2）と褐灰色（10YR5/1）の部分がある硬質緻密な頁岩によるナイフ形石器である。不定型な剥片を縦位に用い，裏面基部と右側縁には裏面側及び稜上から調整加工を行っている。12は薄墨を流した様な透明な地に細かい気泡が入る黒曜石である。φ1㎜～2㎜の白色の夾雑物を僅かに含む。信州和田峠周辺産と考えられる。不定型な剥片を縦位に用い，右側縁に調整加工を行っている。下部を欠損するため，形態は不明である。左側縁に刃こぼれが見られる。13は内部は灰色（5Y5/1）と灰白色（5Y7/1）の部分があり，新鮮な面は黒色（10YR2/1）の硬質緻密な頁岩による不定型な剥片である。14は灰色（5Y4/1）に黒色（N2/0）の筋が入るチャートによる有茎尖頭器である。最終的な剥離痕は，表面に集中する。上部と基部を欠損する。15は褐灰色（10YR4/1）の硬質緻密な頁岩による有茎尖頭器である。最終的な剥離痕は，表面に集中しており，側縁は鋸歯状を呈している。また，上部と基部を欠損するが，特に基部には，衝撃剥離に特有の縦溝状剥離痕が見られる。

第７章　草刈遺跡Ｌ区（219-068）

第１節　調査の概要

草刈遺跡Ｌ区では，旧石器時代（下層）の調査を平成６・７年度に実施した。調査区の位置は草刈遺跡の北西部にあたり，村田川に面した台地の南側である。

平成６年度は10,735㎡を調査対象として，４％を基本に確認調査を行い，引き続き，平成７年度はその結果に基づいて1,260㎡の本調査を行った。調査の結果，８か所のブロックと４か所の単独出土地点を検出した（第164図）。

本調査区における８か所のブロックは，以下のとおり４枚の文化層に区分できる。なお，文化層の設定は草刈遺跡全域で行っており，本調査区の石器群は第３・４・５・６文化層にあたる。

第３文化層は，立川ローム層第２黒色帯下部（Ⅸ層下部）に包含される石器群で，石器７点と礫１点が１か所のブロック（J8-Bブロック）から出土した。

第４文化層は，立川ローム層第２黒色帯上半部（Ⅶ層～Ⅸ層上部）に包含される石器群で，199点の石器と礫２点が５か所のブロック（I6-A，K7-B，K8-A，J8-A，K10-Aブロック）から出土した。

第５文化層は，立川ローム層のⅥ層を中心に包含される石器群で，石器６点が１か所のブロック（I9-Aブロック）から出土した。

第６文化層は，立川ローム層のソフトローム層下部（Ⅲ層）から第１黒色帯（Ⅴ層）にかけて包含される石器群で，石器57点が１か所のブロック（I6-Bブロック）から出土した。

第２節　第３文化層

第３文化層は，立川ローム層第２黒色帯下部（Ⅸ層下部）に包含される石器群で，J8-Bブロックの１か所が該当する。

１　J8-Bブロック（第165～167・232図，第43～45表，カラー図版９，図版５）

１）ブロックの概要

J8-Bブロックは，調査範囲中央のJ8-48・57・58グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地上ではあるが，北に向かって下る緩斜面で，傾斜変換点（台地縁辺）までの距離は，南北それぞれ80mである。

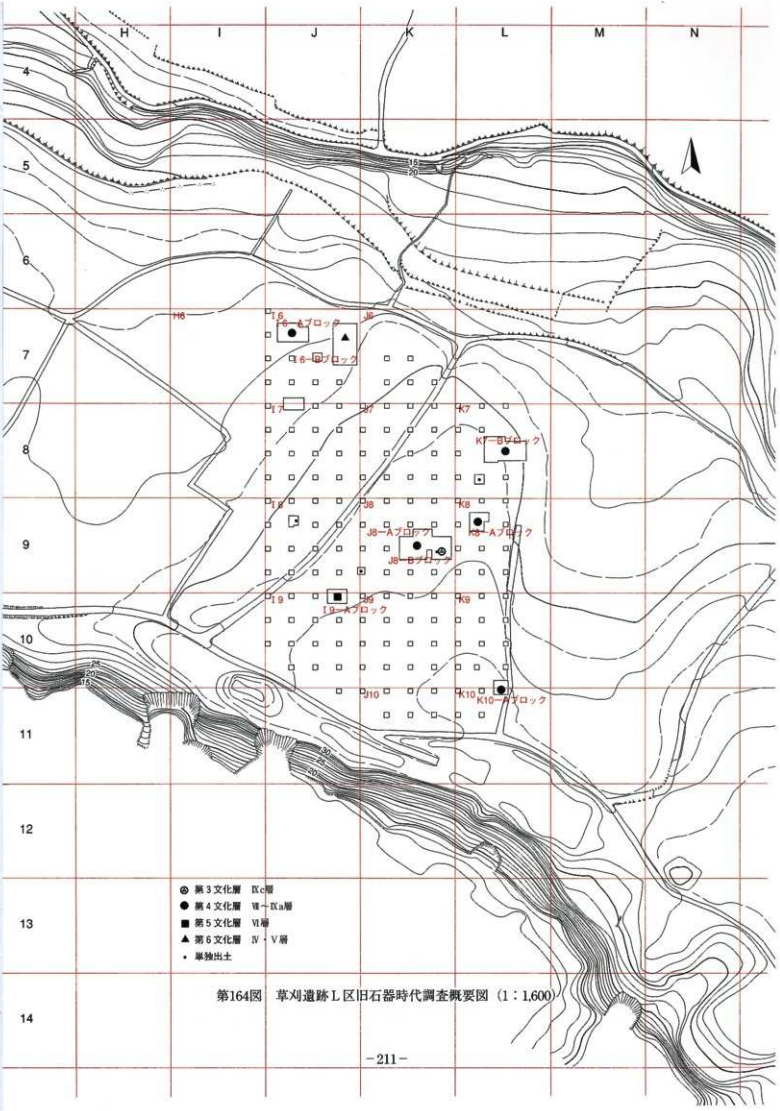
ブロックの規模と形状は，長軸４m，短軸２mの範囲に８点の石器・礫が分布する。出土層位はⅨａ層からⅩｂ層にかけてで，60cmほどの高低差をもって包含されている（第165・166図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，石刃１点，局部磨製石斧１点，剥片４点，礫１点の合計８点で構成される。石器石材は，頁岩Ｅ１点，凝灰岩１点，砂岩１点，ホルンフェルス３点，瑪瑙・玉髄１点，礫石材は，流紋岩１点（１母岩；137.2ｇ）で，識別率は100％である。

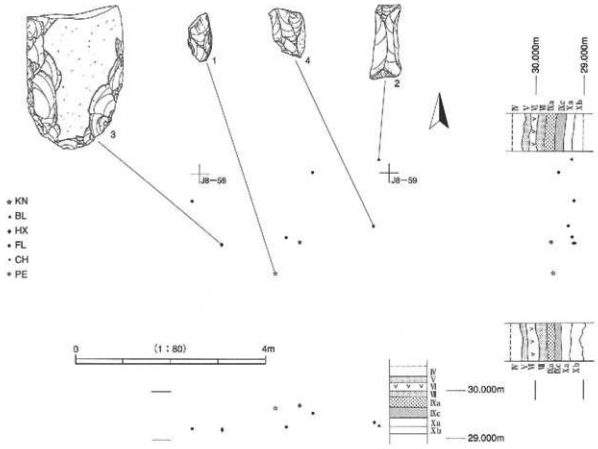
なお，本ブロックと同一地点から出土した石核が，J8-Aブロックの剥片と接合すること（第186図37），共通する石材があることなどから，J8-Bブロックは，第４文化層に帰属する可能性もある。

２）母岩の特徴と内容

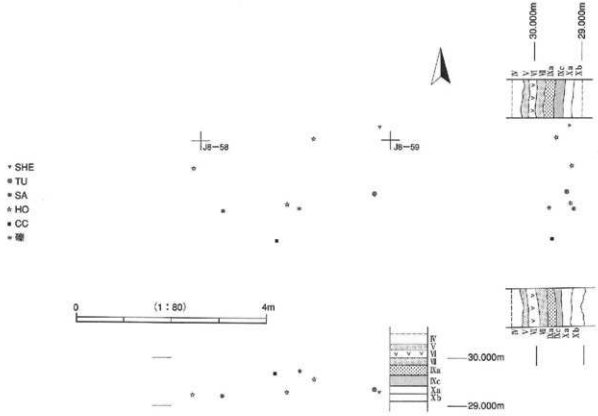
本ブロックでは７母岩を識別した。内訳は，頁岩Ｅ１母岩（J8-30），凝灰岩１母岩（J8-31），砂岩１母岩



第164図　草刈遺跡L区旧石器時代調査概要図（1：1,600）



第165図　Ｊ８－Ｂブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－



第166図　Ｊ８－Ｂブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

(J8-29)，ホルンフェルス3母岩（J8-33・34・35），瑪瑙・玉髄1母岩（J8-32）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（7/7点）である。

・J8-29：自然面及び内部は灰色（7.5Y6/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）で硬質できめの細かな砂岩である。局部磨製石斧1点（235.4g）の単独資料である。

・J8-30：内部は暗灰黄色（2.5Y5/2），節理はにぶい黄褐色（10YR5/3），新鮮な面は黒色の頁岩である。石刃1点（8.0g）の単独資料である。

・J8-31：自然面は灰オリーブ色（7.5Y5/2），内部は灰色（10Y5/1），新鮮な面は暗青灰色（5B4/1）で硬質緻密な凝灰岩である。剥片1点（7.4g）の単独資料である。

・J8-32：節理及び内部がにぶい黄橙色（10YR7/3）の瑪瑙・玉髄である。ナイフ形石器1点（2.9g）の単独資料である。

・J8-33：自然面は灰色（5Y4/1），内部は灰色（7.5Y4/1）のホルンフェルスである。剥片1点（46.3g）の単独資料である。

・J8-34：自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y4/2），新鮮な面は黒褐色（2.5Y3/1）のホルンフェルスである。剥片1点（10.2g）の単独資料である。

・J8-35：自然面及び内部は，灰色（7.5Y5/1）のホルンフェルスである。剥片1点（5.3g）の単独資料である。

3）出土遺物（第167図）

1は瑪瑙・玉髄によるナイフ形石器である。不定型な剥片を横位に用い，二側縁に調整加工を行っている。2は頁岩による石刃である。単設で平坦な打面の石刃石核から剥離されている。3は砂岩による局部磨製石斧と考えられる。明瞭な研磨痕が見られないことから，打製石斧とした方が望ましいような資料である。表面下部の自然面として図示した刃部の末端から3cmほどが，研磨されている可能性がある。ある

第43表　J8－Bブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
J8－29（SA）														1												1
J8－30（SHE）												1														1
J8－31（TU）																			1							1
J8－32（CC）	1																									1
J8－33（HO）																			1							1
J8－34（HO）																			1							1
J8－35（HO）																			1							1
TOTAL	1											1		1					4							7

第44表　J8－Bブロック石材別石器組成表

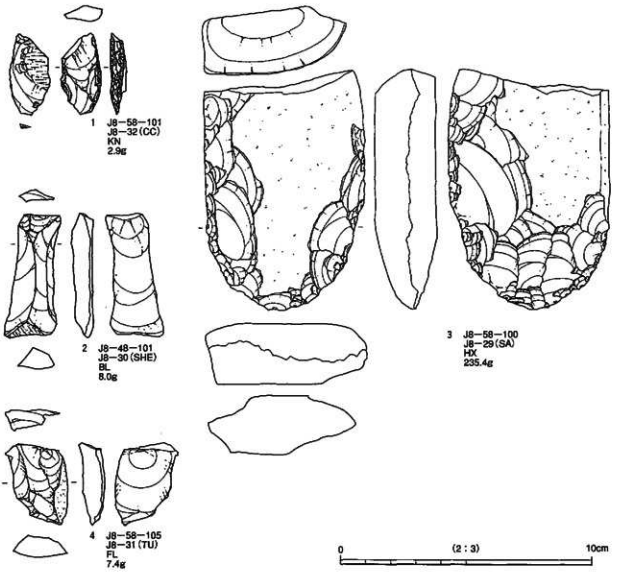
石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
頁岩E（SHE）												1														1
凝灰岩（TU）																			1							1
砂岩（SA）														1												1
色のシンフェルス（HO）																			3							3
瑪瑙・玉髄（CC）	1																									1
TOTAL	1											1		1					4							7

第45表　J8－Bブロック礫組成表

母　岩	石材	個数	重量
J8R－2	RH	1	137.2

石　材	個数	重量
流紋岩（RH）	1	137.2
合　計	1	137.2

いは刃部再生を行った直後の資料であるのかもしれない。上半部が欠損している。4は凝灰岩による不定型な剥片である。



第167図　J8-Bブロック出土遺物実測図

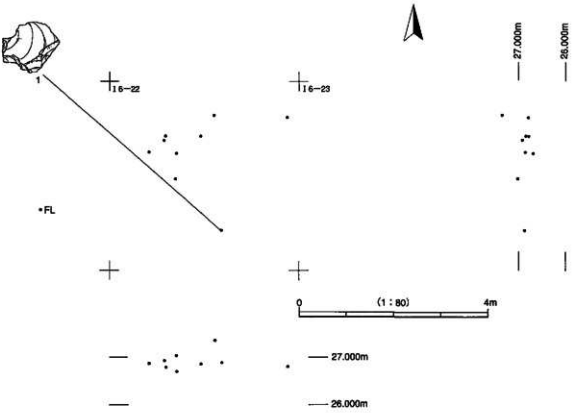
第3節　第4文化層

第4文化層は，立川ローム層第2黒色帯上部（Ⅶ層～Ⅸ層上部）に包含される石器群で，I6-A，K7-B，K8-A，J8-A，K10-Aブロックの5か所が該当する。

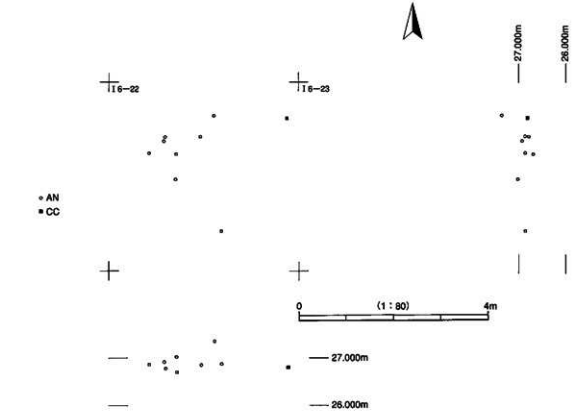
1　I6-Aブロック（第168～170・232図，第46・47表，カラー図版9）

1）ブロックの概要

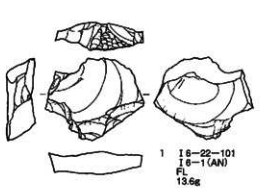
I6-Aブロックは，調査範囲北端のI6-22グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地上ではあるが，



第168図　Ⅰ6－Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第169図　Ⅰ6－Aブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－



第170図　Ｉ６－Ａブロック出土遺物実測図

北に向かって下る緩斜面で，傾斜変換点（台地縁辺）までの距離は，北へ40m，南へ120mである。

ブロックの規模と形状は，長軸４m，短軸２mの範囲に９点の石器が分布する。出土層位は，Ⅶ層を中心として，70cmほどの高低差をもっているが，１点を除けば，40cmほどの高低差をもって包含されている（第168・169図）。

ブロックは，剥片９点で構成される。石材は，安山岩８点，瑪瑙・玉髄１点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは２母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（I6-1），瑪瑙・玉髄１母岩（I6-11）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（9/9点）である。

・I6-1：黄灰色（2.5Y4/1）で，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片８点（109.2ｇ）である。

・I6-11：にぶい黄橙（10YR7/3）の瑪瑙・玉髄である。剥片１点（0.9ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第170図）

１は安山岩による不定型な剥片である。下部に見られる裏面からの剥離面は，旧打面の作業面の可能性がある。

第46表　Ｉ６－Ａブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
I 6－1 (AN)																			8							8
I 6－11 (CC)																			1							1
TOTAL																			9							9

第47表　Ｉ６－Ａブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
安山岩(AN)																			8							8
瑪瑙・玉髄(CC)																			1							1
TOTAL																			9							9

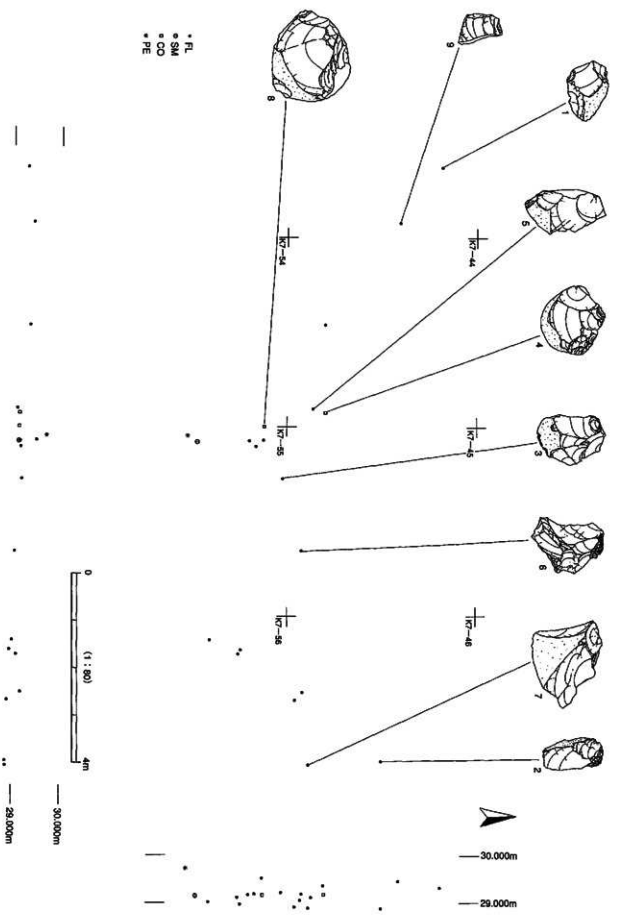
２　K7-Bブロック（第171～174・232図，第48～50表，カラー図版９，図版５）

１）ブロックの概要

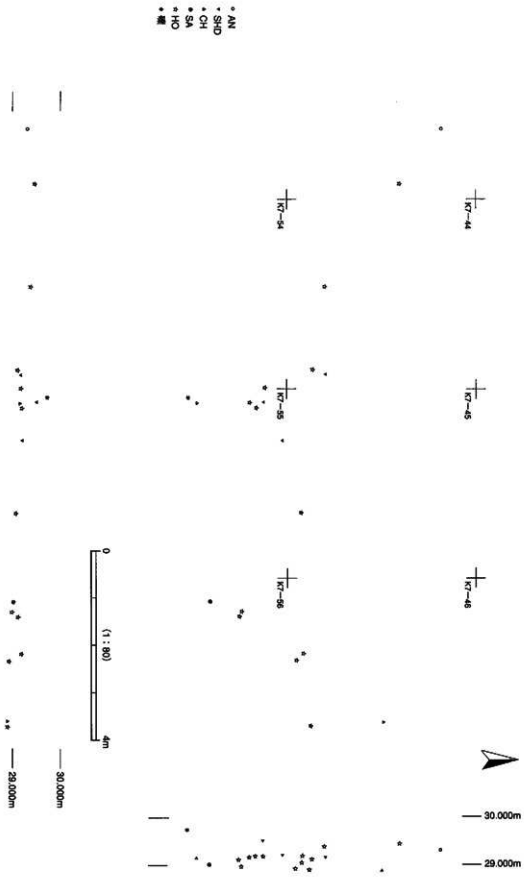
K7-Bブロックは，調査範囲中央のK7-43～46・54～56グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地上ではあるが，北に向かって下る緩斜面で，傾斜変換点（台地縁辺）までの距離は北へ40m，南へ120mである。

ブロックの規模と形状は，長軸12m，短軸３mの範囲に20点の石器・礫が散漫に分布する。出土層位は，Ⅶ層を中心として，90cmほどの高低差をもって包含されている。礫の１点を除いても，70cmほどの高低差があり，拡散の幅が大きい（第171・172図）。

ブロックは，剥片16点，石核２点，原石１点，礫１点の合計20点で構成される。石器石材は，安山岩１



第171図　Ｋ７－Ｂブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－



第172図　Ｋ７－Ｂブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

点，頁岩D3点，チャート2点，砂岩1点，ホルンフェルス12点，礫石材はチャート1点（1母岩；5.9g）で，識別率は100%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは10母岩を識別した。内訳は，安山岩1母岩（K7-17），頁岩D1母岩（K7-16），チャート2母岩（K7-24・25），砂岩1母岩（K7-23），ホルンフェルス5母岩（K7-18～22）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（19/19点）である。

・K7-16：自然面はにぶい褐色（7.5YR5/4），内部はにぶい黄橙色（10YR6/4）の硬質緻密な頁岩である。黒褐色（7.5YR3/1）の付着物がみられる。原石は，拳の半分程度の楕円礫と推定される。石器群の内訳は，剥片2点，石核1点の合計3点（73.6g）である。

・K7-17：自然面及び内部は褐灰色（10YR4/1），新鮮な面は黒色の安山岩である。自然面は，あばた状である。剥片1点（9.9g）の単独資料である。

・K7-18：自然面及び内部が灰色（5Y4/1）のホルンフェルスである。明褐色（7.5YR5/8）の鉄分が付着している。原石は，拳程度の楕円礫と推定される。石器群の内訳は，剥片1点，石核1点の合計2点（161.4g）である。

・K7-19：自然面及び内部が暗灰黄色（2.5Y4/2）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片5点（93.5g）である。

・K7-20：自然面及び内部が灰色（5Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片2点（30.0g）である。

・K7-21：灰色（10Y4/1）のホルンフェルスである。剥片1点（20.3g）の単独資料である。

・K7-22：黄灰色（2.5Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片2点（2.5g）である。

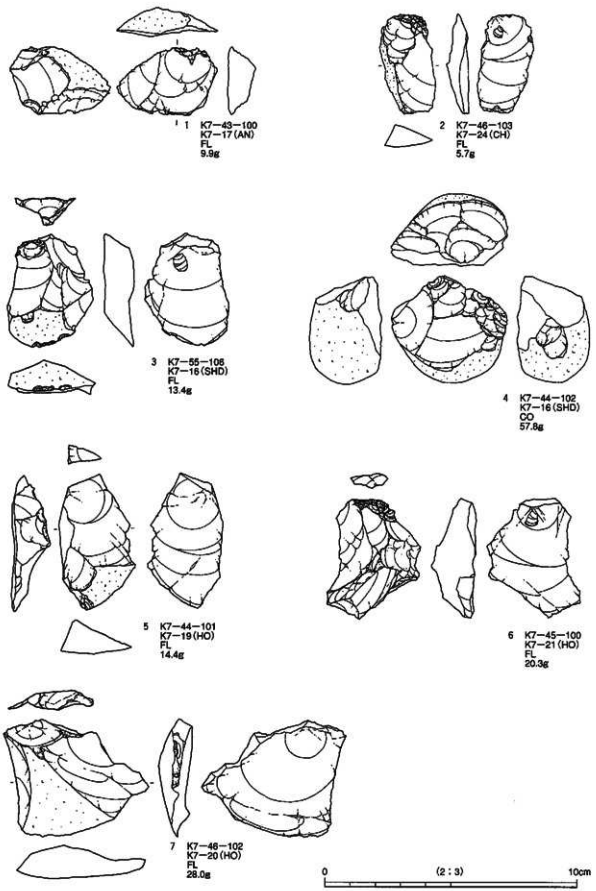
・K7-23：自然面及び内部が黄灰色（2.5Y4/1）の砂岩である。自然面は緩やかな曲面をなしており，比較的大型の円礫と推定される。剥片1点（2.2g）の単独資料である。

・K7-24：自然面は暗緑灰色（5G4/1），内部は暗灰色（N3/0）で黒色（N2/0）の網目状のチャートである。自然面は緩やかな曲面をなしており，比較的大型の円礫と推定される。剥片1点（5.7g）の単独資料である。

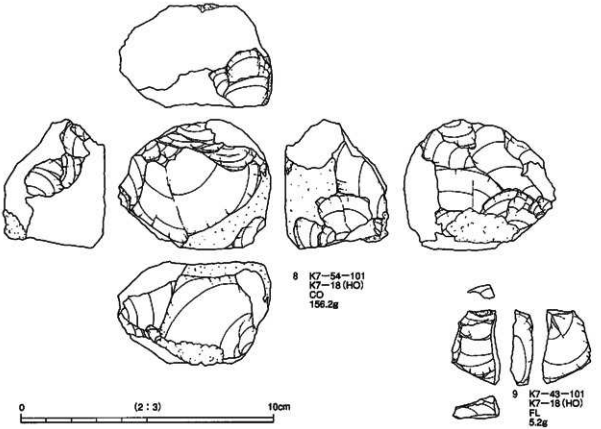
・K7-25：自然面は灰赤色（10R4/2）のチャートである。自然面は緩やかな曲面をなしており，比較的大型の円礫と推定される。原石1点（67.5g）の単独資料である。

3）出土遺物（第173・174図）

1は安山岩による不定型な剥片である。表面の剥離方向は一定しないことから，打点を大きく移動しながら剥片を剥離していたと考えられる。2はチャートによる縦長剥片である。3・4は硬質緻密な頁岩による同一母岩の剥片と石核である。4は上面観（裏面側）の1枚を除き，表面で集中して剥離を行い，作業を終了している。3の末端に見られる剥離痕は，意図的な調整加工ではないと考えたが，詳細は不明である。なお，挿図作成後，2点は，4の表面中央の剥離面で3と接合した。3の打面と4の上面観の左から2枚目の剥離面は，同一の剥離面である。この個体は，拳の半分程度の楕円礫を素材として，上部で剥離面と打面を頻繁に入れ替えながら，前半には縦長剥片，後半には不定型な横長剥片を剥離している。資料数は少ないものの，本ブロックで剥片生産を行った可能性が高い。5～7はホルンフェルスによる不定型な剥片である。5は石核の打面再生剥片と考えられる。6は表面方向からの剥離面を含め，裏面と直交



第173図　Ｋ７－Ｂブロック出土遺物実測図（１）



第174図　Ｋ７－Ｂブロック出土遺物実測図（２）

第48表　Ｋ７－Ｂブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SN	SP	MB	MC	TOTAL
Ｋ７－16(SHD)																			2			1				3
Ｋ７－17 (AN)																			1							1
Ｋ７－18 (HO)																			1		1					2
Ｋ７－19 (HO)																			5							5
Ｋ７－20 (HO)																			2							2
Ｋ７－21 (HO)																			1							1
Ｋ７－22 (HO)																			2							2
Ｋ７－23 (SA)																			1							1
Ｋ７－24 (CH)																			1							1
Ｋ７－25 (CH)																						1				1
TOTAL																			16		2	1				19

第49表　Ｋ７－Ｂブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SN	SP	MB	MC	TOTAL
安山岩(AN)																			1							1
頁岩Ｄ(SHD)																			2		1					3
チャート(CH)																			1			1				2
砂岩(SA)																			1							1
ホルンフェルス(HO)																			11		1					12
TOTAL																			16		2	1				19

第50表　Ｋ７－Ｂブロック礫組成表

母　岩	石材	個数	重量
Ｋ７Ｒ－１	CH	1	5.9

石　材	個数	重量
チャート(CH)	1	5.9
合　計	1	5.9

する剥離面が多いことから，90度の打面転移による剥離手順が想定される。下部は欠損であろうか。７は表面を覆う剥離面の方向が裏面と一致しないものが多く，頻繁な打点の移動を伴う剥離作業が想定される。８・９はホルンフェルスによる同一母岩の剥片と石核である。８は剥離面と打面を頻繁に入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。表面上部で小型の剥片を剥離して，作業を終了している。裏面下部に見られる自然面として図示した部分は，剥離後に鉄分が付着したようであるが，その過程は不明である。この個体も，資料数は少ないものの，本ブロックで剥片生産を行った可能性が高い。

3　K8-Aブロック（第175～177・232図，第51・52表，カラー図版９，図版５）

１）ブロックの概要

K8-Aブロックは，調査範囲中央のK8-22グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地上ではあるが，北に向かって下る緩斜面で，傾斜変換点（台地縁辺）までの距離は北へ80m，南へ100mである。

ブロックの規模と形状は，直径２mの範囲に18点の石器が分布する。出土層位は，Ⅵ層からⅨｂ層にかけてで，70cmほどの高低差をもっているが，中心はⅧ層で，30cmほどの高低差をもって包含されている（第175・176図）。

ブロックは，加工痕ある剥片１点，剥片９点，砕片８点の合計18点で構成される。石器石材は，安山岩13点，流紋岩２点，頁岩Ｅ２点，砂岩１点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（K8-２），流紋岩１母岩（K8-１）頁岩Ｅ１母岩（K8-３），砂岩１母岩（K10-４）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は83%（15/18点）である。

・K8-１：自然面はにぶい黄橙色（10YR5/3），内部は灰白色（10YR8/2）の流紋岩である。石器群の内訳は，剥片２点（20.9ｇ）である。

・K8-２：自然面及び内部は黄灰色（2.5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片５点，砕片４点の合計10点（86.5ｇ）である。

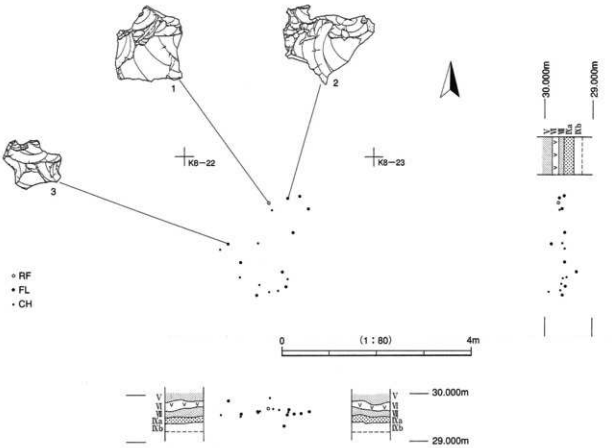
・K8-３：灰黄色（2.5Y6/2）で新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（14.0ｇ）である。

・K10-４：灰黄色（2.5Y6/2）の砂岩である。砕片１点（0.3ｇ）の単独資料である。このほか，同一母岩がK10-Aブロックに１点ある。

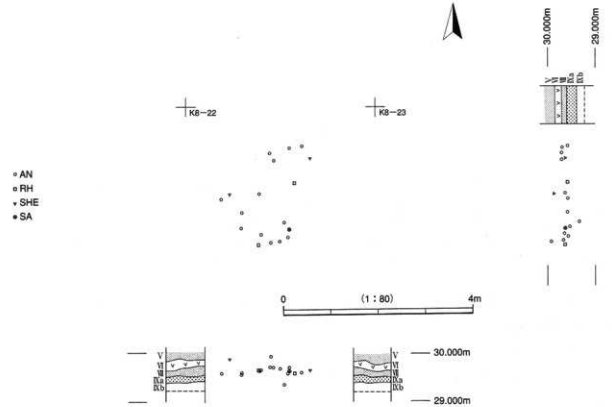
なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の砕片３点（0.6ｇ）がある。

３）出土遺物（第177図）

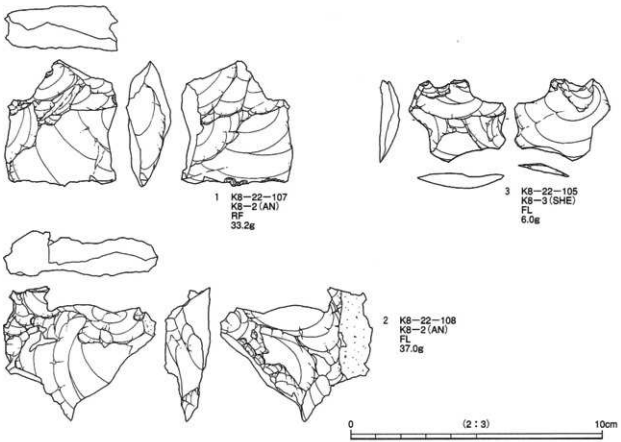
１・２は同一母岩の安山岩による資料である。１は加工痕ある剥片である。裏面の末端に調整加工を行っている。ただし，偶発的な欠損の可能性もある。表面下部の剥離面はポジティブな面であることから，厚手の不定型な剥片を素材として，上方向から剥片を数枚剥離した後，１を剥離している。その際，打撃の衝撃により，裏面上部の複数の剥離面が，同時に剥離したものと考えられる。２は不定型な剥片である。挿図作成後，表裏の認識に変更があり，以下，表裏を逆にし，挿図の正面図の右側を打面部として記述する。表面には多方向の剥離面が見られる。自然面を打面として，剥離している。３は頁岩による不定型な剥片である。表面には多方向の剥離面が見られる。打面は，打撃の衝撃によりハジケている。



第175図　Ｋ８－Ａブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－



第176図　Ｋ８－Ａブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－



第177図　Ｋ８－Ａブロック出土遺物実測図

第51表　Ｋ８－Ａブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
Ｋ８－１ (BR)																			2							2
Ｋ８－２ (AN)										1									5	4						10
Ｋ８－３ (SHE)																			2							2
Ｋ10－４ (SA)																				1						1
その他 (AN)																				3						3
TOTAL										1									9	8						18

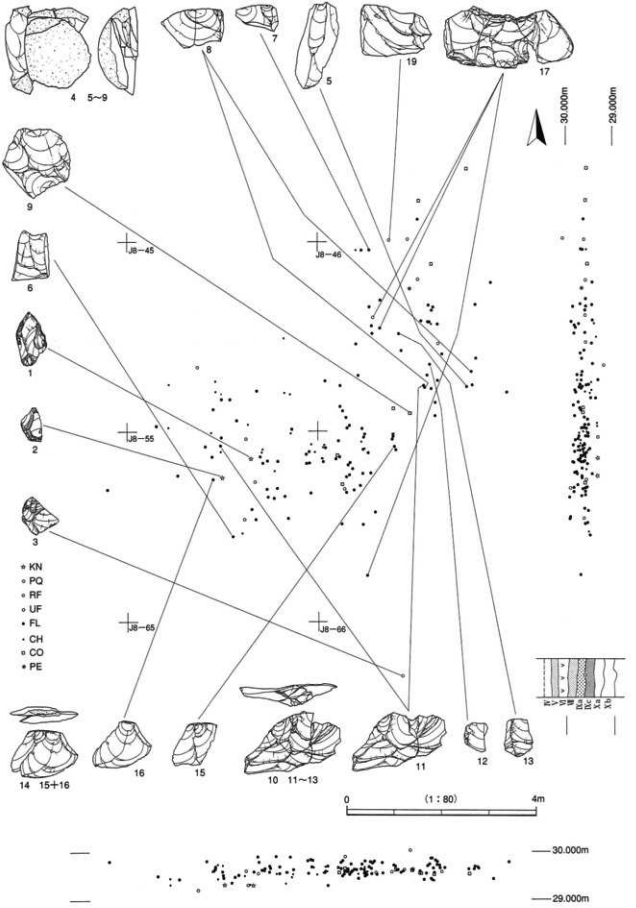
第52表　Ｋ８－Ａブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
安山岩(AN)											1								8	7						13
頁岩質(RH)																			2							2
頁岩質(SHE)																			2							2
砂岩(SA)																				1						1
TOTAL										1									9	8						18

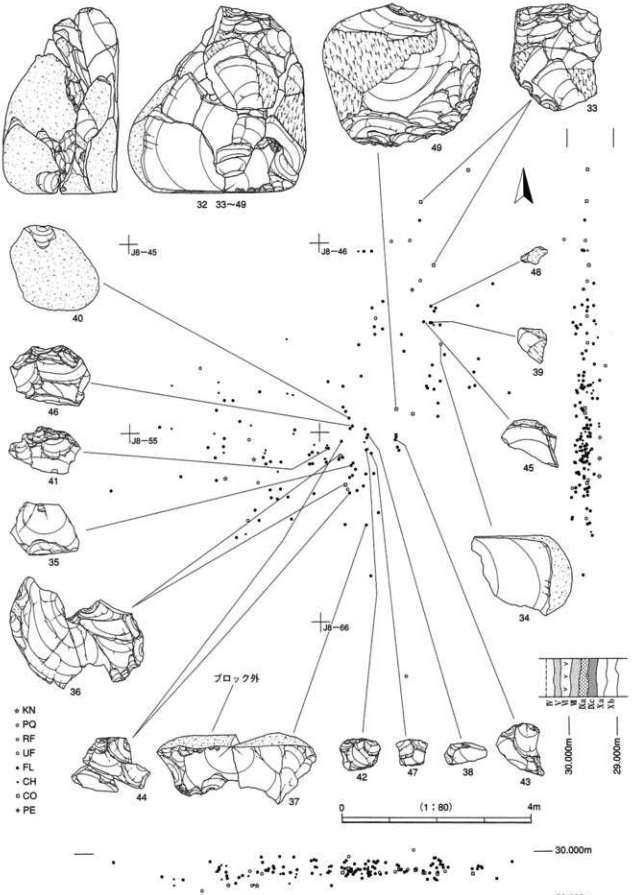
4　J8-Aブロック（第178～188・233図，第53～55表，カラー図版９・10・14，図版５）

１）ブロックの概要

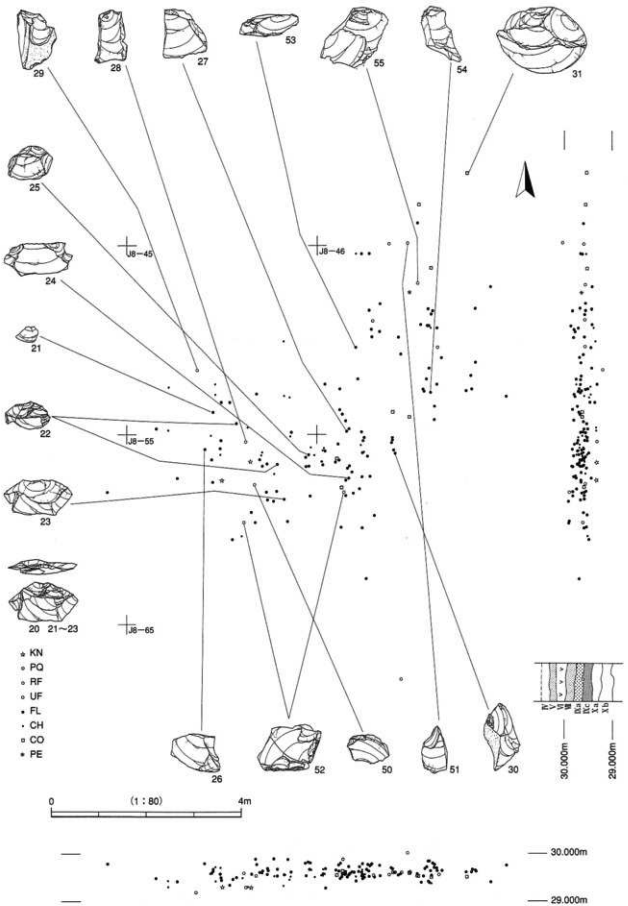
J8-Aブロックは，調査範囲中央のJ8-36・45・46・54～56・66グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地上ではあるが，北に向かって下る緩斜面で，傾斜変換点（台地縁辺）までの距離は南北それぞれ80mである。



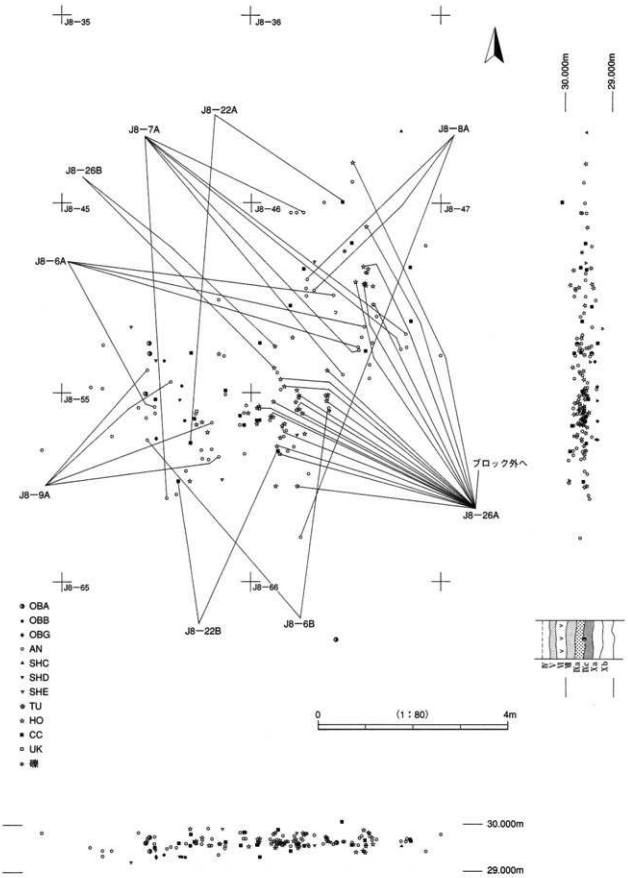
第178図　Ｊ８－Ａブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図（１）－



第179図　Ｊ８－Ａブロック出土遺物分布図（２）　－石器別分布図（２）－



第180図　Ｊ８－Ａブロック出土遺物分布図（３）　－石器別分布図（３）－



第181図　Ｊ８－Ａブロック出土遺物分布図（４）　－石材別分布図－

ブロックの規模と形状は，長軸10m，短軸８mの範囲に150点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅵ層からⅩａ層にかけてで，90cmほどの高低差をもっているが，中心はⅦ層からⅨ層で，70cmほどの高低差をもって包含されている（第178～181図）。

ブロックは，ナイフ形石器２点，楔形石器２点（１個体），加工痕ある剥片８点，使用痕ある剥片１点，剥片102点（96個体），砕片27点，石核７点（５個体），礫１点の合計150点（141個体）で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ４点，黒曜石Ｂ３点，黒曜石Ｇ１点，安山岩66点（62個体），頁岩Ｃ１点，頁岩Ｄ１点，頁岩Ｅ６点，ホルンフェルス47点（43個体），瑪瑙・玉髄19点（18個体），不明１点，礫石材は，凝灰岩１点（4.2ｇ）で，母岩分類されている。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは28母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ１母岩（J8-３），黒曜石Ｂ３母岩（J8-１・４・５），黒曜石Ｇ１母岩（J8-２），安山岩８母岩（J8-６～13），頁岩Ｃ１母岩（J8-14），頁岩Ｄ１母岩（J8-15），頁岩Ｅ５母岩（J8-16～20），ホルンフェルス３母岩（J8-26～28），瑪瑙・玉髄４母岩（J8-22～25），不明１母岩（J8-21）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は99%（147/149点）である。

・J8-１：薄墨を流した様な半透明の地に暗灰色の縞が入る黒曜石である。φ１mmほどの夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器１点（3.8ｇ）の単独資料である。

・J8-２：淡黒灰色半透明の地に黒灰色の縞が入る黒曜石である。φ１mmほどの夾雑物を含む。産地は不明である。ナイフ形石器１点（1.6ｇ）の単独資料である。

・J8-３：黒色半透明の地に黒色のモヤが入る黒曜石である。φ１mm～２mmほどの夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，砕片３点の合計４点（3.3ｇ）である。

・J8-４：黒灰色半透明の地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。φ１mmほどの夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（2.4ｇ）の単独資料である。

・J8-５：薄墨を流した様な透明の地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。砕片１点（0.3ｇ）の単独資料である。

・J8-６：黄灰色（2.5Y5/1）で，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片12点（11個体），砕片２点の合計14点（13個体；53.3ｇ）である。接合資料は剥片４点（３個体；21.7ｇ）のものと，剥片２点（10.8ｇ）のものがある。

・J8-７：自然面及び内部は黄灰色（2.5Y4/1）の安山岩である。自然面はあばた状である。石器群の内訳は，剥片９点（８個体），石核１点の合計10点（９個体；83.2ｇ）である。接合資料は剥片５点（４個体），石核１点の合計６点（５個体；70.1ｇ）である。

・J8-８：灰色（5Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片２点，剥片７点（６個体），砕片１点の合計10点（９個体；74.4ｇ）である。接合資料は加工痕ある剥片１点，剥片２点（１個体）の合計３点（２個体；35.4ｇ）である。

・J8-９：黄灰色（2.5Y4/1）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片21点（20個体），砕片４点の合計25点（24個体；55.3ｇ）である。接合資料は剥片４点（３個体；8.2ｇ）である。

・J8-10：自然面及び内部は灰色（5Y4/1）の安山岩である。自然面はあばた状である。剥片１点（10.9ｇ）の単独資料である。

・J8-11：自然面及び内部は灰色（5Y5/1），新鮮な面は黒色（N2/0）の安山岩である。剥片１点（3.6ｇ）

の単独資料である。

・**J8-12**：灰色（N4/0）で，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点（13.0ｇ）である。

・**J8-13**：灰色（7.5Y5/1）の安山岩である。砕片１点（0.3ｇ）の単独資料である。

・**J8-14**：自然面は灰褐色（7.5YR4/2），内部は褐灰色（7.5YR4/1）の嶺岡産頁岩である。石核１点（56.2ｇ）の単独資料である。

・**J8-15**：灰黄褐色（10YR5/2）と褐灰色（10YR5/1）が部分的に混じる硬質緻密な頁岩である。あるいは嶺岡産頁岩とした方がよいかもしれない。使用痕ある剥片１点（2.4ｇ）の単独資料である。

・**J8-16**：自然面及び節理は褐色（7.5YR4/3），内部は灰オリーブ色（5Y5/3）の頁岩である。剥片１点（7.8ｇ）の単独資料である。

・**J8-17**：内部は灰黄色（2.5Y6/2），節理はにぶい黄褐色（10YR5/3）の頁岩である。剥片１点（2.8ｇ）の単独資料である。

・**J8-18**：自然面はにぶい褐色（7.5YR5/3），内部は灰黄褐色（10YR6/2）の頁岩である。あるいは軟質の安山岩とした方がよいかもしれない。加工痕ある剥片１点（3.9ｇ）の単独資料である。

・**J8-19**：自然面は灰色（7.5Y4/1），内部は黄灰色（2.5Y4/1）の頁岩である。剥片１点（4.5ｇ）の単独資料である。

・**J8-20**：自然面は暗赤灰色（10R4/1），内部はオリーブ灰色（10Y5/2），新鮮な面は暗緑灰色（10GY4/1）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（11.9ｇ）である。

・**J8-21**：暗灰黄色（2.5Y5/2）の石材不明の資料である。砕片１点（0.3ｇ）の単独資料である。

・**J8-22**：自然面は赤褐色（5YR4/8），内部は浅黄橙色（10YR8/4）と赤褐色（5YR4/8）が部分的に入る瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，楔形石器２点（１個体），加工痕ある剥片２点，剥片２点の合計６点（５個体；24.1ｇ）である。接合資料は加工痕ある剥片２点（4.5ｇ）のものと，楔形石器２点（１個体；9.7ｇ）のものがある。

・**J8-23**：自然面及び内部はにぶい赤褐色（2.5YR4/3），にぶい黄橙色（10YR7/4），暗灰黄色（2.5Y4/2）に暗赤褐色（5YR3/2）が層状に入る瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片８点，砕片２点の合計10点（33.6ｇ）である。

・**J8-24**：灰白色（2.5Y8/1）と明黄褐色（2.5Y7/6）が部分的にある瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片２点（5.6ｇ）である。

・**J8-25**：自然面及び内部は灰黄褐色（10YR5/2），新鮮な面は灰白色（2.5Y8/1）及びにぶい褐色（7.5YR6/3）の瑪瑙・玉髄である。加工痕ある剥片１点（11.6ｇ）の単独資料である。

・**J8-26**：自然面及び内部は灰色（10Y4/1），節理は黄灰色（2.5Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片29点（27個体），砕片10点，石核５点（３個体）の合計45点（41個体；1,084.1ｇ）である。接合資料は，加工痕ある剥片１点，剥片14点（13個体），石核５点（３個体）の合計20点（17個体；1,049.4ｇ）とブロック外の石核１点（49.7ｇ）の接合のものと，剥片２点（１個体；3.7ｇ）のものがある。

・**J8-27**：褐灰色（10YR4/1）のホルンフェルスである。剥片１点（1.7ｇ）の単独資料である。

・**J8-28**：灰色（5Y5/1）で灰白色（2.5GY8/1）の粉がふいているホルンフェルスである。剥片１点（4.1

g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の砕片2点（0.1g）がある。

3）出土遺物（第182図1～3，第184図26～31，第188図53～55）

1は信州和田峠周辺産の黒曜石による不定型な剥片を横位に用いた部分加工のナイフ形石器である。両側縁上部に調整加工を行っている。あるいは，上下を逆にして，二側縁加工のナイフ形石器の未製品とも考えられる。裏面右側の剥離面は，ポジティブな面であることから，剥片を素材とした石核から剥離されたことがわかる。2は産地不明の黒曜石による不定型な剥片を横位に用いた基部加工のナイフ形石器である。切断剥片を素材として，左側縁基部に調整加工を行っている。右側面の切断面に微細な刃こぼれが見られるが，使用によるものか不明である。むしろ，左側面上部の刃部と考えられる部位の微細な刃こぼれの方が，使用による可能性がある。3は栃木県高原山産の黒曜石による加工痕ある剥片である。切断剥片の左側縁に調整加工を行っている。下部と右側縁には，刃こぼれが見られる。切断と刃こぼれとの新旧関係は不明である。なお，裏面右側の剥離面は，ポジティブな面であることから，剥片を素材とした石核から剥離されたことがわかる。

26・27は安山岩による不定型な剥片である。J8-6母岩と同様の剥離作業の過程で，剥離されたものであろうか。

28は硬質緻密な頁岩による使用痕ある剥片である。不定型な剥片の表面右側縁，裏面左側縁に刃こぼれが見られる。29は頁岩による加工痕ある剥片である。不定型な剥片の左側縁上部に調整加工を行っている。末端の微細な剥離痕は，偶発的なものと考えられる。30は頁岩による剥片である。裏面と同方向及び直交する剥離面から，90度の打面転移による剥離手順が想定される。31は嶺岡産頁岩による石核である。表面下部にポジティブな剥離面が見られることから，拳の半分程度の礫を分割した厚手の剥片を素材にして，上方向から不定型な剥片を剥離している。

53・54は瑪瑙・玉髄による不定型な剥片である。53は横長剥片，54は縦長剥片で，下部には表面方向からの剥離面が見られる。55は瑪瑙・玉髄による加工痕ある剥片である。不定型な剥片の表面右側縁の一部と裏面左側縁に調整加工を行っている。左側面を発掘時に大きく欠損している。

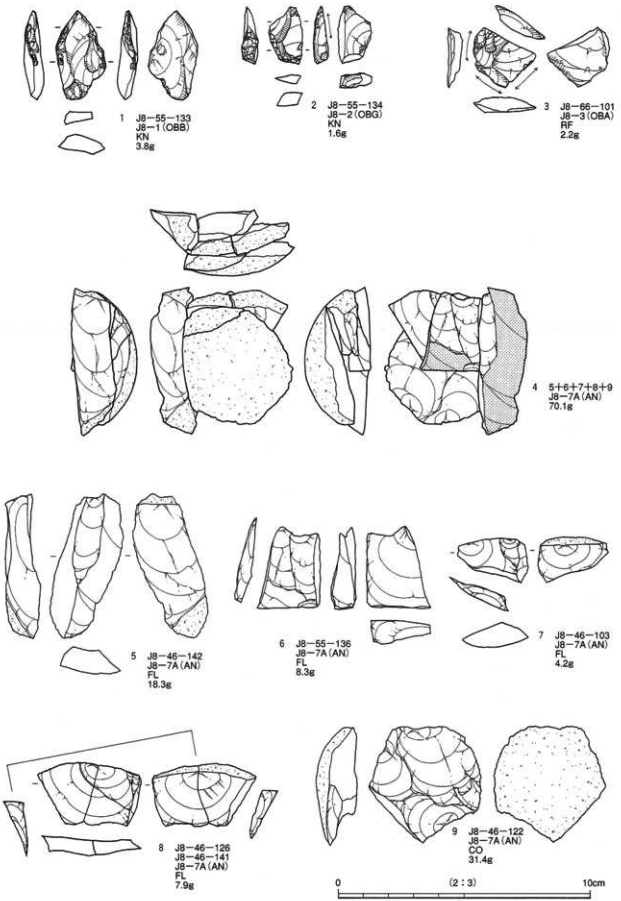
4）接合資料とその関連資料（第182～188図）

・J8-7（第182図4～9）　黄灰色（2.5Y4/1）の安山岩である。剥片9点（8個体），石核1点の合計10点（9個体）で構成される。

4は剥片5点（4個体；5～8），石核1点（9）の接合資料である。4の網掛けの部分は，同一のポジティブな剥離面であることから，剥片を素材とした石核であることがわかる。この個体は，自然面を打面として，上方向から，始めに裏面から正面に後退するように6→8，次に裏面右側から5を剥離している。その後，9は，7を含め不定型な剥片を求心的に剥離して作業を終了している。

・J8-6（第183図10～16）　黄灰色（2.5Y5/1）の安山岩である。剥片12点（11個体），砕片2点の合計14点（13個体）で構成される。接合資料は2グループある。

10は剥片4点（3個体；11～13）の接合資料である。この個体は，平坦な剥離面を打面として，12→13→11の順に剥離している。11は折れ面で接合して1個体となっているが，12・13も同様に右側面を欠損しており，3点の折れ面が，ほぼ同一の面をなすことから，11の剥離時に，同時に剥離・欠損したものと考えられる。



第182図　Ｊ８－Ａブロック出土遺物実測図（１）

第53表　J8－Aブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
J8－1 (OBB)	1																									1
J8－2 (OBG)	1																									1
J8－3 (OBA)										1										3						4
J8－4 (OBB)																			1							1
J8－5 (OBB)																				1						1
J8－6 (AN)																			12(11)	2						14(13)
J8－7 (AN)																			9(8)		1					10(9)
J8－8 (AN)										2									7(6)	1						10(9)
J8－9 (AN)																			21(20)	4						25(24)
J8－10 (AN)																			1							1
J8－11 (AN)																			1							1
J8－12 (AN)																			2							2
J8－13 (AN)																				1						1
J8－14 (SHC)																					1					1
J8－15 (SHB)											1															1
J8－16 (SHE)																			1							1
J8－17 (SHE)																			1							1
J8－18 (SHE)										1																1
J8－19 (SHE)																			1							1
J8－20 (SHE)																			2							2
J8－21 (UK)																				1						1
J8－22 (CC)									2(1)	2									2							6(5)
J8－23 (CC)																			8	2						10
J8－24 (CC)																			2							2
J8－25 (CC)										1																1
J8－26 (HO)										1									29(27)	10	5(3)					45(41)
J8－27 (HO)																			1							1
J8－28 (HO)																			1							1
その他　(AN)																				2						2
TOTAL	2								2(1)	8	1								102(96)	27	7(5)					149(140)

第54表　J8－Aブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
黒曜石A (OBA)										1										3						4
黒曜石B (OBB)	1																		1	1						3
黒曜石C (OBC)	1																									1
安山岩(AN)										2									53(49)	10	1					66(62)
頁岩C (SHC)																					1					1
頁岩D (SHD)											1															1
頁岩E (SHE)										1									5							6
ホルンフェルス (HO)										1									31(29)	10	5(3)					47(42)
珪質・玉髄 (CC)									2(1)	3									12	2						19(18)
その他 (UK)																				1						1
TOTAL	2								2(1)	8	1								102(96)	27	7(5)					149(140)

第55表　J8－Aブロック礫組成表

母　岩	石 材	個数	重 量
J8R－1	TU	1	4.2

石　材	個数	重 量
軟灰岩 (TU)	1	4.2
合　計	1	4.2

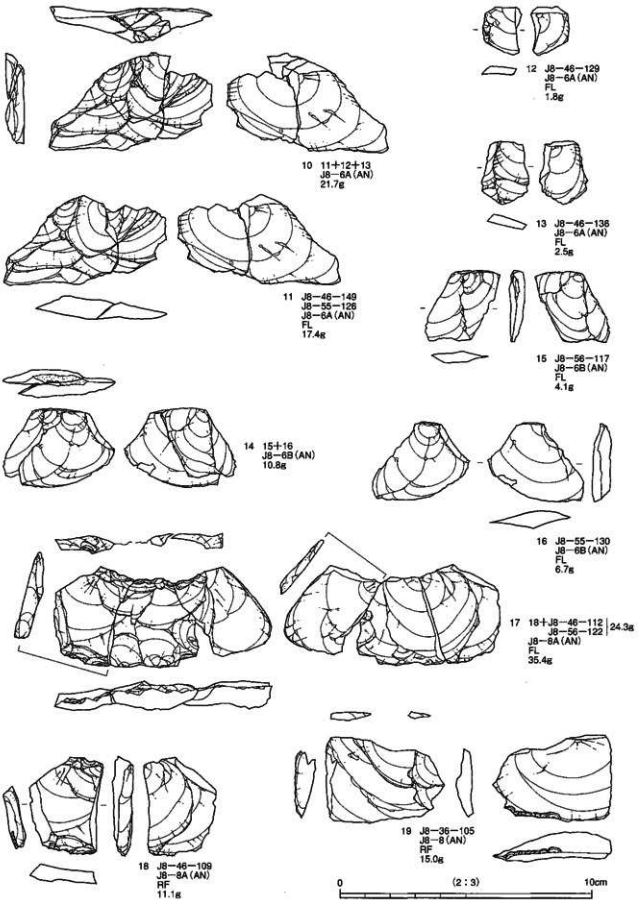
14は剥片2点（15・16）の接合資料である。自然面を打面として，上方向から16→15を剥離している。

・J8-8（第183図17～19）　灰色（5Y4/1）の安山岩である。加工痕ある剥片2点，剥片7点（6個体），砕片1点の合計10点（9個体）で構成される。

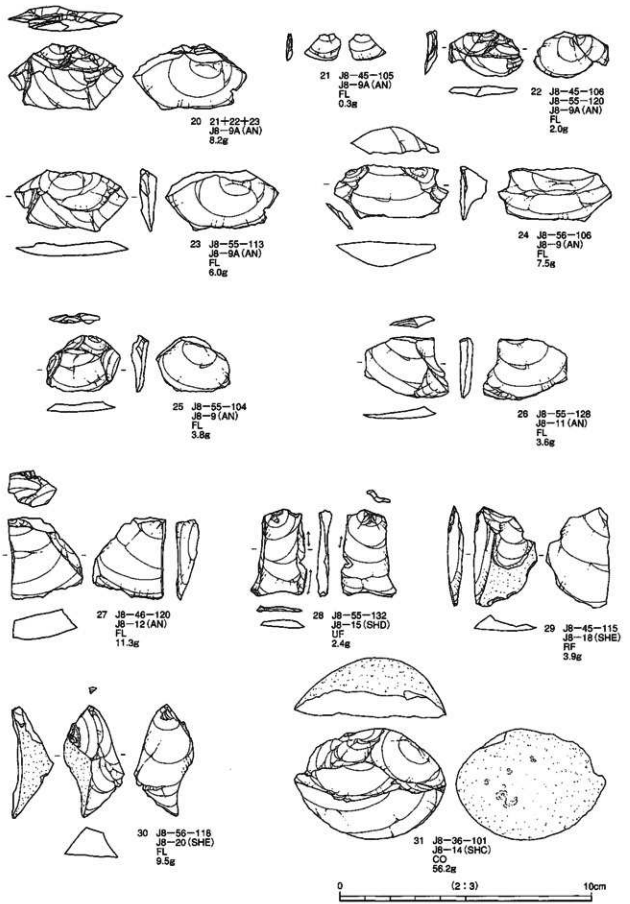
17は加工痕ある剥片1点（18），剥片2点（1個体；17）の接合資料である。元は，幅広の横長剥片で，3つに分割あるいは欠損している。この内，18の末端に調整加工を行っている。

19は接合しなかった同一母岩の加工痕ある剥片である。横長剥片の裏面下部に調整加工を行っている。

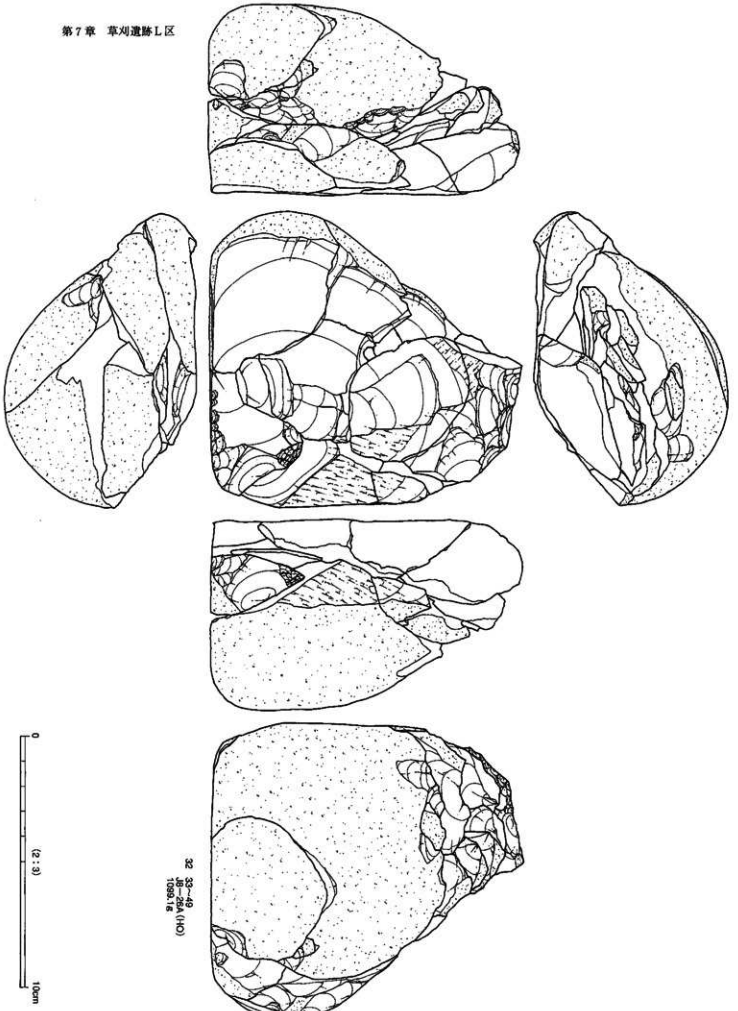
・J8-9（第184図20～25）　黄灰色（2.5Y4/1）の安山岩である。剥片21点（20個体），砕片4点の合計25



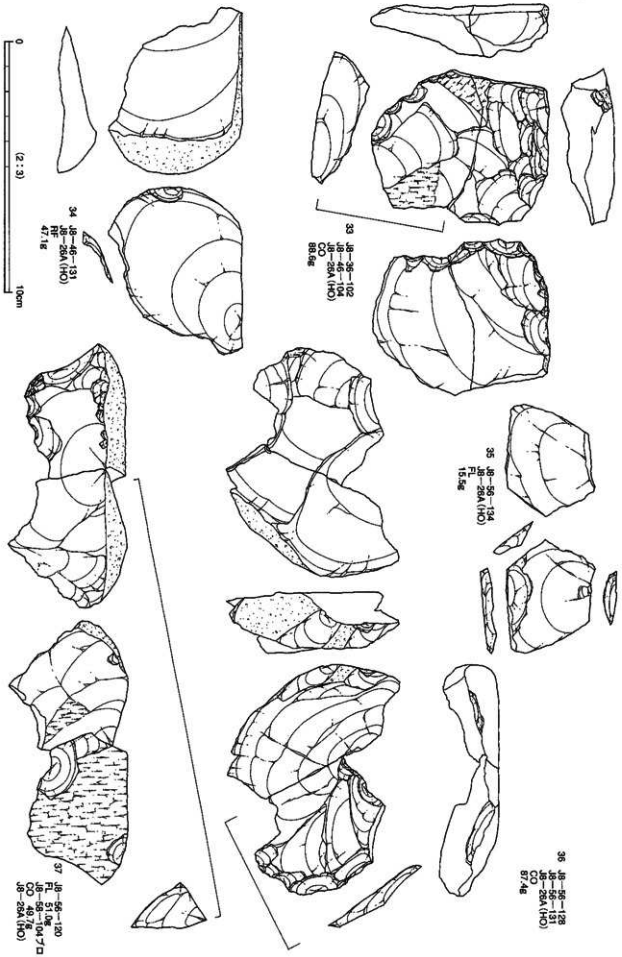
第183図　Ｊ８－Ａブロック出土遺物実測図（２）



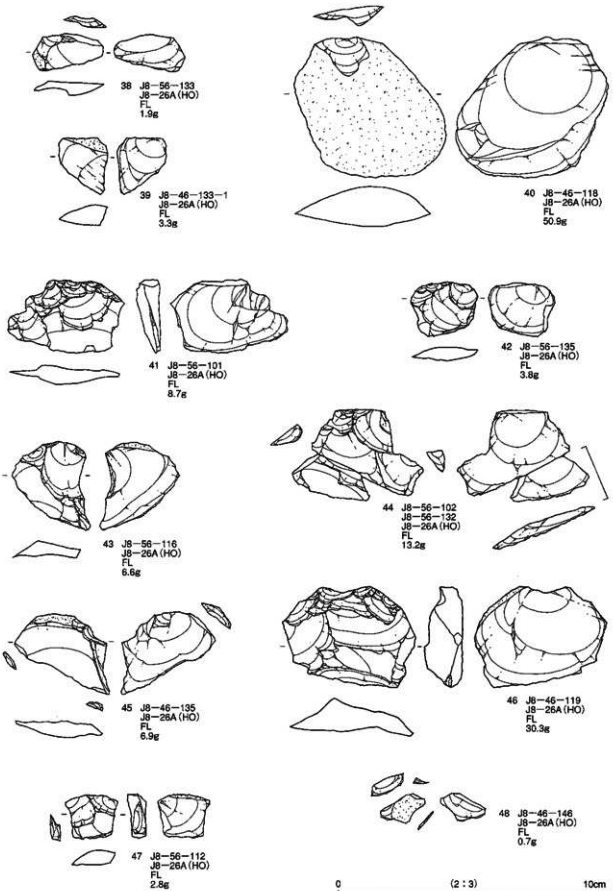
第184図　Ｊ８－Ａブロック出土遺物実測図（３）



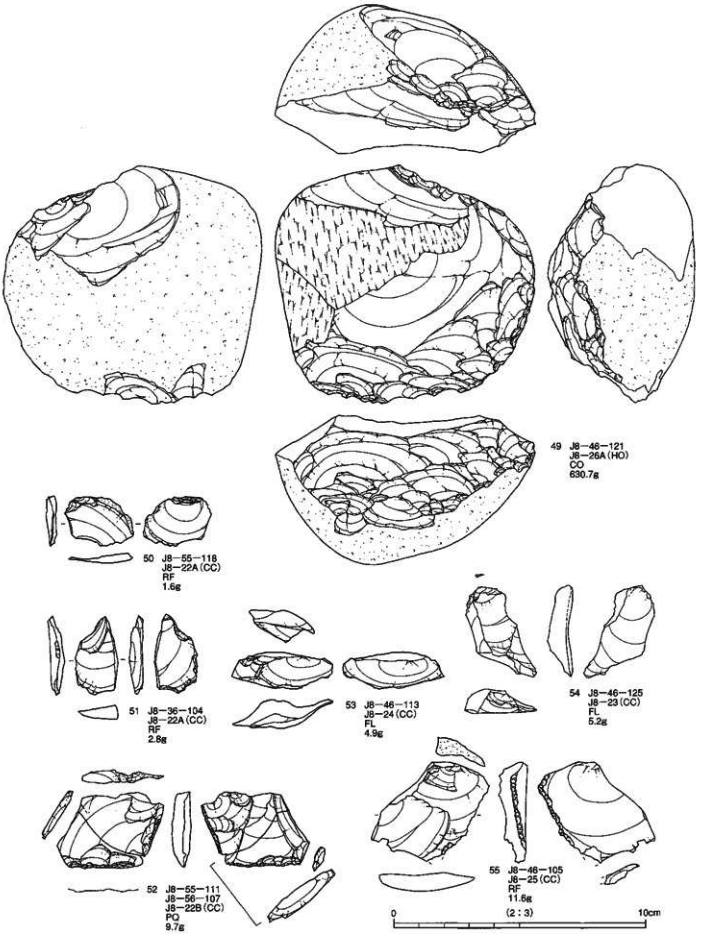
第185図　Ｊ８－Ａブロック出土遺物実測図（４）



第186図　Ｊ８－Ａブロック出土遺物実測図（５）



第187図　Ｊ８－Ａブロック出土遺物実測図（６）



第188図　Ｊ８－Ａブロック出土遺物実測図（７）

点（24個体）で構成される。

20は剥片4点（3個体；21～23）の接合資料である。同一の打面から剥離された不定型な剥片である。24・25は接合しなかった同一母岩の不定型な剥片である。剥片や砕片の数から，本ブロックで剥離作業が行われ，石核は，ブロック外に搬出されたと考えられる。

・J8-26（第185～187図，第188図49）　灰色（10Y4/1）のホルンフェルスである。加工痕ある剥片1点，剥片29点（27個体），砕片10点，石核5点（3個体）の合計45点（41個体）で構成される。接合資料は2グループある。

32は加工痕ある剥片1点（34），剥片14点（13個体；35・37～48），石核5点（3個体；33・36・49）の接合資料である。大型の礫を素材にして，下方向から34を剥離し，続いて37を同方向から剥離した際に，35・36・40が節理で同時に剥離している。さらに下方向から38・39を剥離した後，180度打面を転移して41→42→43→45→47→44→46→48の順で不定型な剥片を剥離している。その後も，49は節理を除いて，自然面や剥離面を打面として求心的な剥離が行われ，作業が終了している。これらの剥片の内，33・36は石核，34は加工痕ある剥片，37は剥片・石核として使用されている。33は素材の表面左側縁下部，裏面下部から左側縁にかけて，小型で不定型な剥片を剥離している。36は裏面上部，両側縁で，小型で不定型な剥片を剥離している。34は裏面左側縁に調整加工を行っている。37は本ブロックで剥片と石核に分割し，石核からは表面を中心に求心的な剥離により小型で不定型な剥片が剥離されている。その後，石核は，J8-58グリッド（J8-Bブロックと同一地点）に搬出している。同グリッドには同一母岩が存在しないことから，剥離作業は行われなかったものと考えられる。

・J8-22（第188図50～52）　浅黄橙色（10YR8/4）と赤褐色（5YR4/8）が部分的に入る瑪瑙・玉髓である。楔形石器2点（1個体），加工痕ある剥片2点，剥片2点の合計6点（5個体）で構成される。接合資料は2グループある。

50・51は加工痕ある剥片2点の接合資料である。それぞれ不定型な剥片を素材にして，50は裏面上部，51は裏面右側縁から下部に調整加工を行っている。挿図作成後，50の表面に51の裏面が接合することが判明した。52は楔形石器2点（1個体）の接合資料である。右側縁と下部の両面に潰痕状の剥離痕が見られ，それぞれに対向する左側縁と上部は，欠損している。加工痕ある剥片とした50・51は，楔形石器の削片の可能性もあり，楔形石器の製作・使用に関連した個体と考えられる。

5　K10-Aブロック（第189～191・233図，第56・57表，カラー図版10）

1）ブロックの概要

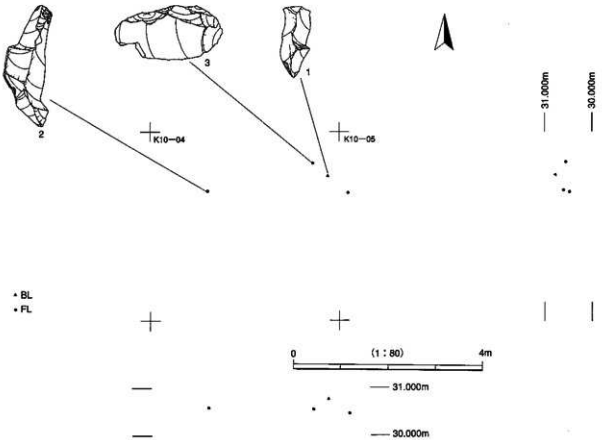
K10-Aブロックは，調査範囲中央のK10-04・05グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地中央で，傾斜変換点（台地縁辺）に位置する。

ブロックの規模と形状は，長軸3m，短軸1mの範囲に4点の石器が密集する。出土層位はⅦ層を中心としており，40cmほどの高低差をもって包含される（第189・190図）。

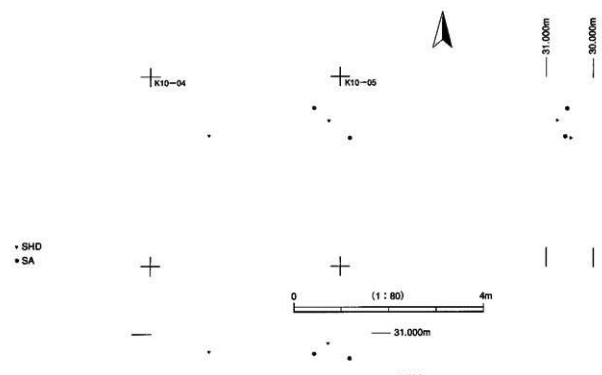
ブロックは，石刃1点，剥片3点の合計4点で構成される。石材は，頁岩D2点，砂岩2点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは4母岩を識別した。内訳は，頁岩D2母岩（K10-1・2），砂岩2母岩（K10-3・4）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（4/4点）である。



第189図　K10-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第190図　K10-Aブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－

・K10-１：にぶい黄褐色（10YR5/3）の硬質緻密な頁岩である。石刃１点（6.3ｇ）の単独資料である。

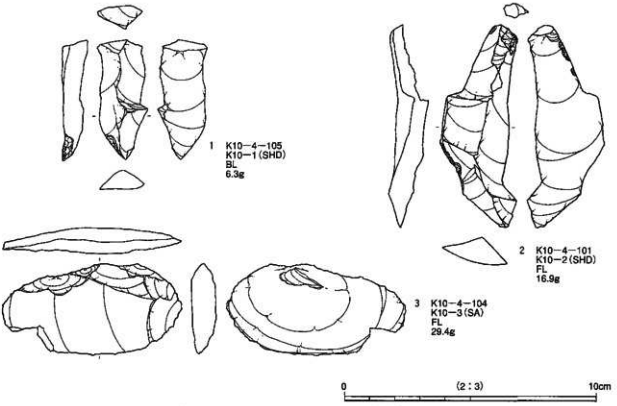
・K10-２：灰オリーブ色（7.5Y5/2）と灰白色（7.5Y7/1）の部分がある硬質緻密な頁岩である。剥片１点（16.9ｇ）の単独資料である。

・K10-３：灰色（5Y5/1）で，新鮮な面は灰色（N4/0）の砂岩である。剥片１点（29.4ｇ）の単独資料である。

・K10-４：黄灰色（2.5Y6/2）の砂岩である。母岩の特徴は，K8-Ａブロックに記したとおりである。剥片１点（2.4ｇ）の単独資料である。その他に同一母岩がK8-Ａブロックに１点ある。

３）出土遺物（第191図）

１は硬質緻密な頁岩による石刃である。右側縁下部に調整加工が見られる。２は硬質緻密な頁岩による縦長剥片である。表面左側縁下部と裏面右側縁上部に刃こぼれと考えられる微細な剥離痕が見られることから，使用痕ある剥片とした方がよいかもしれない。ただし，表面の剥離痕は発掘時による可能性もある。３は砂岩による横長剥片である。表面には裏面と直交する剥離面が見られる。



第191図　K10－Ａブロック出土遺物実測図

第56表　K10－Ａブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
K10－１(SHD)												1														1
K10－２(SHD)																			1							1
K10－３ (SA)																			1							1
K10－４ (SA)																			1							1
TOTAL												1							3							4

第57表　K10－Ａブロック石材別石器組成表

石　　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
頁岩Ｄ(SHD)												1							1							2
砂岩(SA)																			2							2
TOTAL												1							3							4

第4節　第5文化層

第5文化層は，立川ローム層Ⅵ層を中心に包含されている石器群である。I9-Aブロックの1か所が該当する。

1　I9-Aブロック（第192～194・233図，第58・59表，カラー図版10，図版5）

1）ブロックの概要

I9-Aブロックは，調査範囲中央のI9-06・07グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地上ではあるが，北に向かって下る緩斜面で，傾斜変換点（台地縁辺）までの距離は，北へ120m，南へ40mである。

ブロックの規模と形状は，長軸5m，短軸2mの範囲に6点の石器が散漫に分布する。出土層位はⅥ・Ⅶ層を中心としており，30cm程の高低差をもって包含されている（第192・193図）。

ブロックは，ナイフ形石器2点，加工痕ある剥片2点（1個体），剥片2点の合計6点（5個体）で構成される。石器石材は，黒曜石B2点，黒曜石G2点（1個体），頁岩D2点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは5母岩を識別した。内訳は，黒曜石B2母岩（I9-2・3），黒曜石G1母岩（I9-1），頁岩D2母岩（I9-4・5）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（6/6点）である。

・I9-1：自然面及び内部は淡黒灰色半透明な地に黒灰色のモヤと淡黄色（2.5Y8/3）の気泡が入る黒曜石である。産地は不明である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片2点（1個体；6.2g）で，すべて接合している。

・I9-2：自然面及び内部は黒灰色半透明な地に黒色と暗褐色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器1点（6.5g）の単独資料である。

・I9-3：淡黒灰色透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。φ1mm～2mmの乳白色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点（2.2g）の単独資料である。

・I9-4：褐灰色（10YR4/1）の硬質緻密な頁岩である。ナイフ形石器1点（9.8g）の単独資料である。

・I9-5：暗灰色（N3/0）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（2.6g）の単独資料である。

3）出土遺物（第194図1・2）

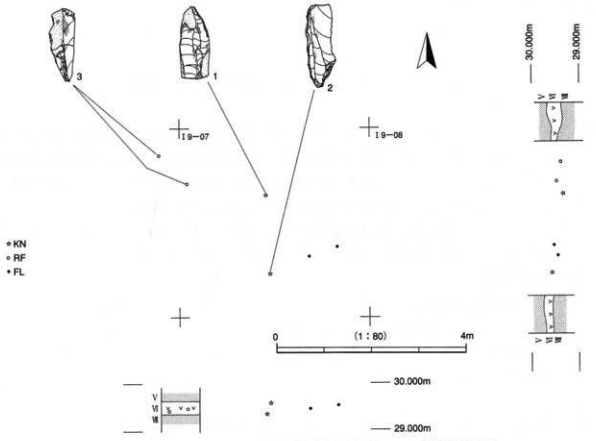
1は信州和田峠周辺産の黒曜石によるナイフ形石器である。石刃の打面側を基部として右側縁上部に調整加工を行っている。下半部を欠損するため形態は不明である。左側縁の一部に刃こぼれが見られる。2は硬質緻密な頁岩によるナイフ形石器である。石刃の打面側を先端部として左側縁と右側縁基部に急角度

第58表　I9－Aブロック母岩別石器組成表

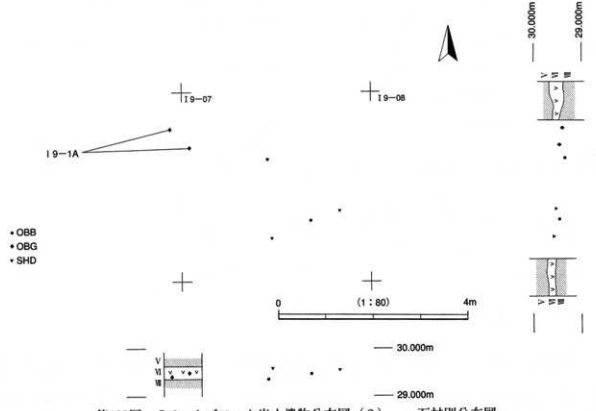
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
I9－1 (OBG)										2(1)																2(1)
I9－2 (OBB)	1																									1
I9－3 (OBB)																			1							1
I9－4 (SHD)	1																									1
I9－5 (SHD)																			1							1
TOTAL	2									2(1)									2							6(5)

第59表　I9－Aブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
黒曜石B (OBB)	1																		1							2
黒曜石G (OBG)										2(1)																2(1)
頁岩D (SHD)	1																		1							2
TOTAL	2									2(1)									2							6(5)



第192図　Ｉ９－Ａブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－



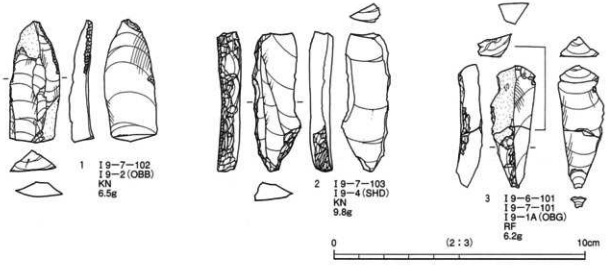
第193図　Ｉ９－Ａブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

な調整加工を行っている。左側縁の上部には表面側からの加工が見られる。先端側は欠損するが，二側縁加工のナイフ形石器と考えられる。

4）接合資料とその関連資料（第194図）

・I9-1（第194図3）　淡黒灰色半透明な産地不明の黒曜石である。加工痕ある剥片2点（1個体）で構成される。

3は加工痕ある剥片2点（1個体）の接合資料である。いわゆる稜付き石刃の左側縁に調整加工を行っている。



第194図　I 9－Aブロック出土遺物実測図

第5節　第6文化層

第6文化層は，立川ローム層Ⅳ～Ⅴ層に包含される石器群で，幅広の剥片を用いた切出型のナイフ形石器などが指標的な石器であるが，I6-Bブロックの1か所が該当する。

1　I6-Bブロック（第195～198・233図，第60・61表，カラー図版10・14，図版5）

1）ブロックの概要

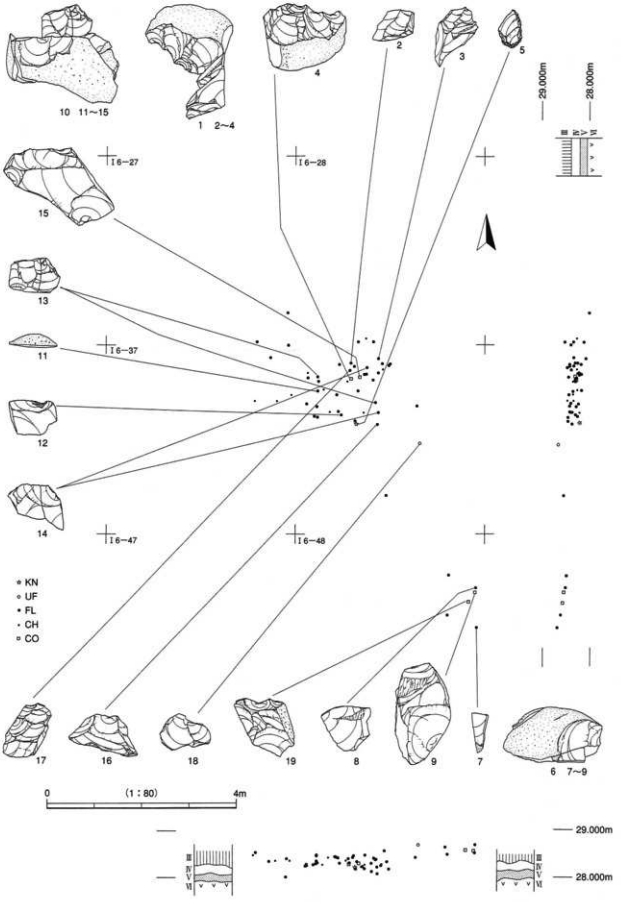
I6-Bブロックは，調査範囲北端のI6-27・28・37・38・48グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地上ではあるが，北に向かって下る緩斜面で，傾斜変換点（台地縁辺）までの距離は，北へ40m，南へ140mである。

ブロックの規模と形状は，長軸8m，短軸3mの範囲に57点の石器が分布するが，南北2か所に細分されるかもしれない。出土層位は，Ⅲ層からⅥ層にかけてで，70cmほどの高低差をもって包含されている（第195・196図）。

ブロックは，ナイフ形石器1点，使用痕ある剥片1点，剥片41点（39個体），砕片10点，石核4点の合計57点(55個体)で構成される。石器石材は，流紋岩1点，頁岩D1点，頁岩E2点，チャート2点，ホルンフェルス51点（49個体）である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは10母岩を識別した。内訳は，流紋岩1母岩（I6-12），頁岩D1母岩（I6-7），頁岩E2母



第195図　Ｉ６－Ｂブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－

岩（I6-８・９），チャート１母岩（I6-10），ホルンフェルス５母岩（I6-２～６）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（57/57点）である。

・I6-２：自然面及び内部は黄灰色（25.Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片12点（10個体），砕片４点，石核１点の合計17点（15個体；90.8ｇ）で構成される。接合資料は，剥片６点（４個体），石核１点の合計７点（５個体；79.5ｇ）である。

・I6-３：自然面及び内部は灰色（5Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，剥片13点，砕片２点，石核１点の合計17点（91.0ｇ）で構成される。接合資料は，剥片２点，石核１点の合計３点（67.7ｇ）である。

・I6-４：内部は灰色（10Y4/1），節理は褐色（10YR4/4）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片４点，砕片１点，石核１点の合計６点（131.9ｇ）で構成される。接合資料は，剥片２点，石核１点の合計３点（79.7ｇ）である。

・I6-５：灰色（5Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片８点，砕片２点の合計10点（25.7ｇ）で構成される。

・I6-６：黄灰色（2.5Y4/1），新鮮な面は黒色(N2/0）のホルンフェルスである。剥片１点（0.6ｇ）の単独資料である。

・I6-７：自然面及び内部は灰褐色（7.5YR5/2）の硬質緻密な頁岩である。使用痕ある剥片１点（4.4ｇ）の単独資料である。

・I6-８：灰オリーブ色（5Y6/2）の頁岩である。剥片１点（1.9ｇ）の単独資料である。

・I6-９：灰色（10Y5/1）の頁岩である。砕片１点（0.4ｇ）の単独資料である。

・I6-10：自然面及び内部は暗緑灰色（5G3/0）でオリーブ灰色（2.5GY6/1））の縞が入るチャートである。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（22.3ｇ）で構成される。

・I6-12：自然面はにぶい赤褐色（5YR4/3），内部は灰黄褐色（10YR5/2）の流紋岩である。剥片１点（25.2ｇ）の単独資料である。

第60表　Ｉ６－Ｂブロック母岩別石器組成表

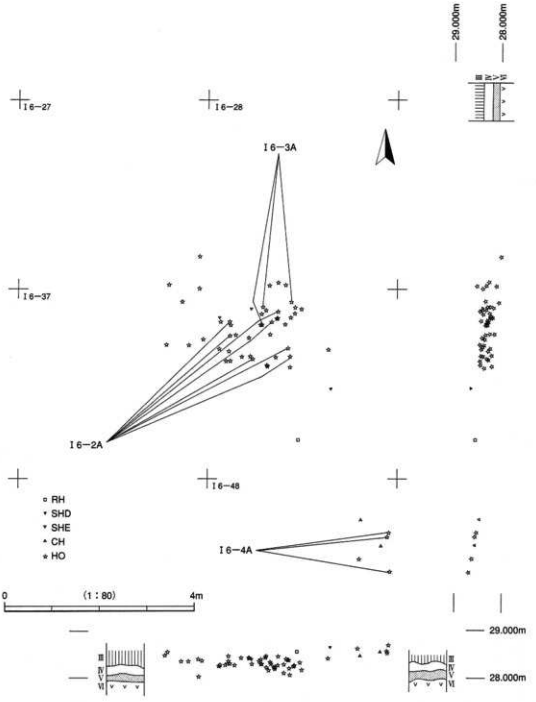
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
Ｉ６－２（HO）																			12(10)	4	1					17(15)
Ｉ６－３（HO）	1																		13	2	1					17
Ｉ６－４（HO）																			4	1	1					6
Ｉ６－５（HO）																			8	2						10
Ｉ６－６（HO）																			1							1
Ｉ６－７（SHO）												1														1
Ｉ６－８（SHE）																			1							1
Ｉ６－９（SHE）																				1						1
Ｉ６－10（CH）																			1		1					2
Ｉ６－12（RH）																			1							1
TOTAL	1											1							41(39)	10	4					57(55)

第61表　Ｉ６－Ｂブロック石材別石器組成表

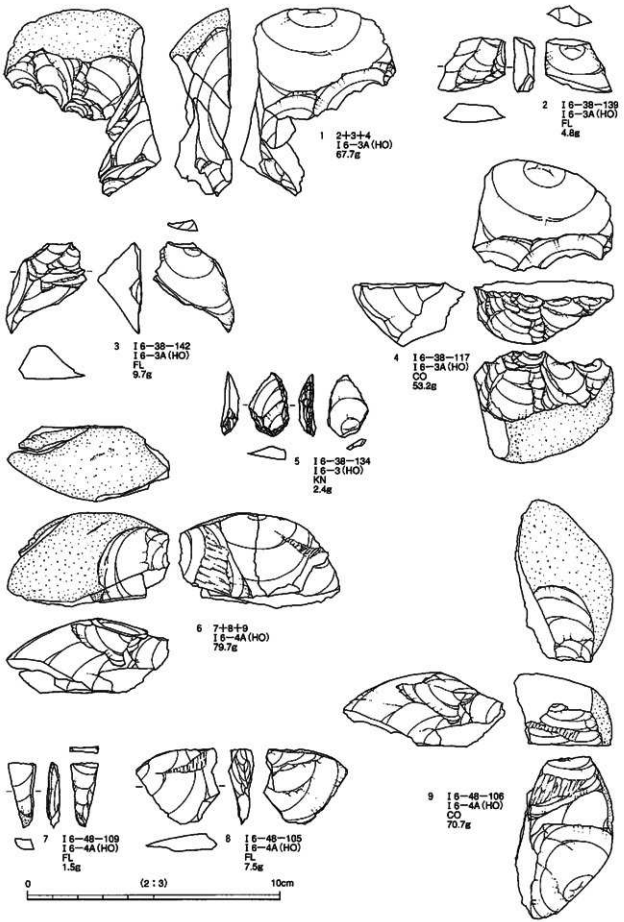
石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
流紋岩(RH)																			1							1
頁岩Ｄ(SHO)												1														1
頁岩Ｅ(SHE)																			1	1						2
チャート(CH)																			1		1					2
ホルンフェルス(HO)	1																		38(36)	9	3					51(49)
TOTAL	1											1							41(39)	10	4					57(55)

３）出土遺物（第198図16～19）

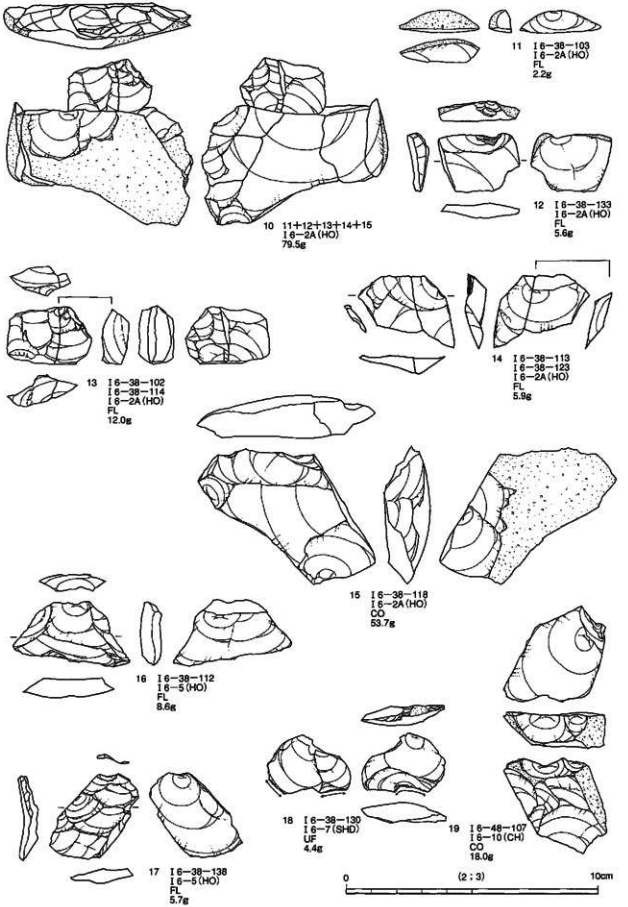
16・17は同一母岩のホルンフェルスによる剥片である。いずれも，裏面と同方向及び直交する剥離面から当ブロックの他のホルンフェルスによる母岩と同様の剥離作業により剥離されたものと考えられる。18は硬質緻密な頁岩による使用痕ある剥片である。不定型な剥片を素材として，正面及び裏面の下部に刃こぼれが見られる。19はチャートによる石核である。不定型な剥片の主要剥離面を打面として，２枚小型で横長の剥片を剥離している。



第196図　Ｉ６－Ｂブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－



第197図　Ⅰ6－Bブロック出土遺物実測図（1）



第198図　Ｉ６－Ｂブロック出土遺物実測図（２）

4）接合資料とその関連資料（第197・198図）

・I6-3（第197図1～5）　灰色（5Y4/1）のホルンフェルスである。ナイフ形石器1点，剥片13点，砕片2点，石核1点の合計17点で構成される。

1は剥片2点（2・3），石核1点（4）の接合資料である。形状等不明の石核から3を含め不定型な剥片を剥離した後，2＋4の素材となる剥片を上方向から剥離している。その後，この剥片を素材にして，下方向から2枚ほど剥片を剥離した後，主要剥離面側を打面にして下部側で，2から反時計回りに順次不定型な剥片を剥離して，作業を終了している。5は接合しなかった同一母岩のナイフ形石器である。小型で不定型な剥片を素材とし，打面を基部に置いて，打面の一部を残置するように，右側縁と左側縁基部に調整加工を行っている。

・I6-4（第197図6～9）　灰色（10Y4/1）のホルンフェルスである。剥片4点，砕片1点，石核1点の合計6点で構成される。

6は剥片2点（7・8），石核1点（9）の接合資料である。拳の半分程度の礫を分割した厚手の剥片を素材にして，7・8を剥離している。6の裏面中央に素材の主要剥離面が見られる。その後も，9は剥離面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離して，作業を終了している。

・I6-2（第198図10～15）　黄灰色（2.5Y4/1）のホルンフェルスである。剥片12点（10個体），砕片4点，石核1点の合計17点（15個体）で構成される。

10は剥片6点（4個体；11～14），石核1点（15）の接合資料である。大型で薄手の剥片を素材にして，主要剥離面を打面にして13を剥離している。その際，13は同時に2点に欠損したものと考えられる。なお，13については，剥離と記述したが，むしろ10の上部の折れに伴って生じたものと考えた方がよいかもしれない。その後，10は11・12を左方向から，14を右方向から剥離し，引き続き15は，小型で不定型な剥片を右方向から1枚剥離して，作業を終了している。

第6節　ブロック外出土遺物

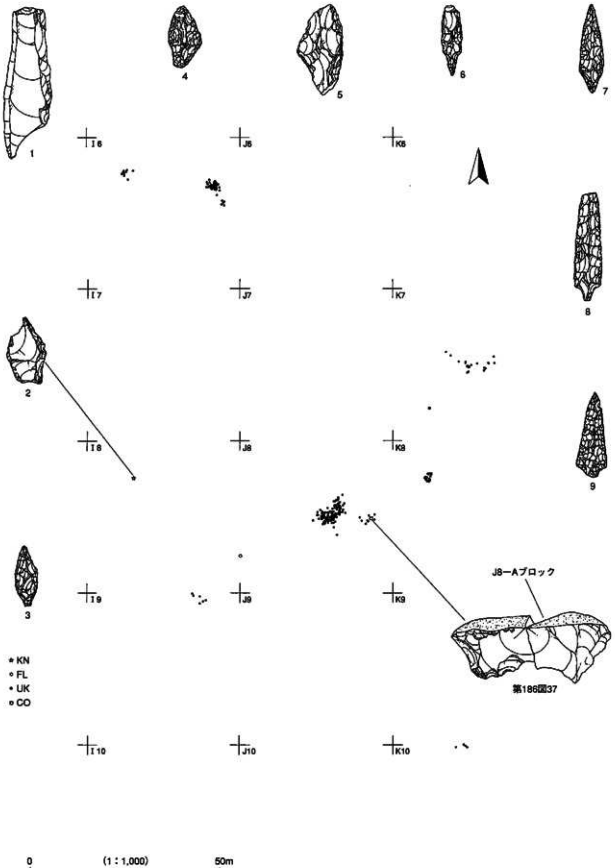
ここでは，ブロックを形成していないグリッド単独（2点以下）出土の遺物と上層遺構等に混在していた遺物について記述する。4か所で単独に旧石器時代石器が出土した（第199・200図，カラー図版10）。

2は単独出土のナイフ形石器である。灰オリーブ色（5Y5/2）の地ににぶい黄褐色（10YR4/3）の斑がある硬質緻密な頁岩によるナイフ形石器である。横長剥片を縦位に用い，右側縁に鋸歯状に近い調整加工を行っている。左側縁上部が半月状に欠損している。I8-23グリッドのⅣ層から出土しており，第6文化層に帰属する可能性が高い。

1・3～9は，上層遺構の覆土などから出土した旧石器時代資料である。

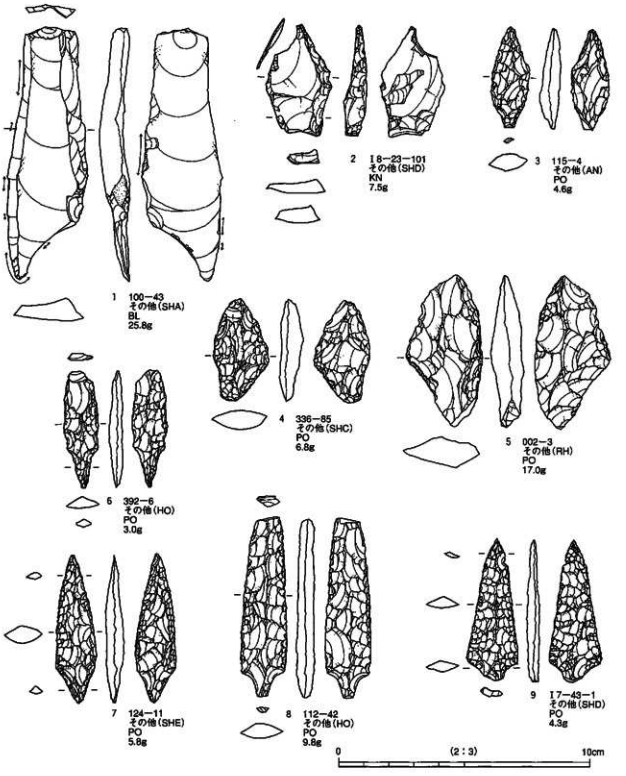
1は自然面は黄灰色（2.5Y5/1），内部は赤灰色（2.5YR4/1）の東北産頁岩による石刃である。表面の左側縁と末端，裏面両側縁の一部に刃こぼれが見られる。特に末端は，摩耗のため若干光沢を帯びており，あるいは石錐として使用されたのかもしれない。

3～5は槍先形石器である。3は灰黄褐色（10YR4/2）の安山岩によるものである。両面調整による木葉形で，横断面形は凸レンズ状である。表裏に細かな調整加工を行っているが，特に表面に顕著である。素材時の剥離面が，裏面に残されており，横長剥片を縦位に用いたことがわかる。4は黄灰色（2.5Y5/1）で褐灰色（10YR4/1）の部分がある嶺岡産頁岩である。両面調整による非対称な形態で，横断面形は凸レ



0　(1：1,000)　50m

第199図　草刈遺跡Ｌ区ブロック外出土遺物分布図



第200図　草刈遺跡L区ブロック外出土遺物実測図

ンズ状である。表裏に細かな調整加工を行っているが，特に表面に顕著である。素材時の剥離面は，残されていない。５は灰色（5Y6/1）と淡黄色（5Y8/3）の部分がある流紋岩である。両面調整による非対称な形態で，横断面形は若干いびつな凸レンズ状である。表裏に調整加工を行っているが，特に周縁の細かい加工が特徴的である。素材時の剥離面は，残されていない。

６～９は有茎尖頭器である。６は黄灰色（2.5Y5/1）のホルンフェルスによるものである。最終的な剥離痕は，表裏とも概ね左側縁に集中している。また，茎部の調整加工は入念に行われている。先端部を欠損する。７は灰黄色（2.5Y6/2），新鮮な面は黒色の頁岩によるものである。最終的な剥離痕は，胴部から先端部にかけては，表裏とも左側縁に集中し，茎部は表面に集中している。側縁の上部は，鋸歯状を呈している。８は灰色（5Y5/1）のホルンフェルスによるものである。最終的な剥離痕は，概ね表面に集中している。側縁は，若干鋸歯状を呈している。先端部と茎部を欠損するが，特に先端の裏面側には，衝撃剥離に特有の縦溝状剥離痕が見られる。９は暗赤灰色（10R4/1）の地に赤灰色（5R5/1）の細かい縞が層状に入る硬質緻密な頁岩によるものである。最終的な剥離痕は，概ね表面に集中している。茎部を欠損する。

第８章　草刈遺跡M区（219-070）

第１節　調査の概要

草刈遺跡M区では，旧石器時代（下層）の調査を平成７・８年度に実施した。調査区の位置は草刈遺跡の北西部にあたり，村田川に面した台地の南側である。

平成７年度は9,500㎡を調査対象として，４％を基本に確認調査を行い，調査を終了した。平成８年度は9,750㎡を調査対象として，４％を基本に確認調査を行い，その結果に基づいて1,296㎡の本調査を行った。調査の結果，２か所のブロックを検出した（第201図）。

本調査区における２か所のブロックは，以下のとおり２枚の文化層に区分できる。なお，文化層の設定は草刈遺跡全域で行っており，本調査区の石器群は第５・７文化層にあたる。

第５文化層は，立川ローム層のⅥ層を中心に包含される石器群で，石器８点が１か所のブロック（F7-Aブロック）から出土した。

第７文化層は，立川ローム層のソフトローム層下部（Ⅲ層）からハードローム層最上部（Ⅳ層）にかけて包含される石器群で，石器242点と礫646点が１か所のブロック（F8-Aブロック）から出土した。第６文化層と層位的に分離することは難しいが，石器組成と石材構成により，本調査区で設定した文化層である。

第２節　第５文化層

第５文化層は，立川ローム層Ⅵ層に包含される石器群で，F7-Aブロックが該当する。

１　F7-Aブロック（第202～204・233図，第62～64表，カラー図版11,図版５）

１）ブロックの概要

F7-Aブロックは，調査範囲西端のE7-69，F7-61・70・71グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地上ではあるが，北に向かって下る緩斜面で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は北へ120m，南へ60mである。

ブロックの規模と形状は，直径８ｍの範囲に９点の石器・礫が散漫に分布する。出土層位はⅥ層からⅦ～Ⅸ層にかけてで，60cmほどの高低差をもって地形に沿って包含されている（第202・203図）。

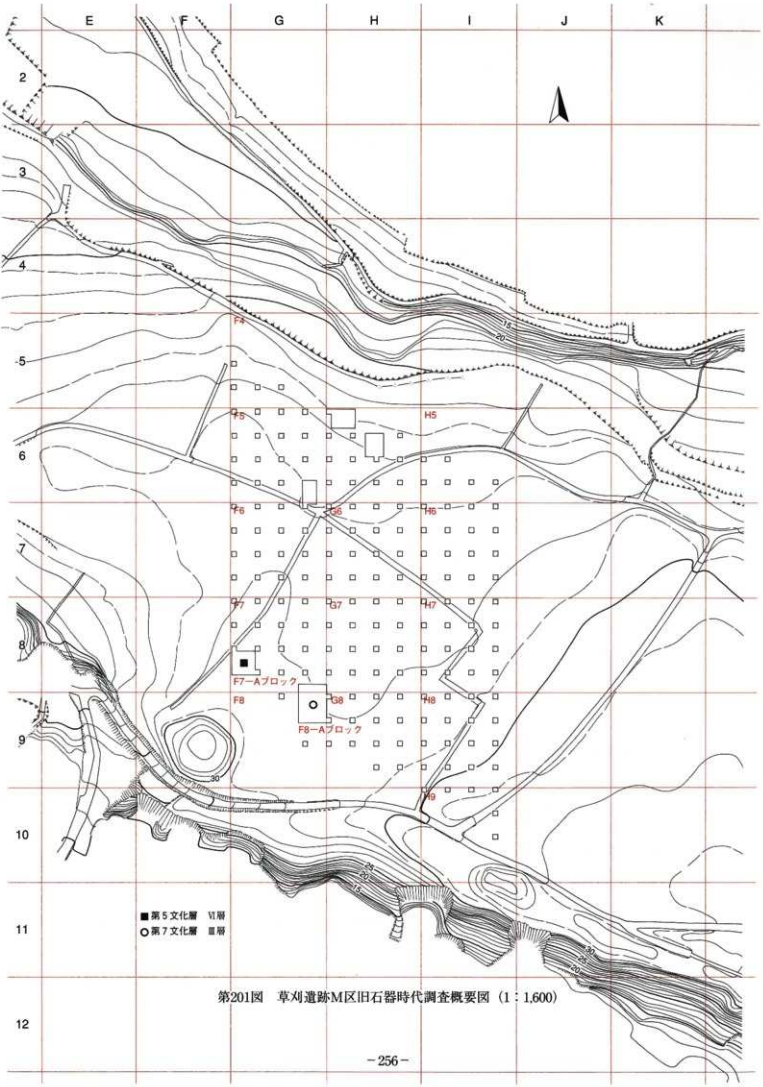
ブロックは，石刃２点，剥片６点，礫１点（4.9ｇ）の合計９点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ２点，安山岩５点，頁岩Ｃ１点，礫石材は，砂岩１点（１母岩；4.9ｇ）で，識別率は100%である。

２）母岩の特徴と内容

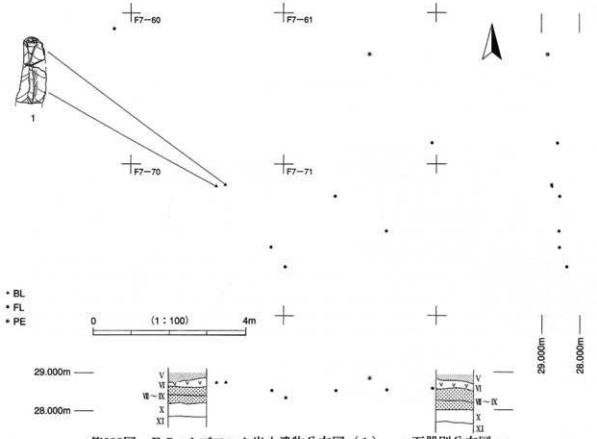
本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ１母岩（F7-２），安山岩１母岩（F7-１），頁岩Ｃ１母岩（F7-３）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は，100%（8/8点）である。

・F7-１：自然面及び内部は黄灰色（2.5Y5/1），新鮮な面は黒色（N2/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片５点（6.6ｇ）である。

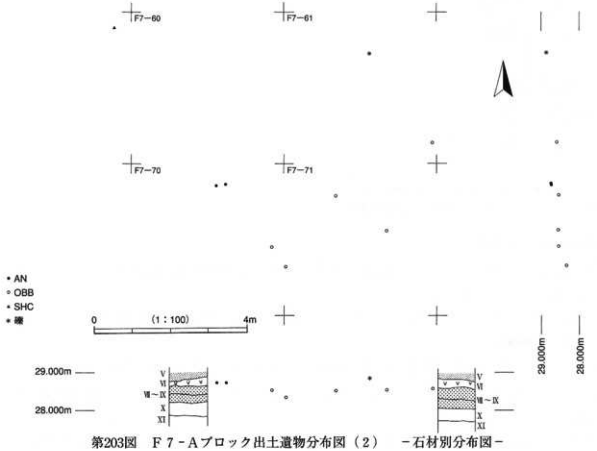
・F7-２：薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃２点（3.8ｇ）である。



第201図　草刈遺跡M区旧石器時代調査概要図（1：1,600）



第202図　Ｆ７－Ａブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－



第203図　Ｆ７－Ａブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

・F7-3：灰色（7.5GY5/1）で一部に赤褐色（5YR4/6）の付着物がみられる嶺岡産頁岩である。剥片１点（0.5ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第204図）

１は信州和田峠周辺産の黒曜石による石刃である。発掘時の欠損により接合しないが，２点で１個体と考えられる。下半部を欠損する。

第62表　Ｆ７－Ａブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
F７－１（AN）																			5							5
F７－２（OBB）												2														2
F７－３（SHC）																			1							1
TOTAL												2							6							8

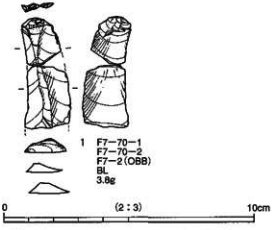
第63表　Ｆ７－Ａブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
黒曜石Ｂ（OBB）												2														2
安山岩（AN）																			5							5
頁岩Ｃ（SHC）																			1							1
TOTAL												2							6							8

第64表　Ｆ７－Ａブロック礫組成表

番　号	石　材	個数	重　量
F７R－１	SA	１	4.9

石　材	個数	重　量
砂岩（SA）	１	4.9
合　計	１	4.9



第204図　Ｆ７－Ａブロック出土遺物実測図

第３節　第７文化層

第７文化層は，立川ローム層Ⅲ層下部からⅣ層上部にかけて包含される石器群で，F8-Aブロックが該当する。槍先形石器を指標とする。

１　F8-Aブロック（第205～228・233図，第65～67表，カラー図版11・14，図版５）

１）ブロックの概要

F8-Aブロックは，調査範囲南側のF8-07～09・17～19・27～29・39グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地上ではあるが，北に向かって下る緩斜面で，傾斜変換点（台地縁辺）までの距離は北へ120m，南へ60mである。

ブロックの規模と形状は，長軸13m，短軸９ｍほどの広範囲にわたって888点の石器・礫が分布する。

また，大多数を占める礫の分布は，ブロックの中心に直径2m～3mほどの密集部が2か所ある。石器の分布は，礫が最も密集する部分と重なって，長軸7m，短軸6mの範囲にまとまっている。石器組成を見ると，槍先形石器をはじめ，ナイフ形石器，掻器，彫器など多様な石器で構成されているが，それぞれを平面的，あるいは垂直的な分布状況から複数のものに分けることはできない。また，各種石器石材も，ホルンフェルスを除けば，特に偏ることなく分布する。したがって，多様な石器ではあるが，同一段階のものとして扱うこととする。出土層位は，Ⅲ層からⅥ層にかけてで，100cmほどの高低差をもっているが，中心はⅢ層とⅣ・Ⅴ層の境界付近で，50cmほどの高低差をもって包含されている（第205～217図）。

ブロックは，ナイフ形石器1点，槍先形石器8点，掻器10点，彫器7点，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片7点，剥片180点（173個体），砕片16点，石核7点の石器類（合計242点；235個体）と礫646点の総計888点（881個体）で構成される。石器石材は，黒曜石A1点，黒曜石B37点，黒曜石C20点，黒曜石F2点，黒曜石G10点，安山岩2点，頁岩B3点，頁岩C83点（81個体），頁岩D1点，砂岩22点（21個体），ホルンフェルス61点（57個体），礫石材は，流紋岩226点，頁岩6点，チャート213点，砂岩138点，ホルンフェルス42点，礫岩20点，不明1点である。石器石材について，黒曜石は信州（和田峠周辺・麦草峠）産，頁岩は嶺岡産が主体である。それ以外の安山岩やチャート，砂岩，ホルンフェルスなどは，礫と同様，上総丘陵砂礫層に由来するのではないだろうか。礫は，母岩分類できたものが495点（87母岩），母岩の不明なものが151点で，総重量は9,475.2gである。石器群の概要は，信州産を中心とする黒曜石による有樋尖頭器や掻器に，珪化度の高い嶺岡産頁岩による掻器や彫器が伴う。さらに1点ではあるが，栃木県高原山産によるナイフ形石器が出土している。製品は，搬入品と考えられるものが大半で，これらにホルンフェルスや嶺岡産と考えられる珪化度の低いノジュールあるいは頁岩の剥片類がまとまっており，これらの石材では素材生産が行われている。

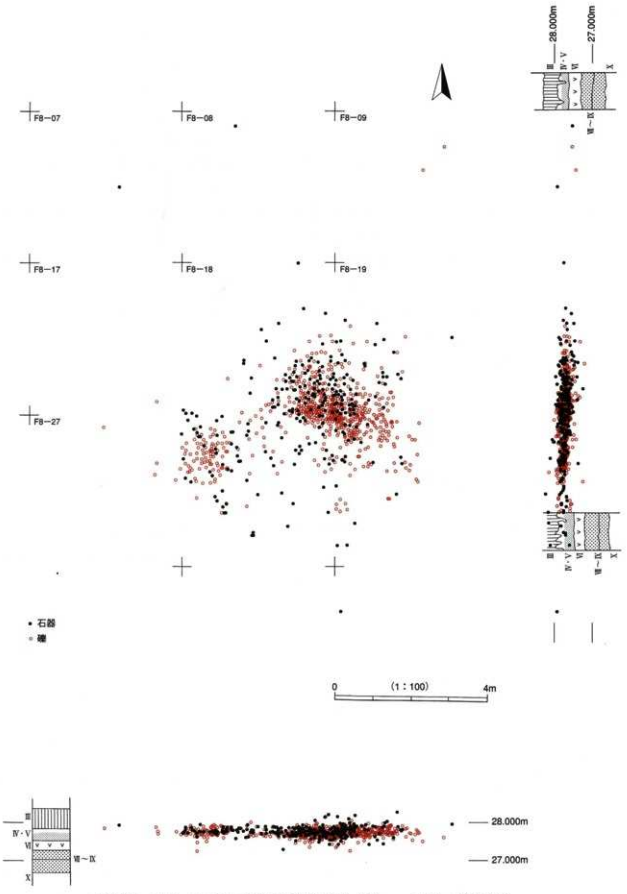
2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは27母岩を識別した。内訳は，黒曜石A1母岩（F8-11），黒曜石B10母岩（F8-2～10・12），黒曜石C1母岩（F8-1），安山岩2母岩（F8-26・27），頁岩B3母岩（F8-22・24・25），頁岩C6母岩（F8-16～21），頁岩D1母岩（F8-23），砂岩2母岩（F8-14・15），ホルンフェルス1母岩（F8-13）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は88%（212/242点）である。

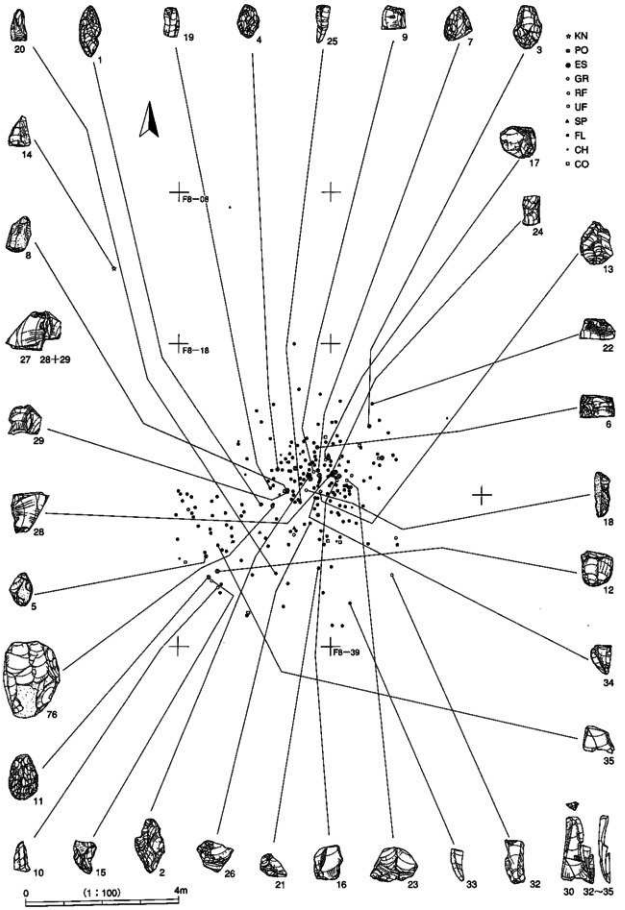
・F8-1：薄墨を流したような透明な地に部分的に淡黒灰色の縞が入る黒曜石である。φ1mm以下の灰色の夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，槍先形石器4点，彫器1点，剥片10点，砕片2点の合計17点（13.7g）である。本母岩の内，槍先形石器（1・3・4・7）は，蛍光X線による理化学的な分析により信州麦草峠産と推定された。

・F8-2：薄墨を流したような透明な地に部分的に淡黒灰色の縞が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，槍先形石器1点，掻器1点，彫器1点，使用痕ある剥片1点，剥片15点の合計19点（11.9g）である。なお，本母岩の内，槍先形石器（6），掻器（12），彫器（32）は，蛍光X線による理化学的な分析により信州星ヶ塔産と推定された。接合資料は彫器1点，剥片3点の合計4点（3.3g）のものと槍先形石器1点（1.7g）と上層遺構出土の槍先形石器1点（2.6g）が接合し1個体になるものがある。なお，その他に同一母岩がブロック外に1点ある。

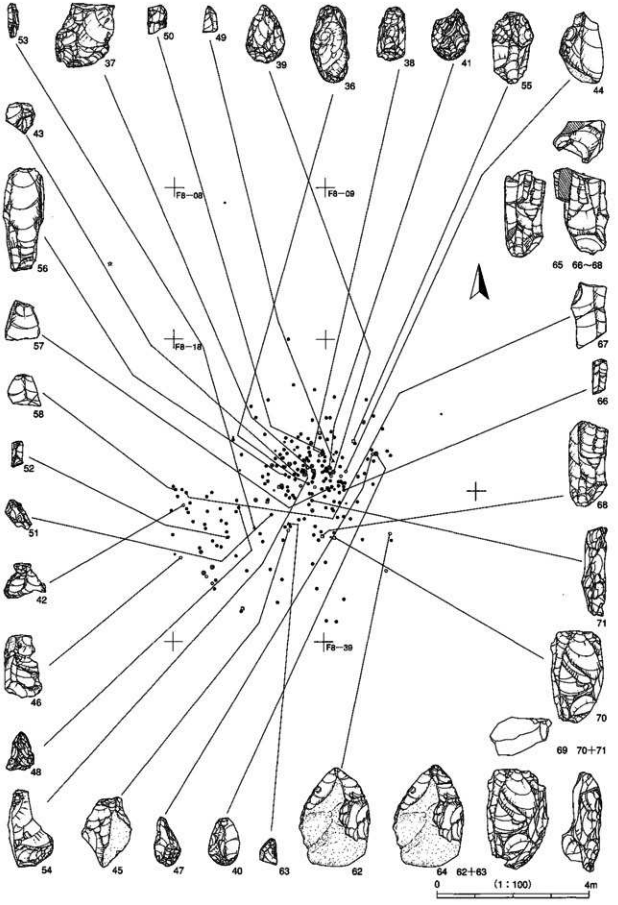
・F8-3：淡黒灰色透明の地に黒灰色の縞が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片2点，剥片2点の合計4点（3.1g）である。なお，本母岩の内，使用痕ある



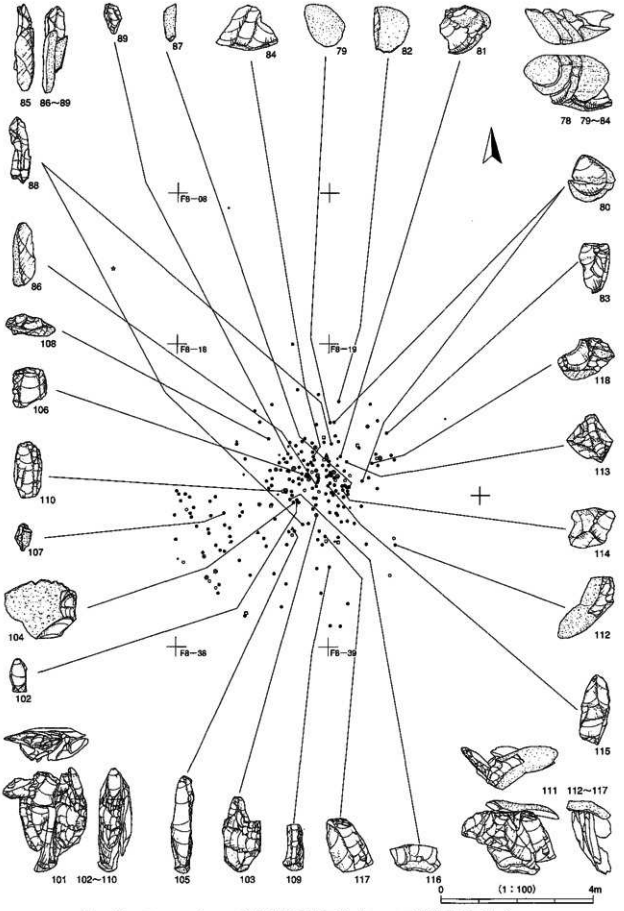
第205図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物分布図（１）　－石器・礫分布図－



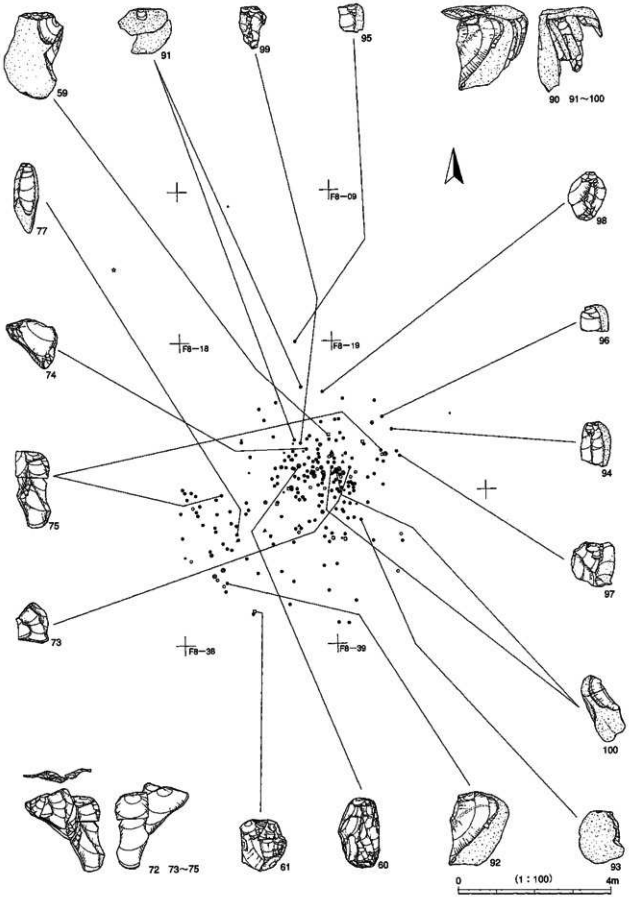
第206図　F８－Aブロック出土遺物分布図（２）　－石器別分布図（１）－



第207図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物分布図（３）　－石器別分布図（２）－



第208図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物分布図（４）　－石器別分布図（３）－



第209図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物分布図（５）　－石器別分布図（４）－

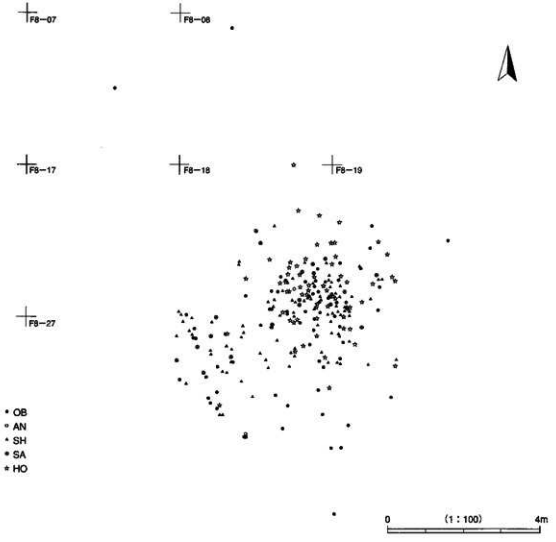
剥片（23）は，蛍光X線による理化学的な分析により信州星ヶ塔産と推定された。

・F8-4：薄墨を流した様な透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片2点（5.6g）ですべて接合している。

・F8-5：自然面及び内部が薄墨を流した様な透明な地に黒灰色の縞が入る黒曜石で，自然面はスリガラス状である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，槍先形石器1点，使用痕ある剥片1点の合計2点（4.6g）である。なお，本母岩の内，槍先形石器（2）は，蛍光X線による理化学的な分析により信州星ヶ塔産と推定された。

・F8-6：黒灰色半透明の地に，やや褐色がかった黒色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。彫器1点（1.9g）の単独資料である。なお，本資料（13）は，蛍光X線による理化学的な分析により信州星ヶ塔産と推定された。

・F8-7：内部は漆黒色，節理は赤灰色の黒曜石で，自然面はスリガラス状である。信州和田峠周辺産と考えられる。槍先形石器1点（1.3g）の単独資料である。本資料（5）は，蛍光X線による理化学的な分析により信州星ヶ塔産と推定された。



第210図　F8-Aブロック出土遺物分布図（6）　－石器石材別分布図（1）－

・F8-８：薄墨を流した様な透明の黒曜石で，自然面はスリガラス状である。φ２㎜ほどの夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。掻器１点（3.9ｇ）の単独資料である。なお，本資料（11）は，蛍光X線による理化学的な分析により信州小深沢産と推定された。

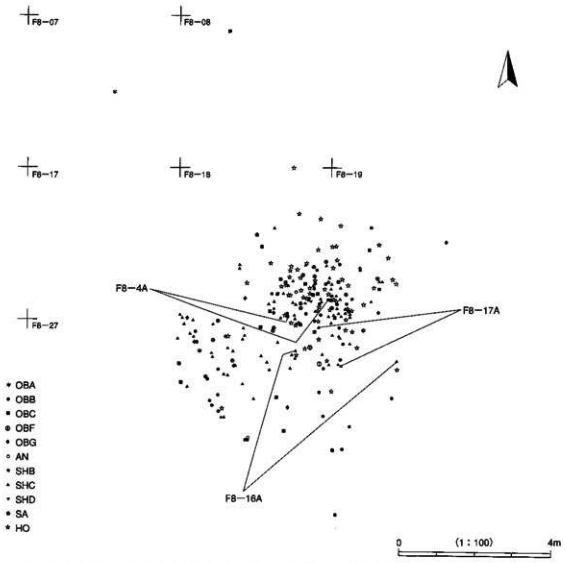
・F8-９：薄墨を流した様な透明な地に，淡黒灰色の縞が多数入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。彫器１点（0.5ｇ）の単独資料である。

・F8-10：透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（0.4ｇ）の単独資料である。

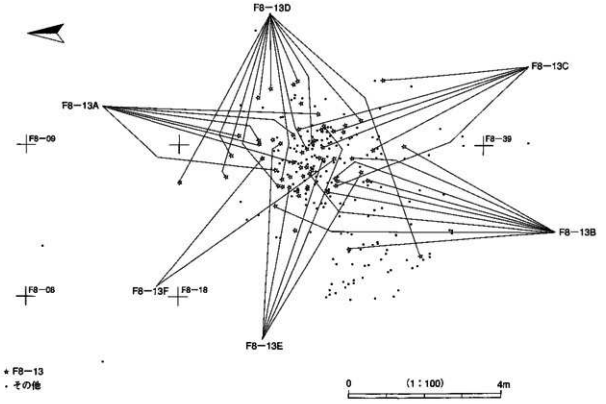
・F8-11：薄墨を流した様な半透明の黒曜石である。φ１㎜以下の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。ナイフ形石器１点（0.9ｇ）の単独資料である。なお，本資料（14）は，蛍光X線による理化学的な分析により栃木県高原山産と推定された。

・F8-12：黒灰色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（0.4ｇ）の単独資料である。

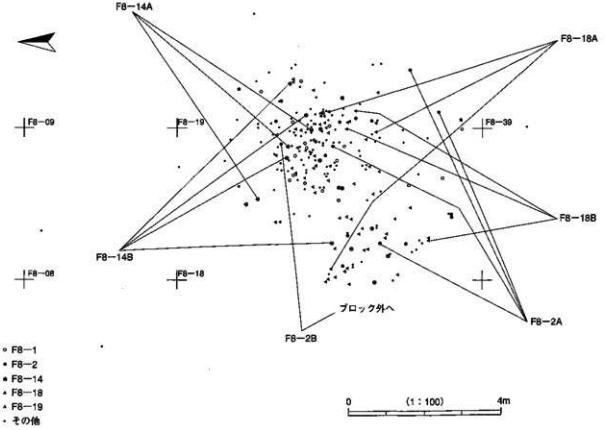
・F8-13：自然面及び内部は灰色（10Y4/1）で暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）の砂質部を層状に含むホルンフェルスである。石器群の内訳は，槍先形石器１点，剥片54点（50個体），砕片５点，石核１点の合計61



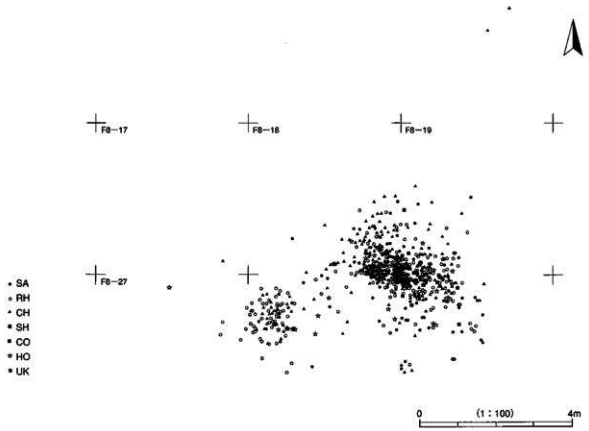
第211図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物分布図（７）　－石器石材別分布図（２）－



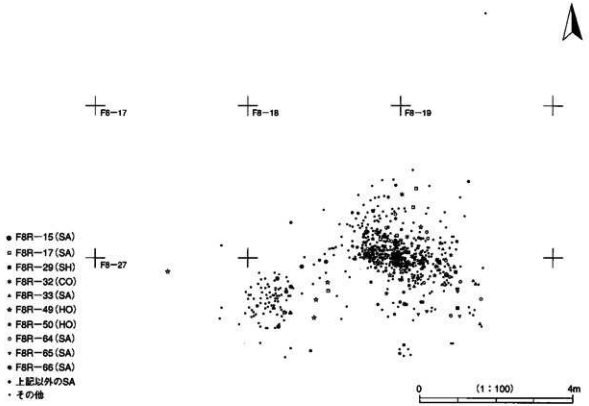
第212図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物分布図（８）　－石器母岩別分布図（１）－



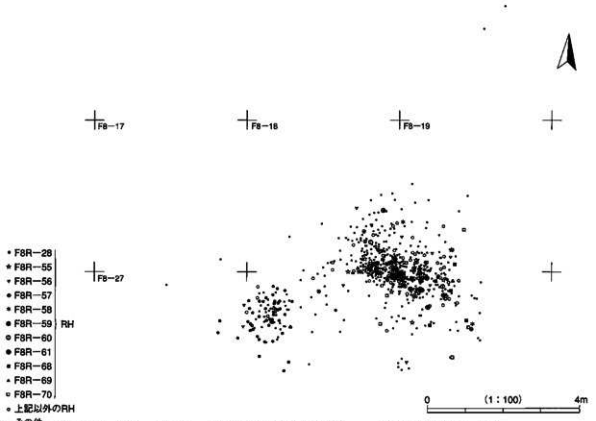
第213図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物分布図（９）　－石器母岩別分布図（２）－



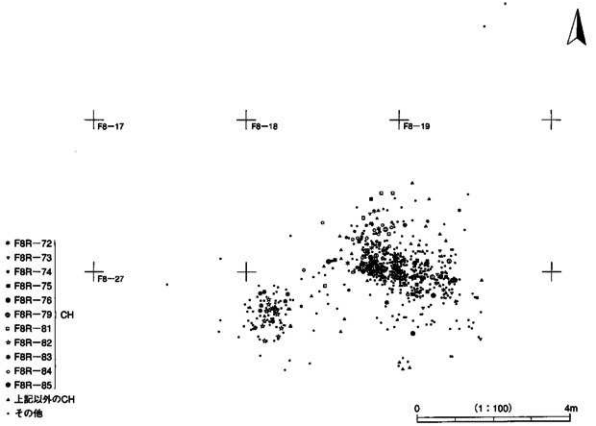
第214図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物分布図（10）　－礫石材別分布図－



第215図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物分布図（11）　－礫母岩別分布図（１）－



第216図　F８－Aブロック出土遺物分布図（12）　－礫母岩別分布図（２）－



第217図　F８－Aブロック出土遺物分布図（13）　－礫母岩別分布図（３）－

点（57個体；205.9ｇ）である。接合資料は６グループあり，Ａグループは剥片７点（６個体；37.6ｇ），Ｂグループは槍先形石器１点，剥片７点，石核１点の合計９点（53.6ｇ），Ｃグループは剥片６点（28.5ｇ），Ｄグループは剥片12点（10個体;59.4ｇ），Ｅグループは剥片５点（４個体；7.9ｇ），Ｆグループは剥片２点（6.7ｇ）である。

・F8-14：自然面及び内部が灰色（10Y4/1）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片17点（16個体），石核１点の合計18点（17個体；65.1ｇ）である。接合資料は，剥片３点（10.4ｇ）のもの と，剥片４点（３個体；10.9ｇ）のものがある。なお，同一母岩がブロック外に１点ある。

・F8-15：自然面は灰色（5Y4/1）,内部は灰色（10Y4/1）の砂岩である。石核１点（29.8ｇ）の単独資料である。

・F8-16：自然面は灰黄褐色（10YR5/2）の地に黒褐色（10YR3/2）の部分があり，内部はにぶい黄褐色（10YR5/3）の嶺岡産の珪化度の低いノジュールあるいは頁岩と考えられる。石器群の内訳は，彫器１点，削片１点の合計２点（31.9ｇ）で，すべて接合している。

・F8-17：黒褐色（5YR3/1）と暗灰黄色（2.5Y5/2）の部分があり，淡黄色（2.5Y8/3）の斑が入る嶺岡産の珪化度の低いノジュールあるいは頁岩と考えられる。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（66.3ｇ）で，すべて接合している。

・F8-18：褐灰色（7.5YR4/1），にぶい黄褐色（10YR4/3），黒褐色（10YR3/2）の地に，にぶい黄褐色（10YR6/4）の斑が入る嶺岡産の珪化度の低いノジュールあるいは頁岩と考えられる。石器群の内訳は，剥片44点（42個体），砕片３点，石核１点の合計48点（46個体；90.5ｇ）である。接合資料は，剥片２点，石核１点の合計３点（33.9ｇ），のものと剥片３点（１個体；3.2ｇ）のものがある。

・F8-19：自然面は灰褐色（7.5YR4/2），内部は黄灰色（2.5Y5/1）の地に，黄灰色（2.5Y4/1）と暗青灰色（5PB4/1）の斑が入り，節理は灰黄褐色（10YR5/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，掻器１点，彫器１点，使用痕ある剥片３点，剥片９点，砕片１点の合計15点（46.6ｇ）である。

・F8-20：灰黄色（2.5Y6/2）の地に黄灰色（2.5Y5/1）の斑が入る嶺岡産珪質頁岩である。石器群の内訳は，掻器２点，剥片２点，削片３点の合計７点（36.3ｇ）である。

・F8-21：黄灰色（2.5Y6/1）の地に黄灰色（2.5Y4/1）の斑が入る嶺岡産頁岩である。掻器１点（10.0ｇ）の単独資料である。

・F8-22：灰黄褐色（10YR5/2）と，にぶい黄橙色（10YR7/2）が混じる北関東産頁岩である。掻器１点（11.5ｇ）の単独資料である。東北産頁岩の可能性もある。

・F8-23：灰黄褐色（10YR5/2）の地に褐色（7.5YR4/3）の斑が入る硬質緻密な頁岩である。掻器１点（13.5ｇ）の単独資料である。

・F8-24：自然面及び自然面に近い内部はオリーブ色（5Y3/1），内部は灰色（5Y4/1）の北関東産頁岩である。彫器１点（18.9ｇ）の単独資料である。

・F8-25：褐灰色（7.5YR4/1）の北関東産頁岩である。石核１点（18.3ｇ）の単独資料である。

・F8-26：褐灰色（10YR4/1）の安山岩である。掻器１点（19.5ｇ）の単独資料である。

・F8-27：自然面は黄灰色（2.5Y4/1）で，内部は褐灰色（10YR4/1）の安山岩である。石核１点（15.5ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，信州和田峠周辺産と考えられる黒曜石の掻器１点，剥片３点の合

計4点（4.1g），信州麦草峠産と考えられる黒曜石の加工痕ある剥片1点，砕片2点の合計3点（4.3g），神津島産と考えられる黒曜石の剥片2点（3.7g），産地不明の黒曜石の剥片7点，砕片3点の合計10点（0.9g），嶺岡産頁岩の剥片7点，削片1点の合計8点（11.0g），砂岩の剥片3点（3.5g）がある。黒曜石は，信州和田峠周辺産と信州麦草峠産の2者が主体である。

3）出土遺物（第218～221図）

1～35は黒曜石による石器である。1・3・4・7・9・19・20・25，6・12・18・22，2・15，16・23は，それぞれ同一母岩である。

1～7は槍先形石器である。1は縦長剥片を縦位に用い，打面側を基部として，片面に調整加工を行って，木葉形に仕上げている。本資料は，蛍光X線による理化学的な分析により信州麦草峠産と推定された。2は両面に調整加工を行っている。表面には，上部から胴部中央にまで及び，調整加工の一部を切る大きな剥離面があり，その後，右側縁の上部に細かい調整加工を行っている。男女倉型有樋尖頭器の範疇に入るのであろうか。先端部を欠損する。本資料は，蛍光X線による理化学的な分析により信州星ヶ塔産と推定された。3は不定型な剥片を素材として，表面と裏面の基部左側の一部に調整加工を行っている。左側縁には樋状剥離があるが，先端の切断面を打面としており，彫器とした方がよいかもしれない。あるいは，男女倉型有樋尖頭器の範疇に入るのであろうか。左側縁には刃こぼれが見られる。先端部を欠損するが，特に右側縁には，衝撃剥離に特有の樋状剥離痕が見られる。本資料は，蛍光X線による理化学的な分析により信州麦草峠産と推定された。4は縦長剥片を縦位に用い，打面側を先端部として，片面に調整加工を行って，木葉形に仕上げている。先端部を欠損するが，特に左側縁には，衝撃剥離に特有の樋状剥離痕が見られる。本資料は，蛍光X線による理化学的な分析により信州麦草峠産と推定された。5は縦長剥片を縦位に用い，打面側を先端部として，表面と裏面の先端部と基部右側の一部に細かい調整加工を行っている。右側縁上部は，素材時の切断面である。左側縁には樋状剥離がある。男女倉型有樋尖頭器に分類できる。本資料は，蛍光X線による理化学的な分析により信州星ヶ塔産と推定された。6は上層遺構出土の資料との接合資料で，2点で1個体となる。縦長剥片を縦位に用い，打面側を先端部として，表裏両面の周辺に細かい調整加工を行って，木葉形に仕上げている。表裏両面に素材時の剥離面が残っており，裏面左側縁先端から中央にかけてポジティブな面が見られる。また，表面の下半部は，素材の主要剥離面と考えられる。表面に先端方向からの衝撃剥離に特有の縦溝状剥離痕が見られるが，この剥離を意図的なものと考えるならば，男女倉型有樋尖頭器の範疇に入るのかもしれない。下半部を欠損する。本資料は，蛍光X線による理化学的な分析により信州星ヶ塔産と推定された。7は不定型な剥片を素材として，表裏両面の周辺に細かい調整加工を行って，木葉形に仕上げている。左側縁先端部は，素材時の切断面である。表裏両面に素材時の剥離面が残っており，表面中央に素材の主要剥離面と考えられるポジティブな面が見られる。下半部を欠損する。本資料は，蛍光X線による理化学的な分析により信州麦草峠産と推定された。

8・11・12は掻器である。8は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。不定型な小礫を素材として，末端に，裏面からの急角度の剥離によって刃部を作り出している。表面側は自然面を残し，裏面側は入念に調整を行っている。あるいは，小型の不定型な剥片を両極打法などにより剥離した残核を素材としたものと考えられる。なお，裏面の自然面として表現した面は，素材の主要剥離面の摩滅した可能性もある。信州和田峠周辺産と考えられる。11は縦長剥片を縦位に用い，末端側を刃部として，裏面からの急角度の剥離によって刃部を作り出している。また，表面全面に器体中央に及ぶような細かい調整加工を入念に行

って，形態を整えている。表面の一部に自然面を残す。表裏では若干光沢に差が見られるが，それらが，裏面側の摩耗によるものか，後述する分析に伴うものか，あるいは時間差によるものか，詳細は不明である。本資料は，蛍光Ｘ線による理化学的な分析により信州小深沢産と推定された。12は石刃の打面側を刃部として，裏面からの急角度の剥離によって刃部を作り出している。上半部を欠損するが，表面に上方向からの衝撃剥離に特有の縦溝状剥離痕が見られる。本資料は，蛍光Ｘ線による理化学的な分析により信州星ヶ塔産と推定された。

９・10・13は彫器である。９は剥片を素材として，裏面左側縁に樋状剥離を行って刃部を作り出している。ただし，この剥離痕は，衝撃剥離に特有の縦溝状剥離痕の可能性もあり，欠損に伴って生じた可能性もある。上半部及び下半部を欠損する。樋状剥離との新旧関係は，下半部は不明だが，上半部は欠損後である。10は石刃の打面側を先端部として，左側縁先端部に細かい調整加工を行った後，右側縁に樋状剥離を行って刃部を作り出している。ただし，樋状剥離が極めて浅いことから，使用に伴って生じた剥離痕の可能性もある。下半部を欠損する。13は不定型な剥片の末端を先端部として，右側縁先端部に裏面からの急角度の細かい調整加工を行った後，左側縁に樋状剥離を行って刃部を作り出している。表面左側縁及び裏面左側縁の中間部に微細な剥離痕が見られる。本資料は，蛍光Ｘ線による理化学的な分析により信州星ヶ塔産と推定された。

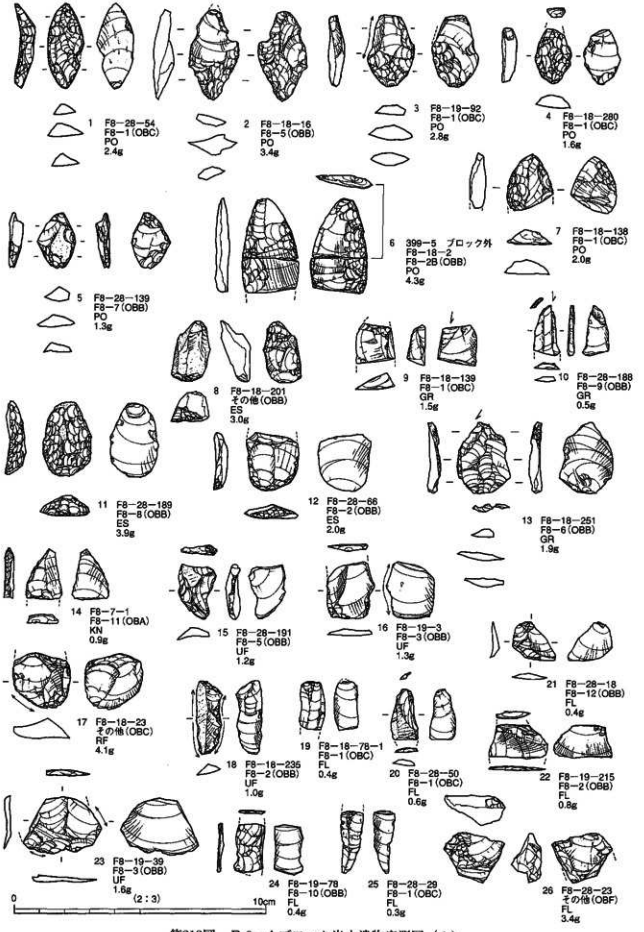
14は石刃状の縦長剥片を縦位に用い，末端側を先端部として左側縁に調整加工を行ったナイフ形石器である。下半部を欠損するため，形態は不明である。本資料は，蛍光Ｘ線による理化学的な分析により栃木県高原山産と推定された。

15・16・18・23は使用痕ある剥片である。15は有樋尖頭器の調整剥片を素材として，右側縁上部及び左側縁下部に刃こぼれ状の微細な剥離痕が見られる。あるいは加工痕ある剥片とした方がよいかもしれない。16は石刃状の縦長剥片を素材として，表面左側縁下部に刃こぼれ状の微細な剥離痕，裏面左側縁に刃こぼれが見られる。あるいは加工痕ある剥片とした方がよいかもしれない。上半部及び下半部を欠損する。なお，下半部の表面に下方向からの細かい剥離痕が見られるが，欠損に伴うものと考えられる。18は石刃状の縦長剥片を素材として，両側縁に刃こぼれが見られる。打面ははじけている。
23は上部から左半分を欠損した尖頭器の調整剥片を素材として，右側縁中間部及び末端に刃こぼれが見られる。本資料は，蛍光Ｘ線による理化学的な分析により信州星ヶ塔産と推定された。

17は薄墨を流したような半透明の地に黒灰色の縞が入り，φ１㎜ほどの夾雑物を含む黒曜石による加工痕ある剥片である。両極剥片を素材として，上部に裏面からの急角度の調整加工を行っている。末端左側に刃こぼれが見られる。末端右側の細かい剥離痕は，両極打法により剥片が剥離した際に生じたものと考えられる。信州麦草峠産と考えられる。

19～22・24～26は剥片である。19・20・25は小石刃状の縦長剥片，21・22は不定型な剥片である。24は裏面の右側縁上部に極く僅かではあるが，主要剥離面よりも古い面が残っており，有樋尖頭器の削片と考えられる。上部と末端を欠損する。26は剥片としたが，裏面上部に左方向からの樋状の剥離痕が見られることから，彫器あるいは加工痕ある剥片の可能性もある。下部を欠損する。本資料は，蛍光Ｘ線による理化学的な分析が行われ，神津島産と推定されているようであるが，詳細は不明である。

36～58は各種頁岩による石器である。36は東北産，38・44・55は北関東産，37・39・40～43・45～54・56～58は嶺岡産で，その内37・39・49・50・53と40・42・45～48・51・54と43・56～58は，それぞれ同一



第218図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物実測図（１）

母岩である。

36～41は掻器である。36は縦長剥片を素材として，頭部を除く全周に，裏面からの剥離によって刃部を作り出している。右側縁及び左側縁上部の調整加工は，急角度で末端は蝶番状である。それに比べ，末端から左側縁下部の調整加工は，緩やかで末端も通常であることから，後者の調整加工は，再加工かもしれない。37は不定型な剥片を縦位に用い，末端側を刃部として，裏面からの剥離によって刃部を作り出している。38は厚手の縦長剥片を素材として，両端に裏面からの急角度の剥離によって刃部を作り出している。両端の石の目が逆目であるため，調整加工の末端は，階段状や蝶番状になっており，通常の刃部の加工と異なる。全体の形状は，船底形石器に類似する。39は不定型な剥片を縦位に用い，左側縁上部を除く全周に，裏面からの急角度の剥離によって刃部を作り出している。左側縁上部には樋状剥離を行って刃部を作り出している。このことから，この石器が，掻器及び彫器の機能を持つ複合石器であることがわかる。なお，左側縁に比べ，右側縁の調整加工が緩やかなのは，素材の形状による。40は剥片を素材として，末端に裏面からの剥離によって刃部を作り出している。裏面の両側縁上部には平坦な調整加工を行って，形態を整えている。41は不定型な剥片を縦位に用い，全周に裏面からの急角度の剥離によって刃部を作り出している。上部を欠損する。

44・47は彫器である。44は不定型な剥片の末端側を先端部として，左側縁に樋状剥離を行って刃部を作り出している。また，表面左側縁の中間部及び裏面の末端から左側縁下部にかけて細かい調整加工が見られる。このことから，彫器及び削器の機能を持つ複合石器の可能性もある。なお，彫器の刃部及び裏面の左側縁上部には刃こぼれが見られる。

47は縦長剥片の末端側を先端部として，左側縁先端部に細かい調整加工を行った後，左側縁に樋状剥離を行って刃部を作り出している。また，末端には裏面からの急角度の細かい調整加工が見られる。このことから，彫器及び掻器の機能を持つ複合石器の可能性もある。

42・45・46は使用痕ある剥片である。42は不定型な剥片を素材として，左側縁下部から末端にかけて刃こぼれが見られる。45は不定型な剥片を素材として，左側縁下部から右側縁下部にかけて刃こぼれが見られる。左側面に見られる表面方向からの剥離痕は，後述する54と同様，石核の側面調整の可能性がある。46は不定型な剥片を素材として，裏面の左側縁下部から末端にかけて刃こぼれが見られる。

43・48・51・54・56～58は剥片である。43・56・58は石刃あるいは石刃状の縦長剥片である。57は寸詰まりの剥片ではあるが，前記の一群と同一母岩である。48は裏面の左側縁上部に，51は裏面の右側縁上部に，極く僅かではあるが，主要剥離面よりも古い面が残っており，彫器や有樋尖頭器などの削片というよりも，55や69などの両面調整体状の石核から剥離された剥片の可能性がある。

54は石刃状の縦長剥片である。左側面上部に見られる表面方向からの剥離痕は，石核の側面調整と考えられる。また，左側面下部の大きなポジティブな剥離面は，切断面の可能性がある。上部は，この剥片が剥離後に節理などで欠損している。

49・50・52・53は削片である。削片としたが，前述した48・51と同様，両面調整体状の石核から剥離された剥片の可能性がある。52は黄灰色（2.5Y5/1）の嶺岡産頁岩である。

55は両面調整体状の石核である。後述する69のような剥片剥離作業により消耗した残核と考えられる。

59は砂岩による石核である。裏面の左側下部に，素材の主要剥離面と考えられるポジティブな剥離面が見られることから，薄手の剥片を素材として，打面と作業面を頻繁に入れ替えながら，不定型な剥片を剥

離している。

60・61は安山岩による石器である。60は掻器である。横長剥片を横位に用い，末端に裏面からの急角度の剥離によって刃部を作り出している。表面の右側縁上部及び裏面の右側縁上部には，調整加工を行って，形態を整えている。

61は石核である。表面の左側下部に，素材の主要剥離面と考えられるポジティブな剥離面が見られることから，薄手の剥片を素材として，打面と作業面を入れ替えながら，求心的な剥離作業を行って，小型で不定型な剥片を剥離している。

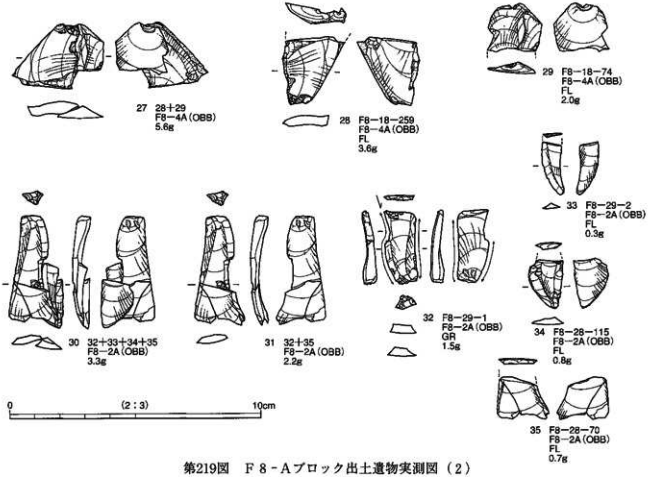
4）接合資料とその関連資料（第219・222～228図）

・F8-4（第219図27～29）　薄墨を流した様な透明な黒曜石である。剥片2点で構成される。

27は剥片2点（28・29）の接合資料である。右方向から不定型な剥片を数枚剥離した後，28を下方向から，さらに29を上方向から剥離している。28は上部を，29は下部を欠損する。

・F8-2（第218図6・12・18・22，第219図30～35）　薄墨を流したような透明な黒曜石である。槍先形石器1点，掻器1点，彫器1点，使用痕ある剥片1点，剥片15点の合計19点で構成される。接合資料は2グループある。

30は彫器1点（32），剥片3点（33～35）の接合資料である。31→33→34の順序で，全て上方向から石刃状の縦長剥片を剥離している。31は切断後，32の切断面を打面として左側縁に樋状剥離を行って刃部を作り出している。ただし，この剥離痕は，衝撃剥離に特有の樋状剥離痕の可能性もあり，欠損に伴って生



第219図　F8-Aブロック出土遺物実測図（2）

じた可能性もある。表裏両面の両側縁に刃こぼれが見られる。本母岩の内，彫器（32）は，蛍光Ｘ線による理化学的な分析により信州星ヶ塔産と推定された。他に前述した６・12・18・22も接合しなかった同一母岩である。

・**F8-16（第222図62～64）**　にぶい黄褐色（10YR5/3）の嶺岡産の珪化度の低いノジュールあるいは頁岩と考えられる。彫器１点，削片１点の合計２点で構成される。

64は彫器１点（62）と削片１点（63）の接合資料である。62は不定型な剥片の末端側を先端部として，尖頭状に調整して，右側縁に樋状剥離を行って刃部を作り出している。63はその削片である。おそらく，左側縁上部の剥離面も，樋状剥離によって作出された刃部と考えられる。なお，左側縁の中間部及び右側縁には細かい調整加工が見られることから，彫器及び削器の機能を持つ複合石器あるいは削器の刃部再生の可能性もある。また，63を剥離した後の刃部には，刃こぼれが見られる。

・**F8-18（第220図43，第221図56～58，第222図65～68）**　褐灰色（7.5YR4/1），にぶい黄褐色（10YR4/3），黒褐色（10YR3/2）の嶺岡産の珪化度の低いノジュールあるいは頁岩と考えられる。剥片44点（42個体），砕片３点，石核１点の合計48点で構成される。接合資料は２グループある。

65は剥片２点（66・67）と石核１点（68）の接合資料である。はじめに，下面を打面として不定型な剥片を剥離した後，180度打面を入れ替え，上面を打面として67→66の順で，石刃状の縦長剥片を剥離している。68の右側面にはこれらの剥離面と90度異なる右方向からの剥離面も見られるが，石核の側面調整の可能性もあり，後述する69のような剥片剥離作業が行われていたと考えられる。他に前述した43・56～58も接合しなかった同一母岩である。

・**F8-17（第223図）**　黒褐色（5YR3/1）と暗灰黄色（2.5Y5/2）の部分がある嶺岡産の珪化度の低いノジュールあるいは頁岩と考えられる。剥片１点，石核１点の合計２点で構成される。

69は剥片１点（71）と石核１点（70）の接合資料である。両面調整体状の石核の上面から，断面三角形で稜付きの縦長剥片を剥離している。70の左側面にも右側面と同様の剥離面が見られることから，両側縁で上記のような剥片が剥離され，表裏両面では石刃状の縦長剥片や幅広の縦長剥片を剥離している。また，71の剥離後，側面調整は行われていないが，69の網掛けの部分は，71の剥離後のものである。なお，69や70の裏面図で自然面として図示した部分については，剥離面の可能性もある。

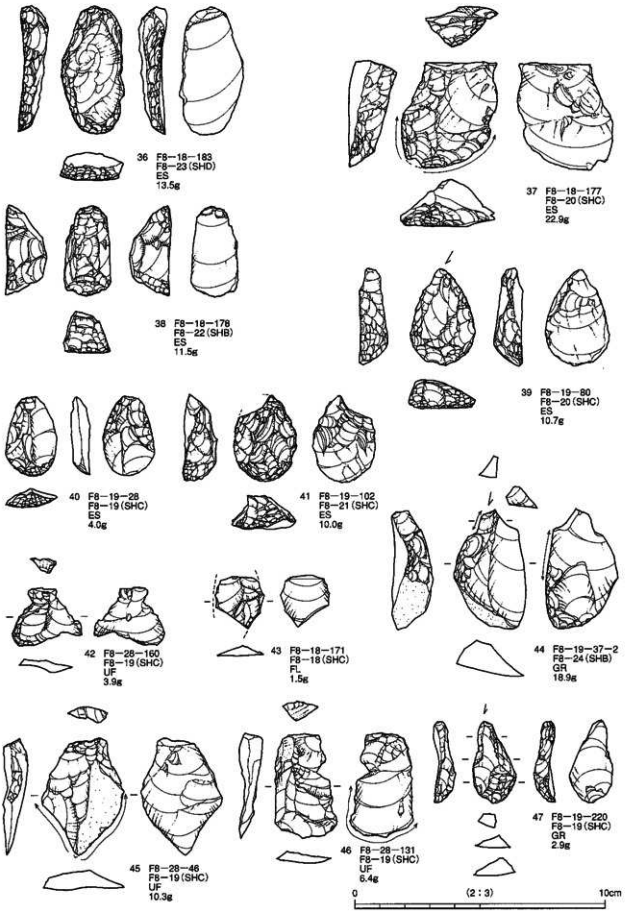
・**F8-14（第224図）**　灰色（10Y4/1）の砂岩である。剥片17点（16個体），石核１点の合計18点で構成される。接合資料は２グループある。

72は剥片３点（73～75）の接合資料である。打面調整を頻繁に行いながら73→74の順で剥離して後，若干，作業面長を減じた石核から75を剥離している。76・77には接合しなかった同一母岩の資料を図示した。76は石核，77は剥片である。76の形状は，両面調整体状で，前述した69のような剥片剥離作業が行われていたとも考えられ，この石核からは，75や77のような石刃状の縦長剥片や73や74のような幅広の剥片を剥離している。

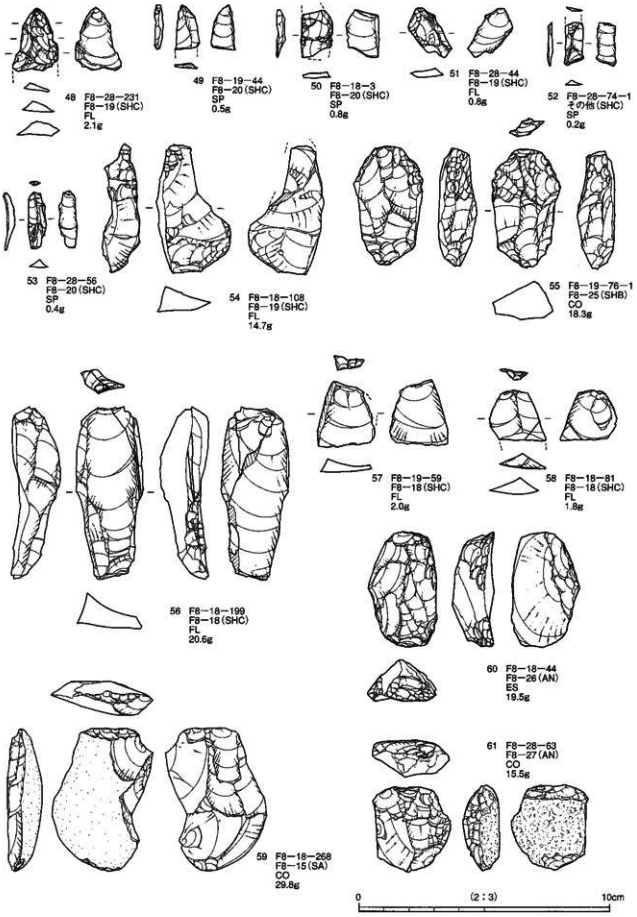
・**F8-13（第225～228図）**　灰色（10Y4/1）のホルンフェルスである。槍先形石器１点，剥片54点（50個体），砕片５点，石核１点の合計61点で構成される。接合資料は，６グループに分かれる。

接合資料Ａ（第225図78～84）

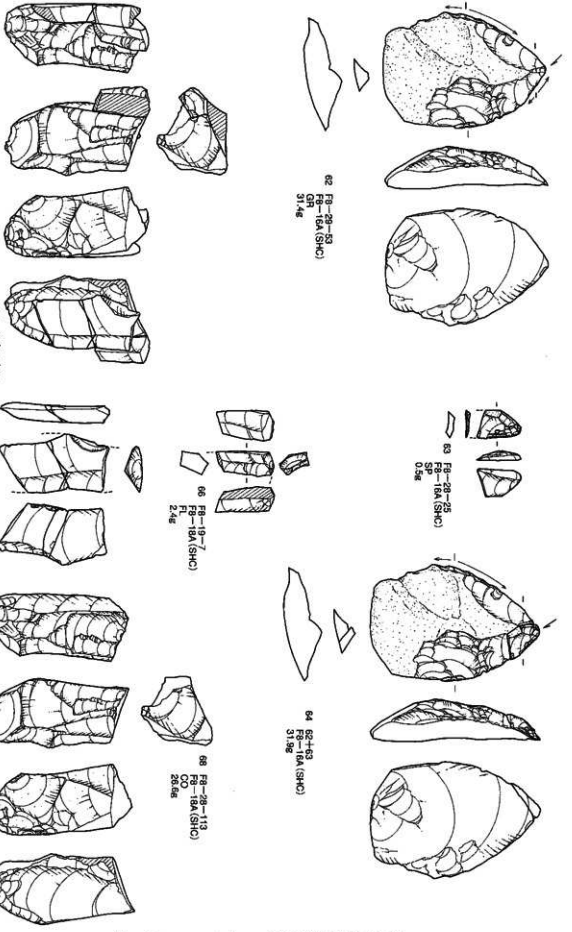
78は剥片７点（６個体；79～84）の接合資料である。79→80→81→82→83→84の順序で，全て上方向から幅広で不定型な剥片を剥離している。打面側を欠損する84を除いて，これらの剥片には，打面及び表面



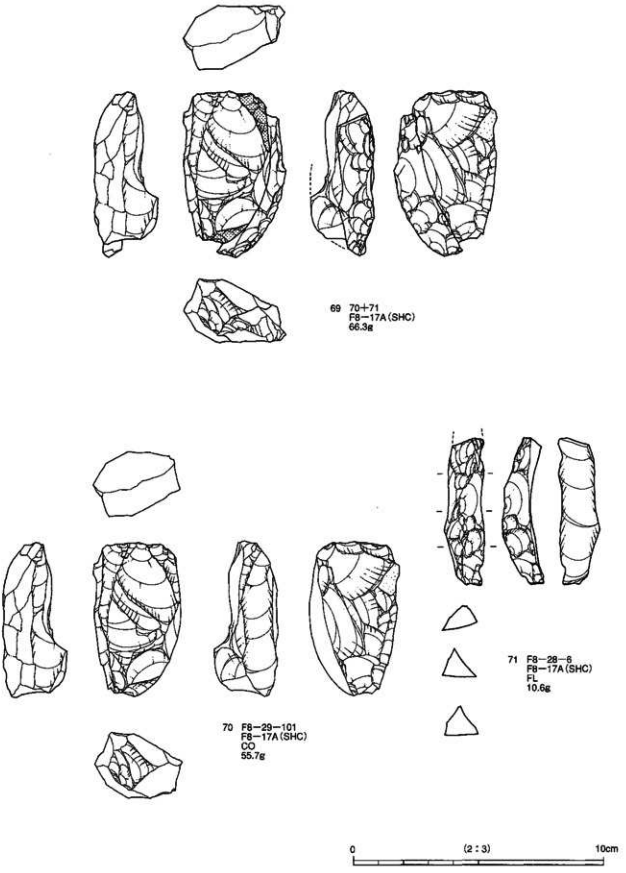
第220図　F８－Aブロック出土遺物実測図（３）



第221図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物実測図（４）



第222図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物実測図（５）



第223図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物実測図（６）

に自然面が残っている。

接合資料E（第225図85～89）

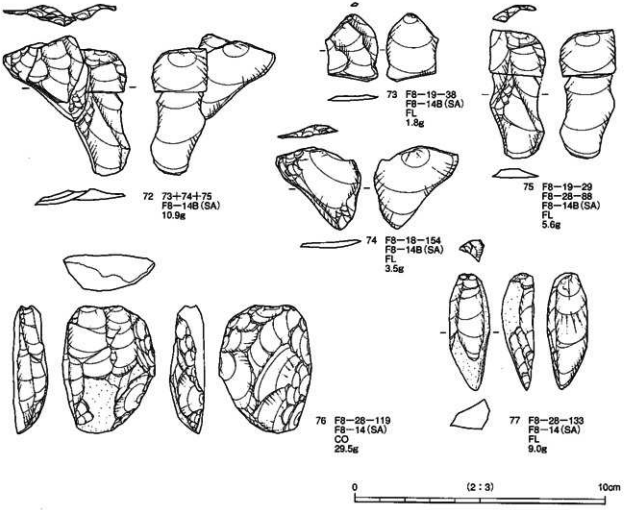
85は剥片5点（4個体；84～88）の接合資料である。はじめに86を下方向から剥離した後，打点を180度移動して87→88→89の順序で，上方向から石刃状の縦長剥片幅広の剥片を剥離している。86・87の表面には，自然面が残っている。

接合資料D（第226図）

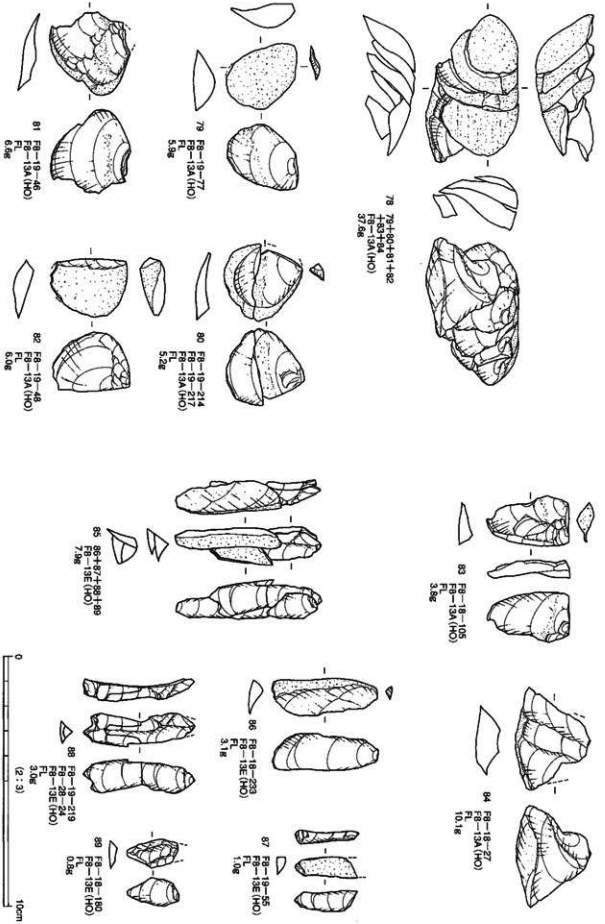
90は剥片12点（10個体；91～100）の接合資料である。91を正面方向から剥離した後，2～3回ほど頭部調整を行い，92を上方向から剥離し，再び93を正面方向から剥離して打面を作出して，94→95→96→99→97→98の順序で上方向から幅広で不定型な剥片を剥離している。この後も，100を右方向から剥離して，打面を作出している。

接合資料B（第227図）

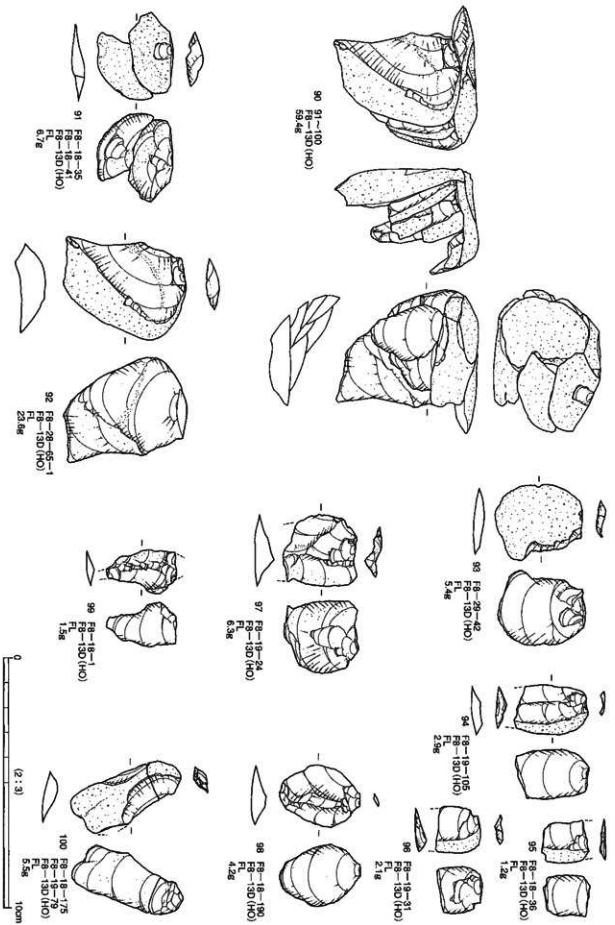
101は槍先形石器1点（103），剥片7点（102・104～109）と石核1点（110）の接合資料である。始めに，片面に自然面を残す石核の右側縁に細かい調整加工を行い，左側から有樋状の剥離によって102を剥離し，引き続き，103を剥離している。103は表裏両面の下部の一部に細かい調整加工を行って，槍先形石



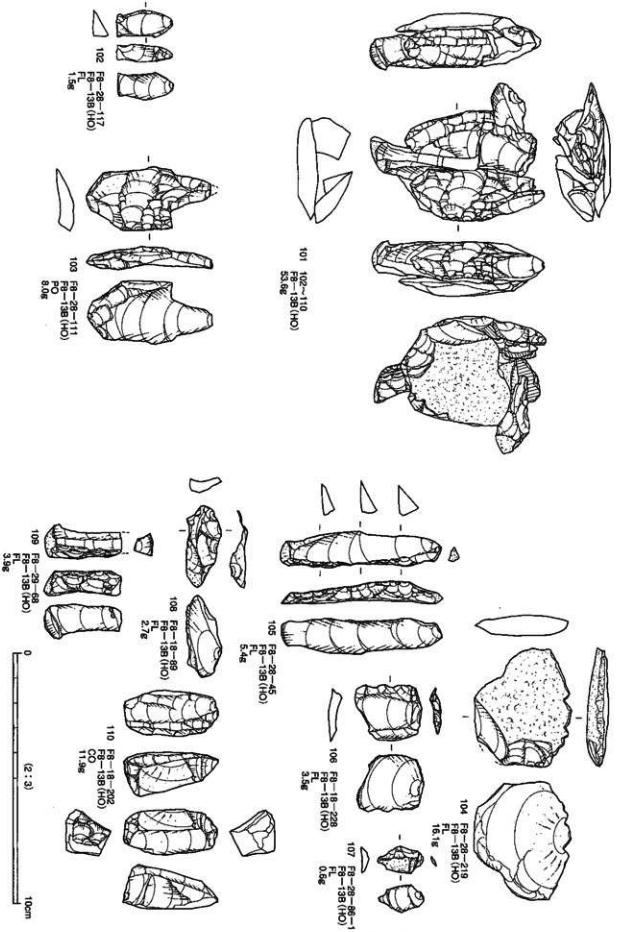
第224図　F8-Aブロック出土遺物実測図（7）



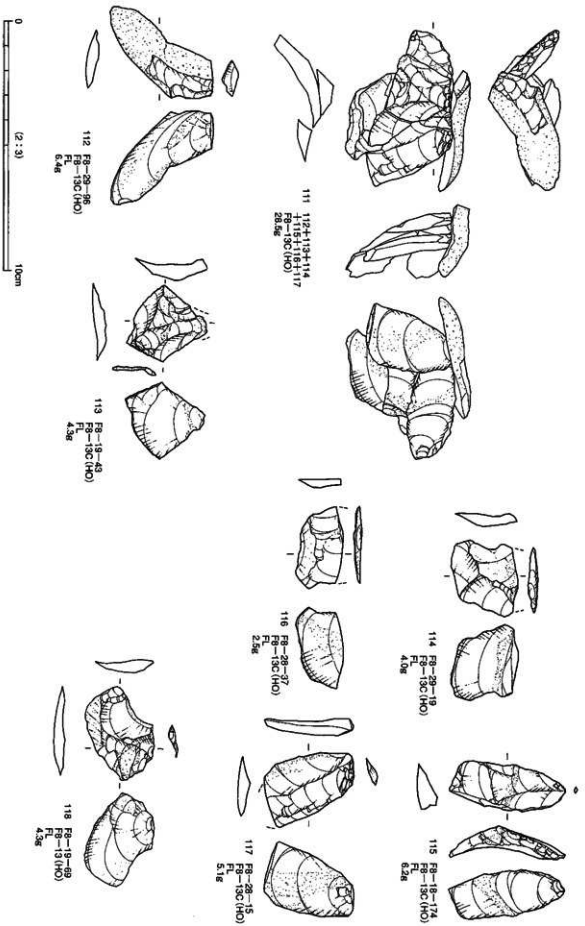
第225図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物実測図（８）



第226図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物実測図（９）



第227図　Ｆ８－Ａブロック出土遺物実測図（10）



第228図　F８－Aブロック出土遺物実測図（11）

第65表　Ｆ８－Ａブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
Ｆ８－１(OBC)			4				1												10	2						17
Ｆ８－２(OBG)			1		1		1				1								15							19
Ｆ８－３(OBB)											2								2							4
Ｆ８－４(OBD)																			2							2
Ｆ８－５(OBB)			1								1															2
Ｆ８－６(OBB)							1																			1
Ｆ８－７(OBB)			1																							1
Ｆ８－８(OBB)					1																					1
Ｆ８－９(OBB)							1																			1
Ｆ８－10(OBB)																			1							1
Ｆ８－11(OBA)	1																									1
Ｆ８－12(OBB)																			1							1
Ｆ８－13 (BD)			1																54(50)	5	1					61(57)
Ｆ８－14 (SA)																			17(16)		1					18(17)
Ｆ８－15 (SA)																					1					1
Ｆ８－16(SHC)							1																1			2
Ｆ８－17(SHC)																			1		1					2
Ｆ８－18(SHC)																			44(42)	3	1					48(46)
Ｆ８－19(SHC)					1		1				3								9	1						15
Ｆ８－20(SHC)					2														2				3			7
Ｆ８－21(SHC)					1																					1
Ｆ８－22(SHB)					1																					1
Ｆ８－23(SHG)					1																					1
Ｆ８－24(SHB)							1																			1
Ｆ８－25(SHB)																				1						1
Ｆ８－26 (AN)					1																					1
Ｆ８－27 (AN)																					1					1
その他 (OBB)					1														3							4
その他 (OBC)										1										2						3
その他 (OBF)																			2							2
その他 (OBG)																			7	3						10
その他 (SHC)																			7				1			8
その他 (SA)																			3							3
TOTAL	1		8		10		7			1	7								180(173)	16	7		6			242(235)

第66表　Ｆ８－Ａブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	UK	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	TOTAL
黒曜石Ａ (OBA)	1																									1
黒曜石Ｂ (OBB)			3		3		3				4								24							37
黒曜石Ｃ (OBC)			4				1			1									10	4						20
黒曜石Ｆ (OBF)																			2							2
黒曜石Ｇ (OBG)																			7	3						10
安山岩 (AN)						1															1					2
頁岩Ｂ (SHB)						1		1													1					3
頁岩Ｃ (SHC)						4		2			3								63(61)	4	2		5			83(81)
頁岩Ｄ (SHD)						1																				1
砂岩 (SA)																			20(19)		2					22(21)
ホルンフェルス (HO)			1																54(50)	5	1					61(57)
TOTAL	1		8		10		7			1	7								180(173)	16	7		6			242(235)

第67表　Ｆ８－Ａブロック礫組成表

母　岩	石　材	個数	重　量	母　岩	石　材	個数	重　量	母　岩	石　材	個数	重　量	母　岩	石　材	個数	重　量
ＦＳＲ－１	CH	1	326.1	ＦＳＲ－11	SA	1	47.5	ＦＳＲ－21	SA	2	37.3	ＦＳＲ－31	CO	1	40.9
ＦＳＲ－２	CH	1	80.8	ＦＳＲ－12	SA	1	31.6	ＦＳＲ－22	SA	3	26.8	ＦＳＲ－32	CO	18	1013.5
ＦＳＲ－３	CH	1	74.8	ＦＳＲ－13	SA	2	35.8	ＦＳＲ－23	RH	2	469.8	ＦＳＲ－33	SA	12	166.3
ＦＳＲ－４	CH	1	46.5	ＦＳＲ－14	SA	3	148.4	ＦＳＲ－24	RH	2	151.4	ＦＳＲ－34	SA	3	103.8
ＦＳＲ－５	CH	1	28.0	ＦＳＲ－15	SA	5	166.3	ＦＳＲ－25	RH	1	31.3	ＦＳＲ－35	SA	1	11.1
ＦＳＲ－６	CH	1	23.5	ＦＳＲ－16	SA	2	38.7	ＦＳＲ－26	RH	1	44.3	ＦＳＲ－36	SA	1	21.3
ＦＳＲ－７	CH	2	32.6	ＦＳＲ－17	SA	8	78.6	ＦＳＲ－27	RH	1	57.2	ＦＳＲ－37	SA	1	10.2
ＦＳＲ－８	SA	1	300.4	ＦＳＲ－18	SA	3	96.9	ＦＳＲ－28	RH	49	440.8	ＦＳＲ－38	SA	1	14.4
ＦＳＲ－９	SA	1	88.6	ＦＳＲ－19	SA	3	111.4	ＦＳＲ－29	SH	6	52.2	ＦＳＲ－39	SA	1	13.4
ＦＳＲ－10	SA	1	95.2	ＦＳＲ－20	SA	4	90.5	ＦＳＲ－30	CO	1	23.8	ＦＳＲ－40	SA	1	11.4

母岩	石材	個数	重量
F8R−41	RH	1	66.6
F8R−42	RH	1	62.4
F8R−43	RH	1	24.8
F8R−44	RH	1	21.2
F8R−45	RH	1	12.6
F8R−46	RH	1	5.1
F8R−47	RH	1	10.1
F8R−48	SA	4	65.5
F8R−49	HO	13	190.9
F8R−50	HO	11	102.4
F8R−51	HO	2	77.4
F8R−52	HO	2	24.3
F8R−53	HO	3	14.9
F8R−54	RH	4	151.6
F8R−55	RH	16	159.9
F8R−56	RH	22	269.8
F8R−57	RH	14	338.5
F8R−58	RH	12	172.4
F8R−59	RH	6	196.1
F8R−60	RH	5	97.9

母岩	石材	個数	重量
F8R−61	RH	5	105.8
F8R−62	RH	2	48.1
F8R−63	RH	4	96.0
F8R−64	SA	19	190.4
F8R−65	SA	10	216.5
F8R−66	SA	8	79.7
F8R−67	SA	2	35.7
F8R−68	RH	6	56.1
F8R−69	RH	6	292.9
F8R−70	RH	7	50.7
F8R−71	RH	1	45.6
F8R−72	CH	18	123.9
F8R−73	CH	19	148.2
F8R−74	CH	28	149.6
F8R−75	CH	7	89.7
F8R−76	CH	8	38.6
F8R−77	CH	1	17.3
F8R−78	CH	2	14.6
F8R−79	CH	7	77.8
F8R−80	CH	3	19.6

母岩	石材	個数	重量
F8R−81	CH	9	61.4
F8R−82	CH	12	188.9
F8R−83	CH	19	175.3
F8R−84	CH	22	185.2
F8R−85	CH	6	33.7
F8R−85	CH	3	22.0
F8R−87	CH	2	10.3
その他	RH	53	90.7
その他	CH	51	110.9
その他	SA	35	52.4
その他	HO	11	49.5
その他	UK	1	1.4

石材	個数	重量
流紋岩(RH)	226	3550.8
頁岩(SH)	6	52.2
チャート(CH)	213	1956.1
砂岩(SA)	138	2367.1
ホルンフェルス(HO)	42	459.4
鍵岩(CO)	20	1078.2
不明(UK)	1	1.4
合計	646	9475.2

器に仕上げている。いわゆる有樋尖頭器と考えられる。次に，裏面側の左方向から104，左側から裏面側に稜上調整の行われた石刃状の縦長剥片（105）を剥離している。その後は，106・107→108の順序で，表面側から不定型な剥片を剥離し，最後に，裏面側に稜上調整の行われた石刃状の縦長剥片（109）を剥離している。これら一連の剥離は，104を除いて上方向から行われている。また，110の石核からは，その後も削片様の縦長剥片を主体として剥離しながら，作業を終了している。

接合資料C（第228図111～117）

111は剥片6点（112～117）の接合資料である。112を剥離して打面を作出した後，113→114→115の順序で左方向から，次に打面を90度転移して上方向から，116→117の順序で不定型な剥片を剥離している。118は接合しなかった同一母岩の不定型な剥片である。

第4節　ブロック外出土遺物

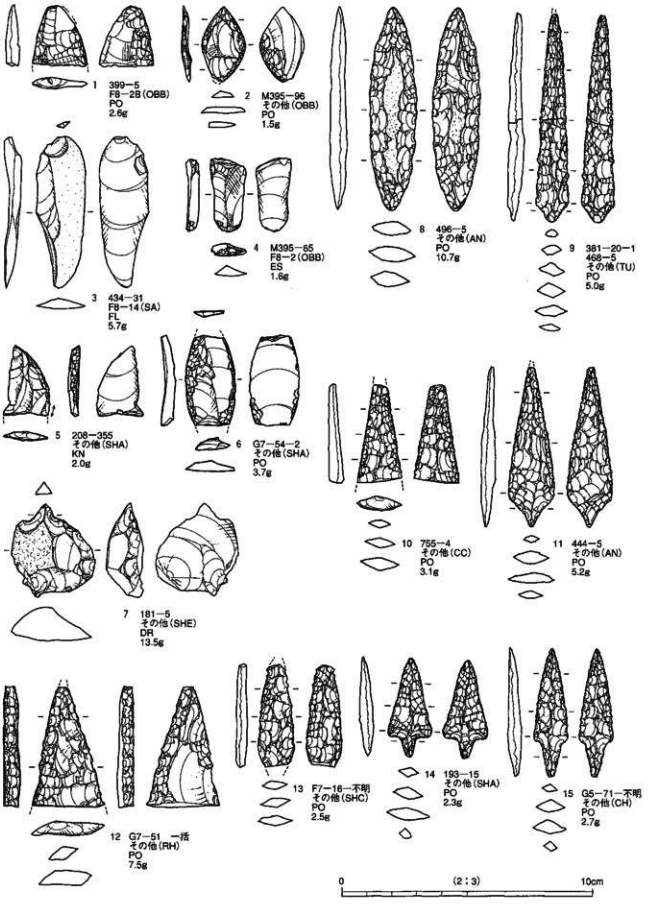
ここでは，ブロックを形成していないグリッド単独（2点以下）出土の遺物と上層遺構等に混在していた遺物について記述する。M区ではグリッド単独出土の遺物は発見されていない（第229図，カラー図版12）。

1は薄墨を流したような透明な黒曜石である。黒曜石による上層遺構出土の槍先形石器で，F8-Aブロック出土の第218図6との接合資料である。2点で1個体となる。本資料は，蛍光X線による理化学的な分析により信州星ヶ塔産と推定された。第7文化層に属するものと考えられる。2は薄墨を流したような透明な黒曜石による槍先形石器である。信州和田峠周辺産と考えられる。横長剥片を横位に用い，表面周縁と裏面左側縁下部に細かい調整加工を行っている。第7文化層に属するものと考えられる。3は灰色（10Y4/1）の砂岩による石刃状の縦長剥片である。なお，同一母岩のF8-14がF8-Aブロックに18点ある。4は薄墨を流したような透明な黒曜石による掻器である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃の打面側を刃部として，裏面からの急角度の剥離によって刃部を作り出している。第7文化層に属するものと考えられる。5は灰褐色（7.5YR4/2）の東北産頁岩によるナイフ形石器である。剥片の右側縁に調整加工を行

っている。右側縁の下部には刃こぼれが見られる。下半部を欠損するため形態は，不明である。6はにぶい褐色（7.5YR5/3）の東北産頁岩による槍先形石器である。石刃の周縁に細かい調整加工を行っている。第7文化層に属するものと考えられる。7は自然面は灰赤色（2.5YR4/2），内部は暗赤褐色（10R3/2），灰赤色（7.5YR4/2）の頁岩による石錐である。不定型な剥片の末端を先端部として，右側縁から左側縁上部にかけて，鋸歯状の調整加工を行って，刃部を作り出している。

8～15は旧石器時代最終末から縄文時代草創期に属すると考えられる槍先形石器である。8は自然面は灰黄褐色（10YR4/2），内部は黄灰色（2.5Y4/1），新鮮な面は黒色（N2/0）の安山岩で，極めて扁平な礫を素材としている。両面調整による木葉形の尖頭器で，横断面形は凸レンズ状である。表裏に細かな調整加工を行っている。12は灰褐色（7.5YR5/2）の珪質頁岩に類似した流紋岩によるものである。最終的な剥離痕は，表裏とも左側縁に集中しており，急角度で細かい調整加工が行われている。そのため，横断面形は，平行四辺形である。また，側縁は，直線的で，若干鋸歯状を呈している。先端部と下半部を欠損するため形態は，不明である。裏面の一部に，素材時の大きな剥離面を残す。

9～11，13～15は有茎尖頭器である。9は暗灰黄色（2.5Y5/2）で，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の凝灰岩によるものである。表裏に細かな調整加工を行っている。特に周縁の細かい加工が特徴的で，側縁は，鋸歯状を呈している。先端部を欠損する。10は灰黄褐色（10YR5/2）の地に，灰白色（5Y8/1）の斑が入る瑪瑙・玉髄によるものである。表裏に細かな調整加工を行っている。特に周縁の細かい加工が特徴的で，側縁は，鋸歯状を呈している。先端部と下半部を欠損する。11は褐灰色（10YR4/1）の安山岩によるものである。表裏に細かな調整加工を行っている。特に周縁の細かい加工が特徴的で，側縁は，鋸歯状を呈している。13は暗灰黄色（2.5Y5/2）の地に黄灰色（2.5Y6/1）の部分が入る横岡産頁岩によるものである。最終的な剥離痕は，胴部から先端部にかけては，表裏とも左側縁に集中し，茎部は右側縁に集中している。また，周縁の細かい加工が特徴的で，側縁は，鋸歯状を呈している。先端部と茎部を欠損する。14は暗赤灰色（5R4/1）の東北産頁岩によるものである。表裏に細かな調整加工を行っている。また，斜並行剥離が，特徴的である。15は灰色（10Y4/1）の地に青黒色（5B2/1）の格子目状の筋が入るチャートによるものである。表裏に細かな調整加工を行っている。特に周縁の細かい加工が特徴的で，側縁は，鋸歯状を呈している。



第229図　草刈遺跡M区ブロック外出土遺物実測図

第9章　まとめ

草刈遺跡西部地区では，29か所のブロックから約7,500点の石器が出土した。これらは，立川ローム層第2黒色帯下部から立川ローム層最上部にかけての各層準から出土しており，石器群の内容とその出土層準から5枚の文化層に区分した。本章では，代表的なブロックを取り上げながら文化層ごとにまとめたいと思う。

なお，草刈遺跡では，報告書作成にあたって，隣接する各調査区及び両地区相互の同時代資料を併せて検討するため，遺跡全体を東西2地区にまとめて作成している。そのため文化層の設定については，草刈遺跡西部地区でも，草刈遺跡東部地区に倣って7枚の文化層に区分した。西部地区の石器群は，その第3～7文化層にあたり，第1・2文化層の石器群は，出土していない。草刈遺跡全体では，第1文化層は1か所，第2文化層は1か所，第3文化層は4か所，第4文化層は55か所，第5文化層は14か所，第6文化層は45か所，第7文化層は7か所のブロックが検出されている。

第3文化層

第3文化層は，立川ローム層第2黒色帯下部（Ⅸc層）から出土した石器群で，草刈遺跡Ⅰ区E5-Bブロック，L区J8-Bブロックの計2か所が該当し，台地の中央に分布する。東部地区では2か所のブロックが検出されている。

Ⅰ区のE5-Bブロックでは，石刃や不定型な剥片を素材とする使用痕ある剥片などで構成される。房総半島における同一層準の石器群は，しばしば刃部磨製石斧を伴い，環状ブロック群を構成するが，本ブロックは小規模な単独のブロックである。また，石刃石器群を伴う時期ではあるが，それも不明瞭である。石器石材は，神津島産黒曜石が多く用いられている。資料数も少なく，搬入品で構成される石器群である。

L区のJ8-Bブロックは，不定型な剥片を素材とするナイフ形石器，石刃，石斧などで構成される。石材は，黒色頁岩による石刃，瑪瑙・玉髄によるナイフ形石器，砂岩による石斧に，若干のホルンフェルスなどが加わる。E5-Aブロック同様，搬入品で構成される石器群ではあるが，石器及び石材組成は大きく異なる。

草刈六之台遺跡第2文化層では，大型精緻な台形石器や刃部磨製石斧，石刃素材のナイフ形石器などが出土している。また，東部地区第3文化層や草刈六之台遺跡第2文化層では，石材は，台形石器に神津島産黒曜石を用いているほか，嶺岡産頁岩や安山岩，凝灰岩なども加わっており，相互に類似点があるが，西部地区のブロック群とは相違点が多い。

房総半島の同時期資料は，柏市中山新田Ⅰ遺跡，四街道市池花南遺跡第1文化層，千葉市東大野第2遺跡ほか枚挙にいとまないが，高原山産黒曜石，安山岩，嶺岡産や北関東方面と推定される頁岩のいくつかを選択して主たる石材としており，東北産頁岩や信州産黒曜石などの遠隔地石材は少ない。

第4文化層

第4文化層は，立川ローム層第2黒色帯上半部（Ⅶ～Ⅸ層上部）から出土した石器群で，草刈遺跡F区2か所，Ⅰ区5か所，J区1か所，K区2か所，L区5か所の計15か所が該当し，台地の中央から縁辺にかけて分布する。出土層位に幅があり，石器群の内容も多様であることから，本来は2～3時期に細分す

べきかもしれない。東部地区同様最も多くのブロックが検出された文化層である。東部地区では40か所のブロックが検出されている。

F区における本文化層の石器群は，台地中央寄りの縁辺に分布する。F4-A及びF5-Aブロックは，石刃を素材とするナイフ形石器，加工痕・使用痕ある剥片，石刃，多量の剥片などで構成される。石材は，F4-Aブロックでは信州麦草峠周辺産の黒曜石が主体で，若干の流紋岩や北関東産及び嶺岡産の頁岩などが加わる。一方，F5-Aブロックでは産地不明の特徴的な流紋岩が主体で，若干の信州麦草峠周辺産黒曜石や北関東産頁岩などが加わる。石器組成では共通するものの石材組成では異なるが，両ブロックには接合関係が見られることから，密接な関係が窺われる。少量の搬入品で構成される母岩と共に，F4-AブロックのF4-28母岩（黒曜石）やF5-AブロックのF5-22母岩（流紋岩）では，石刃ないしは石刃状の剥片の生産から石器製作まで行われている。

I区における本文化層の石器群は，台地の中央に分布する。①50点以上の比較的大規模なブロック（D6-A，E6-Bブロック），②10点前後の小規模なブロック（D6-B，E5-A，E6-Aブロック）に分かれる。①は，石刃を素材とするナイフ形石器，石刃，多量の剥片などで構成され，石刃ないし石刃状の剥片と不定型な剥片などの生産が行われているが，石材については，D6-Aブロックが信州麦草峠周辺産黒曜石，E6-Bブロックが嶺岡産頁岩を主体としており，両ブロック間で異なる。②は，少量の搬入品で構成される。石材は，嶺岡産頁岩を除く東北産及び北関東産の頁岩が主体である。

J区のJ6-Aブロックは，台地の縁辺に分布する。東北産頁岩による石刃ないし石刃状の剥片を素材とする錐状石器と嶺岡産頁岩による不定型な剥片を素材とする加工痕ある剥片などで構成される小規模なブロックである。

K区における本文化層の石器群は，台地中央寄りの縁辺に分布する。K7-A及びL8-Aブロックは，小規模なブロックで，剥片を主体に構成されており，不定型な剥片などの生産が行われている。石材については，ホルンフェルスが主体で，若干の安山岩，東北産頁岩を除く各種頁岩，チャート，凝灰岩などが加わる。

L区における本文化層の石器群は，台地の中央に分布する。①100点以上の比較的大規模なブロック（J8-Aブロック），②4～20点の小規模なブロック（I6-A，K7-B，K8-A，K10-Aブロック）に分かれる。①は，不定型な剥片を素材とするナイフ形石器，加工痕ある剥片，多量の剥片などで構成され，不定型な剥片などの生産が行われており，石材については，安山岩やホルンフェルスを主体としている。②は，剥片を主体としており，石材については，安山岩を主体とするグループ（I6-A，K8-Aブロック）とホルンフェルスが主体で，若干の安山岩，チャート，砂岩などが加わるグループ（K7-Bブロック）に分かれる。K10-Aブロックについては，資料数も少なく，詳細は不明である。

東部地区第4文化層では，遠隔地石材による石刃やそれを素材とするナイフ形石器が搬入品として存在し，それ以外の圧倒的多数は房総半島南部産と推定される各種石材による不定型な剥片生産に関わる石器群であるが，草刈六之台遺跡第3文化層では，石刃素材の二側縁加工を中心とする小型のナイフ形石器，刃部磨製石斧，砥石を特徴とし，信州麦草峠周辺及び和田峠周辺産の黒曜石による両設打面の石核から石刃を生産する石器群と不定型な剥片を生産する石器群がある。F区については東部地区よりも草刈六之台遺跡と類似点が多い。I・J区についてはブロック毎に両者の特徴が見られる。K・L区については東部地区と類似点が多い。

第5文化層

第5文化層は，立川ローム層Ⅵ層からⅦ層上部にかけての層準から出土した石器群で，草刈遺跡F区1か所，J区1か所，K区1か所，L区1か所，M区1か所の計5か所が該当し，台地の縁辺から緩斜面に分布する。東部地区では9か所のブロックが検出されている。

F区のE4-Aブロックは，緩斜面に分布する。石刃ないし石刃状の剥片を素材とするナイフ形石器，楔形石器，加工痕・使用痕ある剥片，剥片，多量の砕片などで構成される。石材については，信州和田峠周辺産黒曜石が主体で，若干の東北産頁岩などが加わる。楔形石器や不定型な剥片などの生産が行われているが，多量の砕片がどのような作業によって生じたのか不明である。数量的には大規模であるが，砕片を除けば，性格的には小規模なブロックである。

J区のK4-Aブロックは，緩斜面の低位に分布する。資料数も少なく，詳細は不明である。

K区のN8-Aブロックは，台地の縁辺に分布する。資料数も少なく，詳細は不明である。

L区のI9-Aブロックは，台地の縁辺に分布する。石刃を素材とする部分加工及び二側縁加工のナイフ形石器，石刃を素材とする加工痕ある剥片などで構成される。石材については，信州和田峠周辺産の黒曜石と珪化度の高い産地不明の頁岩が主体である。資料数も少なく，搬入品で構成される石器群である。

M区のF7-Aブロックは，台地の縁辺に分布する。石刃，剥片などで構成される。石材については，安山岩，信州和田峠周辺産の黒曜石が主体で，若干の嶺岡産頁岩が加わる。資料数も少なく，搬入品で構成される石器群である。

東部地区第5文化層では，①；草刈遺跡C区C16-Aブロックの石器群に代表されるような東北産頁岩によるナイフ形石器と石刃（搬入された製品），大型石刃に由来する石核とその剥片類で構成される石器群と高原山産黒曜石によるナイフ形石器，剥片類（遺跡内で製作）で構成される石器群の2者が複合するもの。②；草刈遺跡C区C58B-Bブロックの石器群に代表されるような東北産の可能性もある産地不明の頁岩を用いた石器群と信州産の良質な黒曜石による石器群の2者で構成されるもの。③；草刈遺跡C区C61-Eブロックや草刈遺跡D区C57-Aブロックの石器群に代表されるような嶺岡産頁岩や頁岩，凝灰岩，チャート，砂岩，ホルンフェルス，安山岩など東関東一帯で採取可能な各種石材で，その多くは房総半島南部で採取されたと考えられる石材を用いた石器群，また，草刈遺跡では良好な資料が検出されていないが，同一事業地内で本遺跡から2.5kmほど離れた位置の押沼第1遺跡には，④；押沼第1遺跡G地点の石器群に代表されるような上記①～③とは異なる，信州産の良質な黒曜石を主体として，東北産頁岩，東関東～房総半島産各種石材が複合する中・小型石刃石器群が検出されている。印西市木刈峠遺跡1・7・24ユニットや八千代市権現後遺跡第4文化層，県外では神奈川県寺尾遺跡第Ⅵ文化層に代表される石器群と共通し，Ⅵ層石器群の代表例のひとつと考えられてきたものである。以上の4グループは，出土層位に若干の違いはあっても概ね同時期に帰属する石器群で，相互に連続する編年的差異を持つものではないと考えられている。

西部地区の各ブロックの石器群は，小規模ではあるが，東部地区に比べると，石器組成と石材の構成がまとまっており，②ないし④と類似点が多い。

第6文化層

第6文化層は，立川ローム層のハードローム層最上部からソフトローム層下部にかけて出土した石器群で，武蔵野台地における立川ローム層Ⅳ層下部から出土する石器群に対応すると考えられる。草刈遺跡F

区2か所，H区1か所，K区2か所，L区1か所の計6か所が該当し，台地の縁辺から緩斜面に分布する。東部地区では39か所のブロックが検出されている。①石器を主体とし，焼け礫をほとんどあるいは全く伴わないブロック，②焼け礫を主体として，ナイフ形石器や削器，多量の剥片類などが伴うブロック，③礫のみのブロックがある。

F区における本文化層の石器群は，緩斜面に分布する。E4-Bブロックは，資料数も少なく，詳細は不明である。E5-Cブロックは，石器のみのブロックでホルンフェルスによる不定型な剥片を生産する石器群である。

H区のL9-Aブロックは，緩斜面に分布する。1,000点近い石器，4,000点以上の礫が出土するなど西部地区では最大の規模の石器群である。ホルンフェルス，砂岩，チャートを主体とする石材により不定型な剥片を生産しており，これらの剥片を素材として，ナイフ形石器，削器，加工痕ある剥片などを製作している。また，剥片生産を終了した石核を加熱して他の焼け礫と同様に使用したと考えられる母岩などもあり，特異な石材消費を示す資料である。礫石材は，砂岩がほぼ半数を占め，これにチャート，流紋岩，ホルンフェルスが加わる。

K区における本文化層の石器群は，緩斜面の高位と低位に分布する。L4-Aブロックは，礫のみの小規模なブロックである。L6-Aブロックは，嶺岡産頁岩や黒色頁岩による不定型な剥片を素材とするナイフ形石器，剥片などで構成され，少量の礫が伴う。

L区のI6-Bブロックは，緩斜面に分布する。石器のみのブロックで，ホルンフェルスによる不定型な剥片の生産から石器製作まで行われている比較的小規模なブロックである。

東部地区では，①；草刈遺跡G区C26-Aブロックに代表されるような切出形のナイフ形石器と角錐状石器，削器，剥片類で構成され，信州産と考えられる良質な黒曜石を多量にもつ石器群，②；草刈遺跡C区C23-Hブロックに代表されるような加工痕ある剥片，使用痕ある剥片，剥片類など少数の石器に，多量の焼け礫が伴い，房総半島南部産各種石材を多く用いていると考えられる石器群，③；草刈遺跡D区C56-Aブロックに代表されるように掻器，楔形石器，使用痕ある剥片，剥片，石核など少数の石器に，多量の焼け礫が伴い，石器，礫ともに大半は上総丘陵砂礫層に由来する石材を用いていると考えられる石器群，④；草刈遺跡D区C72N40-B～Dブロックに代表されるようなナイフ形石器，掻器，楔形石器，剥片類などで構成され，安山岩と嶺岡産頁岩を中心とする石材を用いていると考えられる石器群の4グループに分けられている。西部地区では，H区のL9-Aブロックに見られるように，石器石材はホルンフェルス，砂岩，チャートを主体とし，礫石材は砂岩が大半で，③との類似点が多い。

第7文化層

第7文化層は，槍先形石器を指標として設定した文化層である。出土層準は，立川ローム層のソフトローム層を中心としており，層位的に上記の第6文化層と区分することは困難である。草刈遺跡M区F8-Aブロックが該当し，台地の中央に分布する。東部地区では6か所のブロックが検出されている。

M区のF8-Aブロックは，信州産を中心とする黒曜石を用いた有樋尖頭器に嶺岡産珪質頁岩による掻器，彫器などが伴っている。製品は搬入品が大半で，素材生産の形跡はない。これにホルンフェルスや嶺岡産頁岩あるいはノジュールの剥片類がまとまっており，これらの石材では素材生産を行っている。この中でも特に，両面調整体状の石核による剥片剥離技術は，特異なものである。石器石材は嶺岡産頁岩が主体で，信州和田峠周辺産及び麦草峠周辺産黒曜石と少数の栃木県高原山産及び神津島産黒曜石，砂岩が加わる。

礫石材は，流紋岩，チャートが主体で，砂岩などが加わる。

東部地区の槍先形石器群については，旧石器時代の報文中で，詳細に検討されていることから，それを参照してもらうこととして，その中で，①G区単独資料→②P区2B-Aブロック→③G区C12-Bブロックの3時期に細分されており，西部地区M区F8-Aブロックは②に比定されている。

石器石材について

本地区では，東部地区と同様に，東北産頁岩，北関東及び東関東方面と考えられる頁岩，県南嶺岡産の頁岩，上総丘陵砂礫層ほかのチャート，砂岩，凝灰岩，瑪瑙・玉髄，信州産，栃木県高原山産，神津島産などの黒曜石，産地の特定できない安山岩などが用いられていた。

頁岩類については，田村　隆氏を中心に精力的な産地探索が継続されており，その実態も判明しつつある。なお，本報告では，珪化度の高いものも頁岩に区分し，「珪質頁岩」を用いていない。

理化学的な分析について，黒曜石の石器については，当センター研究紀要22号の中で東京学芸大学二宮修治氏が本遺跡出土の槍先形石器等に対する蛍光X線分析を行っている。

遺物データ管理システムについて

草刈遺跡全体のデータ管理については，株式会社パスコの遺物データ管理システムにより，グリッド・遺物番号・器種・石材・母岩番号・ブロック・重量・X座標・Y座標・標高の10項目についてファイルで保存されており，今後の活用に備えている。

参考文献

加納　実ほか　2003　「房総の石器石材2　－白滝層の珪質頁岩－」『千葉県史料研究財団だより』14

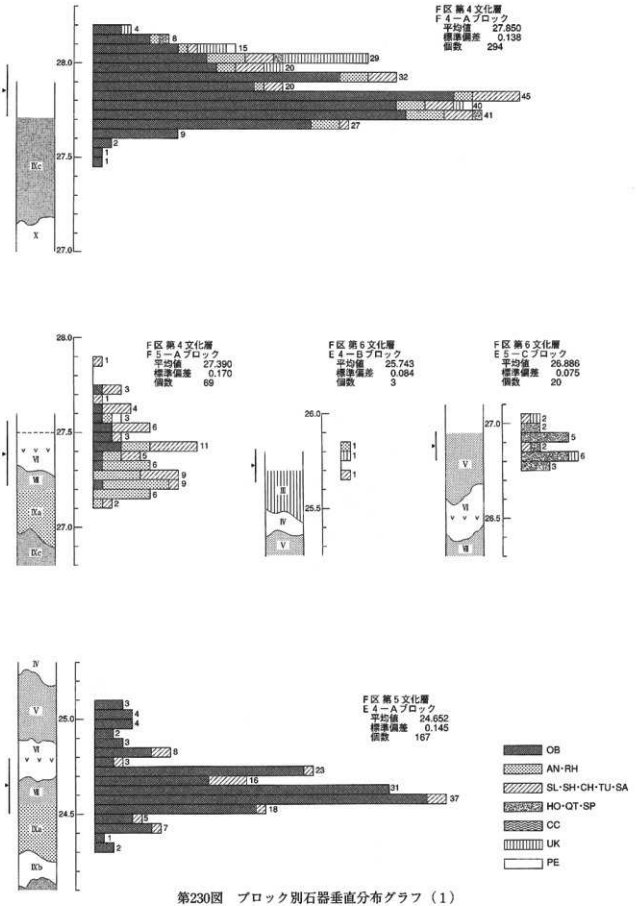
(財)千葉県文化財センター　1987　『千葉県文化財センター研究紀要』11

(財)千葉県文化財センター　2001　『千葉県文化財センター研究紀要』22

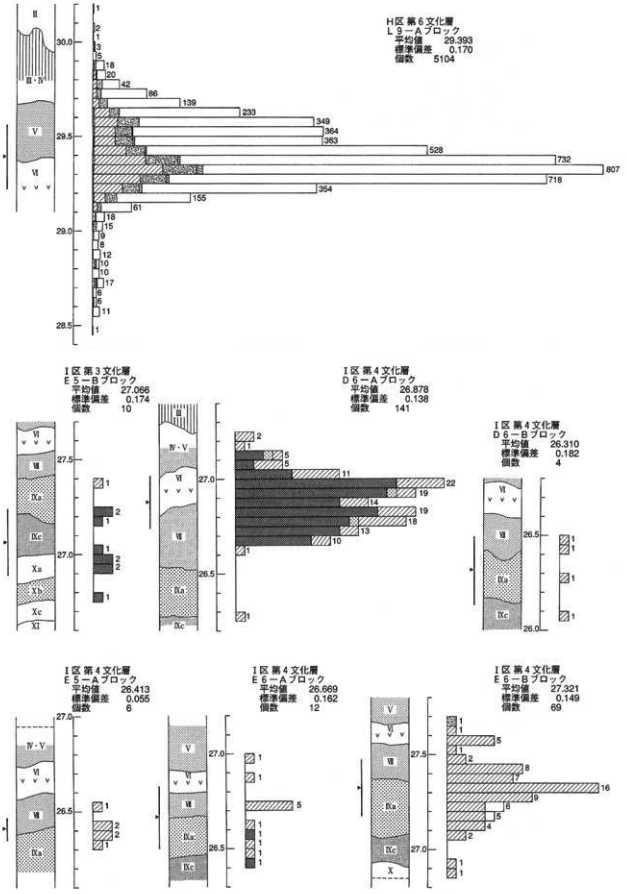
(財)千葉県文化財センター　2004　『千原台ニュータウンX　－市原市草刈遺跡（東部地区旧石器時代）－』

田村　隆ほか　2003　「下野－北総回廊外縁部の石器石材（第1報）　－特に珪質頁岩の分布と産状について－」『千葉県史研究』11　千葉県

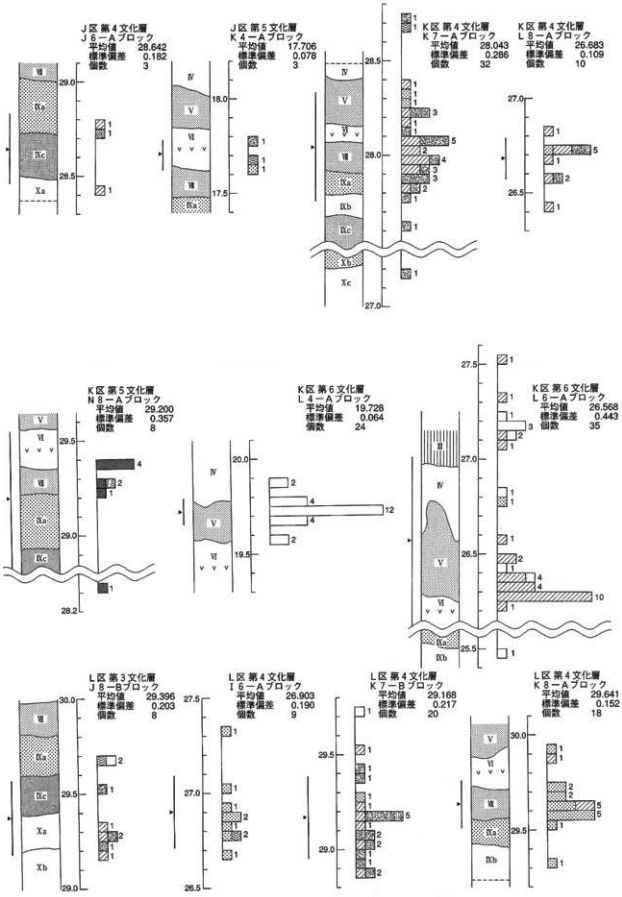
田村　隆ほか　2004　「下野－北総回廊外縁部の石器石材（第2報）」『千葉県史研究』12　千葉県



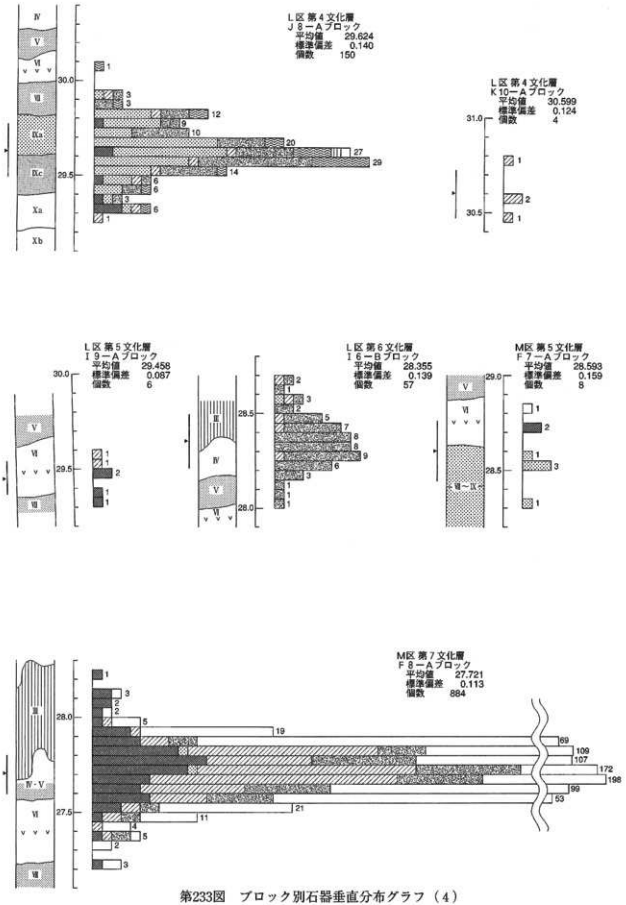
第230図　ブロック別石器垂直分布グラフ（1）



第231図　ブロック別石器垂直分布グラフ（２）



第232図　ブロック別石器垂直分布グラフ（3）



第233図　ブロック別石器垂直分布グラフ（4）

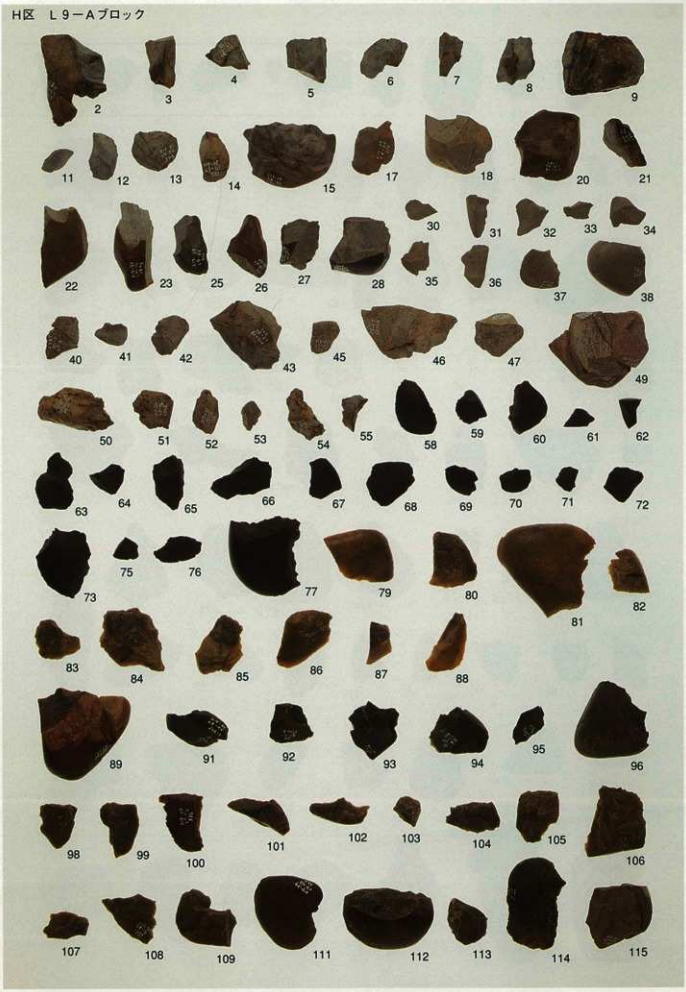
写 真 図 版

F区　F4－Aブロック

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
32
33
35
36
38
39
46
47
50
51
44
43
48

2．F区出土遺物２

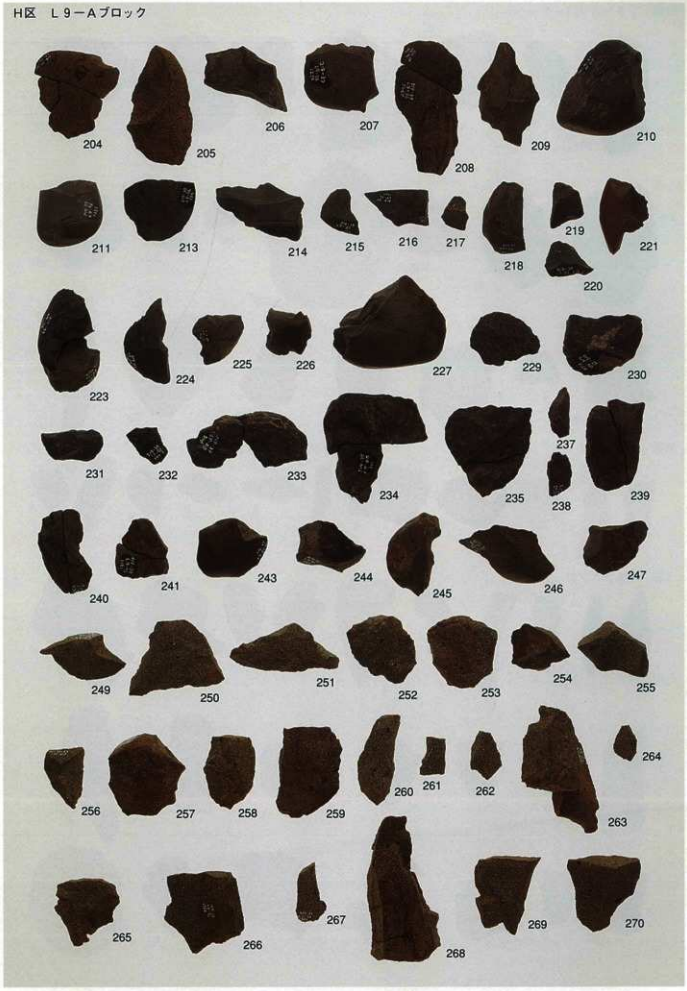
H区　L９－Aブロック


2
3
4
5
6
7
8
9
11
12
13
14
15
17
18
20
21
22
23
25
26
27
28
30
31
32
33
34
35
36
37
38
40
41
42
43
45
46
47
49
50
51
52
53
54
55
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
75
76
77
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
91
92
93
94
95
96
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
111
112
113
114
115

4．H区出土遺物２

H区　L９－Aブロック

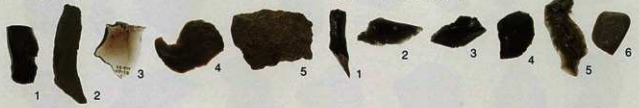
H区　L９－Aブロック


204
205
206
207
208
209
210
211
213
214
215
216
217
218
219
220
221
223
224
225
226
227
229
230
231
232
233
234
235
237
238
239
240
241
243
244
245
246
247
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270

6．H区出土遺物４，Ⅰ区出土遺物１

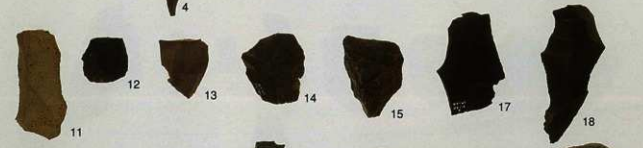
H区　L９－Aブロック

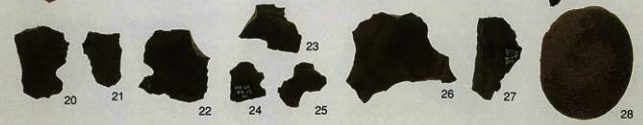
H区　ブロック外



Ⅰ区　E５－Bブロック

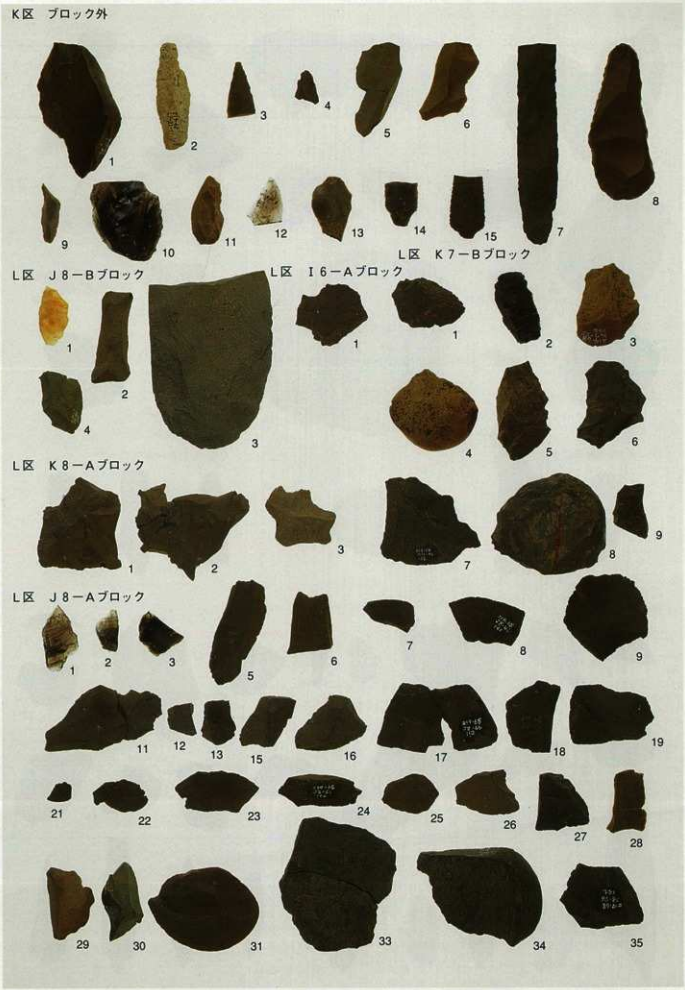
Ⅰ区　D６－Aブロック





Ⅰ区　D６－Aブロック
29
31
32
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
Ⅰ区　D６－Bブロック
1
2
3
Ⅰ区　E５－Aブロック
1
2
3
4
Ⅰ区　E６－Aブロック
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
Ⅰ区　E６－Bブロック
2
3
4
5
6
7
8
9
11
12
13
14
16
17
19
20
21
22
23
24
27
26
28

8．Ⅰ区出土遺物３，Ｊ区出土遺物、Ｋ区出土遺物１


K区　ブロック外
L区　K7－Bブロック
L区　J8－Bブロック
L区　I6－Aブロック
L区　K8－Aブロック
L区　J8－Aブロック

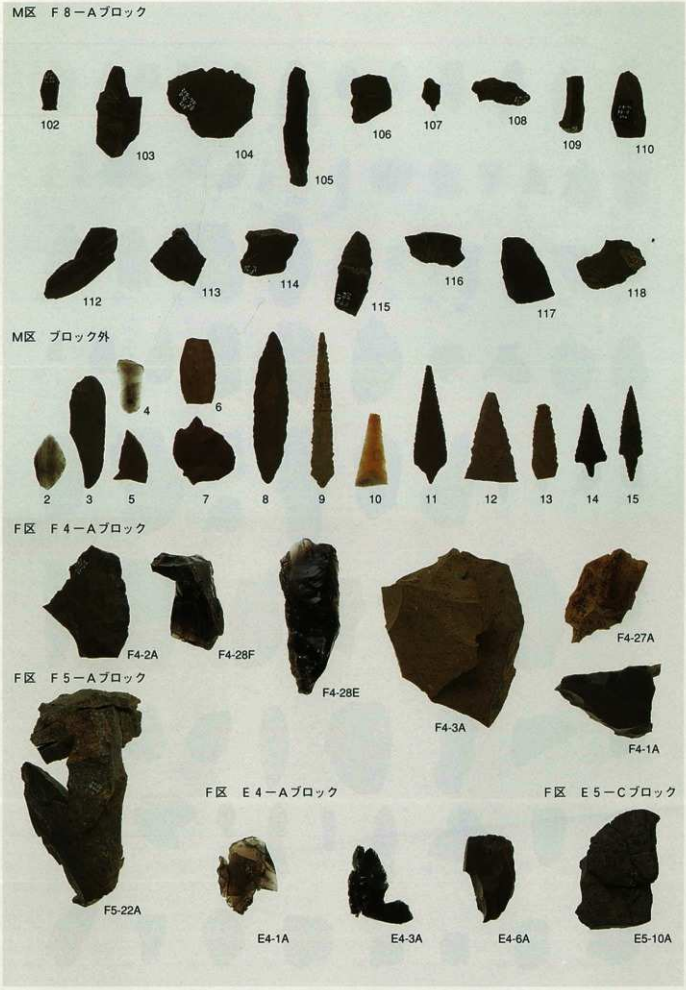
10. L区出土遺物2

L区 J8－Aブロック
36
37
38
39
44
45
40
41
42
43
50
51
47
52
53
48
46
49
54
55
L区 K10－Aブロック
1
2
3
L区 I9－Aブロック
1
2
3
L区 I6－Bブロック
2
3
4
5
7
8
9
11
12
13
14
15
16
17
18
19
L区 ブロック外
1
2
3
4
5
6
7
8
9

M区　F７－Aブロック

M区　F８－Aブロック

12. M区出土遺物２，接合資料１



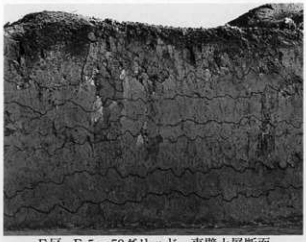
H区　L 9 ー A ブロック

L9-1A
L9-1B
L9-2A
L9-3A
L9-4A
L9-5A
L9-6A
L9-9A
L9-13A
L9-14A
L9-15A
L9-18A
L9-17A
L9-19A
L9-21A
L9-22A
L9-28A
L9-31A
L9-35B
L9-35D
L9-35C
L9-35A
L9-36A
L9-37A
L9-40A
L9-56A
L9-58A
L9-62A
L9-63A
L9-38A
L9-70A
L9-69A
L9-68A
L9-77A

I区 D6－Aブロック
I区 E6－Bブロック
D6-10A
D6-9A
E6-11A
E6-12B
E6-13A
K区 L6－Aブロック
D6-1A
D6-1B
E6-11B
E6-12A
K区 K7－Aブロック
L6-3A
K7-6A
K7-1A
K7-5A
K7-4A
L区 J8－Aブロック
J8-7A
J8-6B
J8-8A
L区 I6－Bブロック
J8-26A
J8-6A
I6-3A
I6-2A
I6-4A
M区
F8－Aブロック
F8-4A
F8-2A
F8-16A
F8-18A
F8-17A
F8-13B
F8-13A
F8-13E
F8-13D
F8-14B
F8-13C

草刈遺跡周辺航空写真（約 1：20,000　昭和36年撮影）

図版２　　Ｆ区土層断面・遺物出土状況１



Ｆ区　Ｅ５－50グリッド　東壁土層断面

Ｆ区　Ｆ４－Ａブロック　南東から

Ｆ区　Ｆ５－Ａブロック　西から

Ｆ区　Ｅ４－Ａブロック　南から

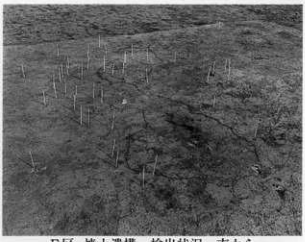
Ｆ区　Ｅ４－Ａブロック　北西から

Ｆ区　Ｅ５－Ｃブロック　西から

Ｆ区　Ｃ３－67グリッド　西から

Ｆ区　Ｄ５－57グリッド　西から

F区　E４－72グリッド　東から


F区　焼土遺構　検出状況　南から

F区　焼土遺構　断面　南東から

H区　L９－Aブロック　東から

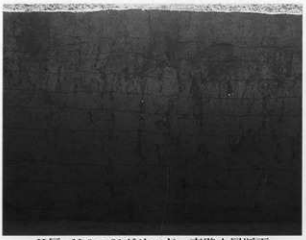
I区　D６－Aブロック　西から

I区　E６－Aブロック　東から

I区　E６－Bブロック　南東から

I区　E５－70グリッド　北西から

図版４　　Ｋ区土層断面・遺物出土状況



Ｋ区　Ｎ９－81グリッド　東壁土層断面

Ｋ区　Ｋ７－Ａブロック　北東から

Ｋ区　Ｌ８－Ａブロック　南東から

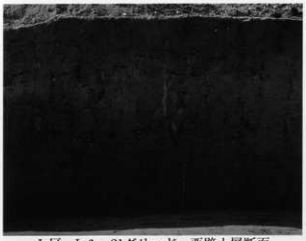
Ｋ区　Ｎ８－Ａブロック　北西から

Ｋ区　Ｌ６－Ａブロック　北東から

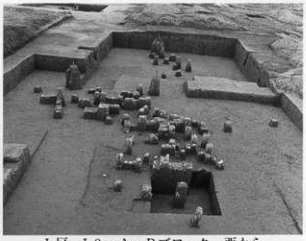
Ｋ区　Ｌ６－Ａブロック　東から

Ｋ区　Ｌ４－Ａブロック　南西から

Ｋ区　Ｍ６－55グリッド　北西から



L区　I 6－21グリッド　西壁土層断面



L区　J 8－A・Bブロック　西から

L区　K 7－Bブロック　東から

L区　K 8－Aブロック　南から

L区　I 9－Aブロック　南から

L区　I 6－Bブロック　南西から

M区　F 7－Aブロック　南西から

M区　F 8－Aブロック　南西から

報告書抄録

ふりがな	ちはらだいにゅーたうんXIII
書名	千原台ニュータウンXIII
副書名	市原市草刈遺跡（西部地区旧石器時代）
巻次	13
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第512集
編著者名	田島　新
編集機関	財団法人千葉県文化財センター
所在地	〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809番地2　TEL043-422-8811
発行年月日	西暦　2005年3月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
草刈遺跡（くさかり いせき）	千葉県市原市ちはら台西1丁目2番ほか（ちばけん いちはらし ちはらだいにし）	219	028 039 047 058 062 068 070	35度 31分 56秒	140度 10分 22秒	1985.04.01～ 1997.03.26	122,648	千原台地区土地区画整理事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
草刈遺跡	包蔵地	旧石器時代	石器集中地点29か所	台形石器・石斧・ナイフ形石器・槍先形石器・掻器・削器・彫器・楔形石器・石刃	立川ローム層下部～立川ローム層最上部で5枚の文化層を確認した。最上層では，特殊な剥片剥離技術を伴う槍先形石器群が発見されている。

千葉県文化財センター調査報告第512集

千原台ニュータウンXIII

－市原市草刈遺跡（西部地区旧石器時代）－

平成17年3月25日発行

編　集　財団法人　千葉県文化財センター
発　行　独立行政法人都市再生機構千葉地域支社
千葉市美浜区中瀬1-3
財団法人　千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809-2
印　刷　株式会社　みつわ
千葉市美浜区新港213-5